

久留米市
子どもの生活実態調査
報告書

令和7年3月

久留米市

< 目 次 >

第1章 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査設計及び回収結果	1
3. 調査結果の見方	2
第2章 生活困難度	3
1. 「生活困難度」について	3
2. 「生活困難度」の分類について	4
3. 「生活困難度」の割合	5
第3章 調査結果（小中学生）	6
1. 回答者の属性	6
2. 学校の授業以外の学習方法	7
3. 1日あたりの勉強時間	9
4. クラスの中での成績	11
5. 授業の理解状況	12
6. 授業がわからなくなりだした時期	13
7. 進学希望	15
8. 進学希望の理由	18
9. 部活動等への参加状況	20
10. 部活動等に参加していない理由	21
11. 食事の状況	23
12. 就寝時間	29
13. 通学状況	30
14. 遅刻状況	31
15. 相談できると思う相手	33
16. 最近の生活の満足度	35
17. 心身の不調	37
18. 心理的な状態	39
19. 支援制度・居場所等の利用状況	42
20. 支援制度・居場所等の利用による変化	47
21. 近所付き合いについて	49
22. 所持品、使うことができるもの	51
23. 放課後を過ごす場所	55
24. 放課後を一緒に過ごす人	59
25. 自由意見	62

第4章 調査結果（保護者）	65
1. 回答者の属性	65
2. 親の現在の年齢	67
3. 単身赴任中の家族	69
4. 子どもと同居の親の婚姻状況	70
5. 養育費の取り決めの状況	71
6. 日本語以外の言語の使用	72
7. 親の最終学歴	73
8. 親の就労状況	76
9. 働いていない理由	78
10. 子どもが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等	80
11. 子どもが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等	81
12. 子どもとの関わり方	82
13. 行事等への参加状況	86
14. 子どもの進学見込み	88
15. 進学見込みの理由	89
16. 相談相手の有無	91
17. 相談相手	95
18. 現在の暮らしの状況	103
19. 世帯の手取り収入	104
20. 経済的な理由で経験したこと	106
21. 経済的な理由で子どもにしてあげられなかったこと	113
22. 支援制度の利用経験	120
23. 支援制度を利用しなかった理由	125
24. 住居形態	130
25. 心理的な状態	132
26. 健康状態	134
27. 家族の健康状況	136
28. 最近の生活の満足度	138
29. 自由意見	139
第5章 総括	144
参考資料 調査票	169

本調査は久留米市の子どもの貧困対策の推進にあたり、子どもやその保護者の生活実態を把握し、適切な支援につなげていくための基礎資料を得ることを目的に実施する。

2. 調査設計及び回収結果

調査の種類 ・ 調査対象	①児童生徒アンケート調査： 久留米市内の小学5年生 久留米市内の中学2年生 ②保護者アンケート調査： 久留米市内の小学5年生の保護者 久留米市内の中学2年生の保護者	3,017名 3,036名 3,017名 3,036名
調査方法	郵送配布・郵送回収	
調査項目	国が令和2年度に実施した「子供の生活状況調査」の調査項目を基本としつつ、本市独自項目の追加等を行った（詳細は巻末の「参考資料 調査票」ご参照）	
回収数 ※カッコ内 有効回収率	①児童生徒アンケート調査（小中学生） ②保護者アンケート調査（保護者）	： 2,110人（35.2%） ： 2,134人（35.6%）
実施期間	①児童生徒アンケート調査（小中学生）：令和6年10月28日～令和6年11月17日 ②保護者生徒アンケート調査（保護者）：令和6年10月28日～令和6年11月17日	

3. 調査結果の見方

- 回答は、原則として各質問の調査数を基数（n）とした百分率（％）で表し、小数第2位を四捨五入している。このため、百分率の合計が100％にならない場合がある。また、2つ以上の回答ができる複数回答の質問では、回答比率の合計が100％を超える場合がある。
- クロス集計表の表側に使用している「学年別」「生活困難度別」等の基本属性では、副問（サブクエスチョン）等の回答者が限定される質問もあるため、図表中の表側項目の調査数を合計しても、必ずしも調査の有効回収数にならない場合がある。
- 属性別の分析等において、基数（調査数）が少ないものについては、その結果は参考程度に留め、分析コメントを省略する場合がある。
- 本文または図表中の質問文及び回答選択肢については、コンピュータ入力の都合上、省略して表記している場合があるため、詳細は「参考資料 調査票」を参照のこと。
- グラフ中の「前回調査」とは平成29年度に久留米市が実施した「久留米市子どもの生活実態調査」を、「国調査」とは令和2年度に内閣府が実施した「令和2年度 子供の生活状況調査」を指している。
- 「前回調査」及び「国調査」との比較では、調査によって設問文や選択肢の文言に細かな違いがある場合がある。
- 居住地の分類は以下のとおりである。

居住地名	該当する地区
東部	山川・山本・草野・善道寺・大橋・船越・水縄・田主丸・水分・竹野・川会・柴刈
西部	安武・荒木・大善寺・城島（下田・浮島など）・江上・青木・西牟田・犬塚・三潴
南部	南・上津・高良内・青峰・津福
北部	小森野・御井・合川・宮ノ陣・弓削・北野・大城・金島
中央	西国分・荘島・日吉・篠山・京町・南薫・鳥飼・長門石・金丸・東国分

第2章 生活困難度

1. 「生活困難度」について

今回の報告書では、「生活困難度」を以下の3つの要素から分類する。

- ①低所得
- ②家計の逼迫
- ③子どもの体験や所有物の欠如

「①低所得」は、厚生労働省も用いているように、貧困の測定に最も使用される指標の1つであるが、今回は所得データを補完するため、「②家計の逼迫」「③子どもの体験や所有物の欠如」という2つの物質的剥奪指標も用いた。以下、それぞれの定義の詳細を示す。

①低所得

「低所得」は、世帯の可処分所得を世帯人員数の平方根で割り出した値（＝等価可処分所得）が、厚生労働省「令和5年国民生活基礎調査」の結果から算出された貧困線「136万円」（※参照）を下回る世帯と定義する。なお、今回の算出に用いた世帯の可処分所得は、選択されたカテゴリの中央値（例えば可処分所得が「300万円以上～400万円未満」と回答した世帯は350万円を可処分所得とした）を使用している。

※厚生労働省「令和5年国民生活基礎調査」（所得は令和4年数値）の世帯所得の中央値（405万円）を平均世帯人数（2.23人）の平方根で除した値の50%＝136万円

②家計の逼迫

「家計の逼迫」は、過去1年間に経済的な理由で経験したこと、具体的には、「公共料金や家賃の滞納があった」「食費や衣類の費用を切りつめた」「医療機関を受診できなかった」「キャッシング・カードローンなどを利用した」など全17項目のうち、6項目以上該当する世帯と定義する。

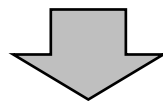
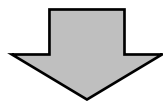
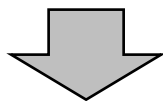
③子どもの体験や所有物の欠如

「子どもの体験や所有物の欠如」は、子ども自身の生活困難を表す指標として、過去1年間に経済的な理由で子どもに関して経験したこと、具体的には、「子どもを医療機関に受診させることができなかった」「子どもの進路を変更した」「子どものための本が買えなかった」「子どものための服や靴を買えなかった」「子どもへおこづかいを渡すことができなかった、渡す額を減らした」「子どもを学校や地域のクラブ活動に参加させることができなかった」「子どもを学習塾やスポーツなどの習い事に通わせることができなかった」など全11項目のうち、3項目以上該当する世帯と定義する。

2. 「生活困難度」の分類について

本調査では、久留米市における「生活困難度」を、「困窮層」「周辺層」「一般層」の3つの層に分類した。

①低所得	③子どもの体験や所有物の欠如
世帯の可処分所得を世帯人員数の平方根で割り出した値(＝等価可処分所得)が、厚生労働省「令和5年国民生活基礎調査」から算出される貧困線「136万円」を下回る世帯	過去1年間に経済的な理由で子どもに関して経験したこと全11項目のうち、3項目以上が該当
②家計の逼迫	
過去1年間に経済的な理由で経験したこと全17項目のうち、6項目以上が該当	- 子どもを医療機関に受診させることができなかった - 子どもの進路を変更した - 子どものための本が買えなかった - 子どものための服や靴を買えなかった - 子どもへおこづかいを渡すことができなかった、渡す額を減らした - 子どもを学校や地域のクラブ活動に参加させることができなかった - 子どもを学習塾やスポーツなどの習い事に通わせることができなかった - 子どもに必要とする文具や教材を買えなかった - 子どもに誕生日プレゼントやお年玉をあげることができなかった - 子どもを旅行やレジャーに連れていくことができなかった - その他
- 水道・電気・ガスのどれかが止められた - クレジットカードが使えなくなった - 国民健康保険料や国民年金の支払いができなかった - 電話(固定・携帯)などの通信料の支払いができなかった - 家賃の支払いができなかった - 住宅ローンの支払いができなかった - 食費を切りつめた - 新しい衣服や靴を買うのを減らした - 新聞や雑誌が買えなかった - 冠婚葬祭のつきあいを減らした - 医療機関を受診できなかった - 理髪店や美容院に行けなかった - スマートフォンへの切替・利用を断念した - 敷金・保証金等を用意できず、住み替え・転居を断念した - 趣味やレジャーの出費を減らした - キャッシング・カードローンなどを利用した - その他	



生活困難層		困窮層＋周辺層
	困窮層	2つ以上の要素に該当
	周辺層	いずれか1つの要素に該当
一般層		いずれの要素にも該当しない

3. 「生活困難度」の割合

上記の条件を用いてそれぞれの割合を算出した結果、まず「①低所得」に該当する世帯が11.4%、「②家計の逼迫」に該当する世帯が5.9%、「子どもの体験や所有物の欠如」に該当する世帯が10.0%となった。

また、3つの要素のうち 2つ以上の要素に該当する「困窮層」が6.3%、いずれか1つの要素に該当する「周辺層」が13.1%となり、「困窮層」「周辺層」を合わせた『生活困難層』は、19.4%となっている。

なお、3つの要素のうち、いずれの要素にも該当しない「一般層」は80.6%であった。

前回調査と比べると、生活困難層及び一般層の割合は同水準となっている。

◆生活困難度の割合（全体）

単位：％

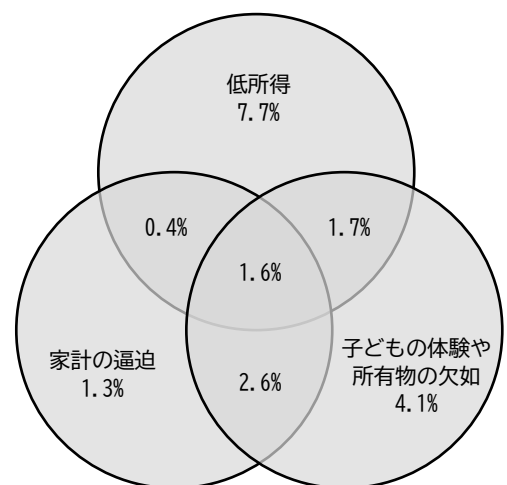
		今回調査						前回調査 (参考)
		全体	ふたり親 の世帯	ひとり親の世帯			養育者 世帯	
				母子	父子	合計		
生活困難層		19.4	14.9	52.1	35.5	48.7	100.0	22.1
	困窮層	6.3	4.0	23.2	16.7	21.8	66.7	7.5
	周辺層	13.1	10.9	28.9	18.8	26.9	33.3	14.6
一般層		80.6	85.2	47.9	64.6	51.3	-	77.9

	今回調査						前回調査 (参考)
	全体	ふたり親 の世帯	ひとり親の世帯			養育者 世帯	
			母子	父子	合計		
低所得層	11.4	7.5	39.6	20.8	35.8	75.0	14.2
家計の逼迫	5.9	4.5	15.6	14.6	15.4	37.5	7.7
子どもの体験や 所有物の欠如	10.0	7.5	26.6	22.9	25.8	37.5	9.5

養育者世帯：父母ともにおらず、祖父母等が養育している世帯

◆生活困難度の割合（詳細）

困窮層	3つに該当	低所得+家計の逼迫+ 子どもの体験や所有物の欠如	1.6%	6.3%
	2つに該当	低所得+家計の逼迫	0.4%	
		低所得+ 子どもの体験や所有物の欠如	1.7%	
		家計の逼迫+ 子どもの体験や所有物の欠如	2.6%	
周辺層	1つに該当	低所得のみ	7.7%	13.1%
		家計の逼迫のみ	1.3%	
		子どもの体験や所有物の欠如のみ	4.1%	
困窮層と周辺層の計				19.4%

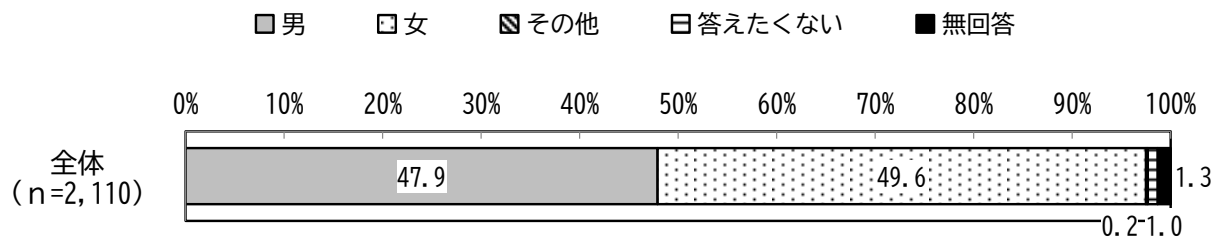


第3章 調査結果（小中学生）

1. 回答者の属性

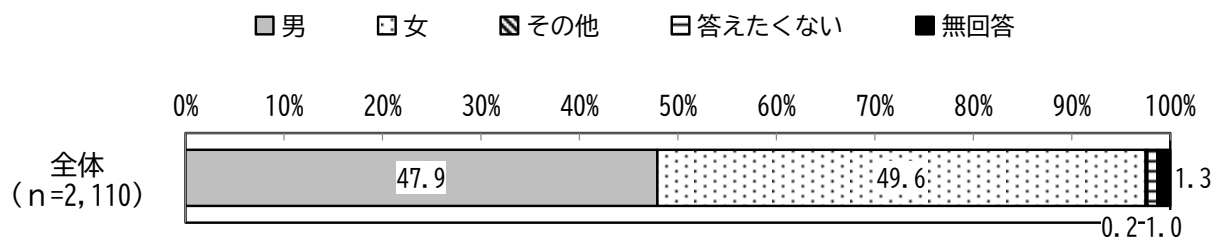
(1) 学年

図表－1 学年



(2) 性別

図表－2 性別

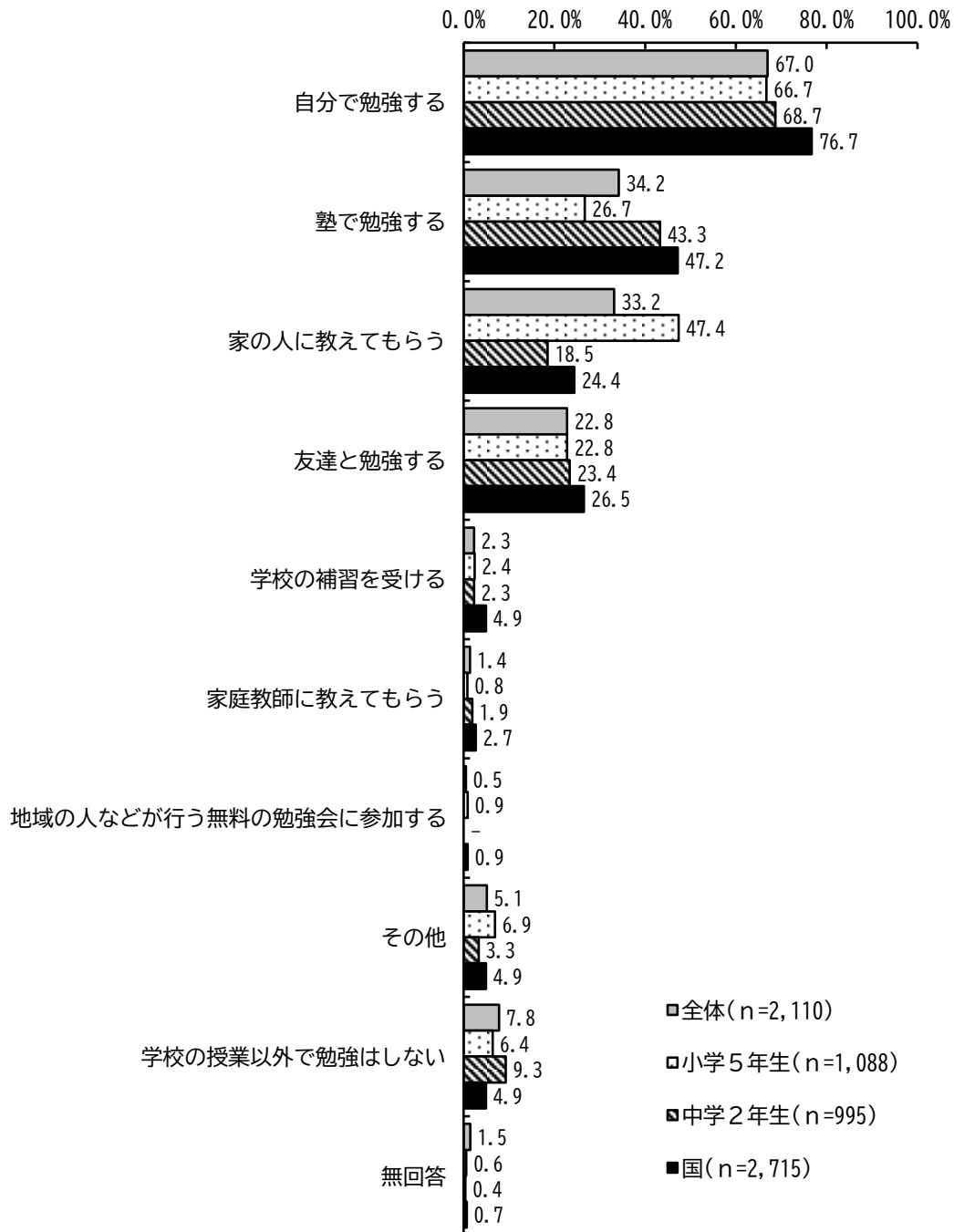


2. 学校の授業以外の学習方法

問3 あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。

学校の授業以外での学習方法について聞いたところ、「自分で勉強する」（67.0％）の割合が最も高く、次いで「塾で勉強する」（34.2％）、「家の人に教えてもらう」（33.2％）となっている。

図表－3 学校の授業以外の学習方法



第3章 調査結果（小中学生）

学年別にみると、中学2年生の方が「塾で勉強する」（43.3％）の割合が高くなっている。また、小学5年生の方が「家の人に教えてもらう」（47.4％）の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、生活困難層では「塾で勉強する」（周辺層18.5％、困窮層19.4％）の割合は低く、「学校の授業以外で勉強はしない」（周辺層11.4％、困窮層12.4％）の割合は高くなっている。

図表－4 学年、生活困難度別 学校の授業以外の勉強方法

単位：％

		調査数	自分で勉強する	塾で勉強する	学校の補習を受ける	家庭教師に教えてもらう	地域の人が行う無料の勉強会に参加する	家の人に教えてもらう	友達と勉強する	その他	学校の授業以外で勉強はしない	無回答
全 体		2,110	67.0	34.2	2.3	1.4	0.5	33.2	22.8	5.1	7.8	1.5
学 年	小学5年生	1,088	66.7	26.7	2.4	0.8	0.9	47.4	22.8	6.9	6.4	0.6
	中学2年生	995	68.7	43.3	2.3	1.9	－	18.5	23.4	3.3	9.3	0.4
	無回答	27	14.8	3.7	－	3.7	－	3.7	3.7	－	3.7	81.5
困 難 度 生 活	一般層	1,669	67.6	38.2	2.0	1.4	0.5	33.7	22.2	4.6	7.0	1.4
	周辺層	271	62.7	18.5	3.7	1.5	－	30.6	26.2	7.0	11.4	1.8
	困窮層	129	65.9	19.4	3.9	1.6	1.6	31.0	22.5	6.2	12.4	2.3
	無回答	41	75.6	22.0	2.4	－	－	36.6	29.3	9.8	2.4	－

3. 1日あたりの勉強時間

問4 あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。

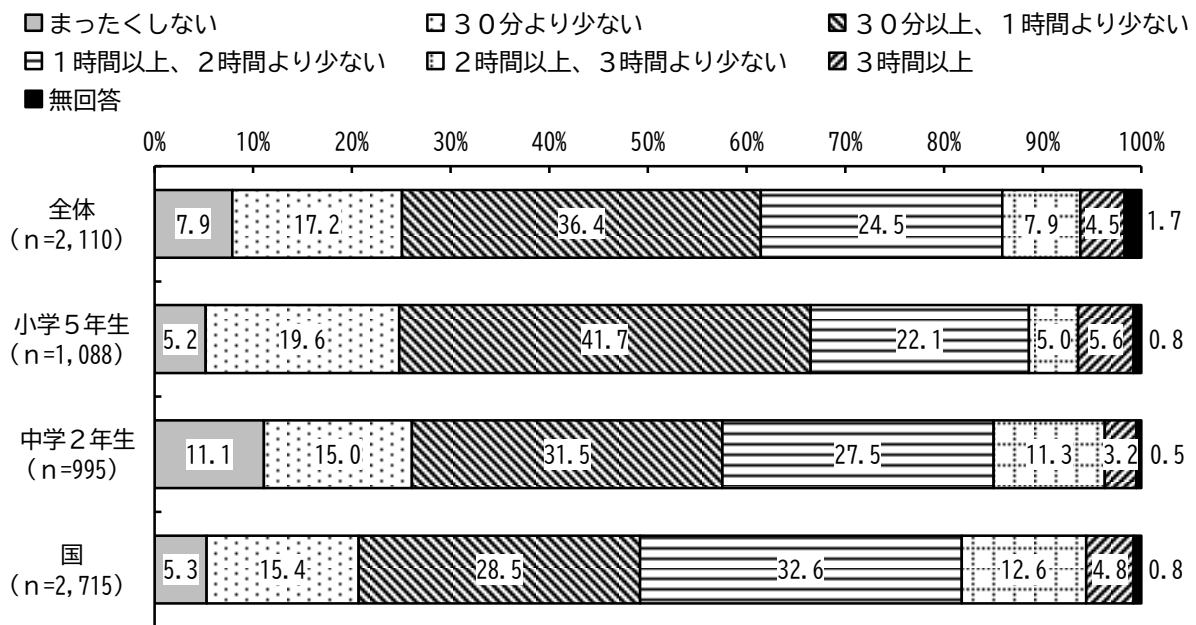
（a）学校がある日（月～金曜日）

学校がある日の1日あたりの勉強時間について聞いたところ、「30分以上、1時間より少ない」（36.4%）の割合が最も高く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」（24.5%）、「30分より少ない」（17.2%）となっている。

学年別にみると、中学2年生の方が長時間勉強する割合が高くなっている。一方で、「まったくしない」（11.1%）の割合も小学5年生よりも高くなっている。

生活困難度別にみると、生活困難層の方が一般層より勉強時間が短い傾向にある。

図表ー5 1日あたりの勉強時間【学校がある日（月～金曜日）】



図表ー6 学年、生活困難度別 1日あたりの勉強時間【学校がある日（月～金曜日）】

単位：％

		調査数	まったくしない	30分より少ない	30分以上、1時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	3時間以上	無回答
全 体		2,110	7.9	17.2	36.4	24.5	7.9	4.5	1.7
学 年	小学5年生	1,088	5.2	19.6	41.7	22.1	5.0	5.6	0.8
	中学2年生	995	11.1	15.0	31.5	27.5	11.3	3.2	0.5
	無回答	27	-	3.7	3.7	7.4	-	3.7	81.5
生活困難度	一般層	1,669	6.6	16.6	36.2	25.6	8.5	4.8	1.7
	周辺層	271	12.5	20.3	38.4	19.6	4.4	2.6	2.2
	困窮層	129	17.1	18.6	32.6	20.9	7.0	2.3	1.6
	無回答	41	2.4	17.1	43.9	19.5	7.3	9.8	-

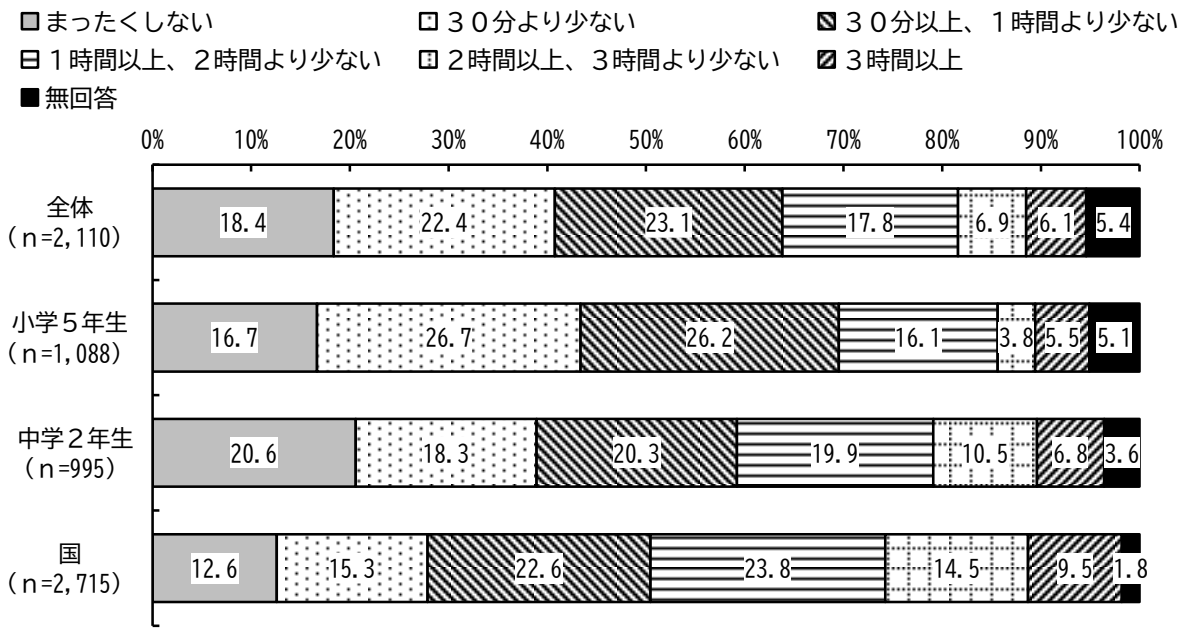
(b) 学校がない日（土・日曜日・祝日）

学校がない日の1日あたりの勉強時間について聞いたところ、「30分以上、1時間より少ない」（23.1％）の割合が最も高く、次いで「30分より少ない」（22.4％）、「まったくしない」（18.4％）となっている。

学年別にみると、中学2年生の方が長時間勉強する割合が高くなっている。一方で、「まったくしない」（20.6％）の割合も小学5年生よりも高くなっている。

生活困難度別にみると、生活困難層の方が一般層より勉強時間が短い傾向にある。

図表ー7 1日あたりの勉強時間【学校がない日（土・日曜日・祝日）】



図表ー8 学年、生活困難度別 1日あたりの勉強時間【学校がない日（土・日曜日・祝日）】

単位：％									
		調 査 数	ま っ た く し な い	3 0 分 よ り 少 な い	3 0 分 以 上、 1 時 間 よ り 少 な い	1 時 間 以 上、 2 時 間 よ り 少 な い	2 時 間 以 上、 3 時 間 よ り 少 な い	3 時 間 以 上	無 回 答
全 体		2,110	18.4	22.4	23.1	17.8	6.9	6.1	5.4
学 年	小学5年生	1,088	16.7	26.7	26.2	16.1	3.8	5.5	5.1
	中学2年生	995	20.6	18.3	20.3	19.9	10.5	6.8	3.6
	無回答	27	3.7	－	－	11.1	3.7	－	81.5
困 難 度 生 活	一般層	1,669	16.7	22.0	22.6	19.1	7.3	6.8	5.4
	周辺層	271	26.2	23.2	25.8	14.4	4.4	2.2	3.7
	困窮層	129	27.1	25.6	24.0	6.2	7.8	2.3	7.0
	無回答	41	9.8	19.5	19.5	24.4	4.9	12.2	9.8

4. クラスの中での成績

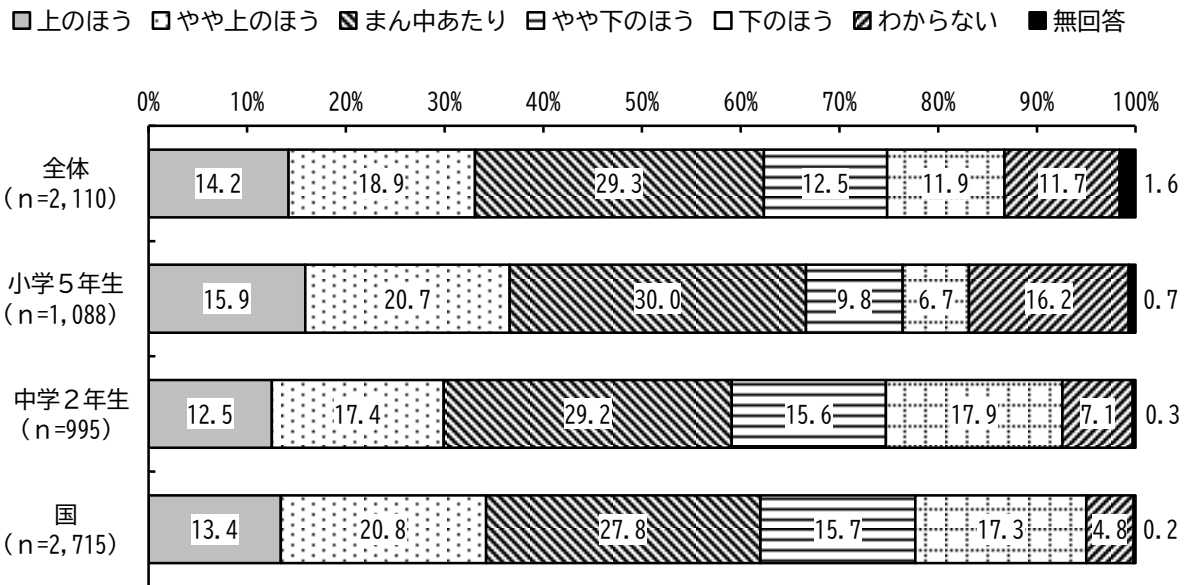
問5 あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。

クラスの中での成績について聞いたところ、「まん中あたり」（29.3％）の割合が最も高く、次いで「やや上のほう」（18.9％）、「上のほう」（14.2％）となっている。

学年別にみると、小学5年生の方が自分の成績を上の方だと思う傾向にある。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて自分の成績を下の方だと思う傾向にある。

図表－9 クラスの中での成績



図表－10 学年、生活困難度別 クラスの中での成績

単位：％

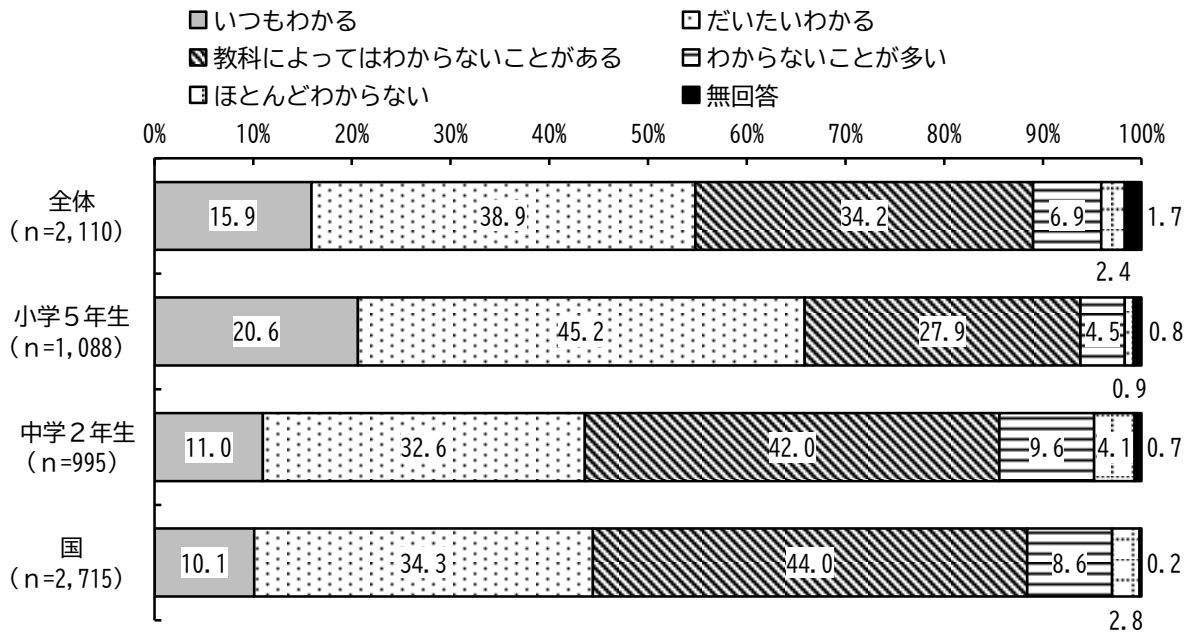
		調査数	上のほう	やや上のほう	まん中あたり	やや下のほう	下のほう	わからない	無回答
全 体		2,110	14.2	18.9	29.3	12.5	11.9	11.7	1.6
学 年	小学5年生	1,088	15.9	20.7	30.0	9.8	6.7	16.2	0.7
	中学2年生	995	12.5	17.4	29.2	15.6	17.9	7.1	0.3
	無回答	27	7.4	3.7	3.7	3.7	-	-	81.5
困 難 度	一般層	1,669	15.9	20.2	29.8	12.0	10.2	10.4	1.4
	周辺層	271	6.6	13.7	29.5	15.1	15.9	17.3	1.8
	困窮層	129	7.8	11.6	24.0	13.2	25.6	16.3	1.6
	無回答	41	14.6	24.4	24.4	9.8	9.8	12.2	4.9

5. 授業の理解状況

問6 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。

授業の理解状況について聞いたところ、「だいたいわかる」(38.9%)の割合が最も高く、次いで、「教科によってはわからないことがある」(34.2%)、「いつもわかる」(15.9%)となっている。学年別にみると、小学5年生の方が授業の理解度が高い傾向にある。生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて授業の理解度が低くなる傾向にある。

図表－11 授業の理解状況



図表－12 学年、生活困難度別 授業の理解状況

単位：％

		調査数	いつもわかる	だいたいわかる	教科によってはわからないことがある	わからないことが多い	ほとんどわからない	無回答
全 体		2,110	15.9	38.9	34.2	6.9	2.4	1.7
学 年	小学5年生	1,088	20.6	45.2	27.9	4.5	0.9	0.8
	中学2年生	995	11.0	32.6	42.0	9.6	4.1	0.7
	無回答	27	11.1	14.8	-	-	-	74.1
生活困難度	一般層	1,669	17.5	40.6	33.1	5.8	1.6	1.4
	周辺層	271	7.4	35.1	38.4	10.3	5.9	3.0
	困窮層	129	12.4	22.5	41.1	14.0	7.0	3.1
	無回答	41	19.5	43.9	29.3	4.9	-	2.4

6. 授業がわからなくなりだした時期

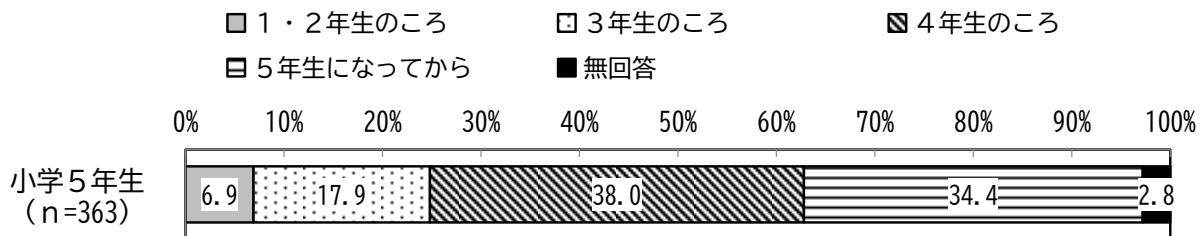
問7 前の質問で「3 教科によってはわからないことがある」「4 わからないことが多い」「5 ほとんどわからない」と答えた人にお聞きします。
いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。

（a）小学5年生

小学5年生に授業がわからなくなりだした時期について聞いたところ、「4年生のころ」（38.0％）の割合が最も高く、次いで「5年生になってから」（34.4％）、「3年生のころ」（17.9％）となっている。

生活困難度別にみると、生活困難層の方が一般層より早い時期から授業がわからなくなりだす傾向にある。

図表－13 授業がわからなくなりだした時期（小学5年生）



図表－14 生活困難度別 授業がわからなくなりだした時期（小学5年生）

単位：％

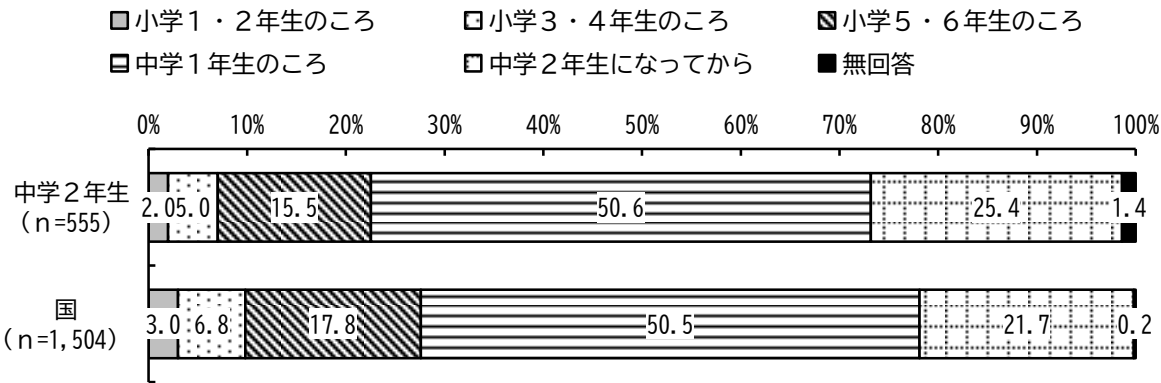
		調査数	1・2年生のころ	3年生のころ	4年生のころ	5年生になってから	無回答
全 体		363	6.9	17.9	38.0	34.4	2.8
生活困難度	一般層	264	7.6	15.2	37.9	37.1	2.3
	周辺層	65	7.7	27.7	38.5	24.6	1.5
	困窮層	27	－	18.5	37.0	33.3	11.1
	無回答	7	－	28.6	42.9	28.6	－

(b) 中学2年生

中学2年生に授業がわからなくなりだした時期について聞いたところ、「中学1年生のころ」(50.6%)の割合が最も高く、次いで「中学2年生になってから」(25.4%)、「小学5・6年生のころ」(15.5%)となっている。

生活困難度別にみると、生活困難層の方が一般層より早い時期から授業がわからなくなりだす傾向にある。

図表ー15 授業がわからなくなりだした時期（中学2年生）



図表ー16 生活困難度別 授業がわからなくなりだした時期（中学2年生）

単位：％

		調査数	小学1・2年生のころ	小学3・4年生のころ	小学5・6年生のころ	中学1年生のころ	中学2年生になってから	無回答
全 体		555	2.0	5.0	15.5	50.6	25.4	1.4
生活困難度	一般層	412	1.2	4.6	13.3	51.7	27.9	1.2
	周辺層	83	3.6	7.2	20.5	49.4	18.1	1.2
	困窮層	53	3.8	5.7	26.4	45.3	15.1	3.8
	無回答	7	14.3	-	-	42.9	42.9	-

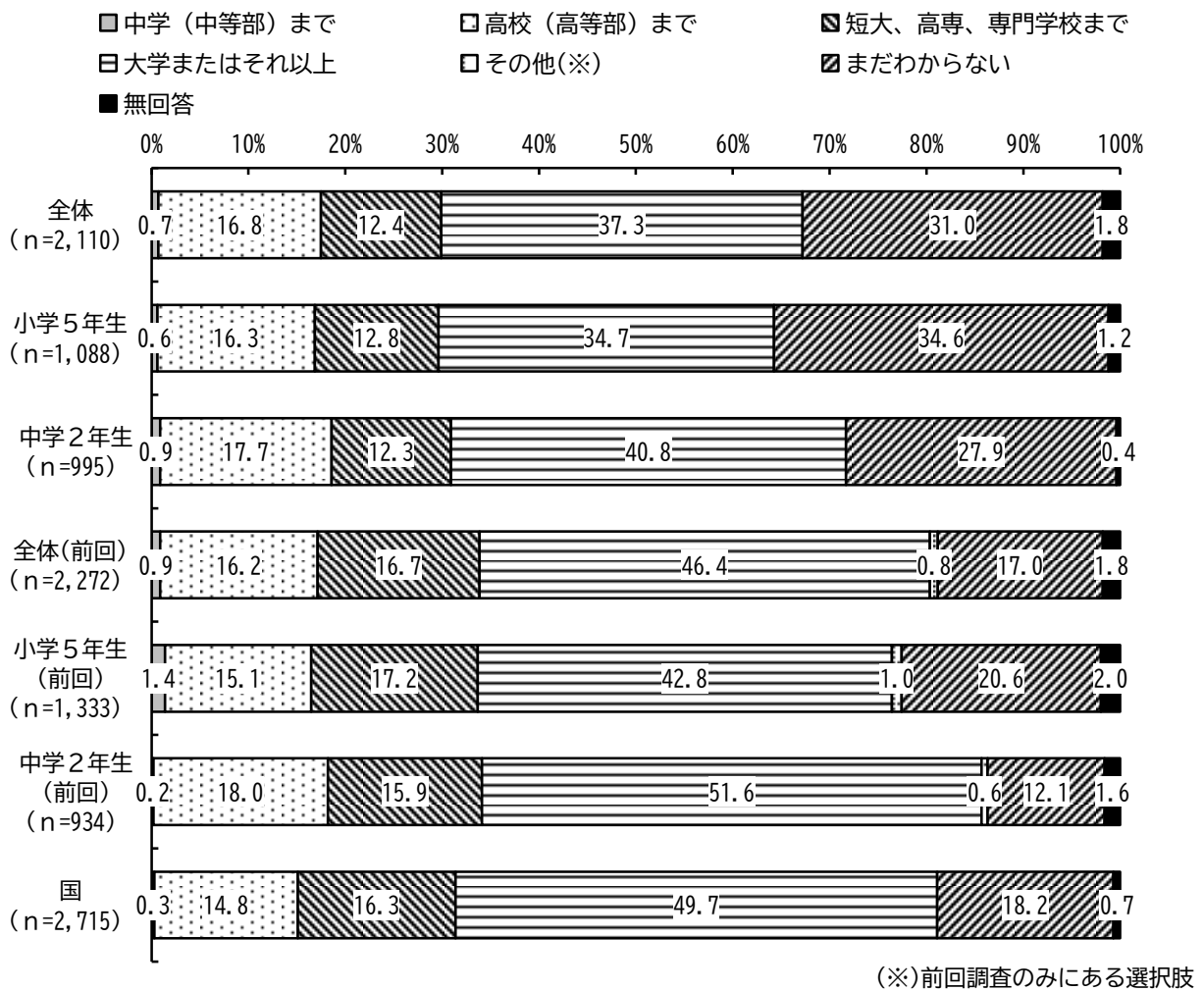
7. 進学希望

問8 あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。

（1）進学したいと思う教育段階

進学したいと思う教育段階について聞いたところ、「大学またはそれ以上」（37.3％）の割合が最も高く、次いで「まだわからない」（31.0％）、「高校（高等部）まで」（16.8％）となっている。

図表－17 進学したいと思う教育段階



第3章 調査結果（小中学生）

学年別にみると、中学2年生の方が「大学またはそれ以上」（40.8％）の割合が高くなっている。また、小学5年生の方が「まだわからない」（34.6％）の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、生活困難層で「高校（高等部）まで」（周辺層25.5％、困窮層28.7％）の割合が高くなっている。また、一般層で「大学またはそれ以上」（40.7％）の割合が高くなっている。

図表－18 学年、生活困難度別 進学したいと思う教育段階

単位：％

		調査数	中学（中等部）まで	高校（高等部）まで	短大、高専、専門学校まで	大学またはそれ以上	まだわからない	無回答
全 体		2,110	0.7	16.8	12.4	37.3	31.0	1.8
学 年	小学5年生	1,088	0.6	16.3	12.8	34.7	34.6	1.2
	中学2年生	995	0.9	17.7	12.3	40.8	27.9	0.4
	無回答	27	-	7.4	3.7	11.1	3.7	74.1
生活 困難度	一般層	1,669	0.4	14.4	12.0	40.7	30.7	1.7
	周辺層	271	0.7	25.5	15.1	22.9	33.6	2.2
	困窮層	129	4.7	28.7	10.1	23.3	31.8	1.6
	無回答	41	-	19.5	19.5	34.1	24.4	2.4

（２）保護者と子どもの考えの一致・不一致の状況

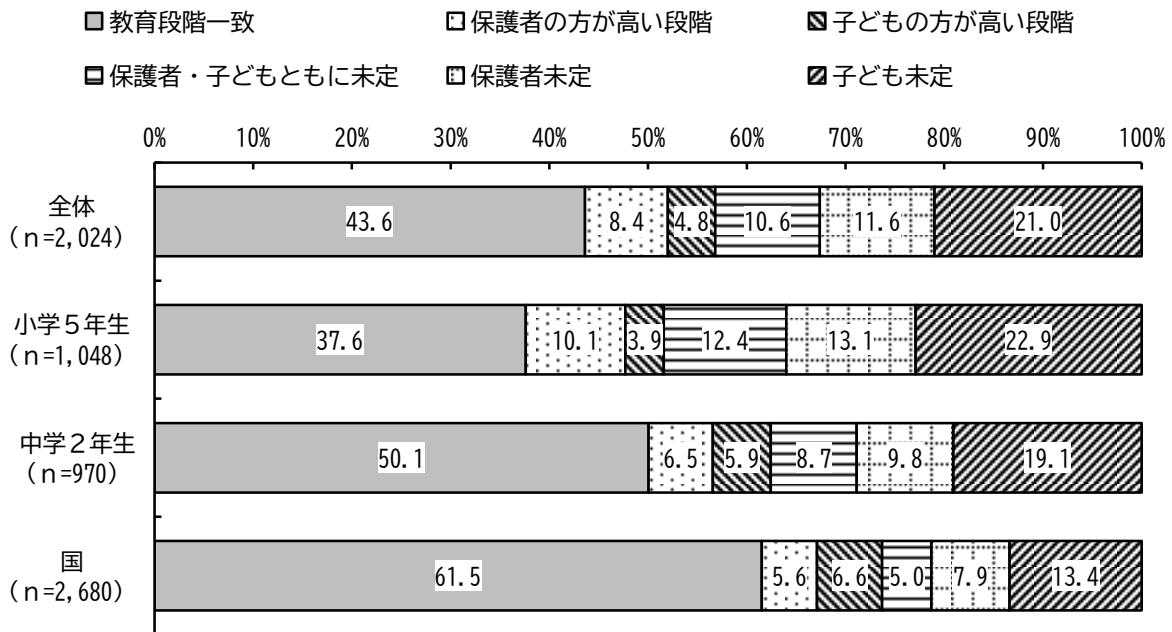
保護者が考える子どもの進学段階に関する希望・展望の回答と、子ども自身が進学したいと思う教育段階の一致・不一致の状況について、「教育段階一致」、「保護者の方が高い段階」、「子どもの方が高い段階」、「保護者・子どもともに未定」、「保護者未定」、「子ども未定」の６分類で集計した。

その結果、「教育段階一致」（43.6％）の割合が最も高く、次いで「子ども未定」（21.0％）、「保護者未定」（11.6％）となっている。

学年別にみると、中学２年生の方が「教育段階一致」（50.1％）の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「教育段階一致」の割合が低くなっている。また、困窮層で「保護者の方が高い段階」（14.6％）の割合が高くなっている。

図表－１９ 保護者と子どもの考えの一致・不一致の状況



図表－２０ 学年、生活困難度別 保護者と子どもの考えの一致・不一致の状況

単位：％

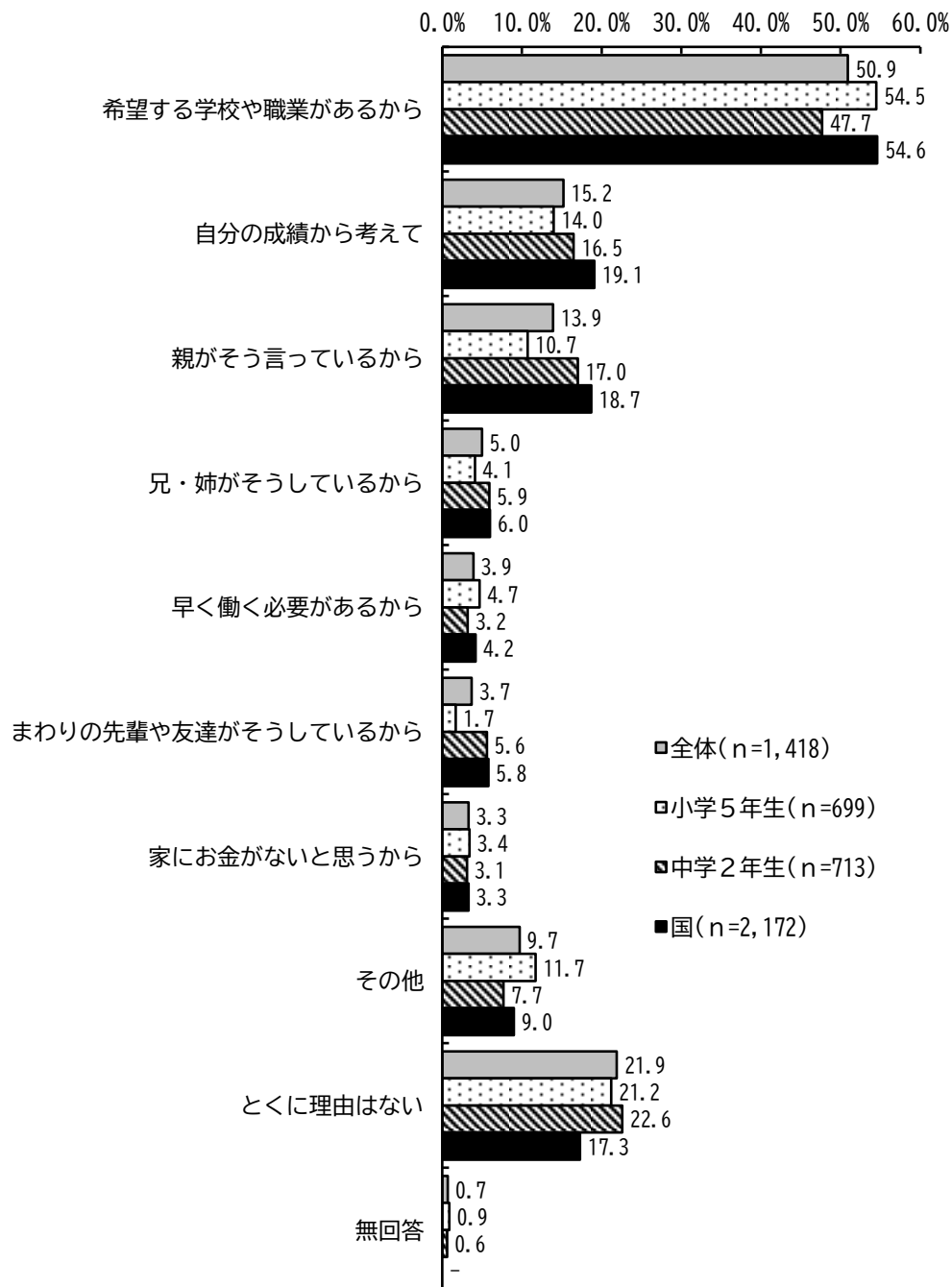
		調査数	教育段階一致	保護者の方が高い段階	子どもの方が高い段階	保護者・子どもともに未定	保護者未定	子ども未定
全 体		2,024	43.6	8.4	4.8	10.6	11.6	21.0
学 年	小学５年生	1,048	37.6	10.1	3.9	12.4	13.1	22.9
	中学２年生	970	50.1	6.5	5.9	8.7	9.8	19.1
	無回答	6	33.3	33.3	-	-	33.3	-
生活困難度	一般層	1,620	45.1	8.0	4.4	9.8	11.3	21.5
	周辺層	260	38.1	8.5	6.9	13.8	11.9	20.8
	困窮層	123	36.6	14.6	5.7	13.0	11.4	18.7
	無回答	21	33.3	9.5	9.5	19.0	28.6	-

8. 進学希望の理由

問9 前の質問で1～4と答えた場合、その理由を教えてください。

進学希望の理由について聞いたところ、「希望する学校や職業があるから」（50.9%）の割合が最も高く、次いで「とくに理由はない」（21.9%）、「自分の成績から考えて」（15.2%）となっている。

図表－21 進学希望の理由



学年別にみると、小学5年生の方が「希望する学校や職業があるから」（54.5％）の割合が高くなっている。また、中学2年生の方が「親がそう言っているから」（17.0％）の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて、「希望する学校や職業があるから」の割合が低く、「家にお金がないと思うから」の割合が高くなっている。また、困窮層では「自分の成績から考えて」（19.8％）の割合も高くなっている。

図表－２２ 学年、生活困難度別 進学希望の理由

単位：％

		調査数	希望する学校や職業があるから	自分の成績から考えて	親がそう言っているから	兄・姉がそうしているから	まわりの先輩や友達がそうしているから	家にお金がないと思うから	早く働く必要があるから	その他	とくに理由はない	無回答
全 体		1,418	50.9	15.2	13.9	5.0	3.7	3.3	3.9	9.7	21.9	0.7
学 年	小学5年生	699	54.5	14.0	10.7	4.1	1.7	3.4	4.7	11.7	21.2	0.9
	中学2年生	713	47.7	16.5	17.0	5.9	5.6	3.1	3.2	7.7	22.6	0.6
	無回答	6	16.7	-	16.7	-	-	16.7	-	16.7	33.3	-
困 難 度 生 活	一般層	1,128	52.1	14.6	14.0	5.0	3.7	2.4	3.6	9.8	21.8	0.6
	周辺層	174	46.6	15.5	13.8	5.7	2.9	5.7	5.7	10.9	20.1	1.1
	困窮層	86	40.7	19.8	11.6	4.7	3.5	10.5	5.8	8.1	27.9	1.2
	無回答	30	60.0	23.3	16.7	3.3	6.7	3.3	-	6.7	20.0	-

9. 部活動等への参加状況

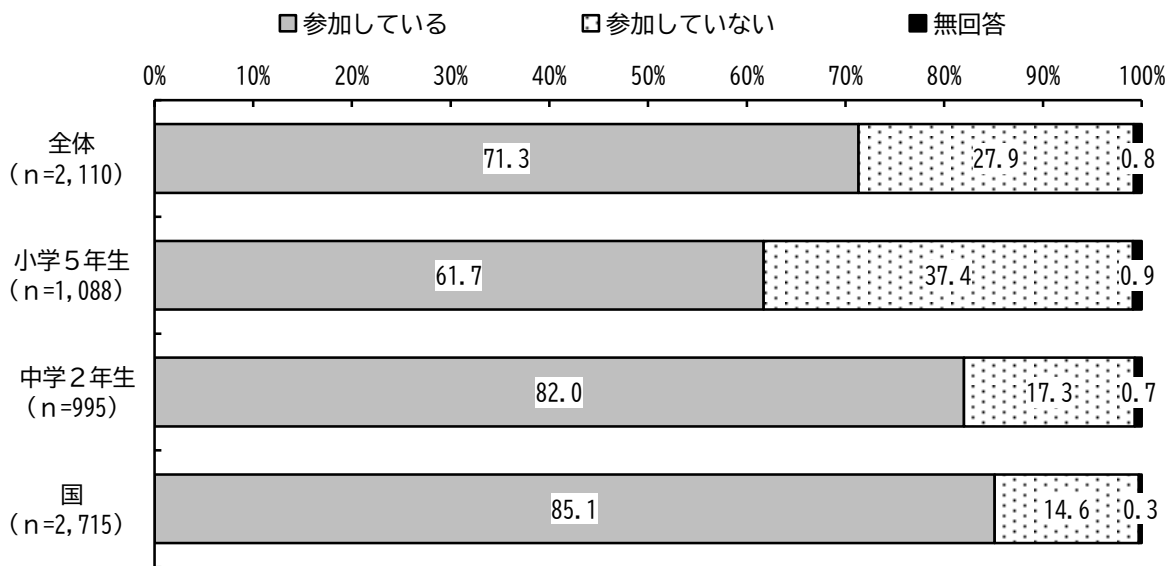
問10 あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか。

部活動等への参加状況について聞いたところ、「参加している」が71.3%、「参加していない」が27.9%となっている。

学年別にみると、中学2年生の方が「参加している」（82.0%）の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、生活困難層で「参加していない」（周辺層35.1%、困窮層34.1%）の割合が高くなっている。

図表－23 部活動への参加状況



図表－24 学年、生活困難度別 部活動への参加状況

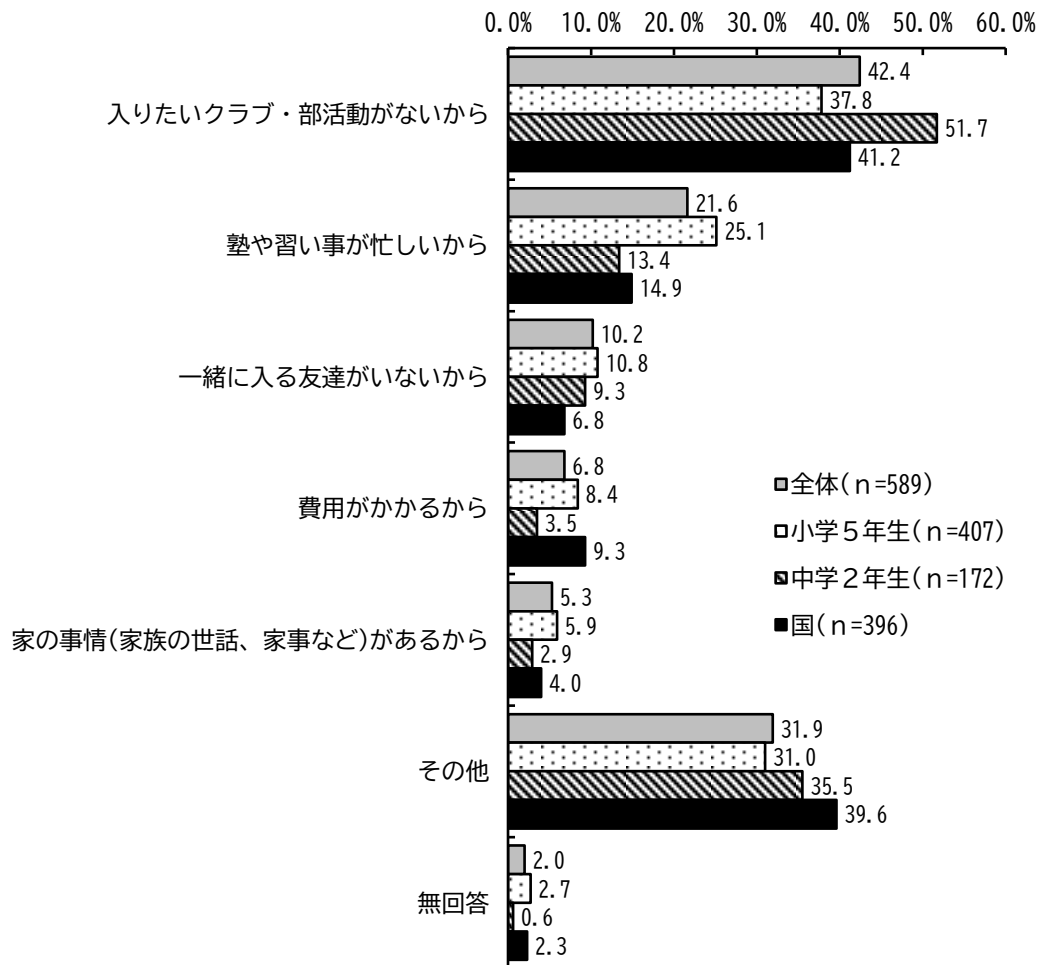
		単位：％			
		調査数	参加している	参加していない	無回答
全 体		2,110	71.3	27.9	0.8
学 年	小学5年生	1,088	61.7	37.4	0.9
	中学2年生	995	82.0	17.3	0.7
	無回答	27	63.0	37.0	－
困生活 難度	一般層	1,669	73.0	26.3	0.7
	周辺層	271	63.1	35.1	1.8
	困窮層	129	65.9	34.1	－
	無回答	41	70.7	26.8	2.4

10. 部活動等に参加していない理由

問11 前の質問で「2 参加していない」と答えた人にお聞きします。
参加していない理由は何ですか。

部活動等に参加していない理由について聞いたところ、「入りたいクラブ・部活動がないから」（42.4％）の割合が最も高く、次いで「その他」（31.9％）、「塾や習い事が忙しいから」（21.6％）となっている。

図表－25 部活動等に参加していない理由



第3章 調査結果（小中学生）

学年別にみると、小学5年生の方が「塾や習い事で忙しいから」（25.1％）の割合が高くなっている。また、中学2年生の方が「入りたいクラブ・部活動がないから」（51.7％）の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「塾や習い事が忙しいから」の割合が低く、「費用がかかるから」の割合が高くなっている。

図表－26 学年、生活困難度別 部活動等に参加していない理由

単位：％

		調査数	入りたいクラブ・部活動がないから	塾や習い事が忙しいから	費用がかかるから	家の事情（家族の世話、家事など）があるから	一緒にいる友達がいないから	その他	無回答
全 体		589	42.4	21.6	6.8	5.3	10.2	31.9	2.0
学 年	小学5年生	407	37.8	25.1	8.4	5.9	10.8	31.0	2.7
	中学2年生	172	51.7	13.4	3.5	2.9	9.3	35.5	0.6
	無回答	10	70.0	20.0	－	20.0	－	10.0	－
生活困難度	一般層	439	43.1	24.6	4.3	4.6	11.6	31.2	2.1
	周辺層	95	38.9	13.7	14.7	7.4	6.3	33.7	3.2
	困窮層	44	45.5	2.3	15.9	6.8	6.8	38.6	－
	無回答	11	36.4	45.5	－	9.1	－	18.2	－

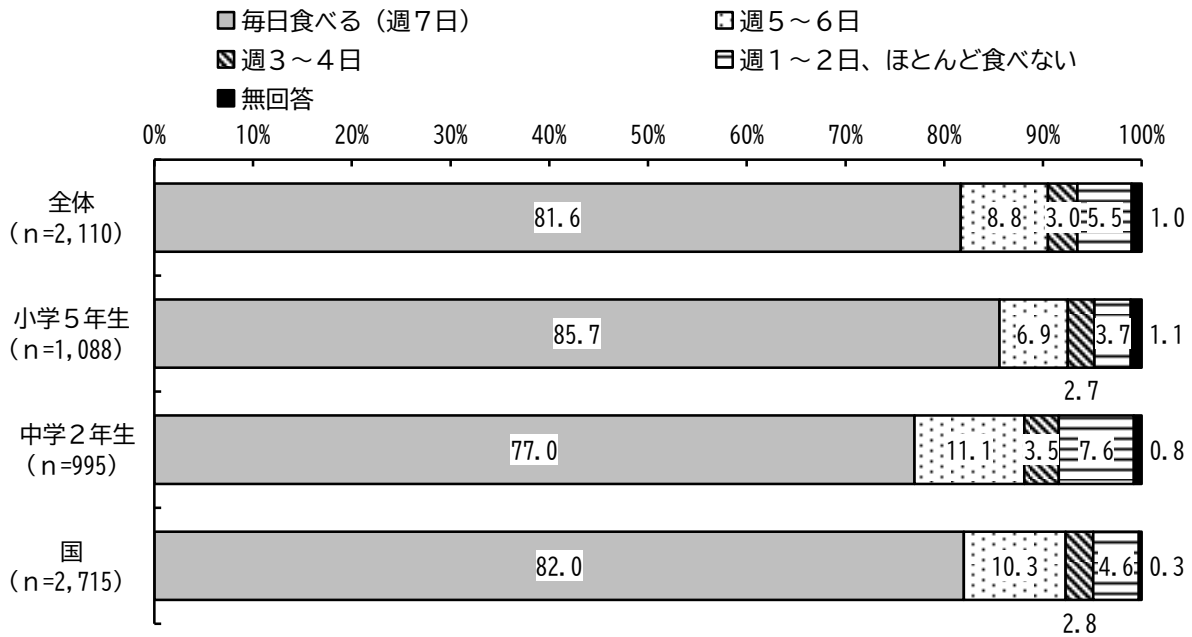
1 1. 食事の状況

問12 あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。

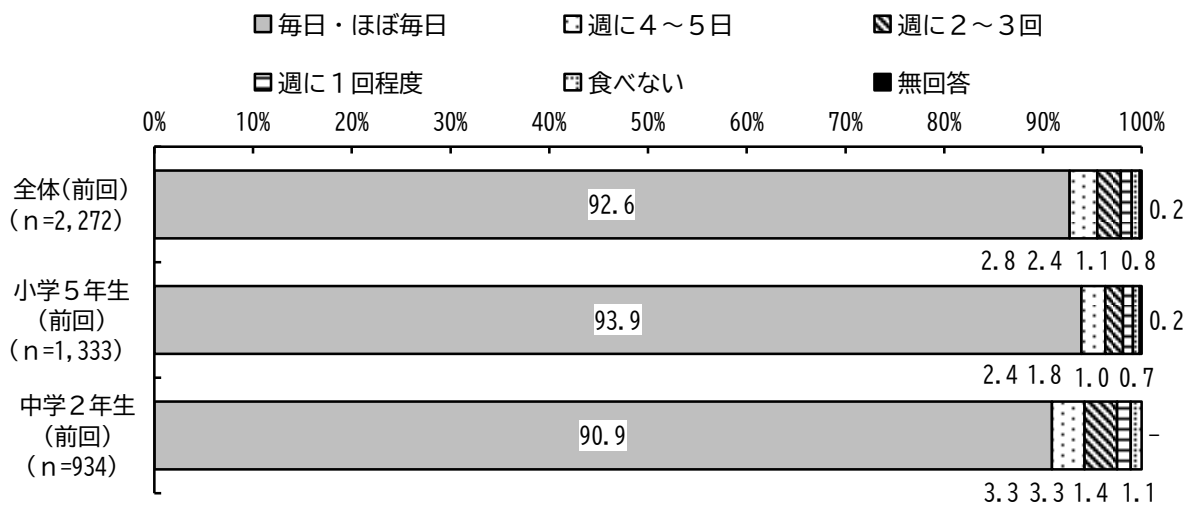
(a) 朝食

朝食の状況について聞いたところ、「毎日食べる（週7日）」（81.6％）の割合が最も高く、次いで「週5～6日」（8.8％）、「週1～2日、ほとんど食べない」（5.5％）となっている。

図表－27 食事の状況（朝食）



図表－28 食事の状況（前回調査_朝食）



第3章 調査結果（小中学生）

学年別にみると、小学5年生の方が「毎日食べる（週7日）」（85.7％）の割合が高くなっている。
生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「毎日食べる（週7日）」の割合が低くなっている。

図表－29 学年、生活困難度別 食事の状況（朝食）

単位：％

		調査数	毎日食べる （週7日）	週5 ～ 6日	週3 ～ 4日	週1 ～ 2日、 ほとんど食べ ない	無回答
全 体		2,110	81.6	8.8	3.0	5.5	1.0
学 年	小学5年生	1,088	85.7	6.9	2.7	3.7	1.1
	中学2年生	995	77.0	11.1	3.5	7.6	0.8
	無回答	27	88.9	3.7	－	－	7.4
困 難 度 生 活	一般層	1,669	84.0	7.7	2.9	4.6	0.9
	周辺層	271	74.5	12.5	3.0	8.5	1.5
	困窮層	129	65.9	14.7	5.4	12.4	1.6
	無回答	41	80.5	12.2	2.4	2.4	2.4

図表－30 学年、生活困難度別 食事の状況（前回調査_朝食）

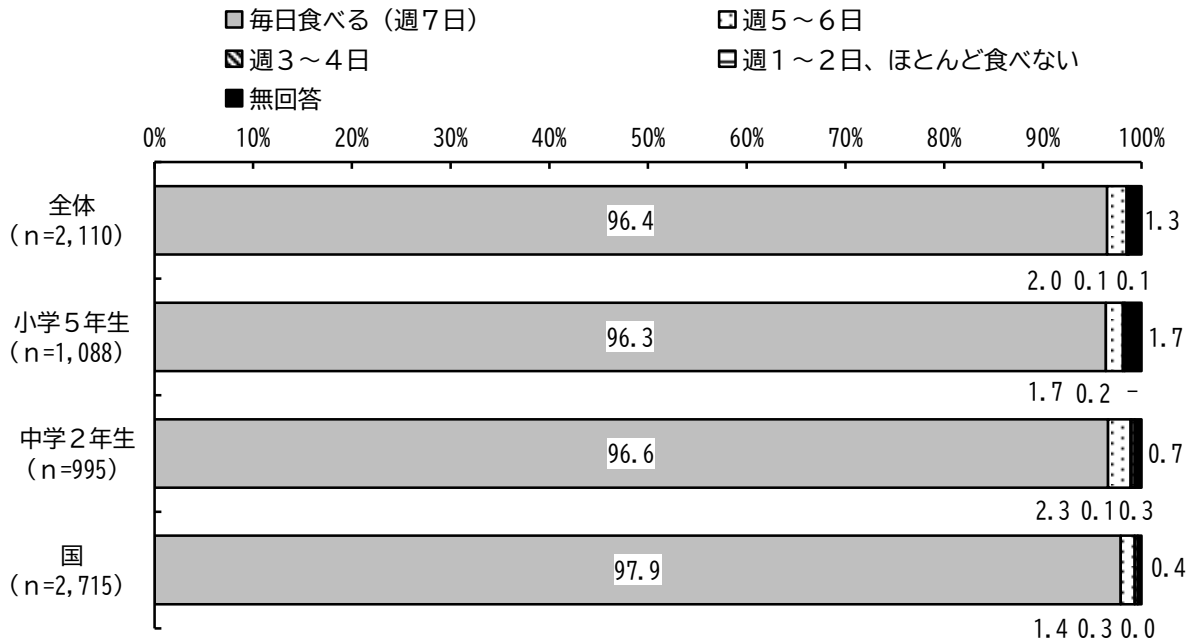
単位：％

		調査数	毎日・ほぼ毎日	週に4 ～ 5日	週に2 ～ 3回	週に1 回程度	食べない	無回答
全 体		2,272	92.6	2.8	2.4	1.1	0.8	0.2
学 年	小学5年生	1,333	93.9	2.4	1.8	1.0	0.7	0.2
	中学2年生	934	90.9	3.3	3.3	1.4	1.1	－
困 難 度 生 活	一般層	1,769	93.9	2.4	2.0	1.1	0.5	0.2
	周辺層	331	90.9	3.6	2.4	0.9	1.8	0.3
	困窮層	167	83.2	5.4	6.0	2.4	3.0	－

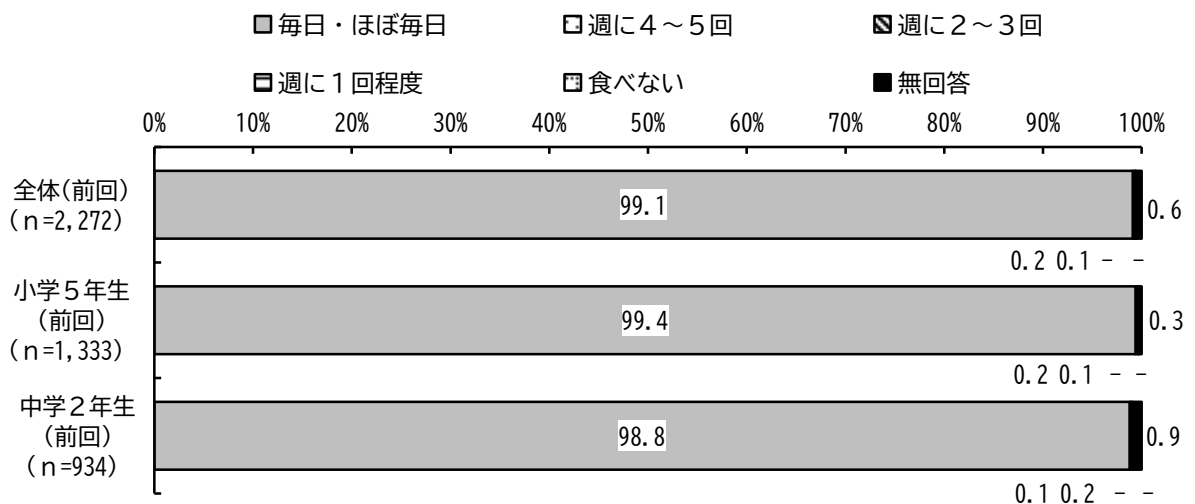
(b) 夕食

夕食の状況について聞いたところ、「毎日食べる（週7日）」（96.4％）の割合が最も高く、次いで「週5～6日」（2.0％）、「週3～4日」、「週1～2日、ほとんど食べない」（ともに0.1％）となっている。

図表－31 食事の状況（夕食）



図表－32 食事の状況（前回調査_夕食）



第3章 調査結果（小中学生）

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「毎日食べる（週7日）」の割合が低くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－33 学年、生活困難度別 食事の状況（夕食）

単位：％

		調査数	毎日食べる （週7日）	週5 ～6日	週3 ～4日	週1 ～2日、 ほとんど食べ ない	無回答
全 体		2,110	96.4	2.0	0.1	0.1	1.3
学 年	小学5年生	1,088	96.3	1.7	0.2	－	1.7
	中学2年生	995	96.6	2.3	0.1	0.3	0.7
	無回答	27	92.6	－	－	－	7.4
困 難 度 生 活	一般層	1,669	97.0	1.4	0.2	0.2	1.2
	周辺層	271	94.1	3.7	－	－	2.2
	困窮層	129	93.8	5.4	－	－	0.8
	無回答	41	95.1	2.4	－	－	2.4

図表－34 学年、生活困難度別 食事の状況（前回調査_夕食）

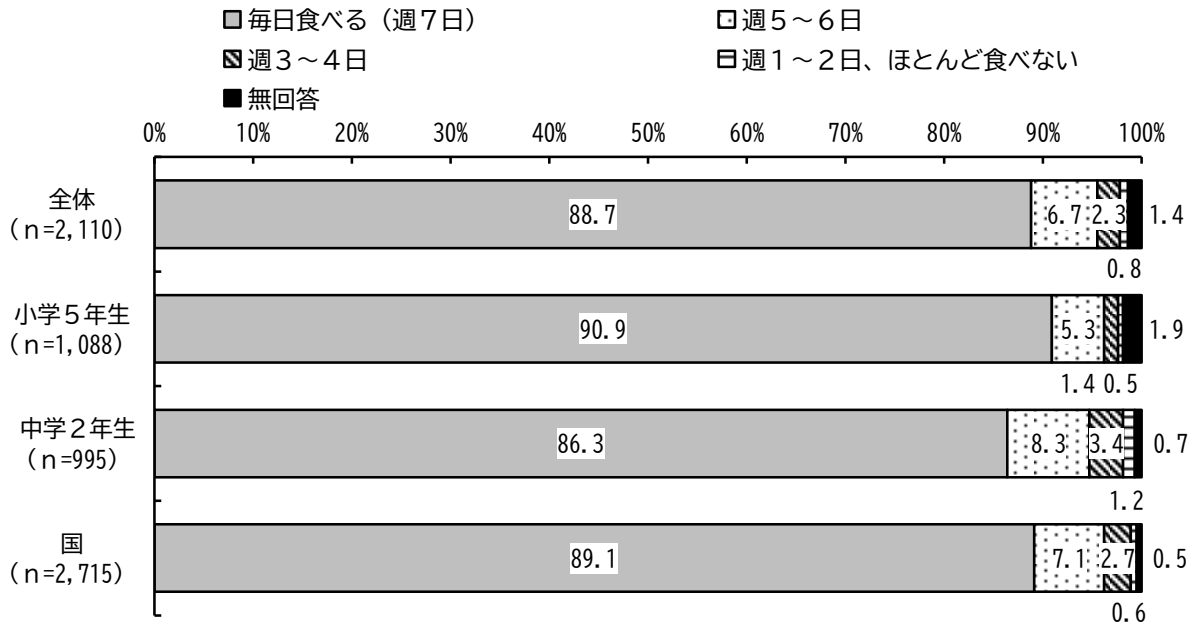
単位：％

		調査数	毎日・ほぼ毎日	週に4 ～5日	週に2 ～3回	週に1 回程度	食べない	無回答
全 体		2,272	99.1	0.2	0.1	－	－	0.6
学 年	小学5年生	1,333	99.4	0.2	0.1	－	－	0.3
	中学2年生	934	98.8	0.1	0.2	－	－	0.9
困 難 度 生 活	一般層	1,769	99.3	－	0.2	－	－	0.5
	周辺層	331	98.2	0.6	－	－	－	1.2
	困窮層	167	99.4	0.6	－	－	－	－

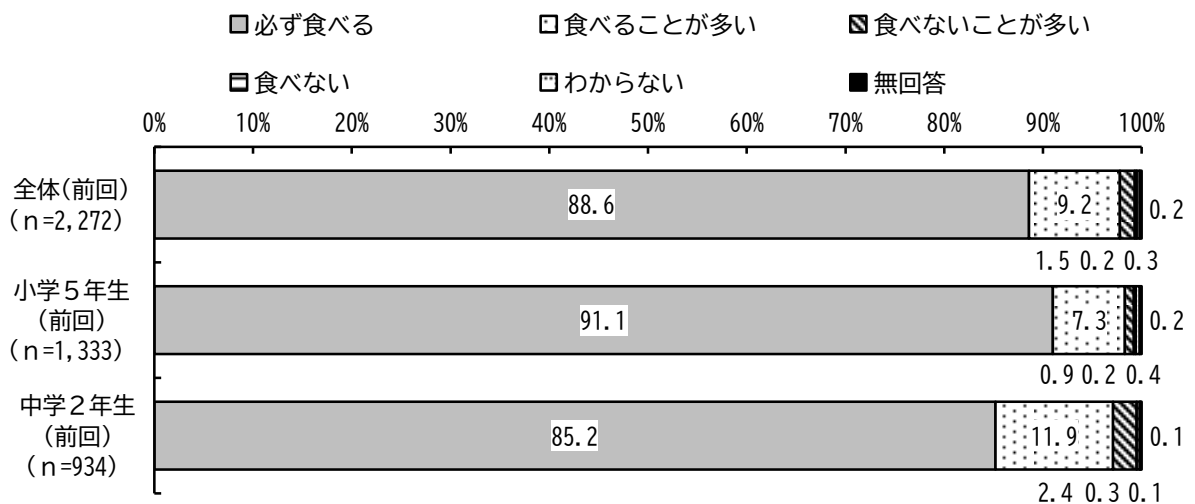
（c）夏休みや冬休みなどの期間の昼食

夏休みや冬休みなどの期間の昼食の状況について聞いたところ、「毎日食べる（週7日）」（88.7%）の割合が最も高く、次いで「週5～6日」（6.7%）、「週3～4日」（2.3%）となっている。

図表－35 食事の状況（夏休みや冬休みなどの期間の昼食）



図表－36 食事の状況（前回調査 夏休みや冬休みなどの期間の昼食）



第3章 調査結果（小中学生）

学年別にみると、小学5年生の方が「毎日食べる（週7日）」（90.9％）の割合が高くなっている。
生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「毎日食べる（週7日）」の割合が低くなっている。

図表－37 学年、生活困難度別 食事の状況（夏休みや冬休みなどの期間の昼食）

単位：％

		調査数	毎日食べる （週7日）	週5 ～ 6日	週3 ～ 4日	週1 ～ 2日、 ほとんど食べ ない	無回答
全 体		2,110	88.7	6.7	2.3	0.8	1.4
学 年	小学5年生	1,088	90.9	5.3	1.4	0.5	1.9
	中学2年生	995	86.3	8.3	3.4	1.2	0.7
	無回答	27	88.9	3.7	－	－	7.4
困 難 度 生 活	一般層	1,669	90.5	5.8	1.9	0.6	1.3
	周辺層	271	81.5	10.3	4.4	1.5	2.2
	困窮層	129	79.8	12.4	3.9	2.3	1.6
	無回答	41	90.2	4.9	2.4	－	2.4

図表－38 学年、生活困難度別 食事の状況（前回調査_夏休みや冬休みなどの期間の昼食）

単位：％

		調査数	必ず食べる	食べることが多い	食べないことが多い	食べない	わからない	無回答
全 体		2,272	88.6	9.2	1.5	0.2	0.3	0.2
学 年	小学5年生	1,333	91.1	7.3	0.9	0.2	0.4	0.2
	中学2年生	934	85.2	11.9	2.4	0.3	0.1	0.1
困 難 度 生 活	一般層	1,769	90.0	8.4	1.0	0.2	0.2	0.2
	周辺層	331	86.1	10.9	1.8	0.6	0.3	0.3
	困窮層	167	79.6	13.2	6.0	－	1.2	－

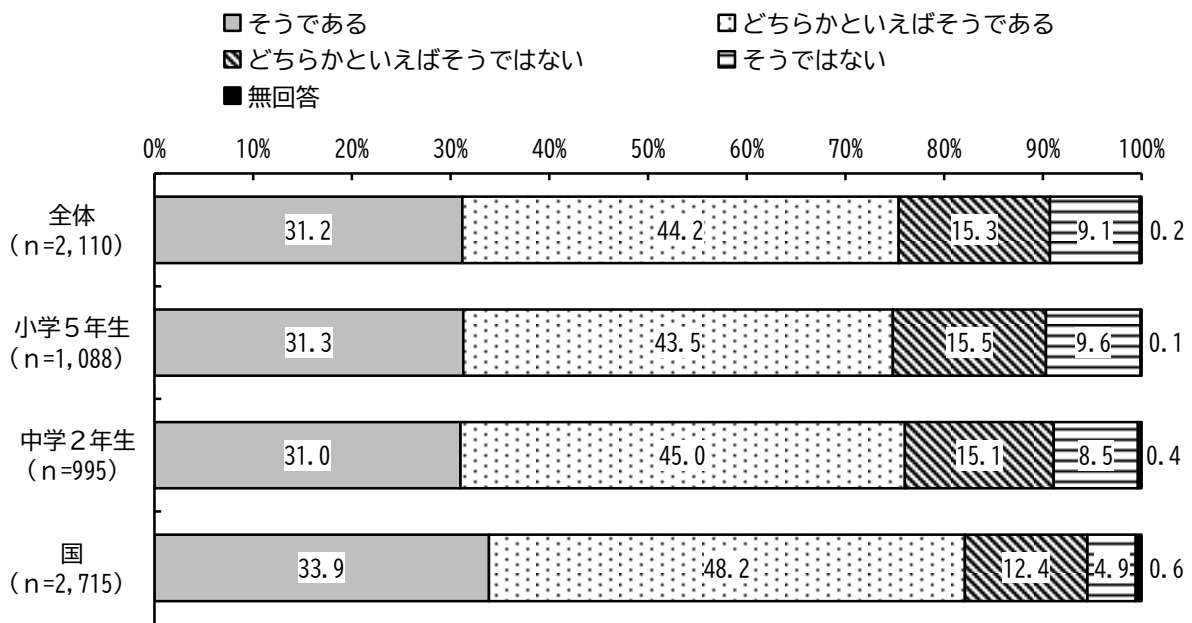
12. 就寝時間

問13 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時間に寝ていますか。

就寝時間（ほぼ同じ時間に寝ているか）について聞いたところ、「どちらかといえばそうである」（44.2％）の割合が最も高く、次いで「そうである」（31.2％）、「どちらかといえばそうではない」（15.3％）となっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「そうである」の割合が低くなっている。学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－39 就寝時間



図表－40 学年、生活困難度別 就寝時間

単位：％

		調査数	そうである	どちらかといえばそうである	どちらかといえばそうではない	そうではない	無回答
全 体		2,110	31.2	44.2	15.3	9.1	0.2
学 年	小学5年生	1,088	31.3	43.5	15.5	9.6	0.1
	中学2年生	995	31.0	45.0	15.1	8.5	0.4
	無回答	27	33.3	40.7	11.1	14.8	—
生活困難度	一般層	1,669	31.5	44.9	14.7	8.8	0.2
	周辺層	271	29.2	41.3	18.5	10.7	0.4
	困窮層	129	26.4	45.7	17.8	10.1	—
	無回答	41	48.8	29.3	9.8	9.8	2.4

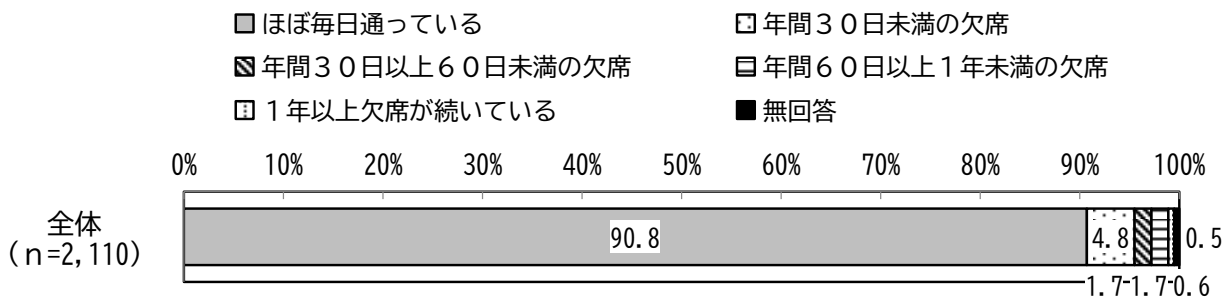
13. 通学状況

問14 あなたの通学状況について最も近いものはどれですか。

通学状況について聞いたところ、「ほぼ毎日通っている」(90.8%)の割合が最も高く、次いで「年間30日未満の欠席」(4.8%)、「年間30日以上60日未満の欠席」、「年間60日以上1年未満の欠席」(ともに1.7%)となっている。

学年別にみると、小学5年生の方が「ほぼ毎日通っている」(93.2%)の割合が高くなっている。
生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「ほぼ毎日通っている」の割合が低くなっている。

図表－41 通学状況



図表－42 学年、生活困難度別 通学状況

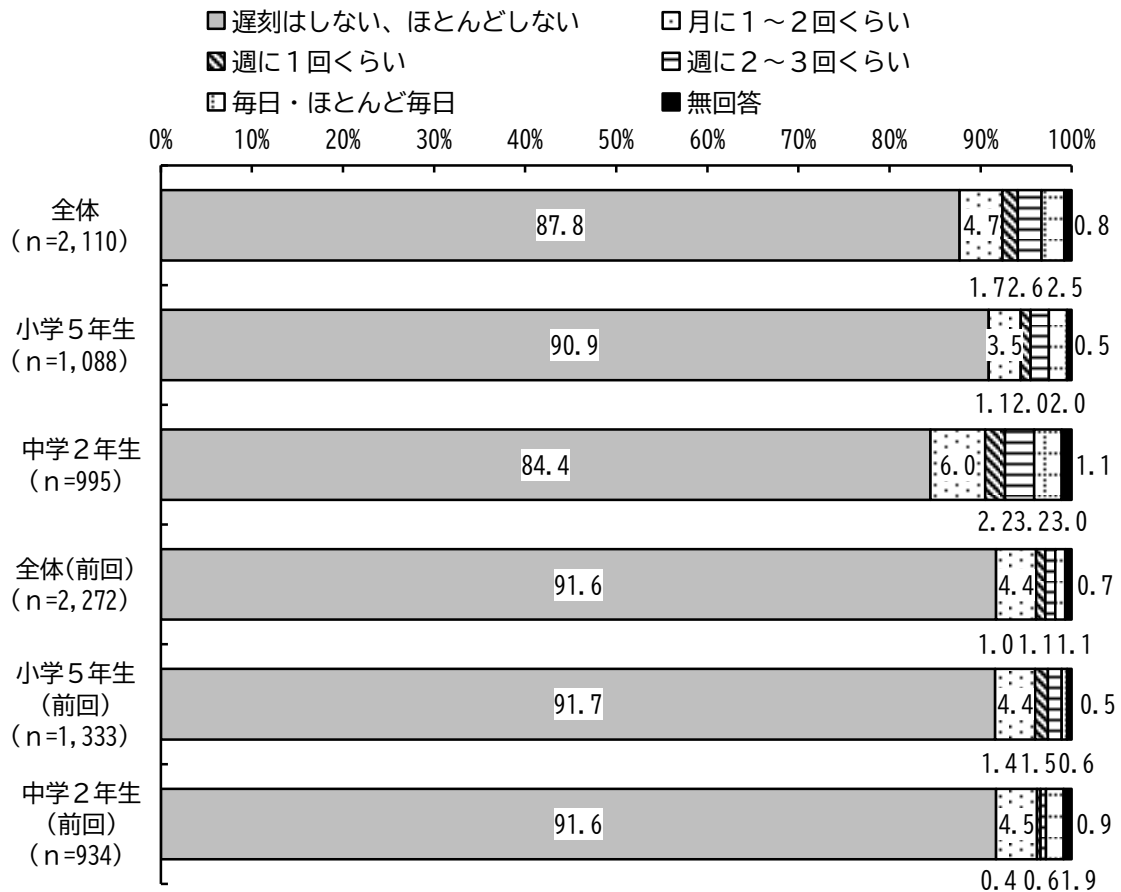
		単位：％						
		調査数	ほぼ毎日通っている	年間３０日未満の欠席	年間３０日以上６０日未満の欠席	年間６０日以上１年未満の欠席	１年以上欠席が続いている	無回答
全 体		2,110	90.8	4.8	1.7	1.7	0.6	0.5
学 年	小学５年生	1,088	93.2	4.1	1.4	0.5	0.4	0.5
	中学２年生	995	88.0	5.5	2.0	3.1	0.8	0.5
	無回答	27	96.3	3.7	－	－	－	－
生活 困難度	一般層	1,669	92.5	3.9	1.4	1.3	0.4	0.5
	周辺層	271	84.5	7.7	3.7	3.0	0.7	0.4
	困窮層	129	82.2	10.9	1.6	3.9	1.6	－
	無回答	41	90.2	2.4	－	2.4	2.4	2.4

1 4. 遅刻状況

問15 あなたは、学校に遅刻することがありますか。

遅刻状況について聞いたところ、「遅刻はしない、ほとんどしない」（87.8％）の割合が最も高く、次いで「月に1～2回くらい」（4.7％）、「週に2～3回くらい」（2.6％）となっている。

図表－4 3 遅刻状況



第3章 調査結果（小中学生）

学年別にみると、小学5年生の方が「遅刻はしない、ほとんどしない」（90.9％）の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、生活困難層の方が一般層より「遅刻はしない、ほとんどしない」（周辺層79.7％、困窮層82.9％）の割合が低くなっている。

図表－44 学年、生活困難度別 遅刻状況

単位：％

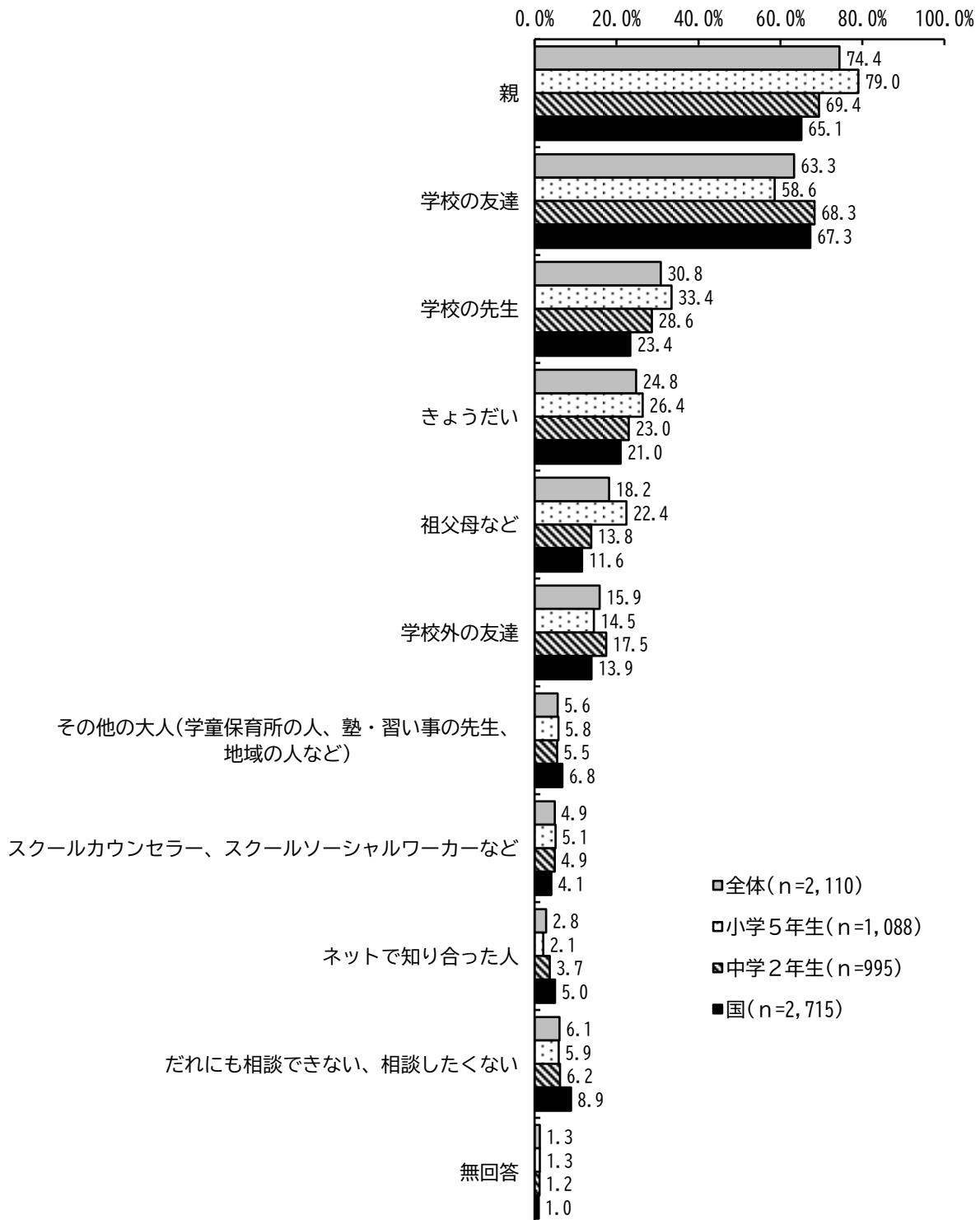
		調査数	な遅 い刻 はし ない、 ほとん どし	月に 1～ 2回 くらい	週に 1回 くらい	週に 2～ 3回 くらい	毎日・ ほとんど 毎日	無回 答
全 体		2,110	87.8	4.7	1.7	2.6	2.5	0.8
学 年	小学5年生	1,088	90.9	3.5	1.1	2.0	2.0	0.5
	中学2年生	995	84.4	6.0	2.2	3.2	3.0	1.1
	無回答	27	85.2	7.4	7.4	－	－	－
生活 困難度	一般層	1,669	89.6	4.3	1.4	2.2	2.0	0.5
	周辺層	271	79.7	6.6	4.1	4.8	4.1	0.7
	困窮層	129	82.9	7.0	0.8	3.1	4.7	1.6
	無回答	41	82.9	4.9	－	2.4	2.4	7.3

15. 相談できると思う相手

問16 あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。

相談できると思う相手について聞いたところ、「親」（74.4%）の割合が最も高く、次いで「学校の友達」（63.3%）、「学校の先生」（30.8%）となっている。

図表－45 相談できると思う相手



第3章 調査結果（小中学生）

学年別にみると、小学5年生の方が「親」（79.0％）や「祖父母など」（22.4％）の割合が高くなっている。また、中学2年生の方が「学校の友達」（68.3％）の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて、「親」の割合が低くなり、「きょうだい」の割合がやや高くなっている。また、周辺層では「学校の先生」（25.8％）の割合が、困窮層では「学校外の友達」（7.8％）の割合が低くなっている。

図表－46 学年、生活困難度別 相談できると思う相手

単位：％

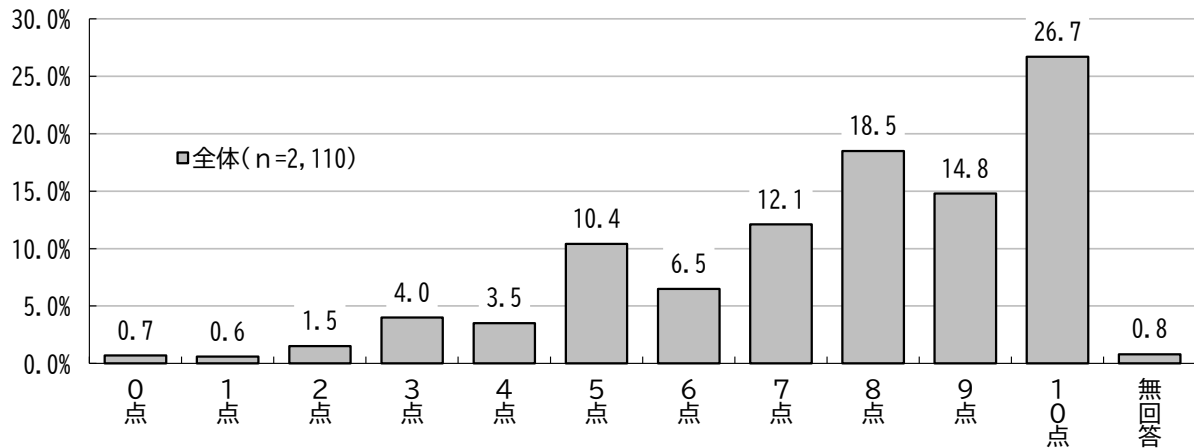
		調査数	親	きょうだい	祖父母など	学校の先生	学校の友達	学校外の友達	スクールソーシャルワーカーなど	地域の人の人（塾・習い事の先生、その他の大人（児童保育所）	ネットで知り合った人	だれにも相談できない、相談したくない	無回答
全 体		2,110	74.4	24.8	18.2	30.8	63.3	15.9	4.9	5.6	2.8	6.1	1.3
学 年	小学5年生	1,088	79.0	26.4	22.4	33.4	58.6	14.5	5.1	5.8	2.1	5.9	1.3
	中学2年生	995	69.4	23.0	13.8	28.6	68.3	17.5	4.9	5.5	3.7	6.2	1.2
	無回答	27	66.7	25.9	14.8	7.4	63.0	14.8	-	-	-	11.1	7.4
困 難 度 生 活	一般層	1,669	75.3	24.4	18.3	31.4	63.4	16.1	4.9	5.3	2.7	6.5	1.2
	周辺層	271	70.5	25.1	17.0	25.8	61.6	17.7	3.7	5.5	3.3	4.8	1.1
	困窮層	129	69.8	28.7	17.1	33.3	62.8	7.8	5.4	5.4	4.7	4.7	2.3
	無回答	41	75.6	26.8	26.8	31.7	70.7	22.0	12.2	17.1	-	2.4	4.9

16. 最近の生活の満足度

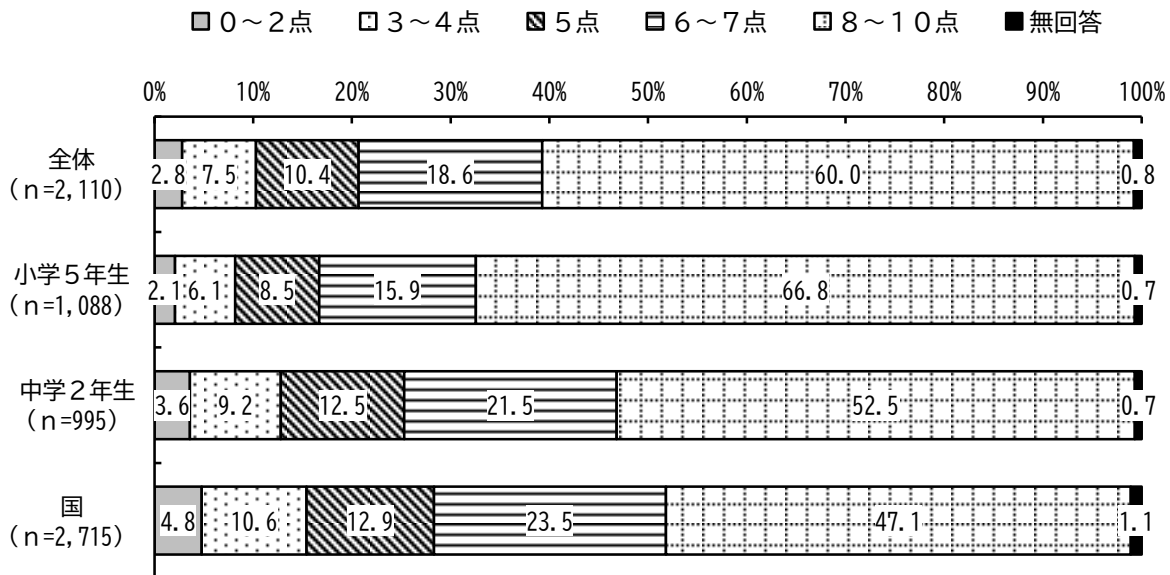
問17 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。
「0」(まったく満足していない)から「10」(十分に満足している)の数字で教えてください。

最近の生活の満足度について聞いたところ、「10点」(26.7%)の割合が最も高く、次いで「8点」(18.5%)、「9点」(14.8%)となっている。

図表－47 最近の生活の満足度



図表－48 最近の生活の満足度



第3章 調査結果（小中学生）

学年別にみると、小学5年生の方が「9点」（17.1%）、「10点」（32.4%）の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、一般層より生活困難層の方が、満足度が低い傾向にある。

図表－49 学年、生活困難度別 最近の生活の満足度

単位：％

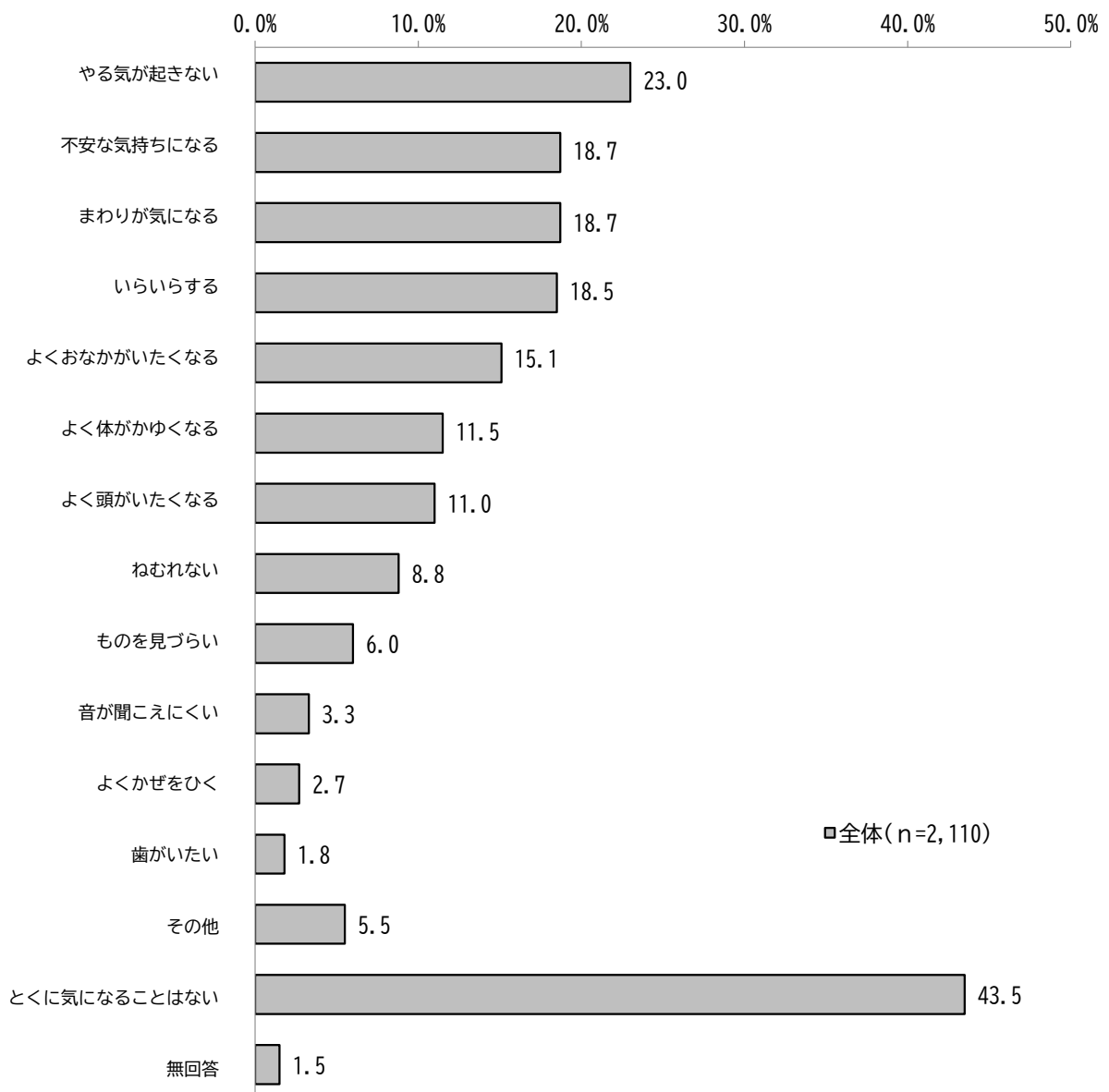
		調査数	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答
全 体		2,110	0.7	0.6	1.5	4.0	3.5	10.4	6.5	12.1	18.5	14.8	26.7	0.8
学 年	小学5年生	1,088	0.6	0.5	1.0	3.3	2.8	8.5	5.5	10.4	17.3	17.1	32.4	0.7
	中学2年生	995	0.8	0.8	2.0	4.9	4.3	12.5	7.6	13.9	20.2	12.0	20.3	0.7
	無回答	27	-	-	-	-	-	11.1	3.7	14.8	7.4	25.9	33.3	3.7
困 難 度 生 活	一般層	1,669	0.4	0.4	1.3	3.6	3.0	9.3	6.6	12.5	18.8	14.9	28.5	0.7
	周辺層	271	2.2	0.7	1.8	4.1	5.9	12.9	6.3	10.7	18.1	17.3	19.6	0.4
	困窮層	129	0.8	2.3	2.3	10.1	5.4	16.3	3.9	11.6	14.0	10.9	20.9	1.6
	無回答	41	-	2.4	2.4	2.4	2.4	17.1	12.2	7.3	24.4	7.3	19.5	2.4

17. 心身の不調

問18 あなたは、自分の体や気持ちで気になることはありますか。

心身の不調について聞いたところ、「とくに気になることはない」（43.5％）の割合が最も高くなっている。「とくに気になることはない」を除くと、「やる気が起きない」（23.0％）が最も高く、次いで「不安な気持ちになる」、「まわりが気になる」（ともに18.7％）となっている。

図表－50 心身の不調



第3章 調査結果（小中学生）

学年別にみると、小学5年生の方が「とくに気になることはない」（45.5％）の割合が高くなっている。また、中学2年生の方が「不安な気持ちになる」（22.0％）、「まわりが気になる」（22.2％）、「やる気が起きない」（29.9％）の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、一般層で「とくに気になることはない」（46.3％）の割合が高くなっている。また生活困難層では、身体の不調で「よく頭がいたくなる」、「よくおなかがいたくなる」の割合が高くなっている。また心の不調で「不安な気持ちになる」、「まわりが気になる」、「やる気が起きない」、「いらいらする」の割合が高くなっている。

図表－５１ 学年、生活困難度別 心身の不調

単位：％

		調査数	ねむれない	よく頭がいたくなる	歯がいたい	ものを見づらい	音が聞こえにくい	よくおなかがいたくなる	よくかぜをひく	よく体がかゆくなる
全 体		2,110	8.8	11.0	1.8	6.0	3.3	15.1	2.7	11.5
学 年	小学5年生	1,088	9.4	9.4	1.8	5.9	2.8	14.2	2.5	13.7
	中学2年生	995	8.3	13.0	1.8	6.2	4.0	16.2	2.6	9.2
	無回答	27	3.7	7.4	-	3.7	-	11.1	11.1	7.4
困 難 度 生 活	一般層	1,669	7.9	9.9	1.7	5.8	2.8	14.2	2.4	11.0
	周辺層	271	12.5	12.5	2.6	6.6	5.5	17.7	4.1	12.9
	困窮層	129	8.5	17.8	0.8	7.8	6.2	22.5	3.1	15.5
	無回答	41	22.0	24.4	2.4	7.3	2.4	12.2	2.4	12.2

		調査数	不安な気持ちになる	まわりが気になる	やる気が起きない	いらいらする	その他	とくに気になることはない	無回答
全 体		2,110	18.7	18.7	23.0	18.5	5.5	43.5	1.5
学 年	小学5年生	1,088	15.7	15.5	17.0	19.0	6.3	45.5	1.6
	中学2年生	995	22.0	22.2	29.9	17.9	4.7	40.9	1.3
	無回答	27	14.8	18.5	11.1	18.5	-	59.3	7.4
困 難 度 生 活	一般層	1,669	17.6	17.5	21.7	17.0	5.7	46.3	1.1
	周辺層	271	22.5	24.0	29.2	24.0	5.5	33.6	1.5
	困窮層	129	26.4	24.0	26.4	21.7	4.7	34.1	4.7
	無回答	41	14.6	17.1	26.8	34.1	-	26.8	7.3

18. 心理的な状態

「子供の心理的な状態」に関して、本調査では「強さと困難さアンケート（SDQ：Strengths and Difficulties Questionnaire）」の調査項目のうち、「情緒（不安や抑うつなど）」の問題、「仲間関係」の問題、「向社会性」を把握するための項目を設定した。

（1）情緒の問題

問19 以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」のどれかから回答してください。

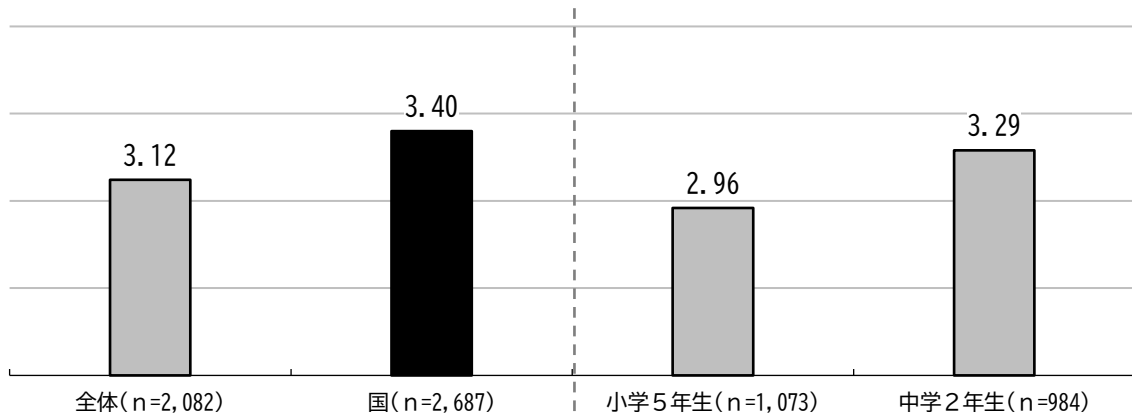
- b. 私は、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする。
- e. 私は、心配ごとが多く、いつも不安だ。
- h. 私は、落ち込んでしずんでいたり、涙ぐんだりすることがよくある。
- j. 私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。
- o. 私は、こわがりで、すぐにおびえたりする。

「情緒の問題」に関して、5つの項目の結果を足し合わせて、スコアを算出した（0～10点、得点が高いほど、問題性が高いと考えられる）。全体の平均値は3.12となっている。

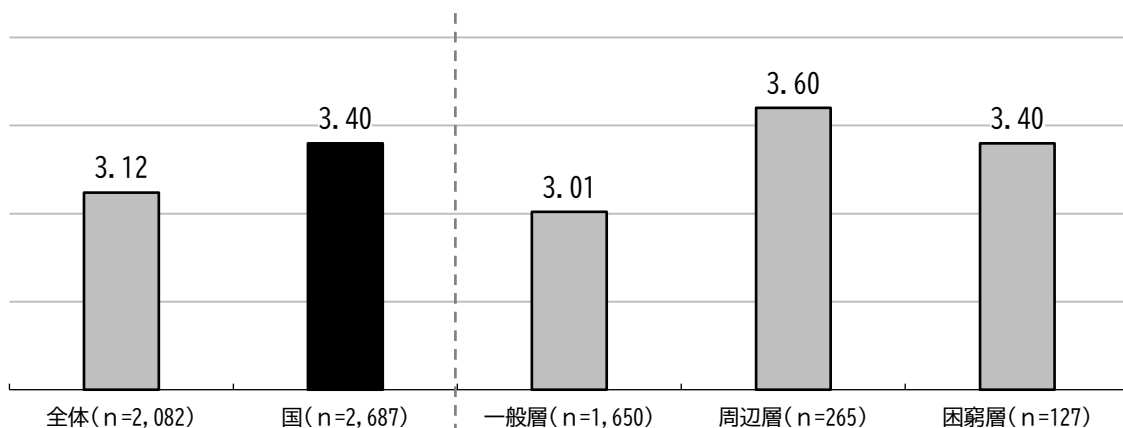
学年別にみると、「情緒の問題」の平均値は、「小学5年生」では2.96、「中学2年生」では3.29となっている。

生活困難度別にみると、「一般層」では3.01、「周辺層」では3.60、「困窮層」では3.40となっている。

図表－52 学年別 「情緒の問題」に関するスコアの平均値



図表－53 生活困難度別 「情緒の問題」に関するスコアの平均値



（2）仲間関係の問題

問19 以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」のどれかから回答してください。

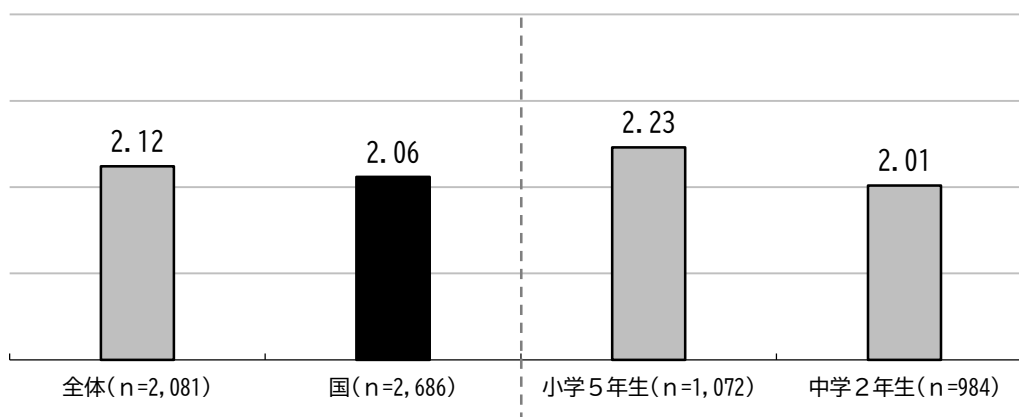
- d. 私は、たいてい一人である。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける。
- g. 私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。
- i. 私は、同じくらいの年齢の子供からは、だいたいは好かれている。
- l. 私は、他の子供から、いじめられたり、からかわれたりする。
- n. 私は、他の子供たちより、大人という方がうまくいく。

「仲間関係の問題」に関して、5つの項目の結果を足し合わせて、スコアを算出した（0～10点、得点が高いほど、問題性が高いと考えられる）。全体の平均値は2.12となっている。

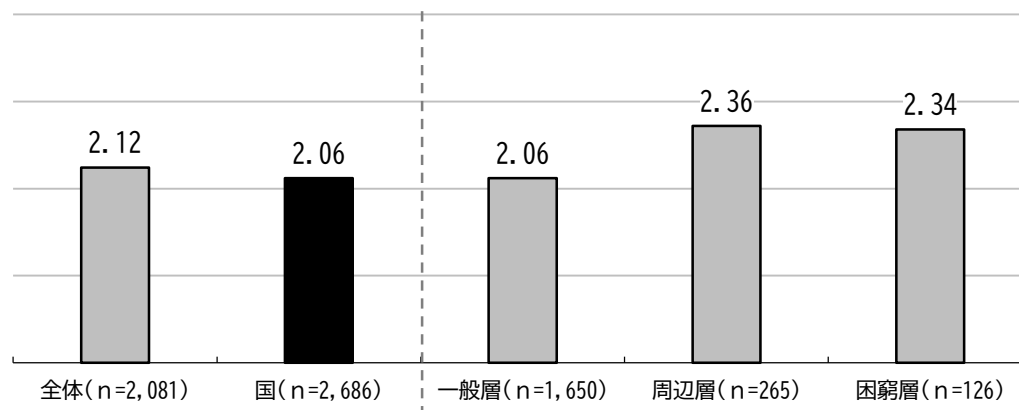
学年別にみると、「仲間関係の問題」の平均値は、「小学5年生」では2.23、「中学2年生」では2.01となっている。

生活困難度別にみると、「一般層」では2.06、「周辺層」では2.36、「困窮層」では2.34となっている。

図表－54 学年別 「仲間関係の問題」に関するスコアの平均値



図表－55 生活困難度別 「仲間関係の問題」に関するスコアの平均値



（3）向社会性

問19 以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」のどれかから回答してください。

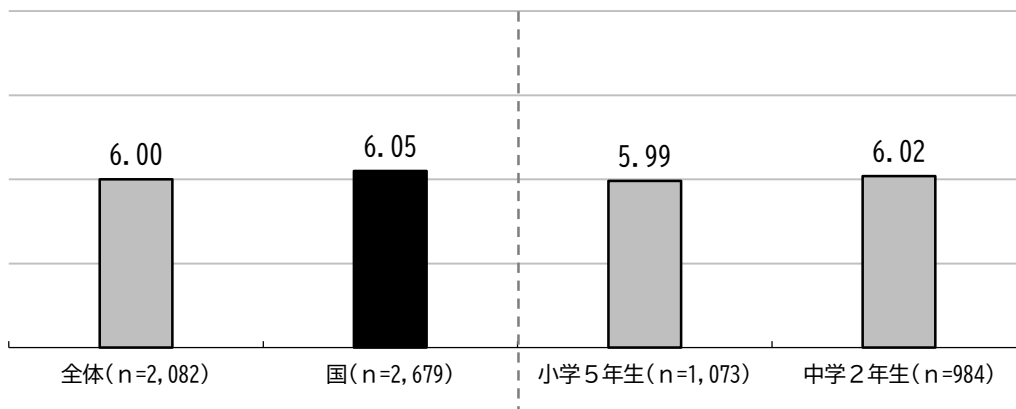
- a. 私は、他人に対して親切にしている。私は、他人の気持ちをよく考える。
- c. 私は、他の子供たちと、よく分け合う（食べ物・ゲーム・ペンなど）。
- f. 私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける。
- k. 私は、年下の子供たちに対してやさしくしている。
- m. 私は、自分からすすんでよくお手伝いをする（親・先生・子供たちなど）。

「向社会性」に関して、5つの項目の結果を足し合わせて、スコアを算出した（0～10点、得点が高いほど、社会性が高いと考えられる）。全体の平均値は6.00となっている。

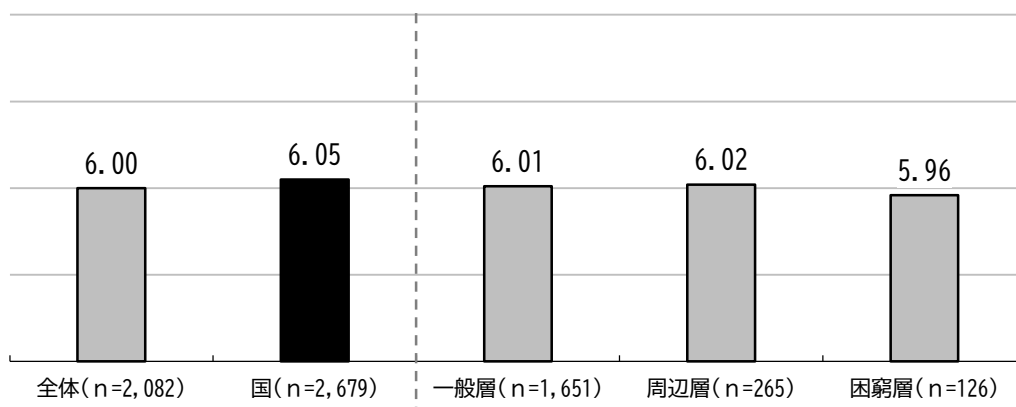
学年別にみると、「向社会性」の平均値は、「小学5年生」では5.99、「中学2年生」では6.02となっている。

生活困難度別にみると、「一般層」では6.01、「周辺層」全体では6.02、「困窮層」では5.96となっている。

図表－56 学年別 「向社会性」に関するスコアの平均値



図表－57 生活困難度別 「向社会性」に関するスコアの平均値



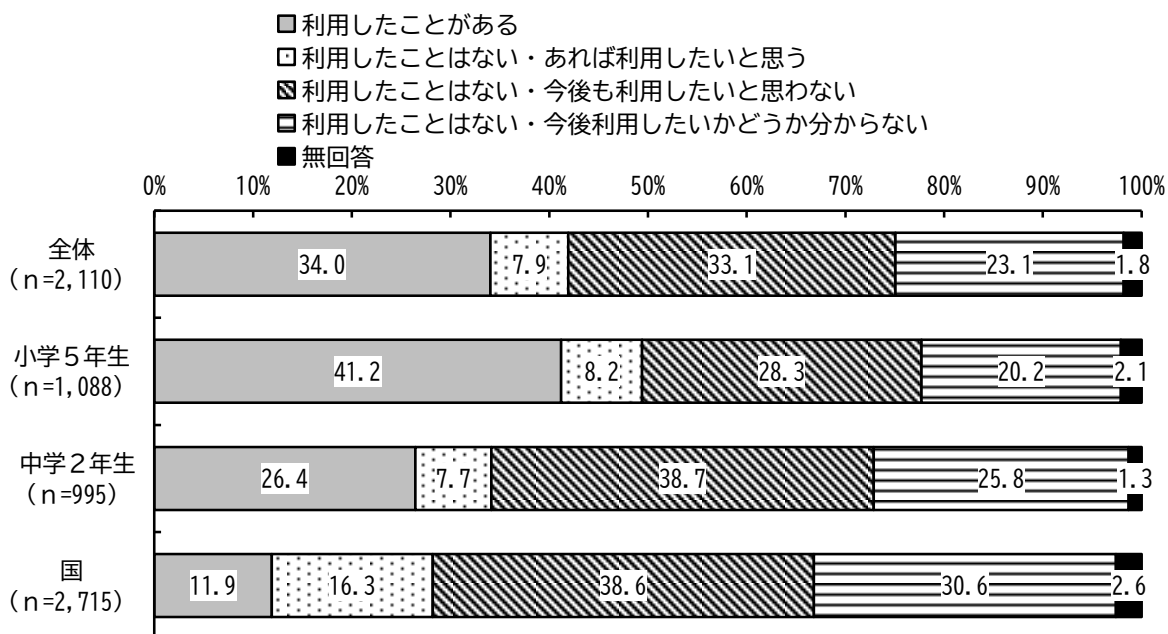
19. 支援制度・居場所等の利用状況

問20 あなたは、次の a～d のような場所を利用したことがありますか。
また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。

(a) (自分や友人の家以外で)放課後や休日を過ごすことができる場所(学童保育所や放課後等デイサービスなど)

放課後や休日を過ごすことができる場所の利用状況について聞いたところ、「利用したことがある」(34.0%)の割合が最も高く、次いで「利用したことはない・今後も利用したいと思わない」(33.1%)、「利用したことはない・今後利用したいかどうか分からない」(23.1%)となっている。

図表－58 支援制度・居場所等の利用状況(放課後や休日を過ごすことができる場所)



学年別にみると、小学5年生の方が「利用したことがある」（41.2％）の割合が高くなっている。
生活困難度別にみると、困窮層で「利用したことがある」（24.8％）の割合が低く、「利用したことはない・今後利用したいかどうか分からない」（30.2％）の割合が高くなっている。

図表－５９ 学年、生活困難度別
支援制度・居場所等の利用状況（放課後や休日を過ごすことができる場所）

単位：％

		調査数	利用したことがある	ば利用したことはない・あれ	も利用したことはない・今後	な利用したことはない・分・今後	無回答
全 体		2,110	34.0	7.9	33.1	23.1	1.8
学 年	小学5年生	1,088	41.2	8.2	28.3	20.2	2.1
	中学2年生	995	26.4	7.7	38.7	25.8	1.3
	無回答	27	25.9	3.7	22.2	40.7	7.4
生活 困難度	一般層	1,669	34.5	7.8	33.4	22.9	1.4
	周辺層	271	35.4	7.0	31.4	21.4	4.8
	困窮層	129	24.8	10.9	33.3	30.2	0.8
	無回答	41	34.1	9.8	31.7	22.0	2.4

第3章 調査結果（小中学生）

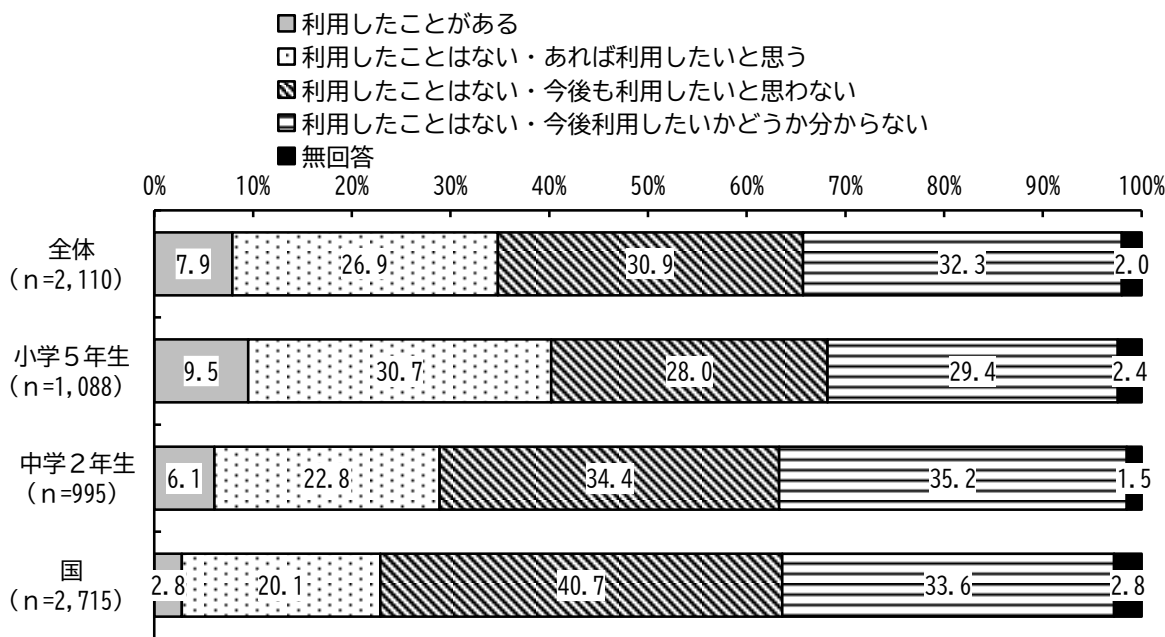
（b）（自分や友人の家以外で）夕ごはんを無料か安く食べることができる場所（子ども食堂など）

夕ごはんを無料か安く食べることができる場所の利用状況について聞いたところ、「利用したことはない・今後利用したいかどうか分からない」（32.3％）の割合が最も高く、次いで「利用したことはない・今後も利用したいと思わない」（30.9％）、「利用したことはない・あれば利用したいと思う」（26.9％）となっている。

学年別にみると、小学5年生の方が「利用したことはない・あれば利用したいと思う」（30.7％）の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、生活困難層で「利用したことがある」（周辺層10.7％、困窮層10.9％）の割合がやや高くなっている。

図表－60 支援制度・居場所等の利用状況（夕ごはんを無料か安く食べることができる場所）



図表－61 学年、生活困難度別
支援制度・居場所等の利用状況（夕ごはんを無料か安く食べることができる場所）

単位：％

		調査数	利用したことがある	利用したことはない・あれば利用したいと思わない	利用したことはない・今後も利用したいと思わない	利用したことはない・今後利用したいかどうか分からない	無回答
全 体		2,110	7.9	26.9	30.9	32.3	2.0
学 年	小学5年生	1,088	9.5	30.7	28.0	29.4	2.4
	中学2年生	995	6.1	22.8	34.4	35.2	1.5
	無回答	27	11.1	25.9	14.8	40.7	7.4
生活困難度	一般層	1,669	7.1	27.2	30.9	33.1	1.7
	周辺層	271	10.7	28.0	30.3	26.9	4.1
	困窮層	129	10.9	21.7	31.0	34.9	1.6
	無回答	41	12.2	24.4	31.7	26.8	4.9

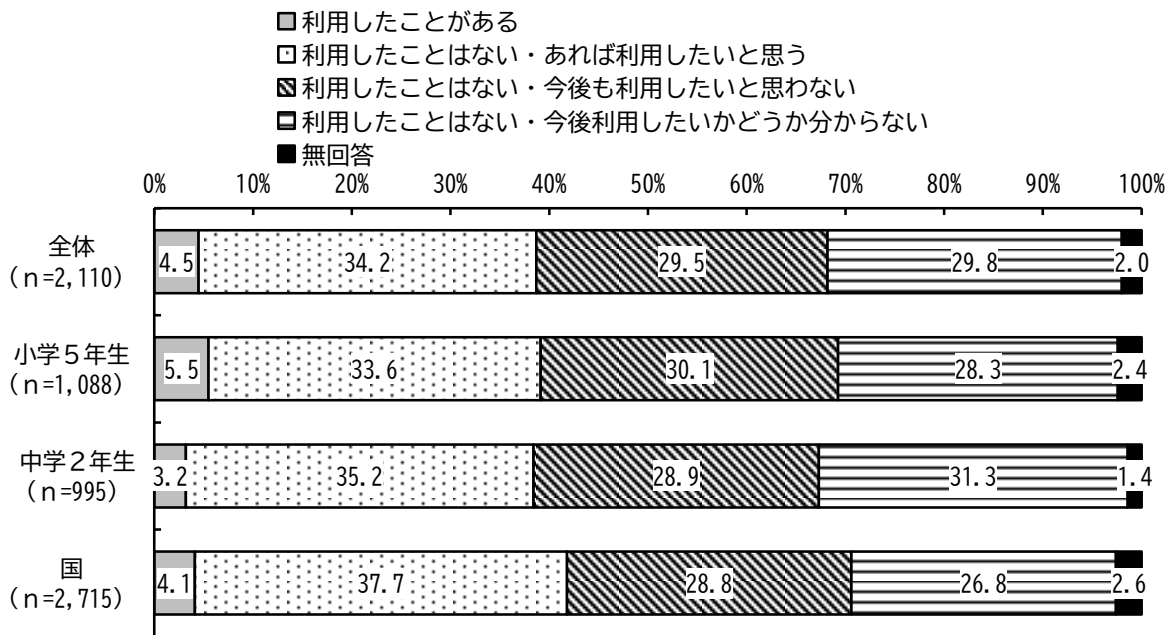
（c）勉強を無料でみてる場所

勉強を無料でみてる場所の利用状況について聞いたところ、「利用したことはない・あれば利用したいと思う」（34.2%）の割合が最も高く、次いで「利用したことはない・今後利用したいかどうか分からない」（29.8%）、「利用したことはない・今後も利用したいと思わない」（29.5%）となっている。

生活困難度別にみると、生活困難層で「利用したことはない・あれば利用したいと思う」（周辺層38.7%、困窮層37.2%）の割合がやや高くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－62 支援制度・居場所等の利用状況(勉強を無料でみてる場所)



図表－63 学年、生活困難度別
支援制度・居場所等の利用状況(勉強を無料でみてる場所)

単位：％

		調査数	利用したことがある	利用したことはない・あれば利用したいと思う	利用したことはない・今後も利用したいと思わない	利用したことはない・今後利用したいかどうか分からない	無回答
全 体		2,110	4.5	34.2	29.5	29.8	2.0
学 年	小学5年生	1,088	5.5	33.6	30.1	28.3	2.4
	中学2年生	995	3.2	35.2	28.9	31.3	1.4
	無回答	27	14.8	18.5	22.2	37.0	7.4
生活困難度	一般層	1,669	4.6	33.0	29.9	30.8	1.7
	周辺層	271	4.4	38.7	27.7	25.5	3.7
	困窮層	129	4.7	37.2	27.9	28.7	1.6
	無回答	41	2.4	43.9	29.3	22.0	2.4

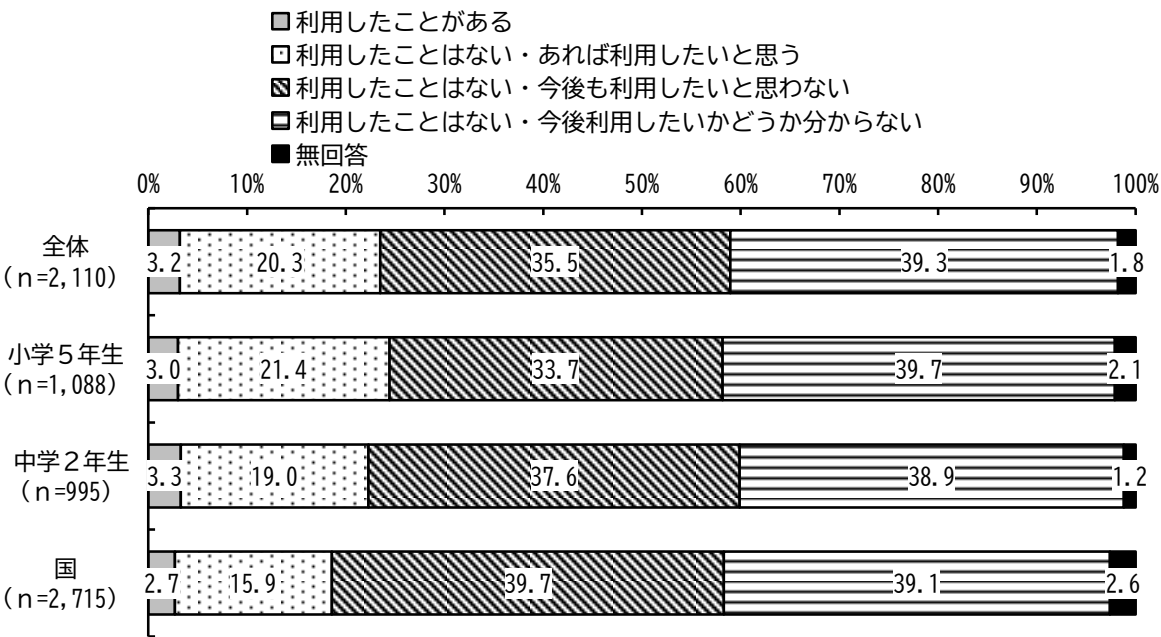
（d）（家や学校以外で）何でも相談できる場所（電話やネットの相談含む。）

何でも相談できる場所の利用状況について聞いたところ、「利用したことはない・今後利用したいかどうか分からない」（39.3％）の割合が最も高く、次いで「利用したことはない・今後も利用したいと思わない」（35.5％）、「利用したことはない・あれば利用したいと思う」（20.3％）となっている。

生活困難度別にみると、生活困難層で「利用したことはない・あれば利用したいと思う」（周辺層24.7％、困窮層24.8％）の割合がやや高くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－64 支援制度・居場所等の利用状況（何でも相談できる場所）



図表－65 学年、生活困難度別 支援制度・居場所等の利用状況（何でも相談できる場所）

単位：％

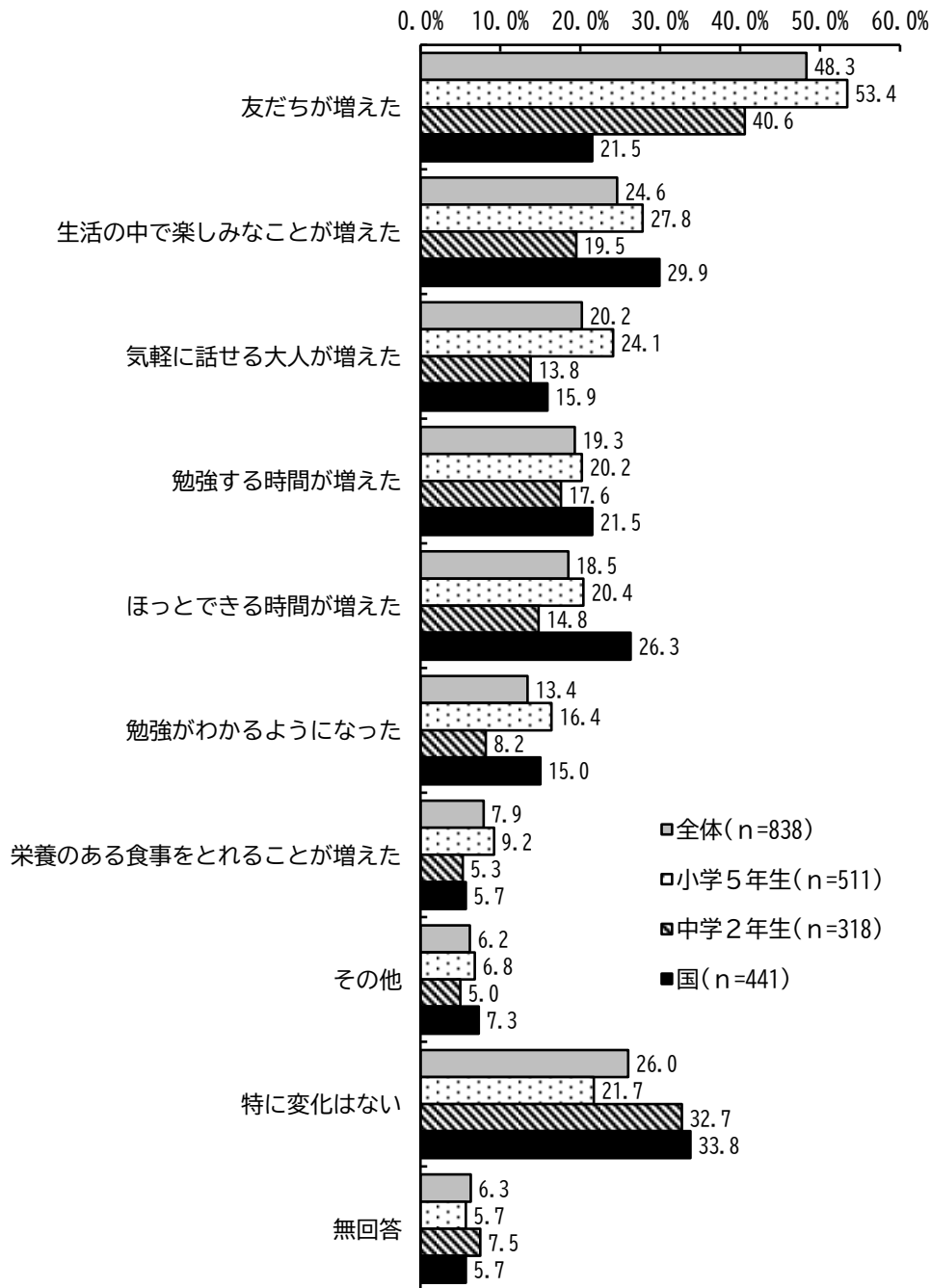
		調 査 数	利 用 し た こ と が あ る	ば 利 用 し た こ と は な い ・ あ れ	も 利 用 し た こ と は な い ・ 今 後	な い 利 用 し た こ と は な い ・ 今 後	無 回 答
全 体		2,110	3.2	20.3	35.5	39.3	1.8
学 年	小学5年生	1,088	3.0	21.4	33.7	39.7	2.1
	中学2年生	995	3.3	19.0	37.6	38.9	1.2
	無回答	27	3.7	25.9	25.9	37.0	7.4
困 難 生 活 度	一般層	1,669	2.9	19.2	36.4	39.9	1.5
	周辺層	271	3.7	24.7	31.4	36.9	3.3
	困窮層	129	4.7	24.8	29.5	39.5	1.6
	無回答	41	4.9	22.0	41.5	29.3	2.4

20. 支援制度・居場所等の利用による変化

問21 前の質問で、1つでも「1 利用したことがある」と答えた方にお聞きします。そこを利用したことで、以下のような変化がありましたか。

支援制度・居場所等の利用による変化について聞いたところ、「友だちが増えた」（48.3％）の割合が最も高く、次いで「特に変化はない」（26.0％）、「生活の中で楽しみなことが増えた」（24.6％）となっている。

図表ー66 支援制度・居場所等の利用による変化



第3章 調査結果（小中学生）

学年別にみると、中学2年生の方が「特に変化はない」（32.7％）の割合が高くなっている。それ以外の項目は、すべて小学5年生の方が、割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「友だちが増えた」、「ほっとできる時間が増えた」の割合が低くなっている。また、困窮層では「勉強がわかるようになった」（24.4％）、「勉強する時間が増えた」（24.4％）の割合が他の層と比べて高くなっており、勉強に対する変化がみられる。

図表－67 学年、生活困難度別 支援制度・居場所等の利用による変化

単位：％

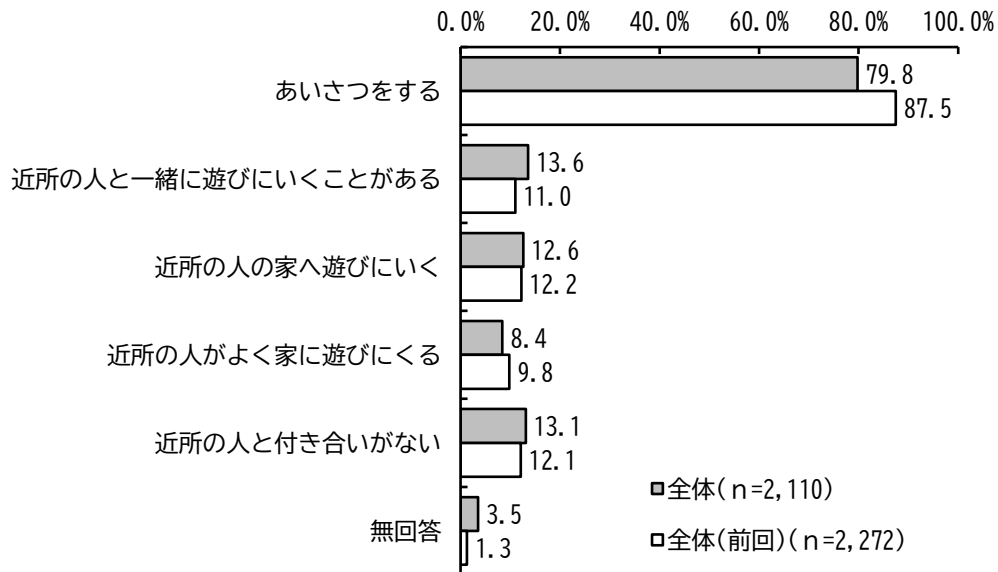
		調査数	友だちが増えた	気軽に話せる大人が増えた	生活の中で楽しみなことが増えた	ほっとできる時間が増えた	栄養のある食事をとれることが増えた	勉強がわかるようになった	勉強する時間が増えた	その他	特に変化はない	無回答
全 体		838	48.3	20.2	24.6	18.5	7.9	13.4	19.3	6.2	26.0	6.3
学 年	小学5年生	511	53.4	24.1	27.8	20.4	9.2	16.4	20.2	6.8	21.7	5.7
	中学2年生	318	40.6	13.8	19.5	14.8	5.3	8.2	17.6	5.0	32.7	7.5
	無回答	9	33.3	22.2	22.2	44.4	22.2	22.2	33.3	11.1	33.3	－
困 難 度 生 活	一般層	664	49.7	19.4	24.8	19.4	7.8	13.1	20.0	5.6	27.0	5.3
	周辺層	114	44.7	21.9	23.7	14.9	7.9	10.5	14.0	9.6	21.9	7.9
	困窮層	45	37.8	20.0	24.4	13.3	8.9	24.4	24.4	8.9	24.4	11.1
	無回答	15	46.7	40.0	20.0	20.0	6.7	13.3	13.3	－	20.0	26.7

21. 近所付き合いについて

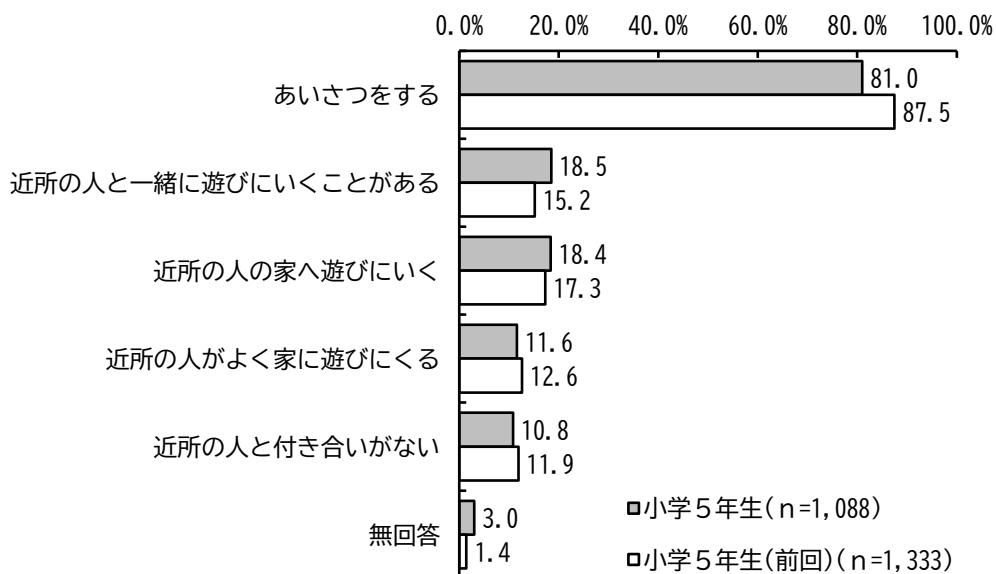
問22 近所の人のことについて教えてください。

近所付き合いについて聞いたところ、「あいさつをする」(79.8%)の割合が最も高く、次いで「近所の人と一緒に遊びに行くことがある」(13.6%)、「近所の人と付き合いがない」(13.1%)となっている。

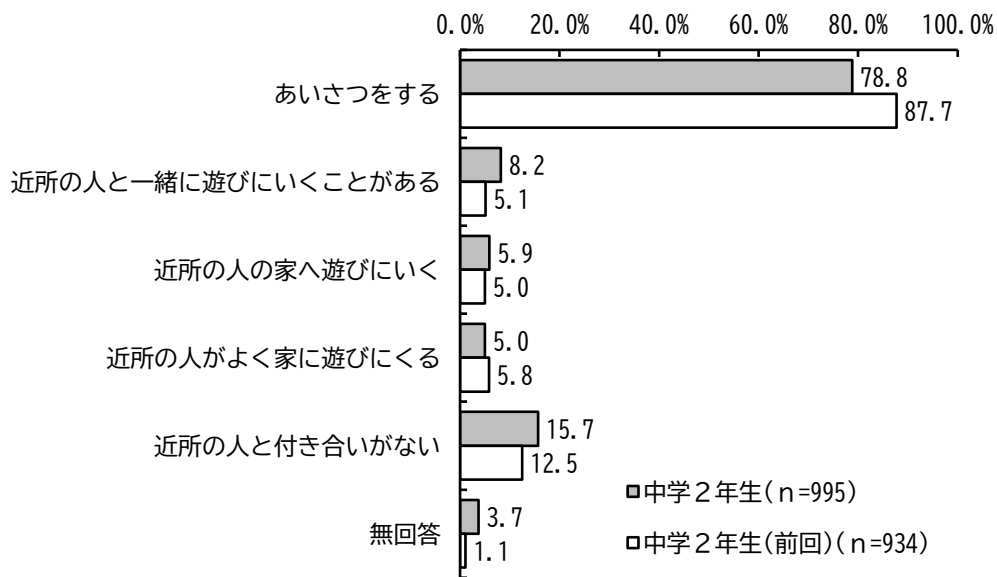
図表－68 近所付き合いについて（全体）



図表－69 近所付き合いについて（小学5年生）



図表一 70 近所付き合いについて（中学2年生）



学年別にみると、中学2年生の方が「近所の人と付き合いがない」（15.7%）の割合が高くなっている。それ以外の項目は、すべて小学5年生の方が、割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、周辺層で「あいさつをする」（75.3%）の割合が他の層に比べて低く、その他の項目でも他の層と比べて近所付き合いの希薄さがみられる。

図表一 71 学年、生活困難度別 近所付き合いについて

単位：％

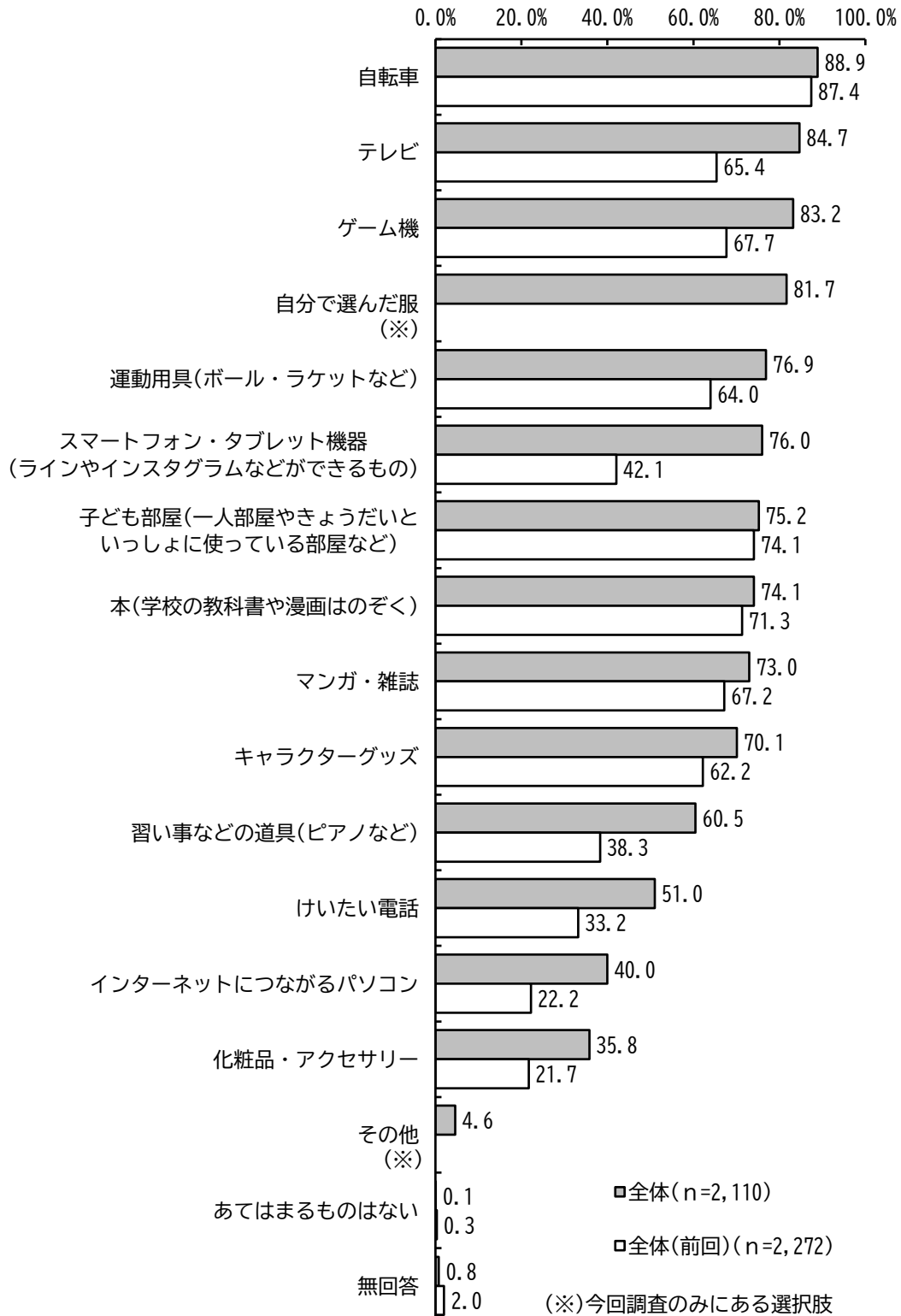
		調査数	あいさつをする	近所の人がよく家に遊びにくる	近所の人の家へ遊びに行く	近所の人と一緒に遊びに行く	近所の人と付き合いがない	無回答
全 体		2,110	79.8	8.4	12.6	13.6	13.1	3.5
学 年	小学5年生	1,088	81.0	11.6	18.4	18.5	10.8	3.0
	中学2年生	995	78.8	5.0	5.9	8.2	15.7	3.7
	無回答	27	66.7	7.4	22.2	18.5	7.4	11.1
困 難 度	一般層	1,669	80.5	8.9	13.2	14.0	12.3	3.4
	周辺層	271	75.3	4.4	9.2	11.8	16.6	4.4
	困窮層	129	79.1	11.6	14.0	14.0	17.1	1.6
	無回答	41	82.9	4.9	4.9	12.2	9.8	7.3

2.2. 所持品、使うことができるもの

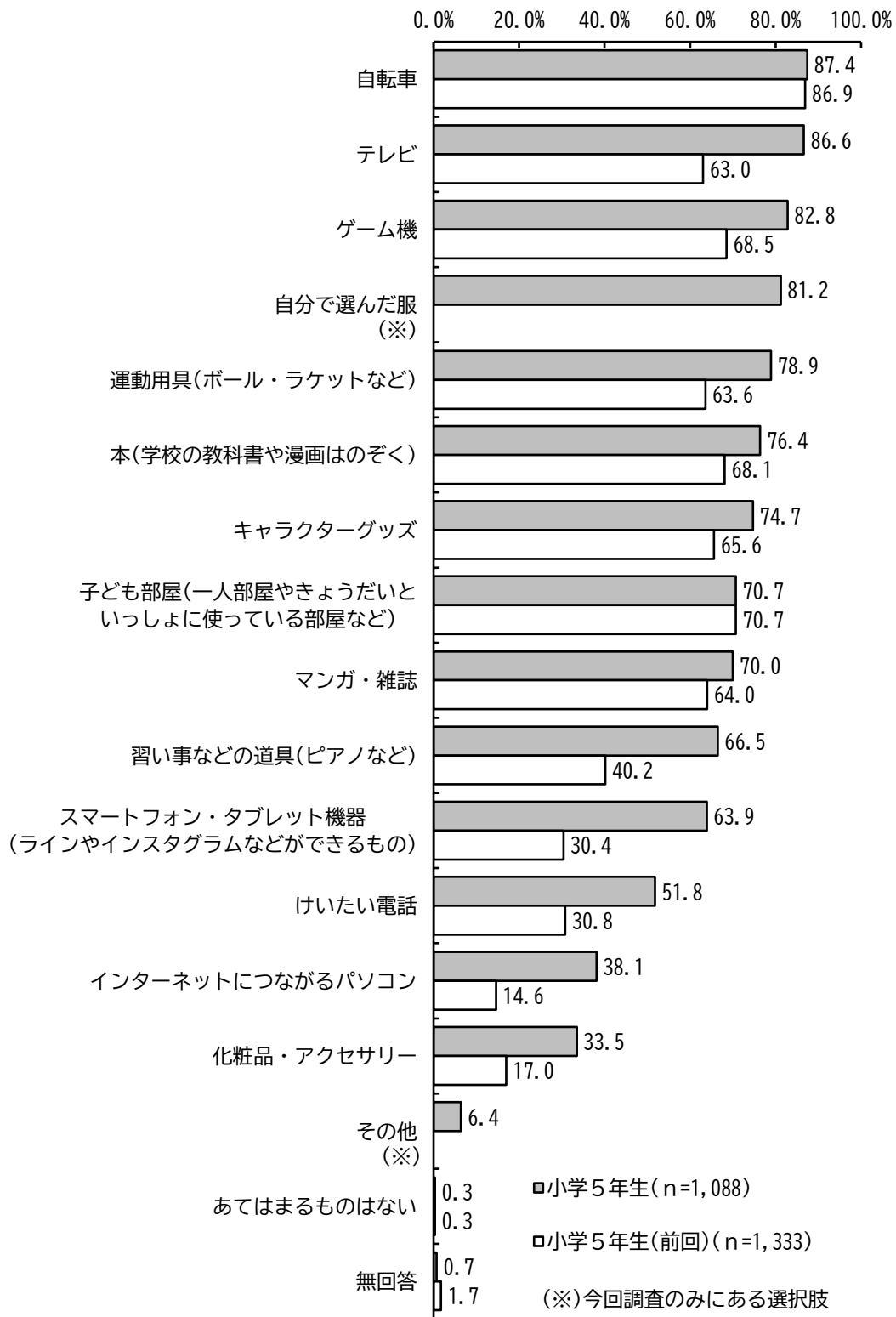
問23 あなたが持っているものや、あなたが使うことができるものを選んでください。

所持品、使うことができるものについて聞いたところ、「自転車」（88.9％）の割合が最も高く、次いで「テレビ」（84.7％）、「ゲーム機」（83.2％）となっている。

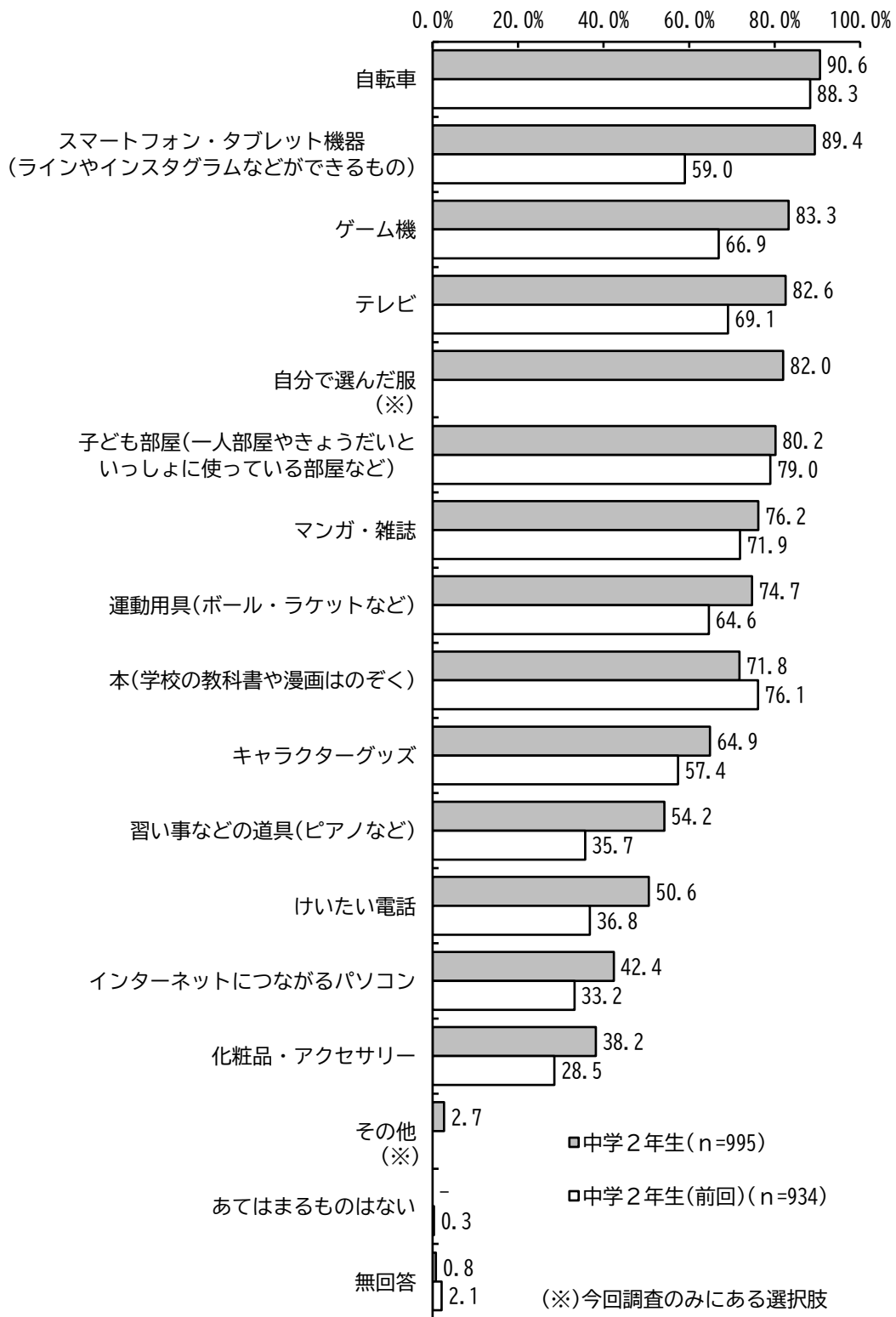
図表一72 所持品、使うことができるもの（全体）



図表ー73 所持品、使うことができるもの（小学5年生）



図表ー74 所持品、使うことができるもの（中学2年生）



第3章 調査結果（小中学生）

学年別にみると、小学5年生の方が「習い事などの道具（ピアノなど）」（66.5%）、「キャラクターグッズ」（74.7%）の割合が高くなっている。また、中学2年生の方が「子ども部屋（一人部屋やきょうだいといっしょに使っている部屋など）」（80.2%）、「スマートフォン・タブレット機器（ラインやインスタグラムなどができるもの）」（89.4%）の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、全体的に一般層より生活困難層の方が、割合が低い傾向にある。特に「習い事などの道具（ピアノなど）」の割合には大きな差がみられる。

図表一75 学年、生活困難度別 所持品、使うことができるもの

単位：％

		調査数	の本（学校の教科書や漫画はのぞく）	マンガ・雑誌	子ども部屋（一人部屋やきょうだいといっしょに使っている部屋）	インターネットにつながるパソコン	運動用具（ボール・ラケットなど）	ゲーム機	自転車	テレビ	けいたい電話
全 体		2,110	74.1	73.0	75.2	40.0	76.9	83.2	88.9	84.7	51.0
学 年	小学5年生	1,088	76.4	70.0	70.7	38.1	78.9	82.8	87.4	86.6	51.8
	中学2年生	995	71.8	76.2	80.2	42.4	74.7	83.3	90.6	82.6	50.6
	無回答	27	66.7	74.1	70.4	25.9	81.5	96.3	88.9	85.2	33.3
困 難 度 生 活	一般層	1,669	75.5	74.7	77.2	41.2	78.8	84.8	90.1	85.9	50.3
	周辺層	271	67.9	67.9	68.3	34.3	67.9	77.5	86.0	80.1	55.4
	困窮層	129	68.2	62.0	62.0	32.6	71.3	80.6	81.4	79.8	51.9
	無回答	41	75.6	73.2	78.0	51.2	78.0	65.9	85.4	80.5	46.3

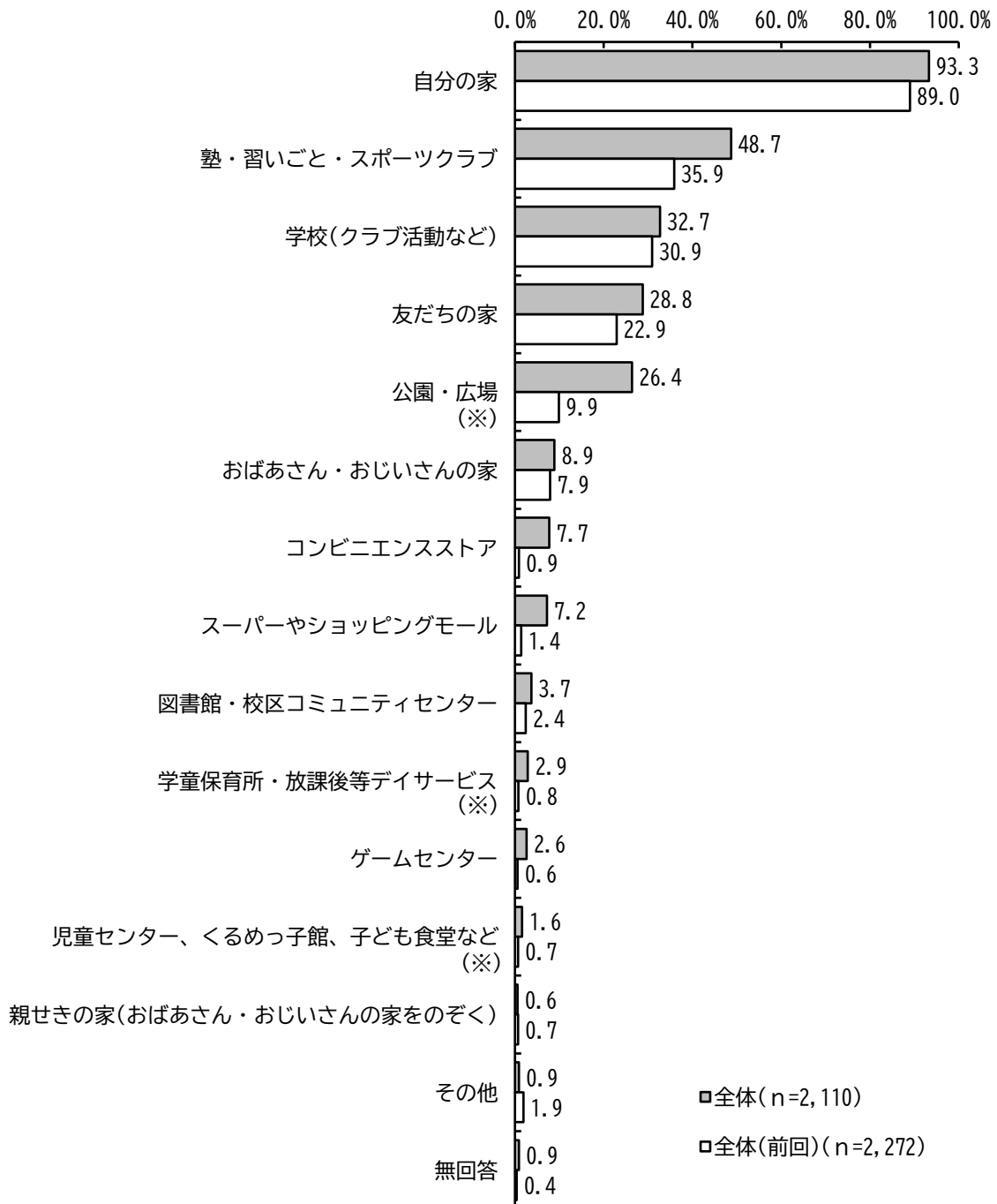
		調査数	スマートフォン・タブレットなどが使えるもの	化粧品・アクセサリ	習い事などの道具（ピアノなど）	自分で選んだ服	キャラクターグッズ	その他	あてはまるものはない	無回答
全 体		2,110	76.0	35.8	60.5	81.7	70.1	4.6	0.1	0.8
学 年	小学5年生	1,088	63.9	33.5	66.5	81.2	74.7	6.4	0.3	0.7
	中学2年生	995	89.4	38.2	54.2	82.0	64.9	2.7	-	0.8
	無回答	27	70.4	37.0	55.6	88.9	74.1	-	-	-
困 難 度 生 活	一般層	1,669	76.1	35.1	64.6	82.5	70.4	4.7	0.1	0.7
	周辺層	271	76.0	39.9	46.5	76.4	68.6	3.3	0.7	0.7
	困窮層	129	82.9	36.4	35.7	81.4	73.6	6.2	-	-
	無回答	41	51.2	34.1	63.4	82.9	56.1	4.9	-	4.9

23. 放課後を過ごす場所

問24 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)の放課後、どこで過ごしますか。

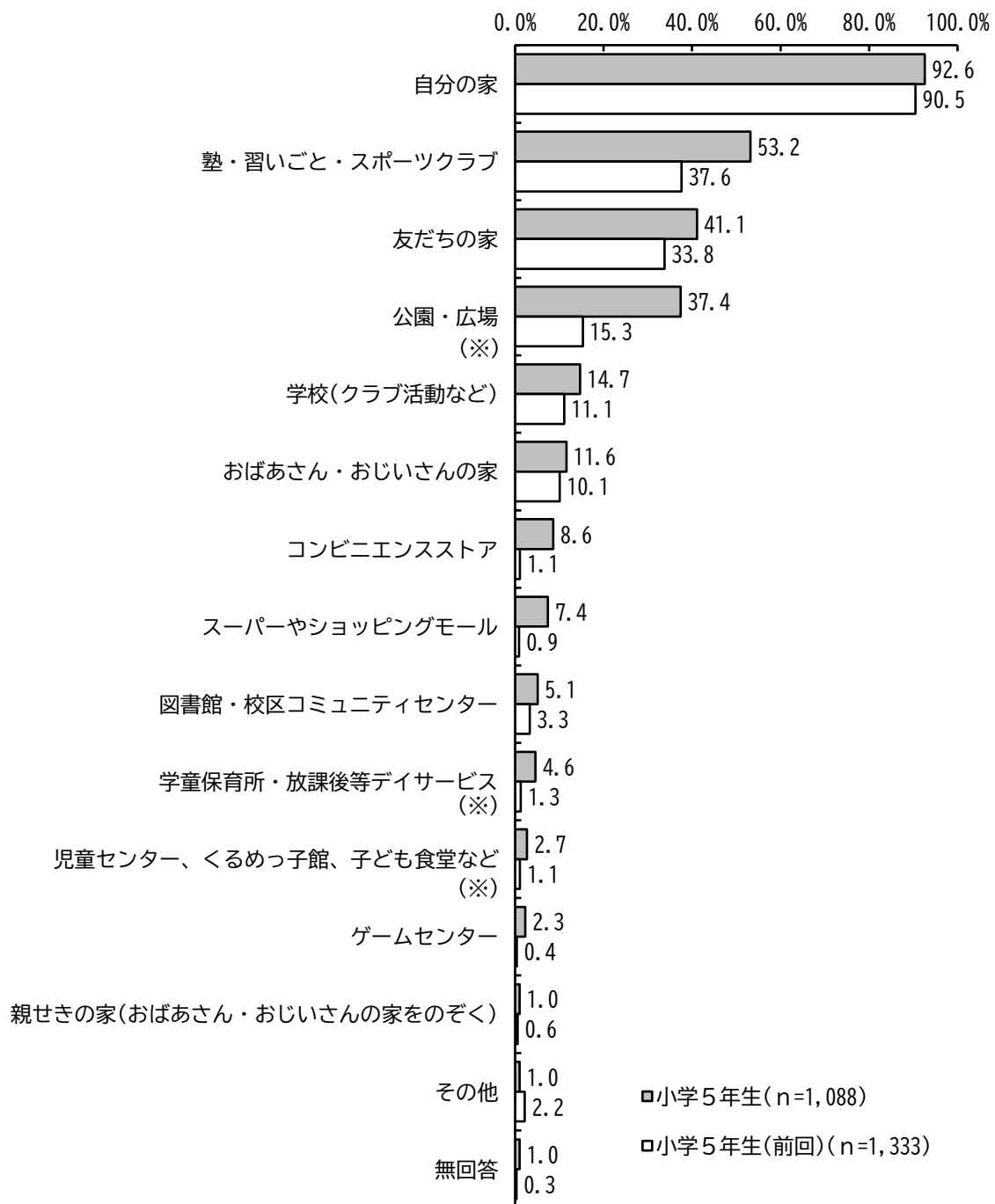
放課後を過ごす場所について聞いたところ、「自分の家」(93.3%)の割合が最も高く、次いで「塾・習いごと・スポーツクラブ」(48.7%)、「学校(クラブ活動など)」(32.7%)となっている。

図表一76 放課後を過ごす場所（全体）



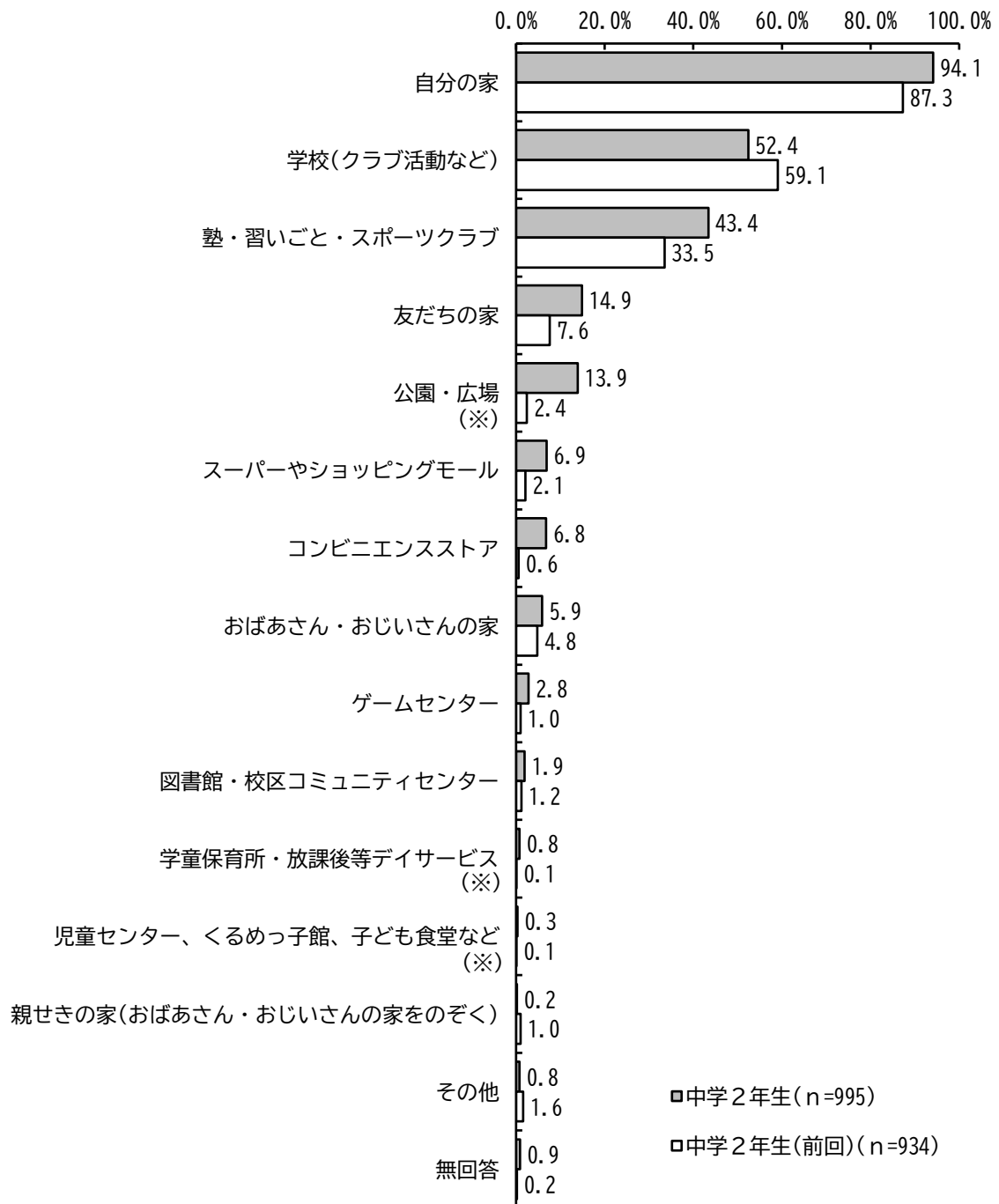
(※) 広場・放課後等デイサービス・子ども食堂は今回調査の選択肢のみに記載

図表ー77 放課後を過ごす場所（小学5年生）



(※)広場・放課後等デイサービス・子ども食堂は今回調査の選択肢のみに記載

図表ー78 放課後を過ごす場所（中学2年生）



(※)広場・放課後等デイサービス・子ども食堂は今回調査の選択肢のみに記載

第3章 調査結果（小中学生）

学年別にみると、小学5年生の方が「友だちの家」（41.1%）、「塾・習いごと・スポーツクラブ」（53.2%）、「公園・広場」（37.4%）の割合が高くなっている。また、中学2年生の方が「学校（クラブ活動など）」（52.4%）の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、生活困難度が上がるにつれて「塾・習いごと・スポーツクラブ」の割合が低くなっている。

図表－79 学年、生活困難度別 放課後を過ごす場所

単位：％

		調査数	自分の家	おばあさん・おじいさんの家	おせきさんの家（おばあさん・おじいさんの家をのぞく）	友だちの家	塾・習いごと・スポーツクラブ	学校（クラブ活動など）	児童保育所・放課後等デイサービス	公園・広場
全 体		2,110	93.3	8.9	0.6	28.8	48.7	32.7	2.9	26.4
学 年	小学5年生	1,088	92.6	11.6	1.0	41.1	53.2	14.7	4.6	37.4
	中学2年生	995	94.1	5.9	0.2	14.9	43.4	52.4	0.8	13.9
	無回答	27	88.9	7.4	-	44.4	63.0	29.6	14.8	44.4
困 難 度 生活	一般層	1,669	93.9	9.1	0.6	28.9	52.2	32.5	2.7	25.2
	周辺層	271	91.9	6.6	0.7	31.7	36.9	31.4	4.1	34.3
	困窮層	129	89.1	10.1	-	23.3	31.0	39.5	3.1	27.9
	無回答	41	90.2	9.8	2.4	22.0	41.5	26.8	4.9	19.5

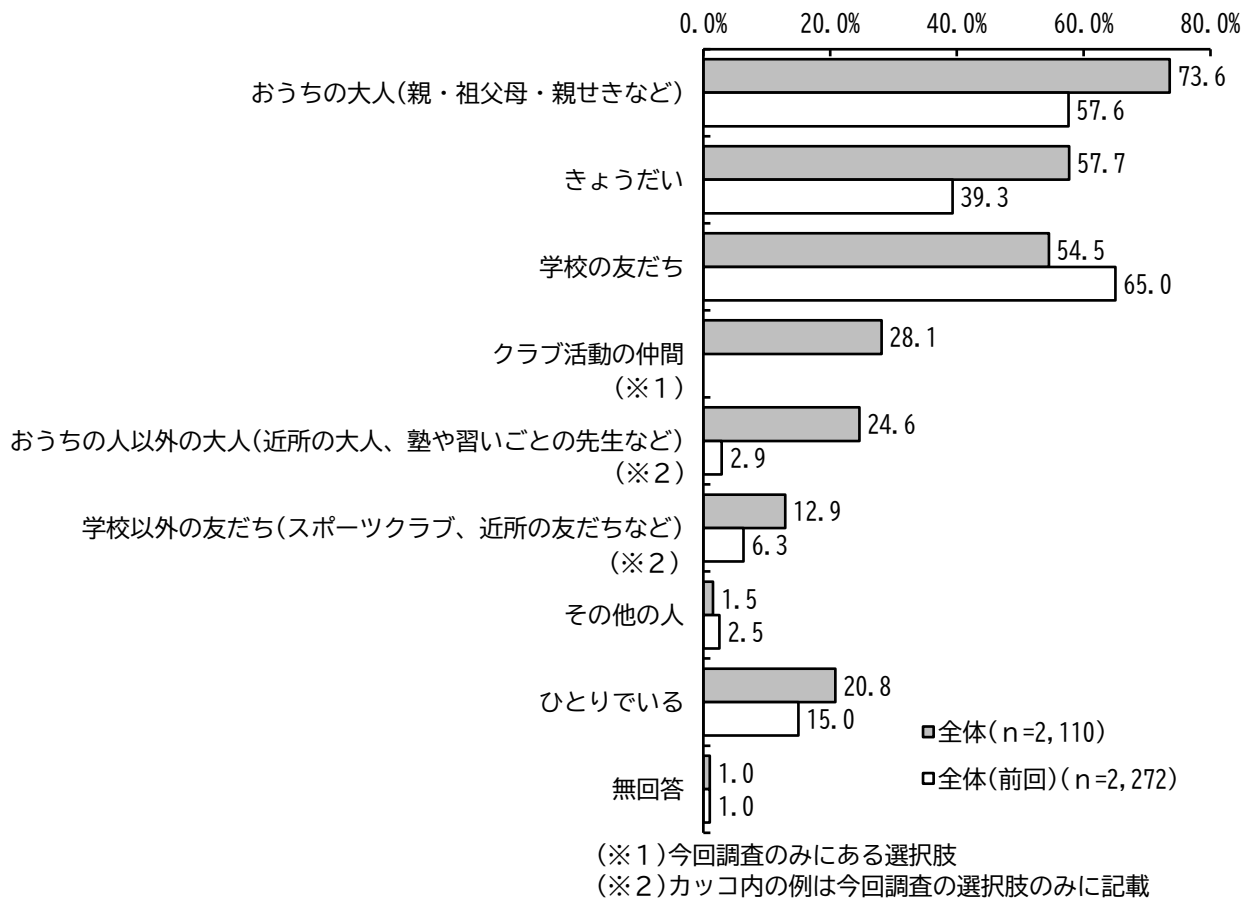
		調査数	スーパーやショッピング	コンビニエンスストア	ゲームセンター	図書館・校区コミュニティセンター	児童センター、子ども食堂など	その他	無回答
全 体		2,110	7.2	7.7	2.6	3.7	1.6	0.9	0.9
学 年	小学5年生	1,088	7.4	8.6	2.3	5.1	2.7	1.0	1.0
	中学2年生	995	6.9	6.8	2.8	1.9	0.3	0.8	0.9
	無回答	27	7.4	3.7	3.7	14.8	3.7	-	-
困 難 度 生活	一般層	1,669	6.7	7.3	2.5	3.9	1.4	0.8	0.9
	周辺層	271	10.3	8.9	2.6	2.6	1.8	1.5	0.7
	困窮層	129	7.8	10.1	2.3	3.1	3.1	0.8	0.8
	無回答	41	7.3	9.8	4.9	4.9	-	2.4	4.9

24. 放課後を一緒に過ごす人

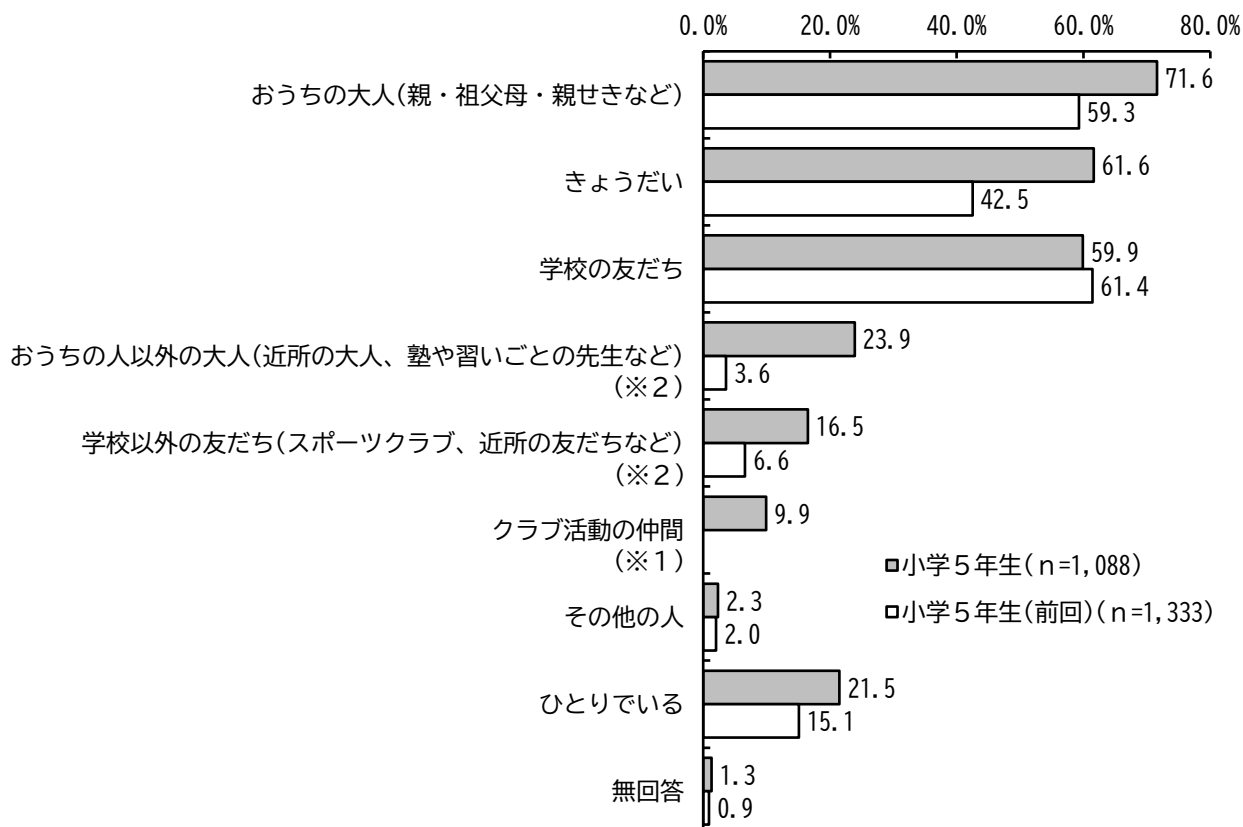
問25 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)の放課後、だれと過ごしますか。

放課後を一緒に過ごす人について聞いたところ、「おうちの大人（親・祖父母・親せきなど）」（73.6％）の割合が最も高く、次いで「きょうだい」（57.7％）、「学校の友だち」（54.5％）となっている。

図表－80 放課後を一緒に過ごす人（全体）



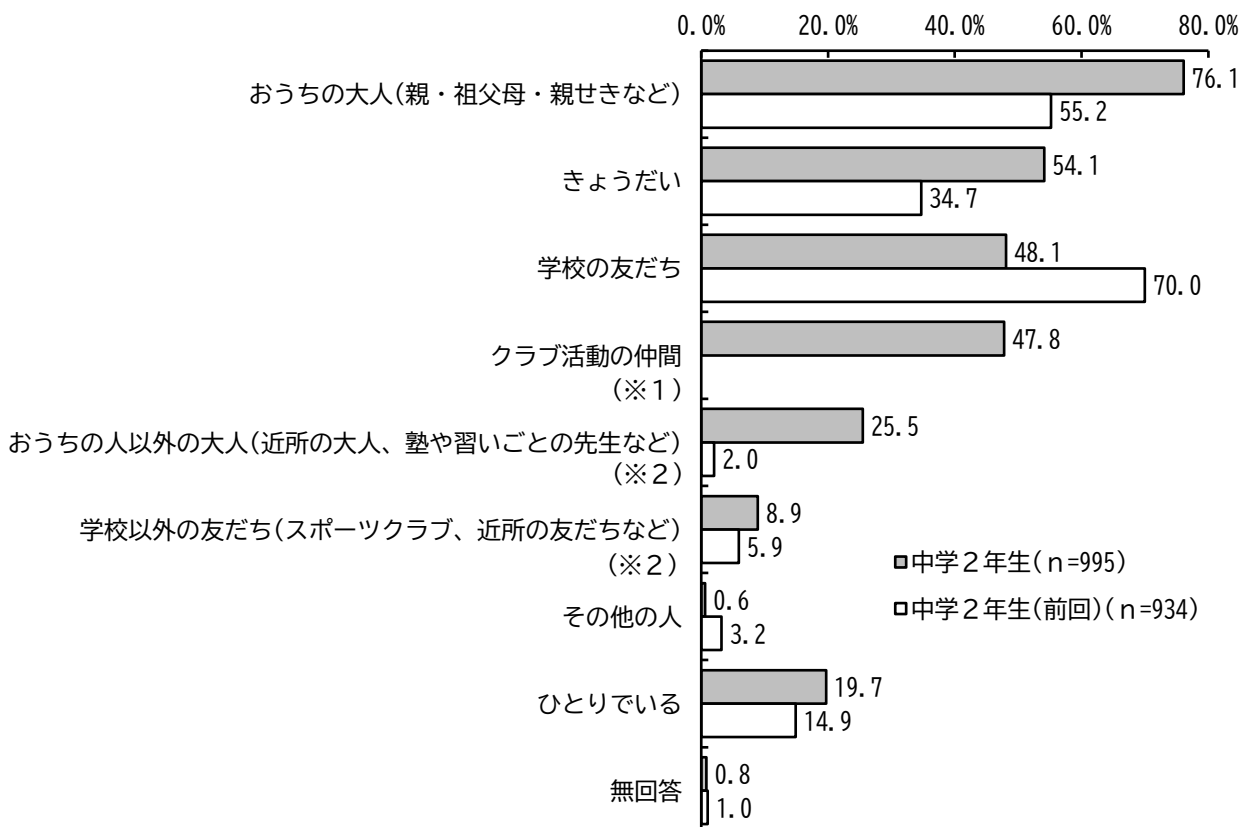
図表－8 1 放課後を一緒に過ごす人（小学5年生）



(※1) 今回調査のみにある選択肢

(※2) カッコ内の例は今回調査の選択肢のみに記載

図表－8 2 放課後を一緒に過ごす人（中学2年生）



(※1) 今回調査のみにある選択肢

(※2) カッコ内の例は今回調査の選択肢のみに記載

学年別にみると、小学5年生の方が「学校の友だち」（59.9％）の割合が高くなっている。また、中学2年生の方が「クラブ活動の仲間」（47.8％）の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、生活困難層より一般層の方が「おうちの大人（親・祖父母・親せきなど）」（75.2％）、「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」（26.4％）の割合が高くなっている。

図表－83 学年、生活困難度別 放課後を一緒に過ごす人

単位：％

		調査数	母お ・う ちの 大人 （親 ・祖 父 ・親 せき など）	き よ う だ い	先所 生の の 大 人 、 塾 や 習 い ご と の 先 生 な ど	学 校 の 友 だ ち	ク ラ ブ 活 動 の 仲 間	ど ツ ッ 学 校 以 外 の 友 だ ち （ 近 所 の 友 だ ち な ど）	そ の 他 の 人	ひ と り で い る	無 回 答
全 体		2,110	73.6	57.7	24.6	54.5	28.1	12.9	1.5	20.8	1.0
学 年	小学5年生	1,088	71.6	61.6	23.9	59.9	9.9	16.5	2.3	21.5	1.3
	中学2年生	995	76.1	54.1	25.5	48.1	47.8	8.9	0.6	19.7	0.8
	無回答	27	66.7	33.3	18.5	66.7	33.3	14.8	－	29.6	－
困 難 度 生 活	一般層	1,669	75.2	58.2	26.4	54.3	28.1	14.0	1.4	20.4	1.0
	周辺層	271	66.8	55.4	19.9	59.8	24.0	10.3	1.5	26.2	0.7
	困窮層	129	67.4	58.9	14.0	47.3	34.1	5.4	0.8	15.5	0.8
	無回答	41	75.6	48.8	17.1	46.3	36.6	9.8	7.3	17.1	4.9

25. 自由意見

毎日の生活で、ご意見（言いたいこと）があれば、自由に書いてください。

毎日の生活についての意見（言いたいこと）についての自由記述は以下のとおり。

図表－84 自由意見件数

分類	件数
家庭、家族について	26
学校、友だちについて	64
部活動、習い事について	16
勉強について	10
居場所、相談場所について	16
経済的支援について	6
住環境について	9
防犯、交通安全について	5
今の心身の状態について	71
欲しいもの、して欲しいことについて	77
アンケートについて	4
その他	19

図表－85 自由意見（1／2）

※全回答ではなく、一部回答を抜粋して掲載
 ※原文掲載を基本としつつ、一部編集の上掲載

家庭、家族について	学年	性別	生活困難度
やっぱり自分でも親に迷惑をかけて、自分のせいでお金がなくなっていると自分を責めてしまうし、本当はそうなのかと怖くなる。	小学5年生	女	一般層
毎日楽しいです。こんなお母さんで良かったと思っています。お母さんはとってもおもしろいです。	小学5年生	女	一般層
家族が多いから生活するのが大変そうで、お父さんやお母さんに欲しい物を買ってほしいと言えなくなった。それで、家族との時間が減ったから嫌だなと思う。	小学5年生	女	周辺層
家族と一緒にいられて幸せです！！	中学2年生	女	一般層
家出したい。楽しくない。家族といても「テストで点を取れ」という話しかない。正直ウザいし、うるさい。	中学2年生	女	一般層
学校、友だちについて	学年	性別	生活困難度
学校で過ごしていると落ち込むことがある。	小学5年生	女	一般層
学校が楽しい。	小学5年生	男	一般層
休日がもっとほしい。学校に行きたくない！	小学5年生	女	周辺層
学校にあまり行けていない。学校で1人であるのが不安。	小学5年生	女	一般層
友達と遊ぶ時、1人になってしまったり、話の輪に入れなくなってしまう。	小学5年生	女	一般層
私が通っている学校の先生方はよく私達に「人権を守れ」と言いますが、私達の人権は守ってくれません。人権とは何なのか、理解していないようです。中体連の大会などを平日ではなく、土日などの学校が休みの日に行ってください。平日だと授業が受けられなくなって困ります。これは人権侵害ではないですか？	中学2年生	女	一般層
学校でいじめなどの対応が遅く、クラスが一丸となっている時に対応し始めるので、少し気になります。	中学2年生	女	困窮層
中学校の校則をゆるくしてほしい	中学2年生	女	一般層
今は学校に行くのがとても楽しいです。部活動の後輩と話していると、とても楽しいです。	中学2年生	男	周辺層
学校の先生が忙しそうで、勉強のことや部活のことなどを相談しにくい。	中学2年生	男	周辺層
学校の授業が簡単すぎておもしろくないです。	中学2年生	-	困窮層
部活動、習い事について	学年	性別	生活困難度
学校や習い事の友達などと会えて、一緒に活動できるのが嬉しいです。	小学5年生	女	無回答
部活動の後輩と話していると、とても楽しいです。	中学2年生	男	周辺層
勉強について	学年	性別	生活困難度
勉学に対する集中力がないのでうながしていきたい。	小学5年生	男	周辺層
運動と勉強を両立させたい。	中学2年生	女	一般層
勉強をしたくても、部活で疲れてしまってすぐに寝てしまう。	中学2年生	女	一般層
居場所、相談場所について	学年	性別	生活困難度
公園に遊具がたくさんできたり、子ども食堂ができてほしいです。	小学5年生	女	一般層
遊べる場所を増やしてほしい。	小学5年生	女	一般層
家族とケンカしたりギスギスしている時に、親も安心できる子どもの逃げ場所がほしい。	中学2年生	女	一般層
私達中学生がいろんなことを大人に話したり、中学生同士で話すことのできる場所がほしいです。	中学2年生	女	一般層
家で1人の時がまあまああるから、話せる友達がいてほしい。	中学2年生	男	周辺層
何かあった時に心から相談できる人が少ない。	中学2年生	男	一般層
休みの日に中学生が過ごせる（集まれる）場所が少ないと思います。	中学2年生	-	困窮層

第3章 調査結果（小中学生）

図表－86 自由意見（2／2）

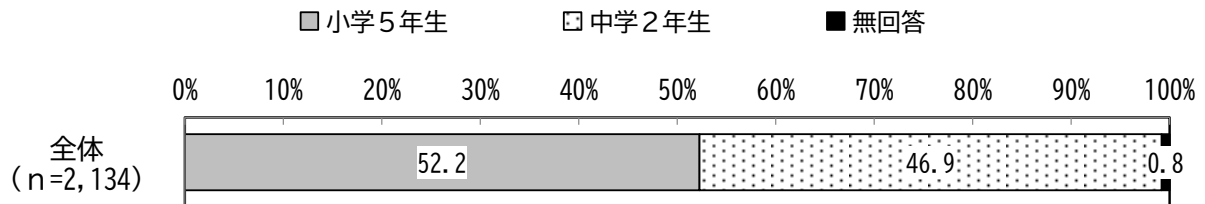
経済的支援について	学年	性別	生活困難度
解決はできないけど、消費税を減らしてほしい。	小学5年生	女	困窮層
制服が高くて親が困っていました。	中学2年生	男	周辺層
住環境について	学年	性別	生活困難度
町を明るくしてほしい。公園のトイレをきれいにしてほしい。	小学5年生	男	一般層
西鉄のタバコを捨てる所あたりできつい臭いがする。	小学5年生	女	一般層
屏水校区が田舎すぎてつまらない。天神みたいに都会になったら楽しいし、人口も増えるだろうから市も自分もハッピーになると思う。久留米が天神みたいにならなかったら、将来は久留米を出て天神に住もうと思っている。	中学2年生	男	一般層
防犯、交通安全について	学年	性別	生活困難度
久留米市の問題は特にありません。ですが、夜、母と散歩中に軽自動車から引かれそうになった時、文句を言ってきたため飲酒運転だと思いました。なので、飲酒運転をやめる取り組みを行って頂きたいです。	小学5年生	女	一般層
車の運転が荒い人が多く、事故に遭わないか心配です。	中学2年生	男	一般層
今の心身の状態について	学年	性別	生活困難度
きつい。生きにくい。	小学5年生	男	周辺層
つらいけど頑張りたいです。	小学5年生	女	周辺層
家に1人である時、悪い人とかが入ってこないか心配になる。	小学5年生	女	一般層
いつも朝ご飯、昼ご飯、夜ご飯を腹いっぱい毎日食べられているので、毎日十分満足しています。	小学5年生	女	無回答
毎日が楽しい！	小学5年生	女	困窮層
悩み事はいろいろあるけど、毎日しっかり生きてます！！	中学2年生	女	一般層
今は楽しいです。前は死にたいほど嫌だったけど、今は幸せです。	中学2年生	女	一般層
毎日楽しい。	中学2年生	女	周辺層
欲しいもの、して欲しいことについて	学年	性別	生活困難度
もっと最後まで自分の話を聞いてほしい。	小学5年生	女	一般層
もっと自由な時間がほしい。学校での自由が少なすぎる。	中学2年生	女	周辺層
アンケートについて	学年	性別	生活困難度
これ何に使うんですか？	小学5年生	女	一般層
このアンケートにどんな目的があるのかを知りたい。	中学2年生	男	一般層
その他	学年	性別	生活困難度
久留米市さんへ。いつもありがとうございます！	小学5年生	女	周辺層
自分がバカにされたらどうすればいいか。パパが怒ったらどうすればいいか。	小学5年生	男	一般層
笑って生きていけばなんとかなる！	中学2年生	男	一般層

第4章 調査結果（保護者）

1. 回答者の属性

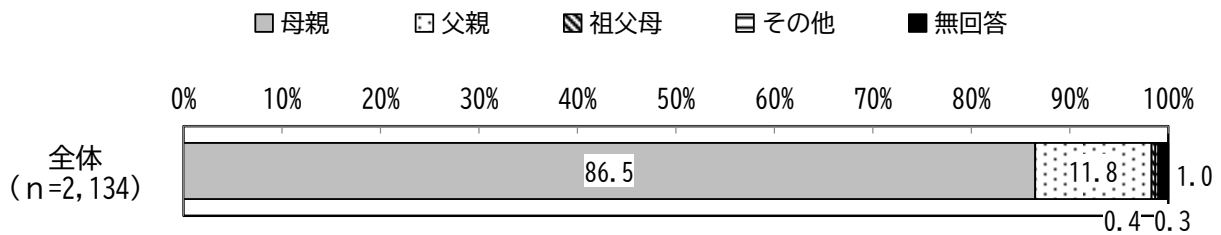
（1）子どもの学年

図表－87 子どもの学年



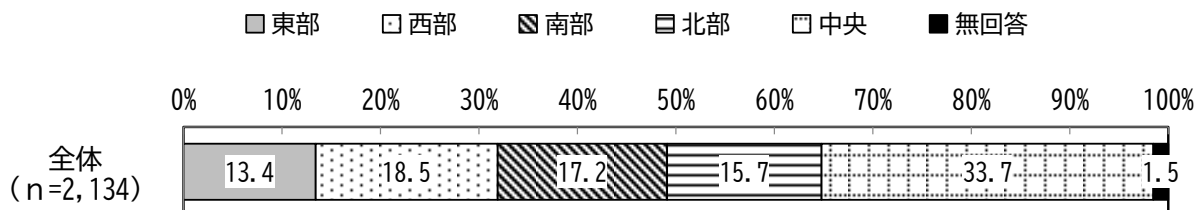
（2）子どもとの関係

図表－88 子どもとの関係



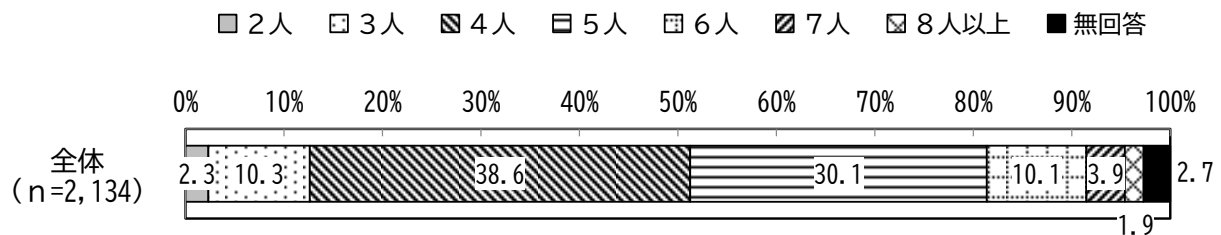
（3）居住エリア

図表－89 居住エリア



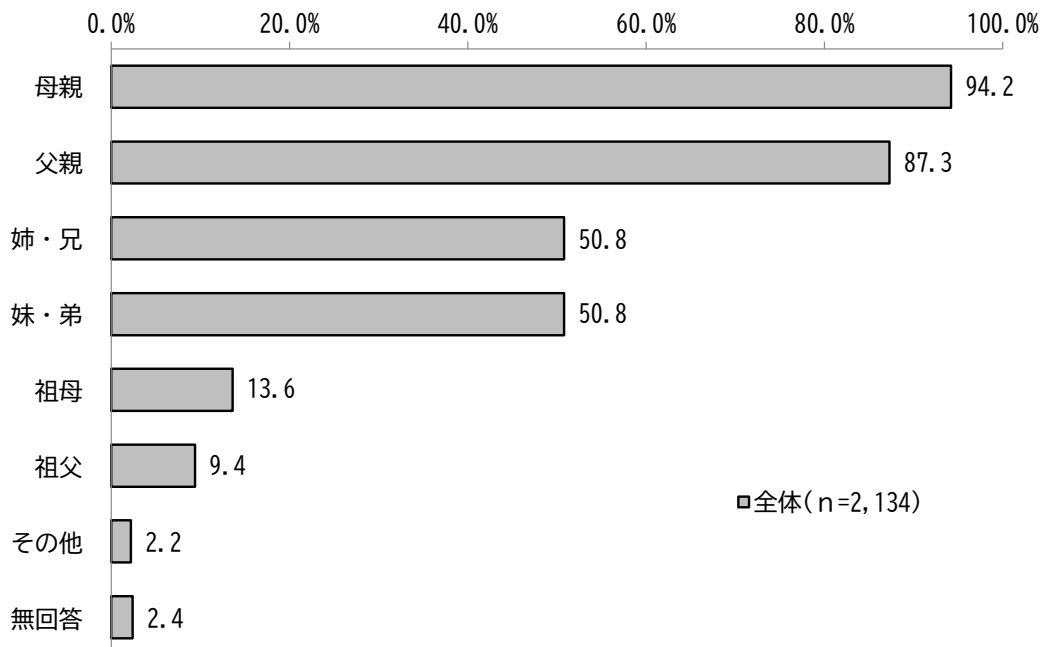
（４）同居家族の人数

図表－９０ 同居家族の人数



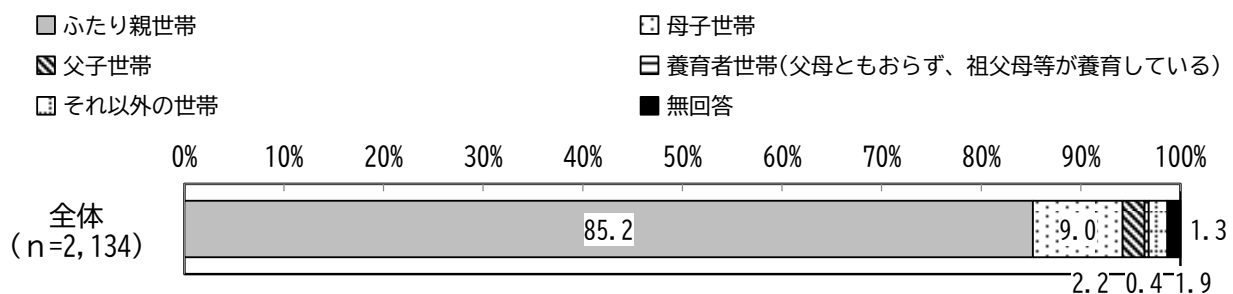
（５）同居家族に含まれる方

図表－９１ 同居家族に含まれる方



（６）世帯類型

図表－９２ 世帯類型



2. 親の現在の年齢

問5 お子さんの親の現在の年齢についてお答えください。

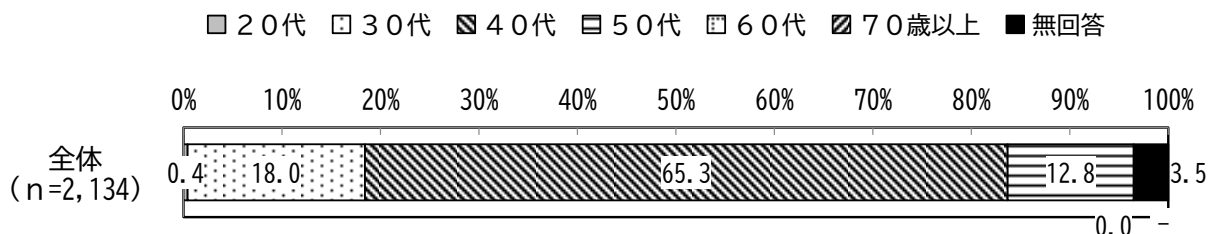
（1）母親の年齢

母親の年齢について聞いたところ、「40代」（65.3％）の割合が最も高く、次いで「30代」（18.0％）、「50代」（12.8％）となっている。

学年別にみると、小学5年生の方が「30代」（23.8％）の割合が高く、中学2年生の方が「50代」（18.0％）の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、「30代」では生活困難層で割合が高く、また困難度が上がるにつれて「40代」の割合が低くなっている。

図表－93 親の現在の年齢（母親）



図表－94 学年、生活困難度別 親の現在の年齢（母親）

単位：％

		調査数	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
全 体		2,134	0.4	18.0	65.3	12.8	0.0	－	3.5
学 年	小学5年生	1,115	0.7	23.8	64.0	8.0	－	－	3.5
	中学2年生	1,001	0.1	11.7	66.7	18.0	0.1	－	3.4
	無回答	18	－	11.1	61.1	22.2	－	－	5.6
困 難 度 生 活	一般層	1,701	0.3	16.7	67.1	12.9	－	－	3.1
	周辺層	276	0.7	23.9	60.1	12.0	0.4	－	2.9
	困窮層	133	0.8	21.8	57.9	12.8	－	－	6.8
	無回答	24	4.2	20.8	37.5	16.7	－	－	20.8

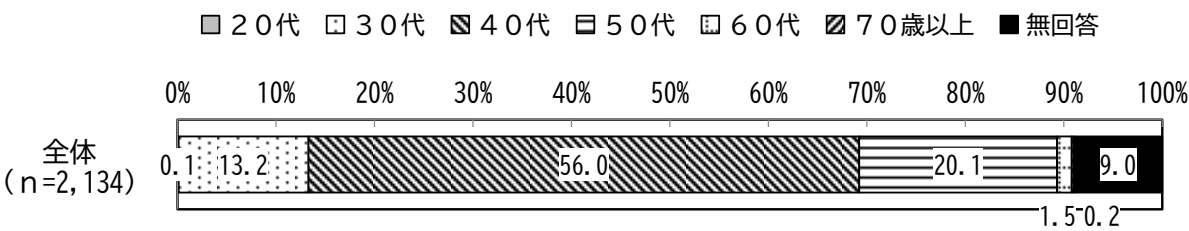
(2) 父親の年齢

父親の年齢について聞いたところ、「40代」(56.0%)の割合が最も高く、次いで「50代」(20.1%)、「30代」(13.2%)となっている。

学年別にみると、小学5年生の方が「30代」(18.2%)の割合が高く、中学2年生の方が「50代」(24.9%)の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「40代」の割合が低くなっている。

図表－95 親の現在の年齢（父親）



図表－96 学年、生活困難度別 親の現在の年齢（父親）

単位：％

		調査数	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
全 体		2,134	0.1	13.2	56.0	20.1	1.5	0.2	9.0
学 年	小学5年生	1,115	0.2	18.2	56.5	15.5	0.8	0.1	8.7
	中学2年生	1,001	－	7.7	55.6	24.9	2.2	0.3	9.3
	無回答	18	－	5.6	38.9	38.9	－	5.6	11.1
困 難 度	一般層	1,701	0.1	12.9	59.3	20.8	1.6	0.1	5.2
	周辺層	276	－	14.5	47.5	16.3	1.4	1.1	19.2
	困窮層	133	0.8	13.5	35.3	18.8	－	－	31.6
	無回答	24	－	12.5	29.2	25.0	－	－	33.3

3. 単身赴任中の家族

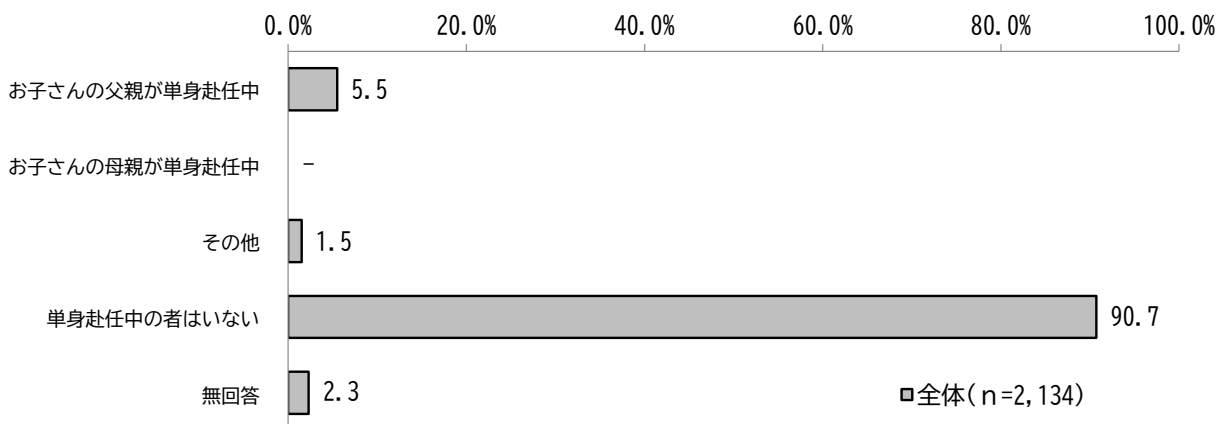
問6 お子さんのご家族のうち、現在単身赴任中の方はいらっしゃいますか。

単身赴任中の家族について聞いたところ、「単身赴任中の者はいない」（90.7％）の割合が最も高くなっている。「単身赴任中の者はいない」を除くと、「お子さんの父親が単身赴任中」（5.5％）の割合が最も高く、次いで「その他」（1.5％）となっている。

学年別にみると、小学5年生の方が「単身赴任中の者はいない」（92.6％）の割合がやや高くなっている。

生活困難度別にみると、一般層で「お子さんの父親が単身赴任中」（6.2％）の割合が他の層に比べてやや高くなっている。

図表－97 単身赴任中の家族



図表－98 学年、生活困難度別 単身赴任中の家族

単位：％

		調査数	中 お 子 さ ん の 母 親 が 単 身 赴 任	中 お 子 さ ん の 父 親 が 単 身 赴 任	そ の 他	単 身 赴 任 中 の 者 は い な い	無 回 答
全 体		2,134	-	5.5	1.5	90.7	2.3
学 年	小学5年生	1,115	-	4.2	1.2	92.6	2.0
	中学2年生	1,001	-	7.0	1.8	88.7	2.5
	無回答	18	-	5.6	-	77.8	16.7
困 難 度 生 活	一般層	1,701	-	6.2	1.4	90.5	1.9
	周辺層	276	-	3.3	1.1	92.8	2.9
	困窮層	133	-	3.0	3.0	92.5	1.5
	無回答	24	-	-	4.2	66.7	29.2

4. 子どもと同居の親の婚姻状況

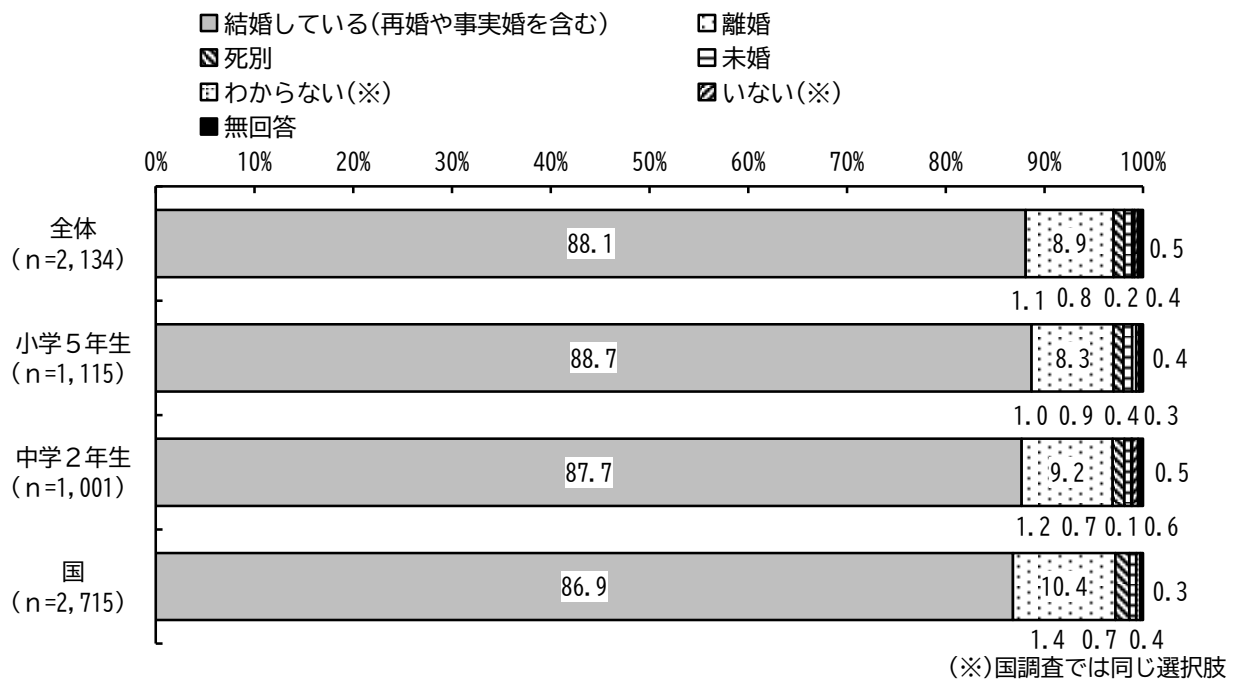
問7 お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。

子どもと同居の親の婚姻状況について聞いたところ、「結婚している（再婚や事実婚を含む）」（88.1％）の割合が最も高く、次いで「離婚」（8.9％）、「死別」（1.1％）となっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「結婚している（再婚や事実婚を含む）」の割合は低くなり、「離婚」の割合は高くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－９９ 子どもと同居の親の婚姻状況



図表－１００ 学年、生活困難度別 子どもと同居の親の婚姻状況

単位：％

	調査数	結婚している (再婚や事実婚を含む。)	離婚	死別	未婚	わからない	いない	無回答
全 体	2,134	88.1	8.9	1.1	0.8	0.2	0.4	0.5
学 年								
小学5年生	1,115	88.7	8.3	1.0	0.9	0.4	0.3	0.4
中学2年生	1,001	87.7	9.2	1.2	0.7	0.1	0.6	0.5
無回答	18	72.2	22.2	－	－	－	－	5.6
困 難 度								
一般層	1,701	93.3	4.9	0.9	0.2	0.1	0.4	0.2
周辺層	276	73.6	20.3	2.2	2.2	0.7	0.4	0.7
困窮層	133	55.6	34.6	1.5	6.0	0.8	1.5	－
無回答	24	66.7	12.5	－	－	－	－	20.8

5. 養育費の取り決めの状況

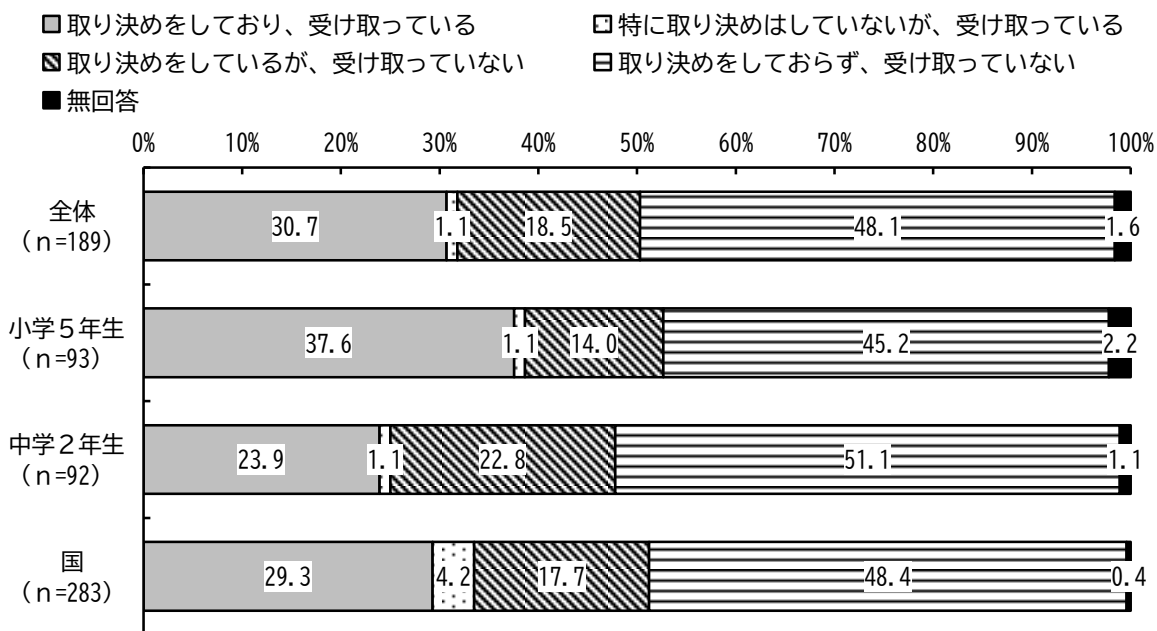
問8 前問で「2 離婚」を選んだ場合、離婚相手とお子さんの養育費の取り決めをしていますか。また養育費を現在受け取っていますか。

養育費の取り決めの状況について聞いたところ、「取り決めをしておらず、受け取っていない」（48.1％）の割合が最も高く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」（30.7％）、「取り決めをしているが、受け取っていない」（18.5％）となっている。

学年別にみると、小学5年生の方が「取り決めをしており、受け取っている」（37.6％）の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「取り決めをしており、受け取っている」の割合が低くなっている。

図表－101 養育費の取り決めの状況



図表－102 学年、生活困難度別 養育費の取り決めの状況

単位：％

		調査数	取り決めを しており、 受け	特に 受取り つめ はして いない	け取 つめ を ない が、 受	け取 つめ を ない お らず、 受	無 回 答
全 体		189	30.7	1.1	18.5	48.1	1.6
学 年	小学5年生	93	37.6	1.1	14.0	45.2	2.2
	中学2年生	92	23.9	1.1	22.8	51.1	1.1
	無回答	4	25.0	-	25.0	50.0	-
困 難 度	一般層	84	36.9	-	19.0	41.7	2.4
	周辺層	56	28.6	1.8	14.3	55.4	-
	困窮層	46	23.9	2.2	21.7	50.0	2.2
	無回答	3	-	-	33.3	66.7	-

6. 日本語以外の言語の使用

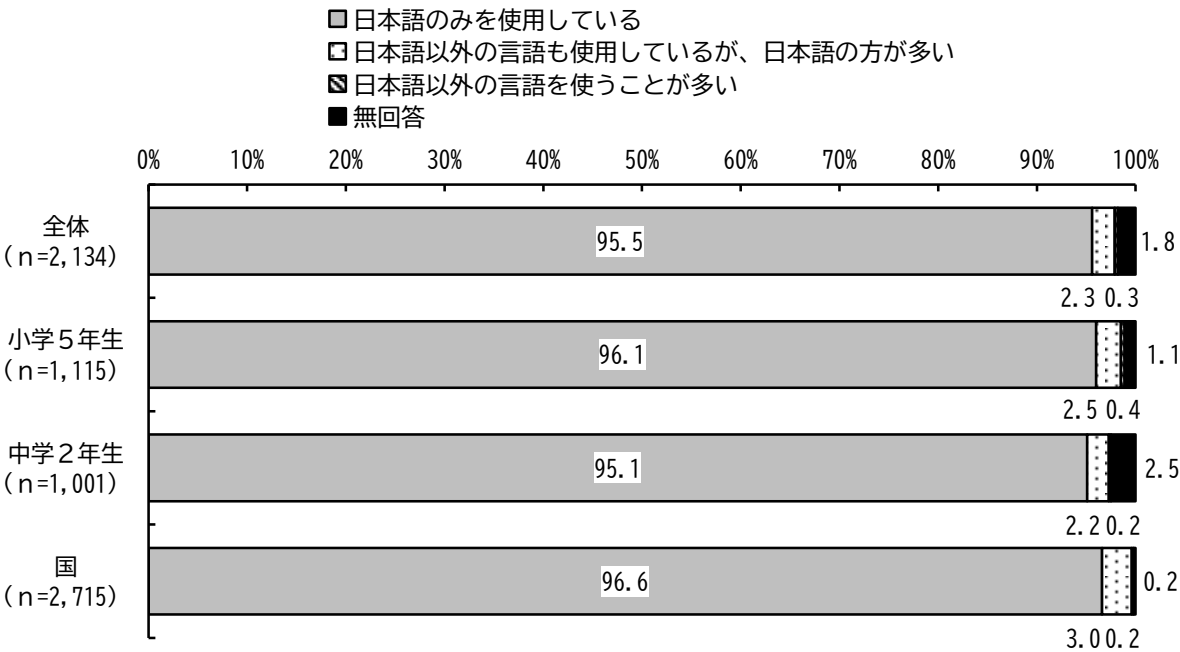
問9 ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。

日本語以外の言語の使用について聞いたところ、「日本語のみを使用している」(95.5%)の割合が最も高く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」(2.3%)、「日本語以外の言語を使うことが多い」(0.3%)となっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「日本語のみを使用している」の割合が低くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－103 日本語以外の言語の使用



図表－104 学年、生活困難度別 日本語以外の言語の使用

単位：％

		調 査 数	日 本 語 の み を 使 用 し て い る	日 本 語 以 外 の 言 語 も 使 用 し て い る が、 日 本 語 の 方 が 多 い	日 本 語 以 外 の 言 語 を 使 う こ と が 多 い	無 回 答
全 体		2,134	95.5	2.3	0.3	1.8
学 年	小学5年生	1,115	96.1	2.5	0.4	1.1
	中学2年生	1,001	95.1	2.2	0.2	2.5
	無回答	18	83.3	－	5.6	11.1
困 難 生 活 度	一般層	1,701	96.2	1.9	0.2	1.6
	周辺層	276	93.5	3.3	0.7	2.5
	困窮層	133	91.7	3.8	0.8	3.8
	無回答	24	87.5	12.5	－	－

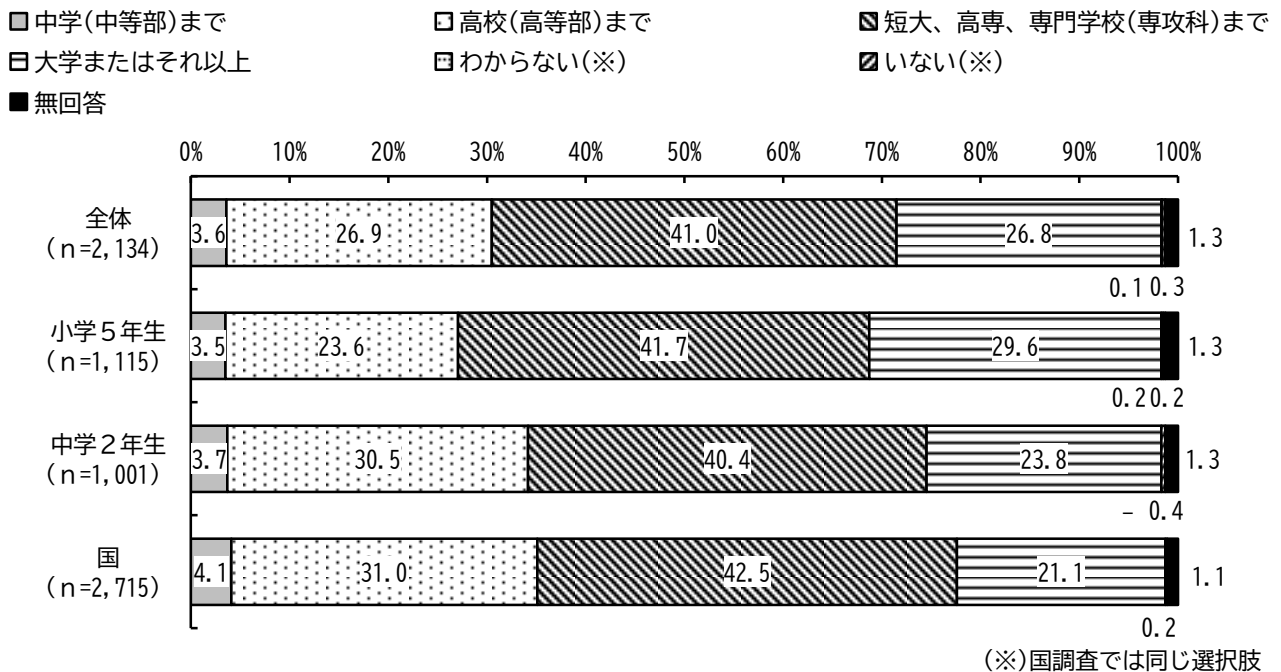
7. 親の最終学歴

問10 お子さんの親の最終学歴（卒業した学校）をお答えください。

（a）母親の最終学歴

母親の最終学歴について聞いたところ、「短大、高専、専門学校（専攻科）まで」（41.0％）の割合が最も高く、次いで「高校（高等部）まで」（26.9％）、「大学またはそれ以上」（26.8％）となっている。

図表－105 親の最終学歴（母親）



第4章 調査結果（保護者）

学年別にみると、中学2年生の方が「高校（高等部）まで」の割合が高く、小学5年生の方が「大学またはそれ以上」の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「中学（中等部まで）」と「高校（高等部）まで」の割合は高くなり、「短大、高専、専門学校（専攻科）まで」と「大学またはそれ以上」の割合は低くなっている。

図表－１０６ 学年、生活困難度別 親の最終学歴（母親）

単位：％

		調査数	中学（中等部）まで	高校（高等部）まで	短大、高専、専門学校（専攻科）まで	大学またはそれ以上	わからない	いない	無回答
全 体		2,134	3.6	26.9	41.0	26.8	0.1	0.3	1.3
学 年	小学5年生	1,115	3.5	23.6	41.7	29.6	0.2	0.2	1.3
	中学2年生	1,001	3.7	30.5	40.4	23.8	－	0.4	1.3
	無回答	18	5.6	33.3	38.9	16.7	－	－	5.6
生活困難度	一般層	1,701	2.4	23.9	42.4	30.0	0.1	0.2	0.8
	周辺層	276	8.3	37.3	37.7	14.9	－	0.4	1.4
	困窮層	133	9.8	43.6	31.6	11.3	－	0.8	3.0
	無回答	24	－	25.0	33.3	16.7	－	－	25.0

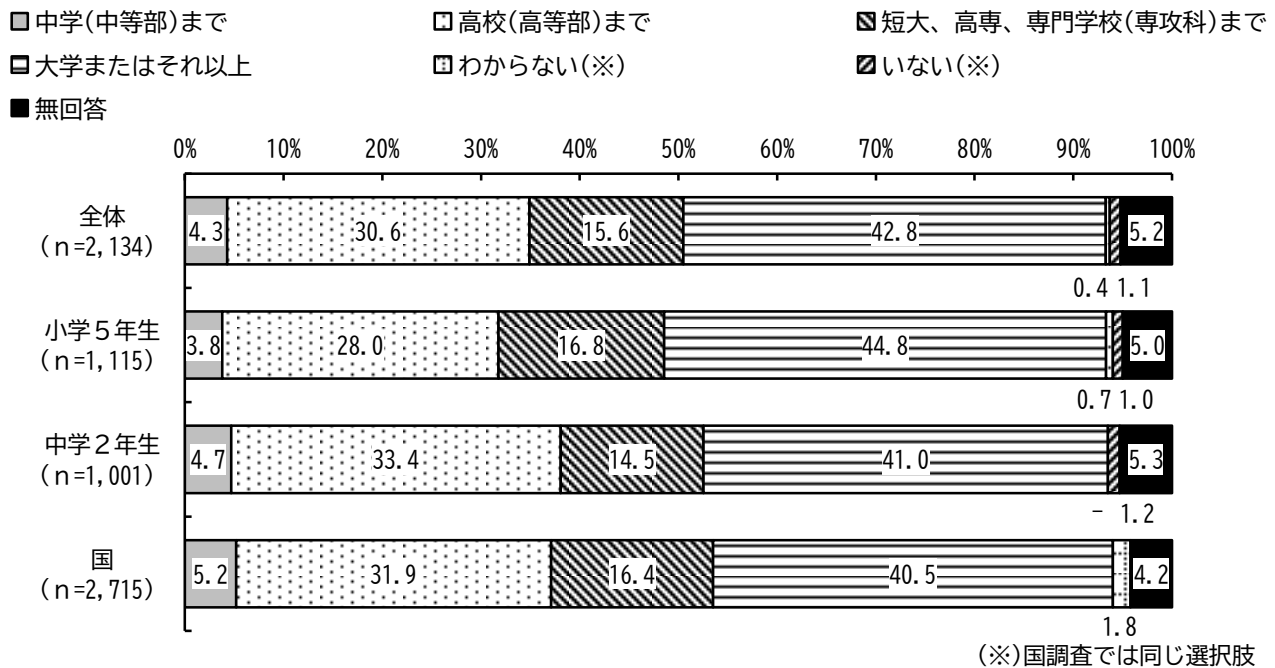
（b）父親の最終学歴

父親の最終学歴について聞いたところ、「大学またはそれ以上」（42.8％）の割合が最も高く、次いで「高校（高等部）まで」（30.6％）、「短大、高専、専門学校（専攻科）まで」（15.6％）となっている。

学年別にみると、中学2年生の方が「高校（高等部）まで」の割合が高く、小学5年生の方が「大学またはそれ以上」の割合がやや高くなっている。

生活困難度別にみると、生活困難層で「中学（中等部まで）」の割合が高く、「大学またはそれ以上」の割合は、困難度が上がるにつれて低くなっている。

図表－107 親の最終学歴（父親）



図表－108 学年、生活困難度別 親の最終学歴（父親）

単位：％

		調査数	中学（中等部）まで	高校（高等部）まで	短大、高専、専門学校（専攻科）まで	大学またはそれ以上	わからない	いない	無回答
全 体		2,134	4.3	30.6	15.6	42.8	0.4	1.1	5.2
学 年	小学5年生	1,115	3.8	28.0	16.8	44.8	0.7	1.0	5.0
	中学2年生	1,001	4.7	33.4	14.5	41.0	-	1.2	5.3
	無回答	18	16.7	44.4	5.6	22.2	-	5.6	5.6
生活 困難度	一般層	1,701	3.1	30.6	15.6	47.4	0.4	0.6	2.2
	周辺層	276	9.1	30.1	17.4	28.3	0.4	1.8	13.0
	困窮層	133	9.0	35.3	12.8	15.8	-	6.0	21.1
	無回答	24	8.3	16.7	12.5	29.2	-	-	33.3

8. 親の就労状況

問11 お子さんの親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。

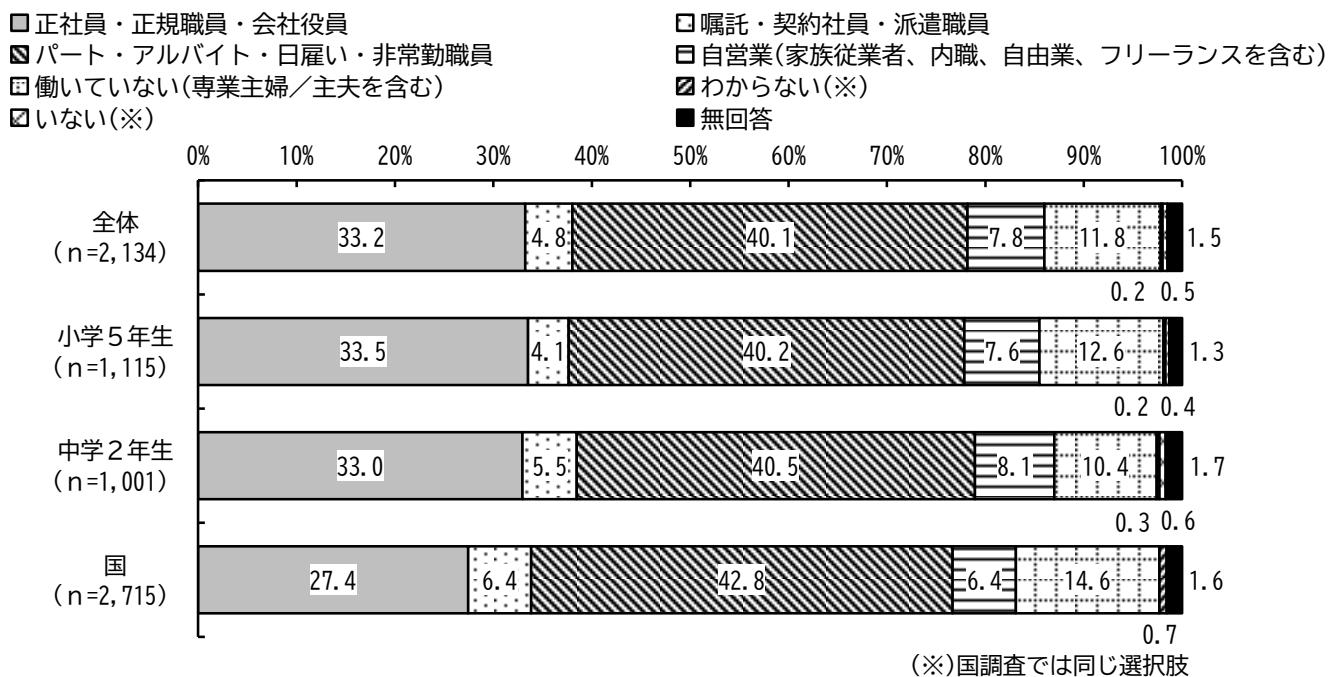
（a）母親の就労状況

母親の就労状況について聞いたところ、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」（40.1％）の割合が最も高く、次いで「正社員・正規職員・会社役員」（33.2％）、「働いていない（専業主婦／主夫を含む）」（11.8％）となっている。

生活困難度別にみると、一般層で「正社員・正規職員・会社役員」（34.3％）の割合が高くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－109 親の就労状況（母親）



図表－110 学年、生活困難度別 親の就労状況（母親）

		調査数	正社員・正規職員・会社役員	嘱託・契約社員・派遣職員	パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む)	働いていない(専業主婦／主夫を含む)	わからない	いない	無回答
全 体		2,134	33.2	4.8	40.1	7.8	11.8	0.2	0.5	1.5
学 年	小学5年生	1,115	33.5	4.1	40.2	7.6	12.6	0.2	0.4	1.3
	中学2年生	1,001	33.0	5.5	40.5	8.1	10.4	0.3	0.6	1.7
	無回答	18	33.3	11.1	16.7	-	33.3	-	-	5.6
生活困難度	一般層	1,701	34.3	4.6	40.3	7.6	12.0	-	0.4	0.8
	周辺層	276	29.7	4.3	42.8	8.7	10.1	0.7	0.7	2.9
	困窮層	133	30.1	7.5	36.1	6.0	12.8	2.3	1.5	3.8
	無回答	24	16.7	8.3	20.8	20.8	8.3	-	-	25.0

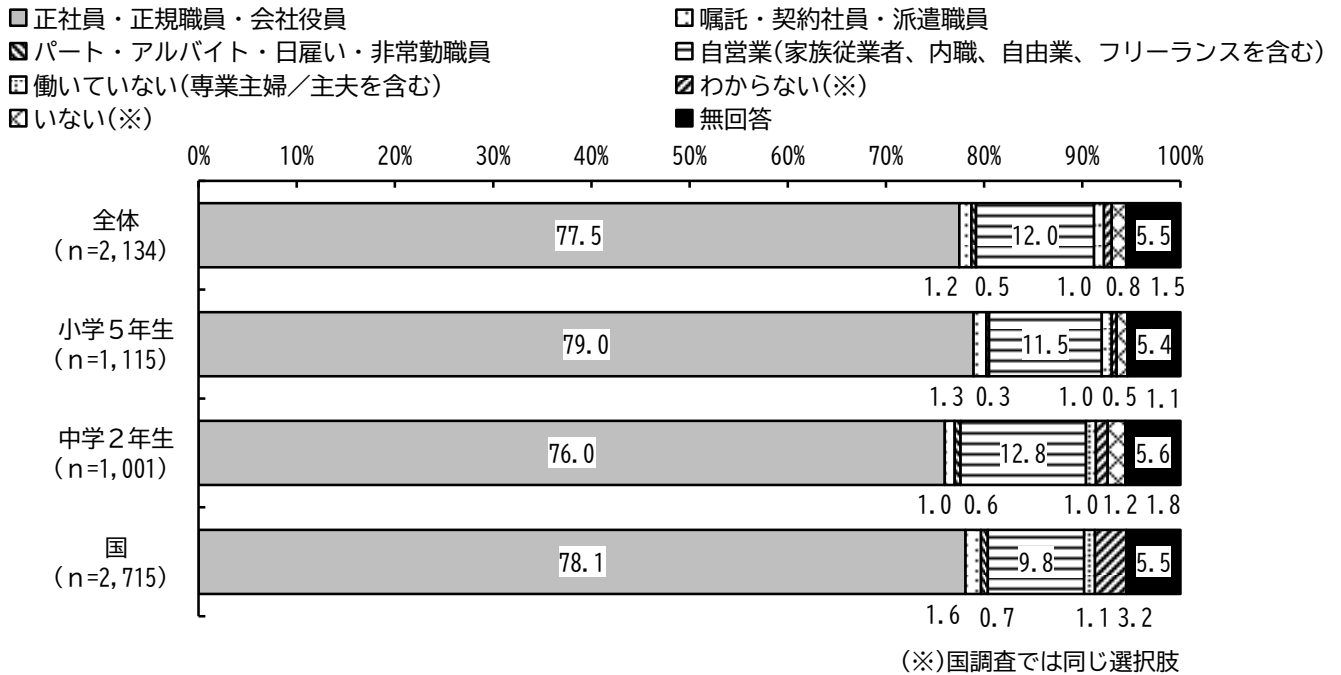
（b）父親の就労状況

父親の就労状況について聞いたところ、「正社員・正規職員・会社役員」（77.5%）の割合が最も高く、次いで「自営業（家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む）」（12.0%）、「いない」（1.5%）となっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「正社員・正規職員・会社役員」の割合が低くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－１１１ 親の就労状況（父親）



図表－１１２ 学年、生活困難度別 親の就労状況（父親）

単位：％

	調査数	正社員・正規職員・会社役員	嘱託・契約社員・派遣職員	パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む)	働いていない(専業主婦/主夫を含む)	わからない	いない	無回答
全 体	2,134	77.5	1.2	0.5	12.0	1.0	0.8	1.5	5.5
学 年	小学5年生	1,115	79.0	1.3	0.3	11.5	1.0	0.5	5.4
	中学2年生	1,001	76.0	1.0	0.6	12.8	1.0	1.2	5.6
	無回答	18	61.1	5.6	11.1	5.6	-	5.6	11.1
困 難 度	一般層	1,701	84.0	0.8	0.4	10.6	0.5	0.5	2.3
	周辺層	276	53.3	2.5	1.1	19.9	3.3	2.5	14.1
	困窮層	133	49.6	3.0	-	12.8	3.0	2.3	24.8
	無回答	24	45.8	-	4.2	16.7	-	4.2	29.2

9. 働いていない理由

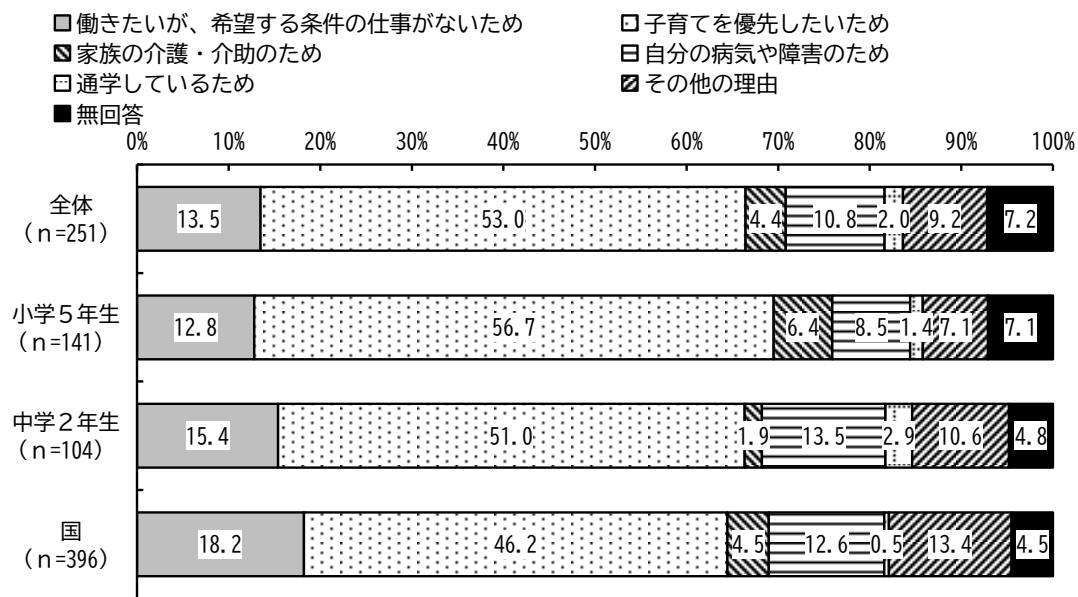
問12 前の質問で「5 働いていない」と答えた場合、働いていない最も主な理由を教えてください。

（a）母親の働いていない理由

母親の働いていない理由について聞いたところ、「子育てを優先したいため」（53.0％）の割合が最も高く、次いで「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」（13.5％）、「自分の病気や障害のため」（10.8％）となっている。

学年別にみると、小学5年生の方が「子育てを優先したいため」（56.7％）の割合が高くなっている。

図表－113 働いていない理由（母親）



図表－114 学年、生活困難度別 働いていない理由（母親）

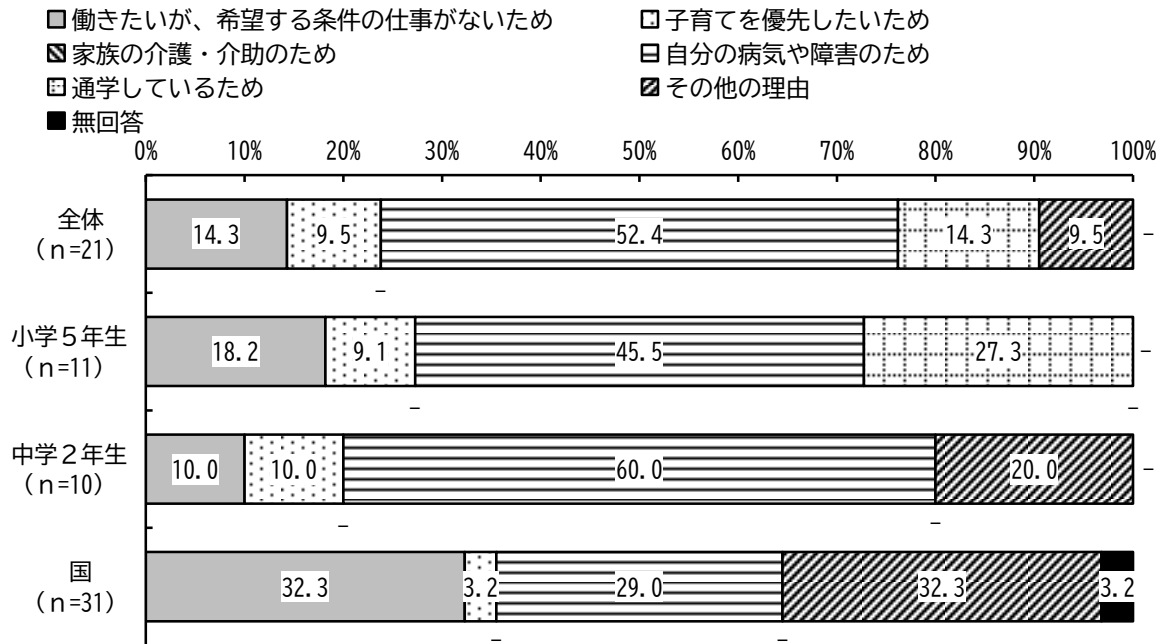
単位：％

		調査数	の働きたがいが、希望する条件	子育てを優先したいため	家族の介護・介助のため	自分の病気や障害のため	通学しているため	その他の理由	無回答
全 体		251	13.5	53.0	4.4	10.8	2.0	9.2	7.2
学 年	小学5年生	141	12.8	56.7	6.4	8.5	1.4	7.1	7.1
	中学2年生	104	15.4	51.0	1.9	13.5	2.9	10.6	4.8
	無回答	6	-	-	-	16.7	-	33.3	50.0
困 難 度	一般層	204	13.2	56.9	4.4	8.3	1.0	8.8	7.4
	周辺層	28	21.4	25.0	3.6	25.0	3.6	14.3	7.1
	困窮層	17	5.9	58.8	5.9	17.6	5.9	5.9	-
	無回答	2	-	-	-	-	50.0	-	50.0

（b）父親の働いていない理由

父親の働いていない理由について聞いたところ、「自分の病気や障害のため」（52.4%）の割合が最も高く、次いで「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」、「通学しているため」（ともに14.3%）となっている。

図表－１１５ 働いていない理由（父親）



図表－１１６ 学年、生活困難度別 働いていない理由（父親）

単位：％

	調査数	働きたいが、希望する条件	子育てを優先したいため	家族の介護・介助のため	自分の病気や障害のため	通学しているため	その他の理由	無回答
全 体	21	14.3	9.5	-	52.4	14.3	9.5	-
学 年								
小学5年生	11	18.2	9.1	-	45.5	27.3	-	-
中学2年生	10	10.0	10.0	-	60.0	-	20.0	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
困 難 度								
一般層	8	12.5	12.5	-	37.5	25.0	12.5	-
周辺層	9	11.1	11.1	-	55.6	11.1	11.1	-
困窮層	4	25.0	-	-	75.0	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-

10. 子どもが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等

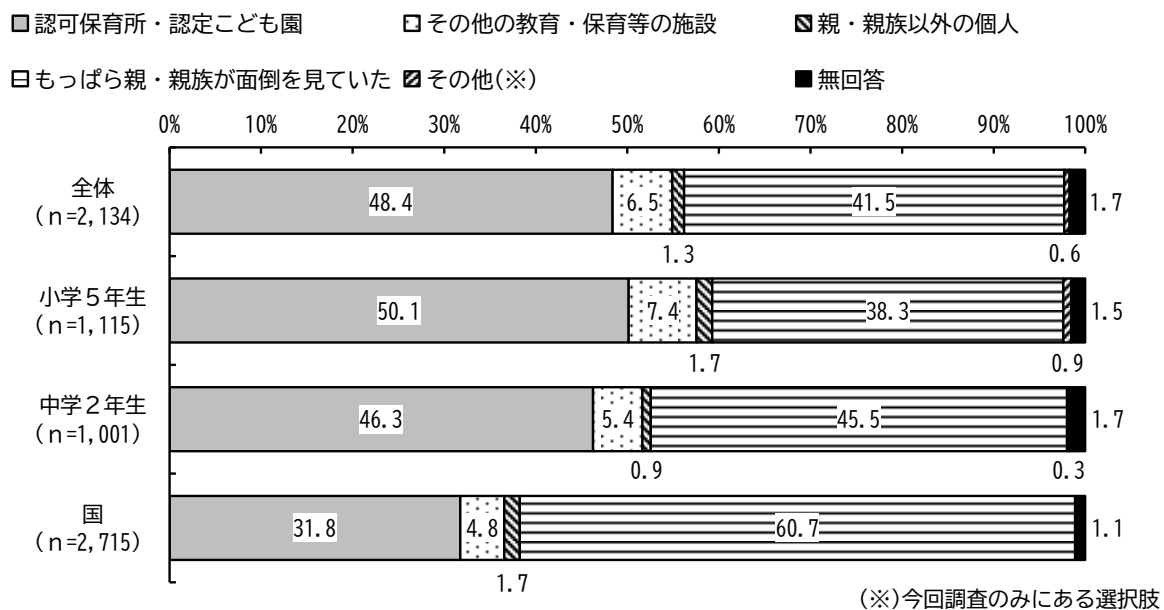
問13 お子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。

子どもが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等について聞いたところ、「認可保育所・認定こども園」（48.4％）の割合が最も高く、次いで「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」（41.5％）、「その他の教育・保育等の施設」（6.5％）となっている。

学年別にみると、中学2年生の方が「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」（45.5％）の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「認可保育所・認定こども園」の割合が高くなっている。

図表－117 子どもが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等



図表－118 学年、生活困難度別 子どもが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等

		調査数	認可保育所・認定こども園	その他の教育・保育等の施設	親・親族以外の個人	もっぱら親・親族が面倒を見ていた	その他	無回答
全 体		2,134	48.4	6.5	1.3	41.5	0.6	1.7
学 年	小学5年生	1,115	50.1	7.4	1.7	38.3	0.9	1.5
	中学2年生	1,001	46.3	5.4	0.9	45.5	0.3	1.7
	無回答	18	55.6	5.6	-	22.2	-	16.7
生活困難度	一般層	1,701	46.3	7.2	1.3	43.2	0.6	1.5
	周辺層	276	54.0	4.0	1.1	38.4	0.7	1.8
	困窮層	133	62.4	2.3	2.3	30.8	0.8	1.5
	無回答	24	50.0	8.3	-	20.8	-	20.8

11. 子どもが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等

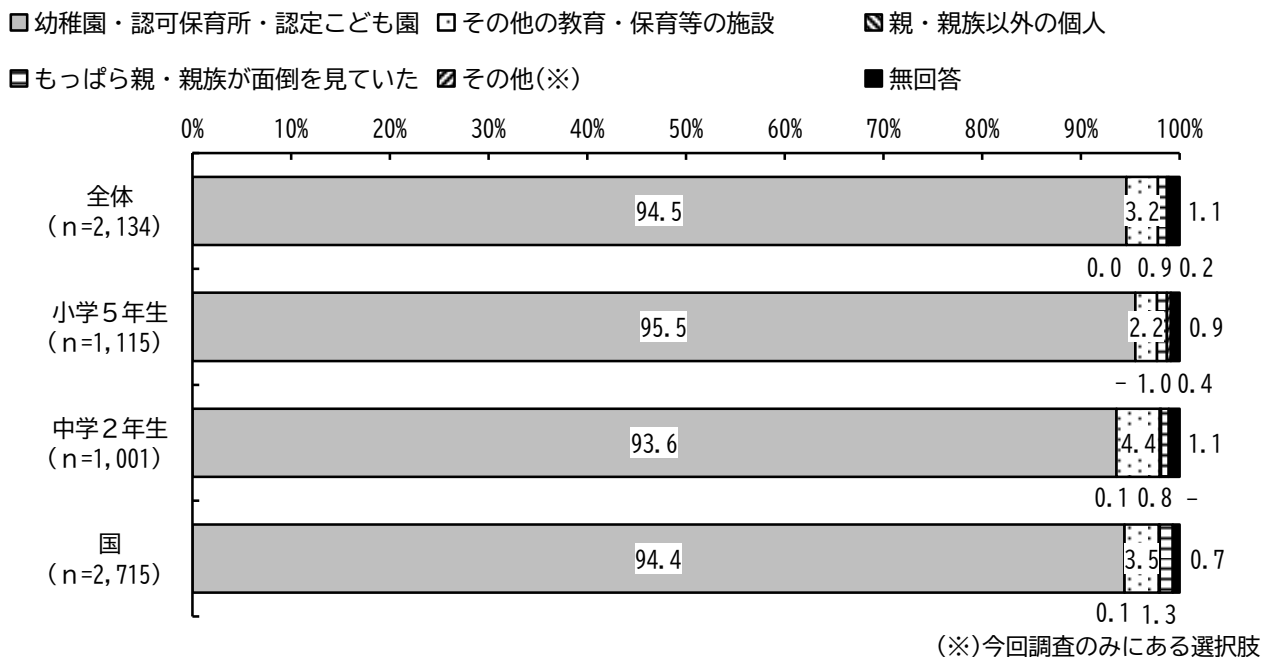
問14 お子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。

子どもが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等について聞いたところ、「幼稚園・認可保育所・認定こども園」（94.5%）の割合が最も高く、次いで「その他の教育・保育等の施設」（3.2%）、「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」（0.9%）となっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「幼稚園・認可保育所・認定こども園」の割合が低くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－119 子どもが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等



図表－120 学年、生活困難度別 子どもが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等

単位：％

		調査数	幼稚園・認可保育所・認定こども園	その他の教育・保育等の施設	親・親族以外の個人	もっぱら親・親族が面倒を見ていた	その他	無回答
全 体		2,134	94.5	3.2	0.0	0.9	0.2	1.1
学 年	小学5年生	1,115	95.5	2.2	-	1.0	0.4	0.9
	中学2年生	1,001	93.6	4.4	0.1	0.8	-	1.1
	無回答	18	77.8	-	-	5.6	-	16.7
生活困難度	一般層	1,701	95.4	2.7	0.1	0.8	0.2	0.8
	周辺層	276	93.5	4.0	-	1.4	-	1.1
	困窮層	133	89.5	7.5	-	1.5	-	1.5
	無回答	24	70.8	8.3	-	-	-	20.8

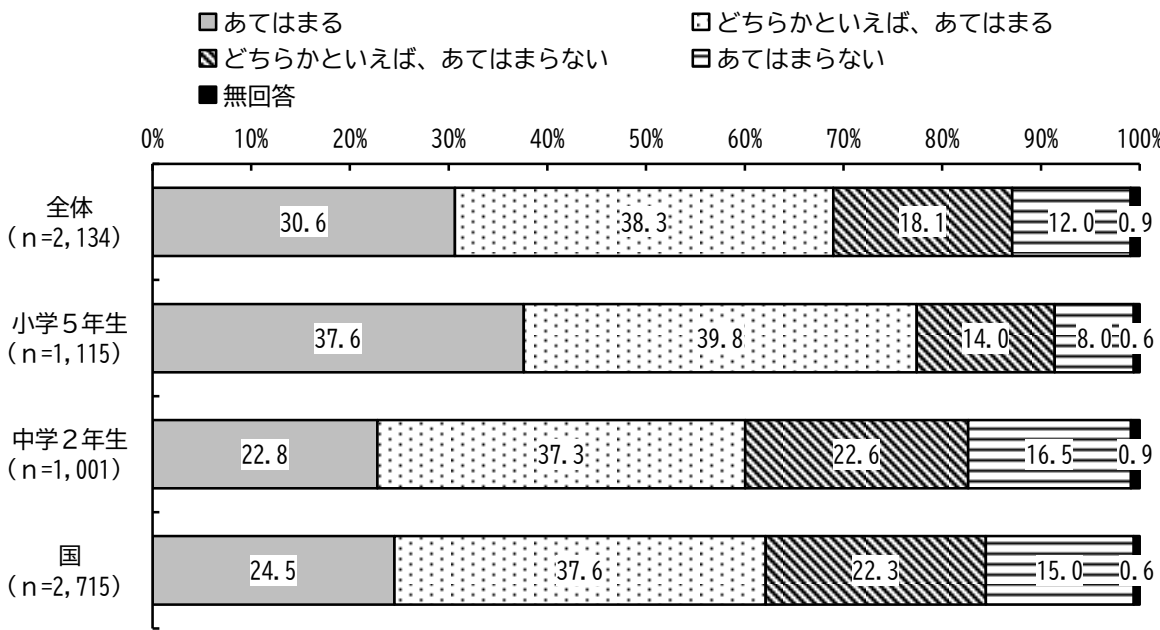
12. 子どもとの関わり方

問15 あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらいあてはまりますか。

(a) テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている

子どもとの関わり方で、テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めているかについて聞いたところ、「どちらかといえば、あてはまる」(38.3%)の割合が最も高く、次いで「あてはまる」(30.6%)、「どちらかといえば、あてはまらない」(18.1%)となっている。
学年別にみると、小学5年生の方が「あてはまる」(37.6%)の割合が高くなっている。
生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「あてはまる」の割合が低くなっている。

図表ー121 子どもとの関わり方
(テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている)



図表ー122 学年、生活困難度別 子どもとの関わり方
(テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている)
単位：%

		調査数	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
全 体		2,134	30.6	38.3	18.1	12.0	0.9
学 年	小学5年生	1,115	37.6	39.8	14.0	8.0	0.6
	中学2年生	1,001	22.8	37.3	22.6	16.5	0.9
	無回答	18	33.3	5.6	27.8	16.7	16.7
生活困難度	一般層	1,701	31.9	38.7	18.0	10.7	0.7
	周辺層	276	25.4	37.0	19.2	17.0	1.4
	困窮層	133	23.3	36.1	19.5	18.8	2.3
	無回答	24	37.5	41.7	8.3	12.5	-

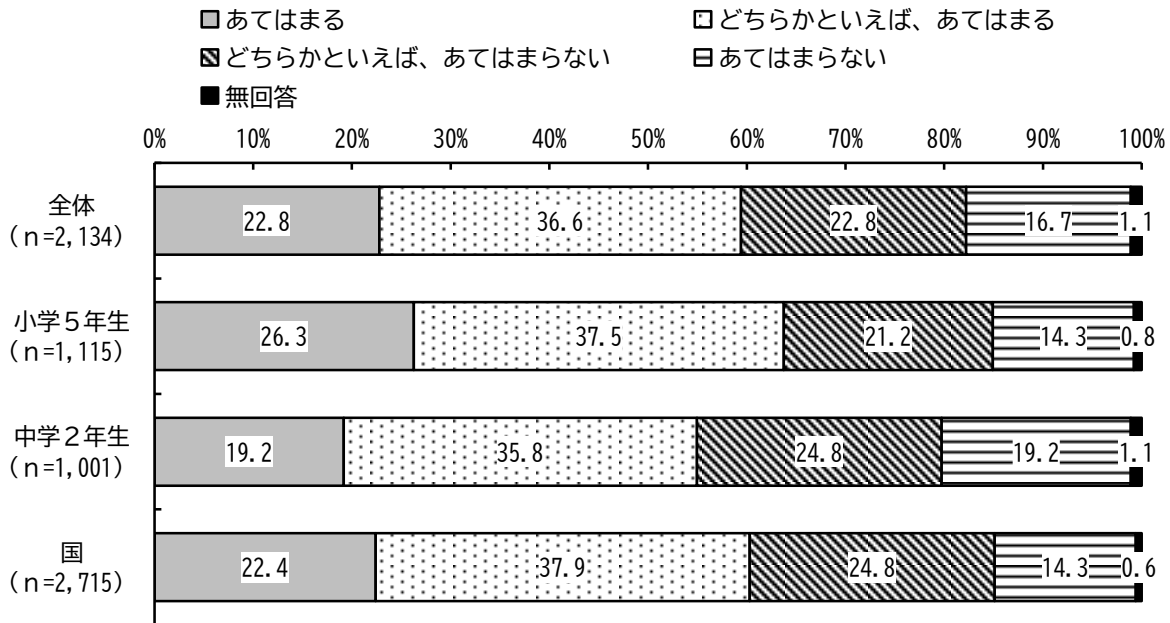
（b）お子さんに本や新聞を読むように勧めている

子どもとの関わり方で、お子さんに本や新聞を読むように勧めているかについて聞いたところ、「どちらかといえば、あてはまる」（36.6％）の割合が最も高く、次いで「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまらない」（ともに22.8％）となっている。

学年別にみると、小学5年生の方が「あてはまる」（26.3％）の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「あてはまる」の割合が低くなっている。

図表－1 2 3 子どもとの関わり方(お子さんに本や新聞を読むように勧めている)



図表－1 2 4 学年、生活困難度別 子どもとの関わり方
(お子さんに本や新聞を読むように勧めている)

単位：％

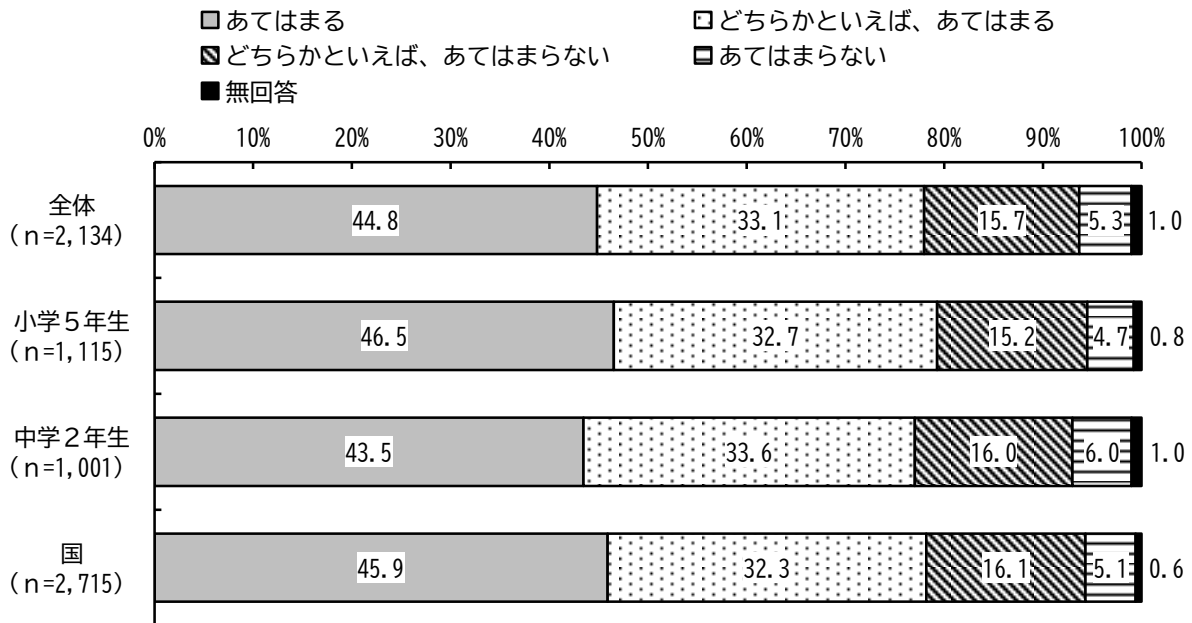
		調査数	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
全 体		2,134	22.8	36.6	22.8	16.7	1.1
学 年	小学5年生	1,115	26.3	37.5	21.2	14.3	0.8
	中学2年生	1,001	19.2	35.8	24.8	19.2	1.1
	無回答	18	5.6	27.8	16.7	33.3	16.7
困 難 度	一般層	1,701	24.5	36.9	22.5	15.5	0.7
	周辺層	276	18.1	36.6	22.8	21.4	1.1
	困窮層	133	14.3	34.6	27.1	21.8	2.3
	無回答	24	4.2	25.0	25.0	25.0	20.8

（c）お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた

子どもとの関わり方で、お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていたかについて聞いたところ、「あてはまる」(44.8%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえば、あてはまる」(33.1%)、「どちらかといえば、あてはまらない」(15.7%)となっている。

学年別にみると、小学5年生の方が「あてはまる」(46.5%)の割合がやや高くなっている。生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「あてはまる」の割合が低くなっている。

図表－１２５ 子どもとの関わり方(お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた)



図表－１２６ 学年、生活困難度別 子どもとの関わり方
(お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた)

単位：％

		調査数	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
全 体		2,134	44.8	33.1	15.7	5.3	1.0
学 年	小学5年生	1,115	46.5	32.7	15.2	4.7	0.8
	中学2年生	1,001	43.5	33.6	16.0	6.0	1.0
	無回答	18	16.7	27.8	27.8	11.1	16.7
困 難 度	一般層	1,701	47.2	32.4	15.3	4.5	0.6
	周辺層	276	37.0	34.1	18.8	9.1	1.1
	困窮層	133	32.3	41.4	15.8	8.3	2.3
	無回答	24	37.5	25.0	8.3	8.3	20.8

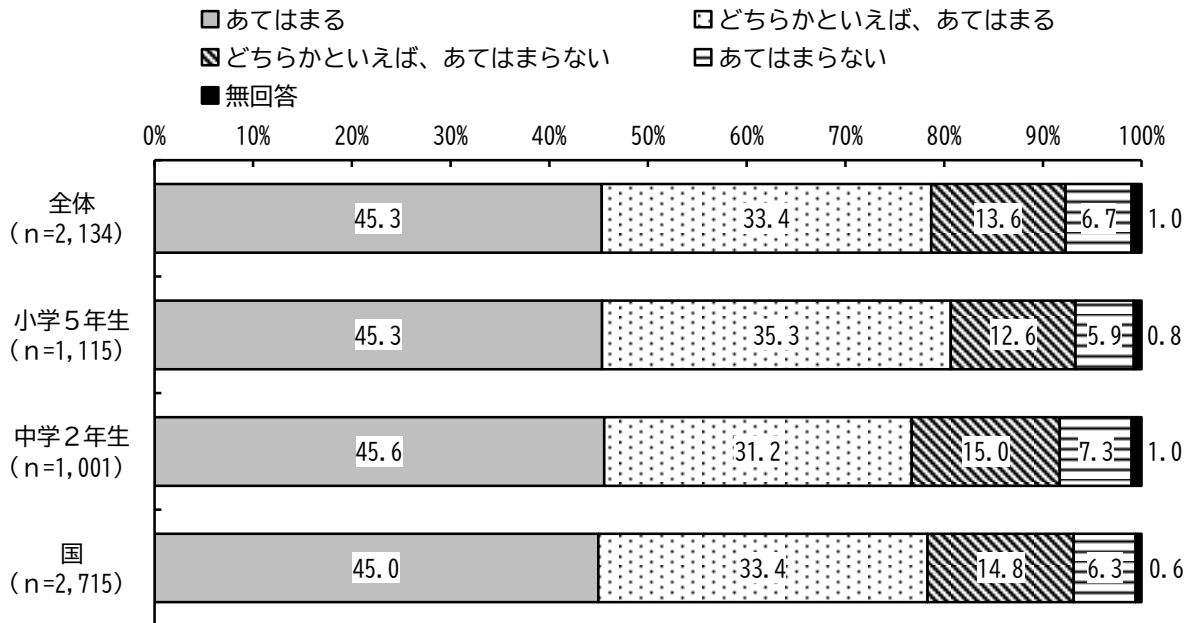
(d) お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる

子どもとの関わり方で、お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれるかについて聞いたところ、「あてはまる」(45.3%)の割合が最も高く、次いで「どちらかといえば、あてはまる」(33.4%)、「どちらかといえば、あてはまらない」(13.6%)となっている。

学年別にみると、小学5年生の方が「どちらかといえば、あてはまる」(35.3%)の割合がやや高くなっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「あてはまる」の割合が低くなっている。

図表－１２７ 子どもとの関わり方(お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる)

図表－１２８ 学年、生活困難度別 子どもとの関わり方
(お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる)

単位：％

		調査数	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
全 体		2,134	45.3	33.4	13.6	6.7	1.0
学 年	小学5年生	1,115	45.3	35.3	12.6	5.9	0.8
	中学2年生	1,001	45.6	31.2	15.0	7.3	1.0
	無回答	18	33.3	33.3	-	16.7	16.7
困 難 度	一般層	1,701	47.1	32.9	13.9	5.4	0.7
	周辺層	276	40.9	33.7	11.6	12.7	1.1
	困窮層	133	33.8	40.6	14.3	9.8	1.5
	無回答	24	33.3	25.0	12.5	8.3	20.8

13. 行事等への参加状況

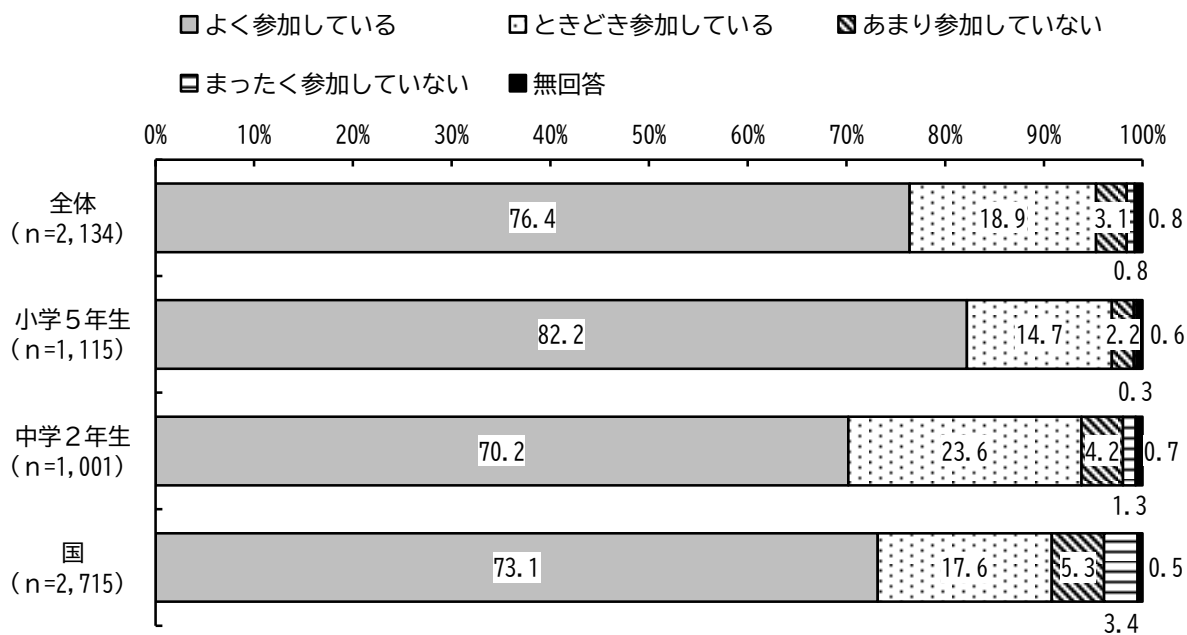
問16 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。

(a) 授業参観や運動会などの学校行事への参加

授業参観や運動会などの学校行事への参加状況について聞いたところ、「よく参加している」(76.4%)の割合が最も高く、次いで「ときどき参加している」(18.9%)、「あまり参加していない」(3.1%)となっている。

学年別にみると、小学5年生の方が「よく参加している」(82.2%)の割合が高くなっている。生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「よく参加している」の割合が低くなっている。

図表ー129 行事等への参加状況(授業参観や運動会などの学校行事への参加)



図表ー130 学年、生活困難度別 行事等への参加状況
(授業参観や運動会などの学校行事への参加)

		単位：％					
		調査数	よく参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	まったく参加していない	無回答
全 体		2,134	76.4	18.9	3.1	0.8	0.8
学 年	小学5年生	1,115	82.2	14.7	2.2	0.3	0.6
	中学2年生	1,001	70.2	23.6	4.2	1.3	0.7
	無回答	18	55.6	22.2	-	5.6	16.7
困 難 度	一般層	1,701	77.2	18.6	2.9	0.6	0.6
	周辺層	276	74.6	19.9	3.6	0.7	1.1
	困窮層	133	69.2	22.6	3.8	3.0	1.5
	無回答	24	79.2	8.3	8.3	-	4.2

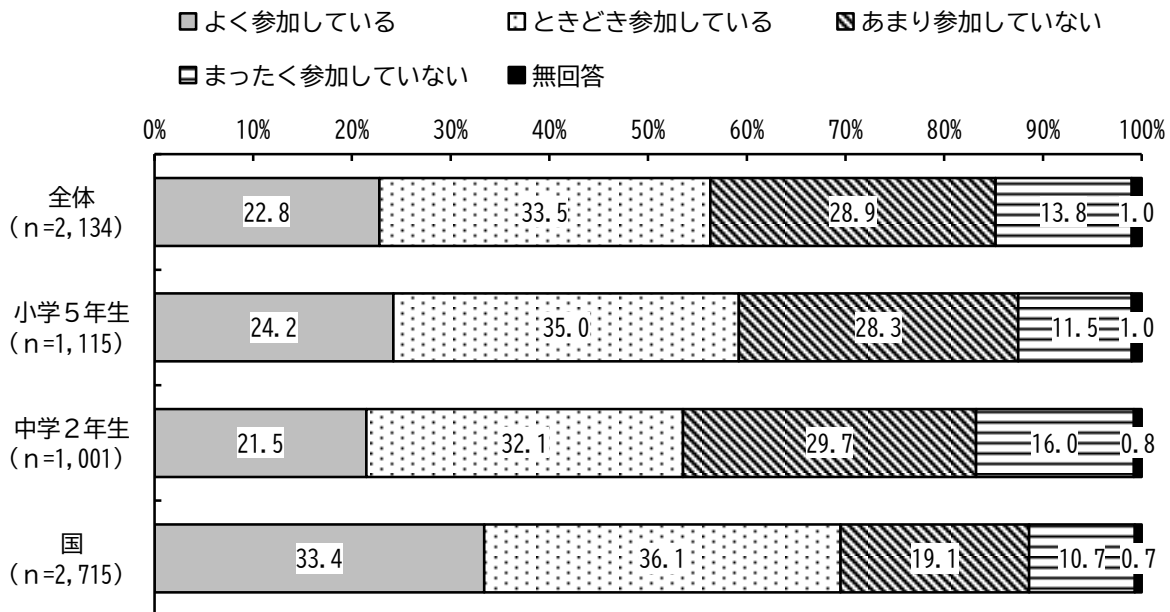
（b）PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加

PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加状況について聞いたところ、「ときどき参加している」(33.5%)の割合が最も高く、次いで「あまり参加していない」(28.9%)、「よく参加している」(22.8%)となっている。

学年別にみると、中学2年生の方が「まったく参加していない」(16.0%)の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、困窮層で「まったく参加していない」(21.1%)の割合が高くなっている。一方で、「よく参加している」(26.3%)の割合も高くなっている。

図表－131 行事等への参加状況
(PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加)



図表－132 学年、生活困難度別 行事等への参加状況
(PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加)

単位：％

		調査数	よく参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	まったく参加していない	無回答
全 体		2,134	22.8	33.5	28.9	13.8	1.0
学 年	小学5年生	1,115	24.2	35.0	28.3	11.5	1.0
	中学2年生	1,001	21.5	32.1	29.7	16.0	0.8
	無回答	18	11.1	16.7	22.2	33.3	16.7
生活困難度	一般層	1,701	23.3	33.7	29.2	13.1	0.8
	周辺層	276	19.2	34.4	29.7	15.2	1.4
	困窮層	133	26.3	22.6	27.8	21.1	2.3
	無回答	24	12.5	66.7	8.3	8.3	4.2

14. 子どもの進学見込み

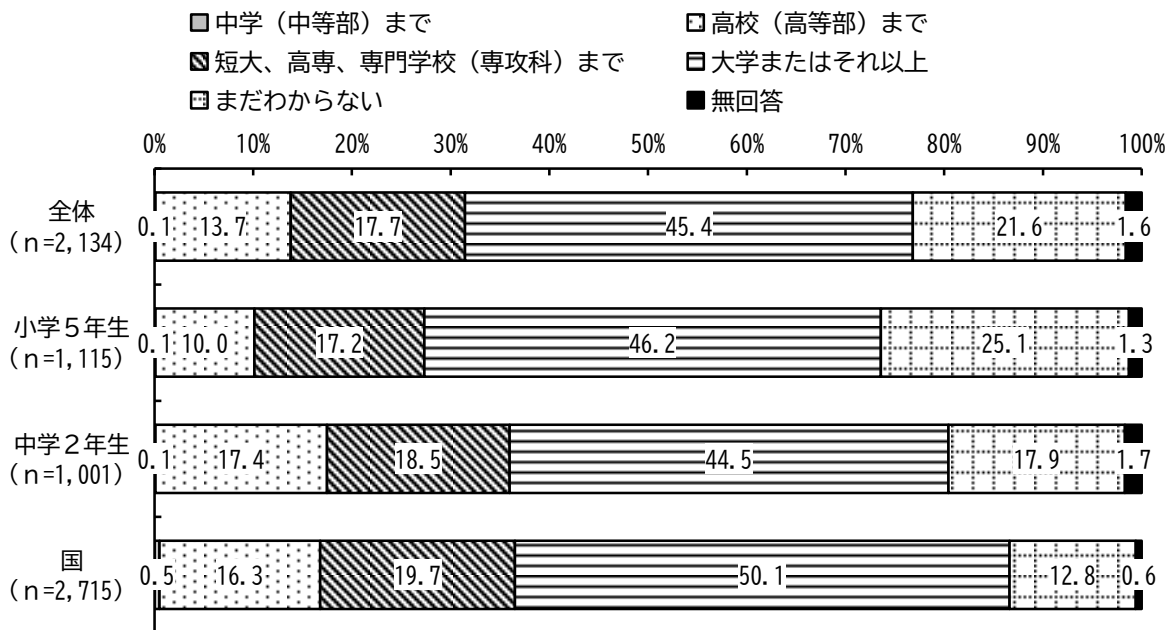
問17 お子さんは将来、どの段階まで進学すると思いますか。

子どもの進学見込みについて聞いたところ、「大学またはそれ以上」(45.4%)の割合が最も高く、次いで「まだわからない」(21.6%)、「短大、高専、専門学校（専攻科）まで」(17.7%)となっている。

学年別にみると、中学2年生の方が「高校（高等部）まで」(17.4%)の割合が高く、小学5年生の方が「まだわからない」(25.1%)の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、生活困難層より一般層の方が「大学またはそれ以上」(49.7%)の割合が高くなっている。

図表ー133 子どもの進学見込み



図表ー134 学年、生活困難度別 子どもの進学見込み

単位：％

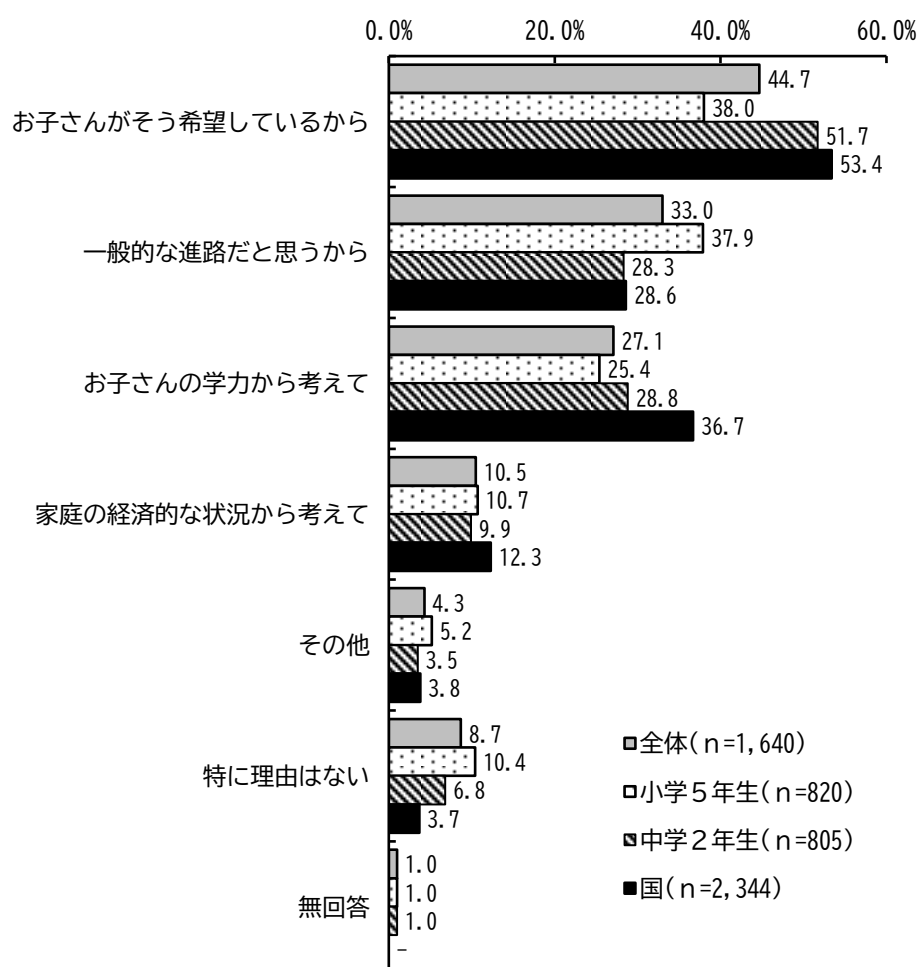
		調査数	中学（中等部）まで	高校（高等部）まで	短大、高専、専門学校（専攻科）まで	大学またはそれ以上	まだわからない	無回答
全 体		2,134	0.1	13.7	17.7	45.4	21.6	1.6
学 年	小学5年生	1,115	0.1	10.0	17.2	46.2	25.1	1.3
	中学2年生	1,001	0.1	17.4	18.5	44.5	17.9	1.7
	無回答	18	5.6	33.3	-	44.4	5.6	11.1
生活困難度	一般層	1,701	-	11.3	16.9	49.7	20.8	1.3
	周辺層	276	0.4	23.9	21.7	27.9	24.3	1.8
	困窮層	133	1.5	22.6	20.3	29.3	22.6	3.8
	無回答	24	-	12.5	12.5	25.0	41.7	8.3

15. 進学見込みの理由

問18 前問で1～4と答えた場合、その理由は何ですか。

進学見込みの理由について聞いたところ、「お子さんがそう希望しているから」（44.7％）の割合が最も高く、次いで「一般的な進路だと思うから」（33.0％）、「お子さんの学力から考えて」（27.1％）となっている。

図表－135 進学見込みの理由



第4章 調査結果（保護者）

学年別にみると、中学2年生の方が「お子さんがそう希望しているから」（51.7％）の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「家庭の経済的な状況から考えて」の割合が高くなっている。一方で、困窮層では「お子さんがそう希望しているから」（57.1％）の割合も高くなっている。

図表－136 学年、生活困難度別 進学見込みの理由

単位：％

		調査数	お子さんがそう希望しているから	一般的な進路だと思っから	お子さんの学力から考えて	家庭の経済的な状況から考えて	その他	特に理由はない	無回答
全 体		1,640	44.7	33.0	27.1	10.5	4.3	8.7	1.0
学 年	小学5年生	820	38.0	37.9	25.4	10.7	5.2	10.4	1.0
	中学2年生	805	51.7	28.3	28.8	9.9	3.5	6.8	1.0
	無回答	15	33.3	13.3	26.7	26.7	－	20.0	－
生活困難度	一般層	1,326	44.8	34.3	27.4	8.4	4.4	8.7	1.0
	周辺層	204	38.2	27.9	26.5	19.1	4.9	10.8	1.5
	困窮層	98	57.1	25.5	24.5	21.4	2.0	4.1	－
	無回答	12	41.7	33.3	25.0	8.3	－	8.3	－

16. 相談相手の有無

問19 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。

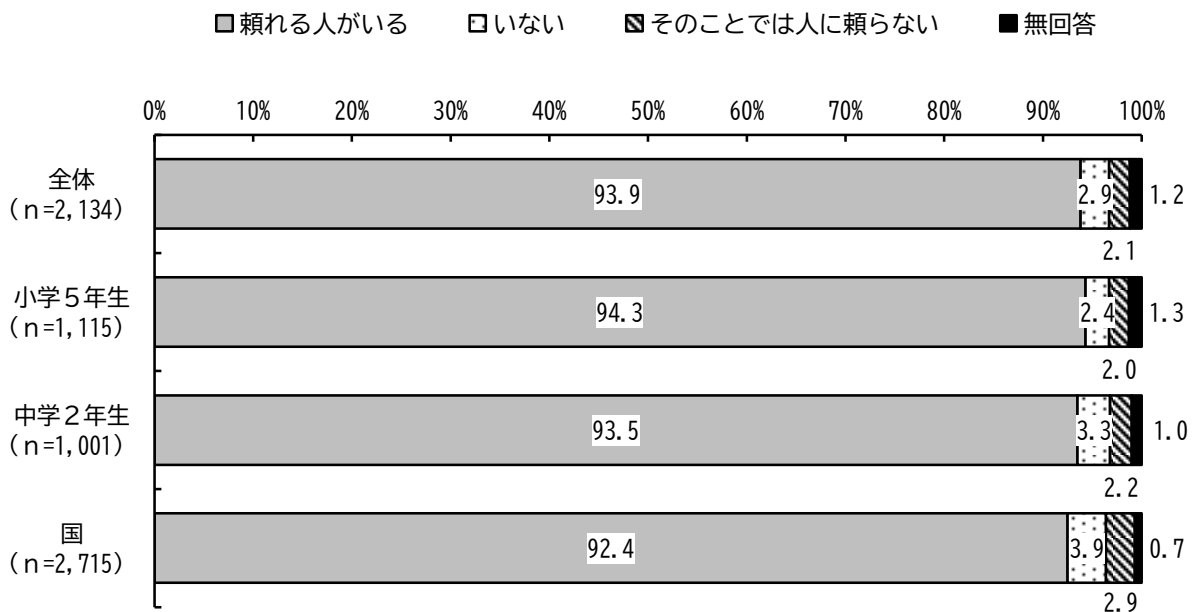
(a) 子育てに関する相談

子育てに関する相談相手の有無について聞いたところ、「頼れる人がいる」（93.9％）の割合が最も高く、次いで「いない」（2.9％）、「そのことでは人に頼らない」（2.1％）となっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「頼れる人がいる」の割合が低くなり、「いない」の割合が高くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－137 相談相手の有無（子育てに関する相談）

図表－138 学年、生活困難度別 相談相手の有無（子育てに関する相談）
単位：％

		調査数	頼れる人がいる	いない	そのことでは人に頼らない	無回答
全 体		2,134	93.9	2.9	2.1	1.2
学 年	小学5年生	1,115	94.3	2.4	2.0	1.3
	中学2年生	1,001	93.5	3.3	2.2	1.0
	無回答	18	88.9	5.6	-	5.6
生活困難度	一般層	1,701	95.4	1.8	2.1	0.8
	周辺層	276	92.8	5.1	1.8	0.4
	困窮層	133	84.2	12.8	2.3	0.8
	無回答	24	54.2	-	-	45.8

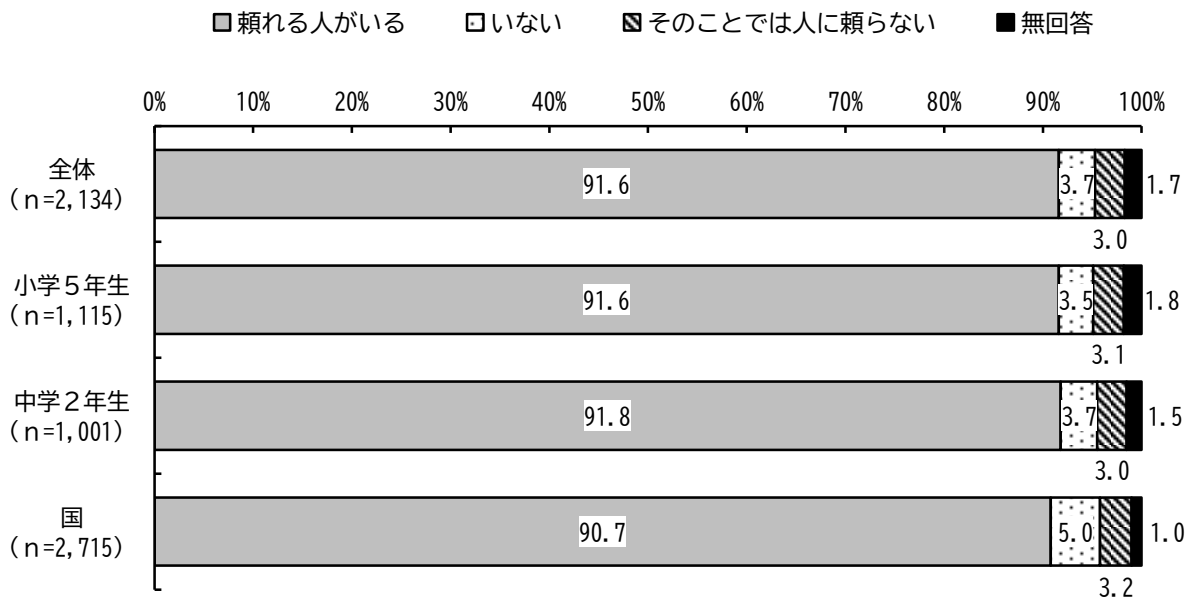
（b）重要な事柄の相談

重要な事柄の相談相手の有無について聞いたところ、「頼れる人がいる」（91.6％）の割合が最も高く、次いで「いない」（3.7％）、「そのことでは人に頼らない」（3.0％）となっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「頼れる人がいる」の割合が低くなり、「いない」の割合が高くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－139 相談相手の有無（重要な事柄の相談）



図表－140 学年、生活困難度別 相談相手の有無（重要な事柄の相談）

単位：％

		調査数	頼れる人がいる	いない	そのことでは人に頼らない	無回答
全 体		2,134	91.6	3.7	3.0	1.7
学 年	小学5年生	1,115	91.6	3.5	3.1	1.8
	中学2年生	1,001	91.8	3.7	3.0	1.5
	無回答	18	83.3	11.1	—	5.6
困 難 度 生 活	一般層	1,701	93.8	2.2	2.9	1.1
	周辺層	276	89.9	5.4	3.3	1.4
	困窮層	133	73.7	19.5	5.3	1.5
	無回答	24	54.2	—	—	45.8

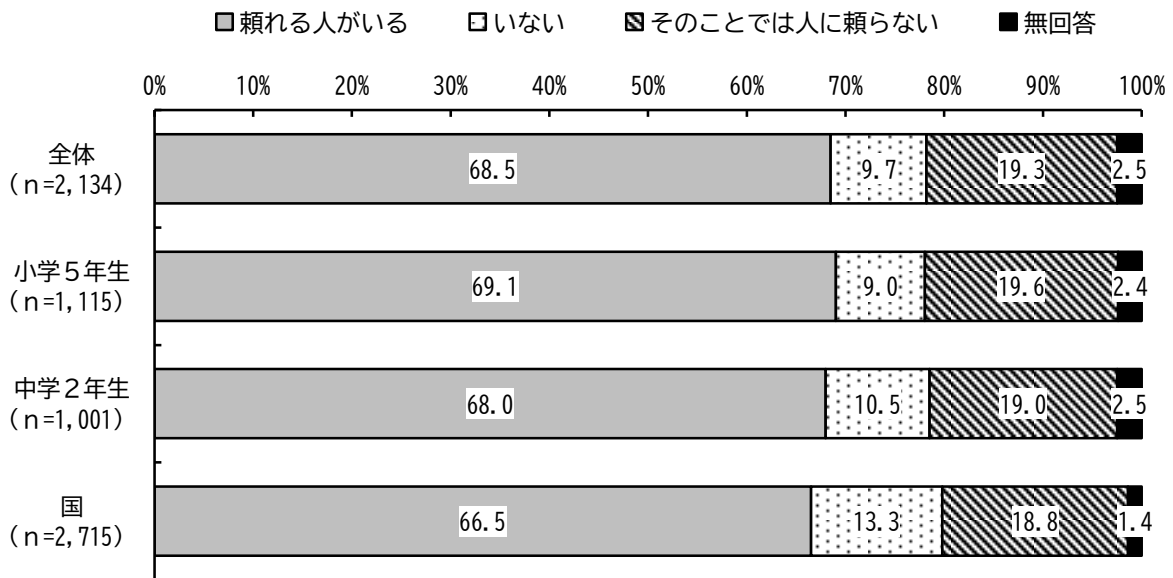
（c）いざという時のお金の援助

いざという時のお金の援助の相談相手の有無について聞いたところ、「頼れる人がいる」（68.5％）の割合が最も高く、次いで「そのことでは人に頼らない」（19.3％）、「いない」（9.7％）となっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「頼れる人がいる」と「そのことでは人に頼らない」の割合が低くなり、「いない」の割合が高くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－１４１ 相談相手の有無（いざという時のお金の援助）



図表－１４２ 学年、生活困難度別 相談相手の有無（いざという時のお金の援助）

単位：％

		調査数	頼れる人がいる	いない	そのことでは人に頼らない	無回答
全 体		2,134	68.5	9.7	19.3	2.5
学 年	小学5年生	1,115	69.1	9.0	19.6	2.4
	中学2年生	1,001	68.0	10.5	19.0	2.5
	無回答	18	61.1	16.7	16.7	5.6
生活困難度	一般層	1,701	70.8	6.9	20.7	1.6
	周辺層	276	65.2	18.1	13.8	2.9
	困窮層	133	52.6	30.1	12.8	4.5
	無回答	24	33.3	—	16.7	50.0

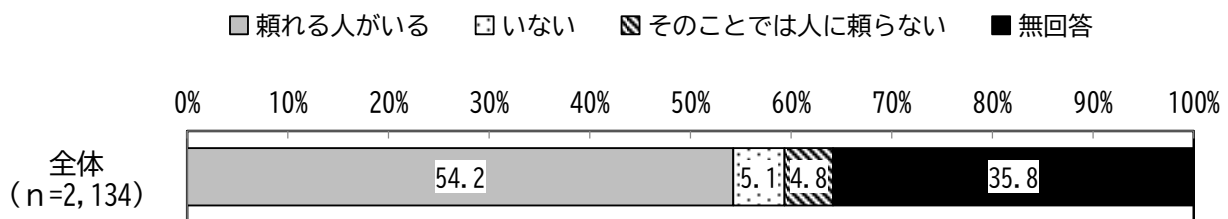
（d）その他

その他の相談相手の有無について聞いたところ、「頼れる人がいる」（54.2％）の割合が最も高く、次いで「いない」（5.1％）、「そのことでは人に頼らない」（4.8％）となっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「頼れる人がいる」の割合が低くなり、「いない」の割合が高くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－143 相談相手の有無（その他）



図表－144 学年、生活困難度別 相談相手の有無（その他）

単位：％

		調査数	頼れる人がいる	いない	そのことでは人に頼らない	無回答
全 体		2,134	54.2	5.1	4.8	35.8
学 年	小学5年生	1,115	53.4	5.6	4.6	36.5
	中学2年生	1,001	55.5	4.7	5.2	34.6
	無回答	18	33.3	－	－	66.7
生活困難度	一般層	1,701	57.3	3.6	5.3	33.7
	周辺層	276	48.2	8.0	2.5	41.3
	困窮層	133	33.1	18.0	4.5	44.4
	無回答	24	20.8	4.2	－	75.0

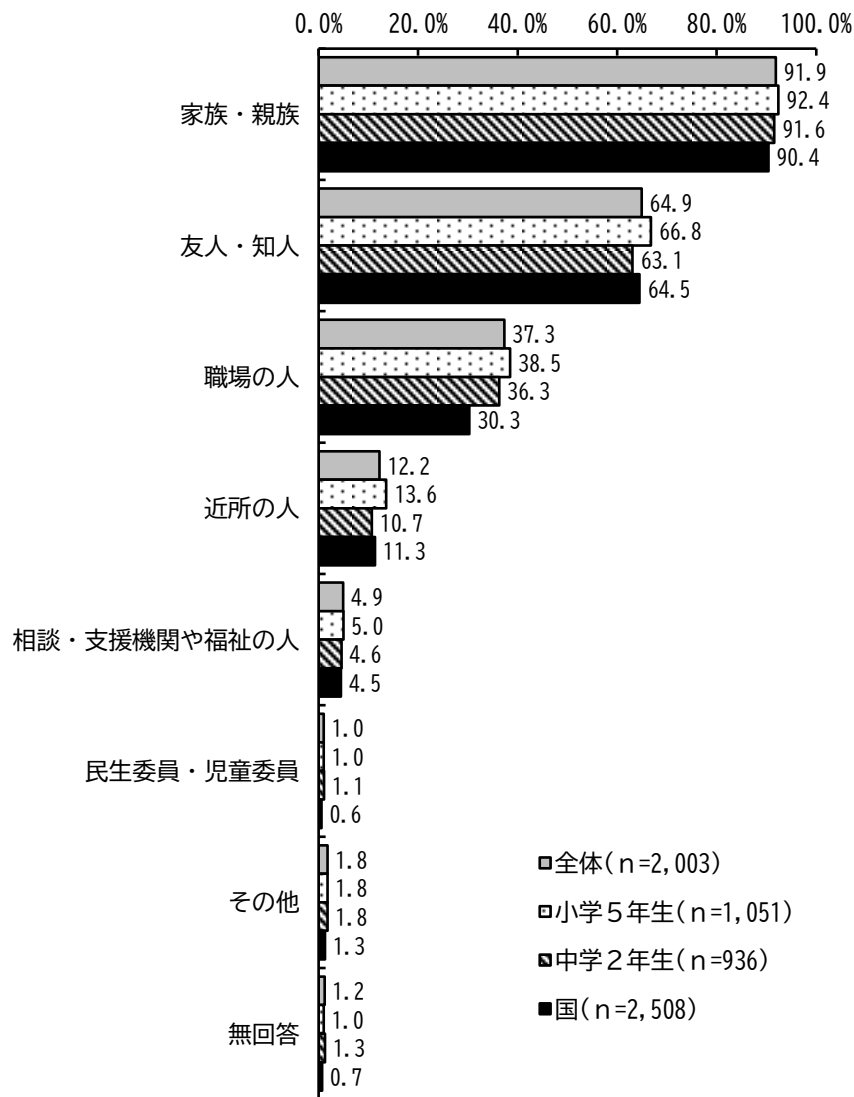
17. 相談相手

問19 「1. 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。

(a) 子育てに関する相談

子育てに関する相談相手について聞いたところ、「家族・親族」(91.9%)の割合が最も高く、次いで「友人・知人」(64.9%)、「職場の人」(37.3%)となっている。

図表－145 相談相手（子育てに関する相談）



第4章 調査結果（保護者）

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「家族・親族」、「友人・知人」、「職場の人」の割合が低くなり、「相談・支援機関や福祉の人」の割合は生活困難層の方が高くなっている。
学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－１４６ 学年、生活困難度別 相談相手（子育てに関する相談）

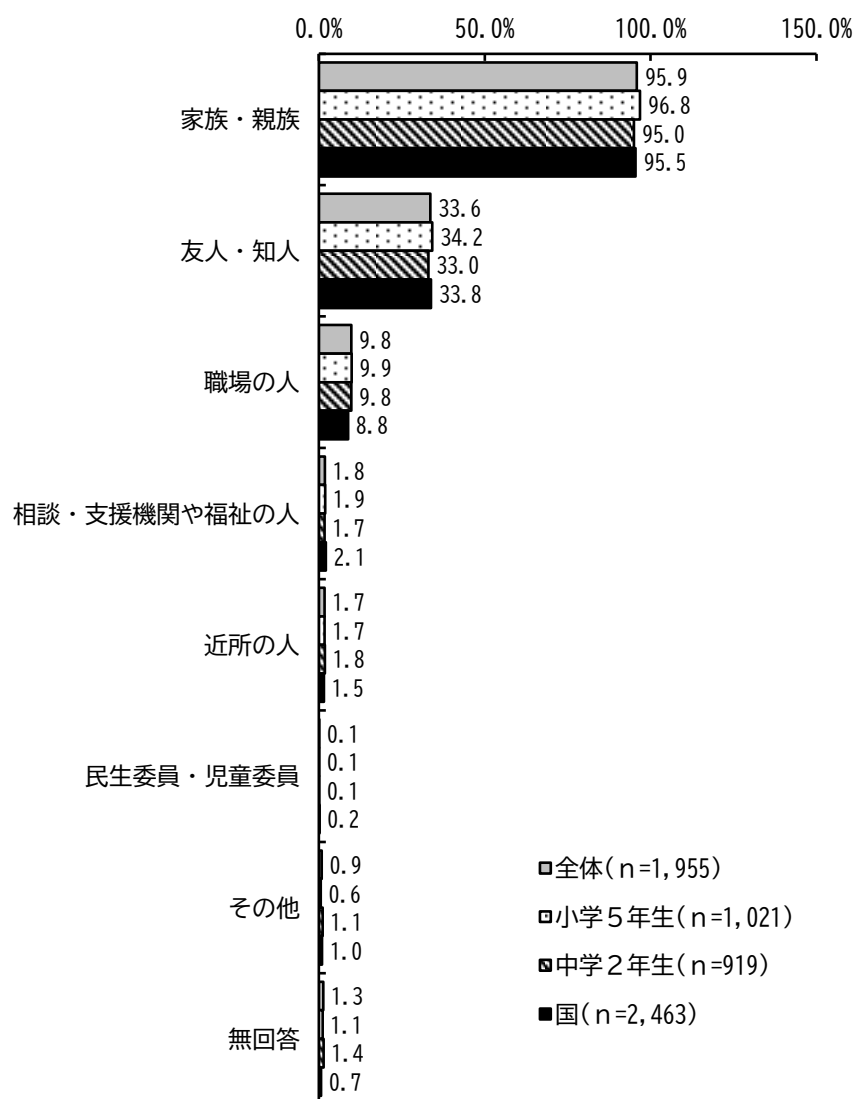
単位：％

		調査数	家族・親族	友人・知人	近所の人	職場の人	民生委員・児童委員	相談・支援機関や福祉の人	その他	無回答
全 体		2,003	91.9	64.9	12.2	37.3	1.0	4.9	1.8	1.2
学 年	小学５年生	1,051	92.4	66.8	13.6	38.5	1.0	5.0	1.8	1.0
	中学２年生	936	91.6	63.1	10.7	36.3	1.1	4.6	1.8	1.3
	無回答	16	81.3	43.8	6.3	12.5	－	18.8	6.3	6.3
生活 困難度	一般層	1,622	93.3	65.4	12.6	37.9	0.9	3.6	1.6	1.2
	周辺層	256	87.5	64.5	9.4	35.5	1.6	11.3	3.5	1.6
	困窮層	112	82.1	58.9	11.6	33.0	0.9	8.9	1.8	－
	無回答	13	92.3	69.2	23.1	38.5	－	7.7	－	－

(b) 重要な事柄の相談

重要な事柄の相談相手について聞いたところ、「家族・親族」（95.9％）の割合が最も高く、次いで「友人・知人」（33.6％）、「職場の人」（9.8％）となっている。

図表－147 相談相手（重要な事柄の相談）



第4章 調査結果（保護者）

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「家族・親族」の割合は低くなり、「相談・支援機関や福祉の人」の割合が高くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－１４８ 学年、生活困難度別 相談相手（重要な事柄の相談）

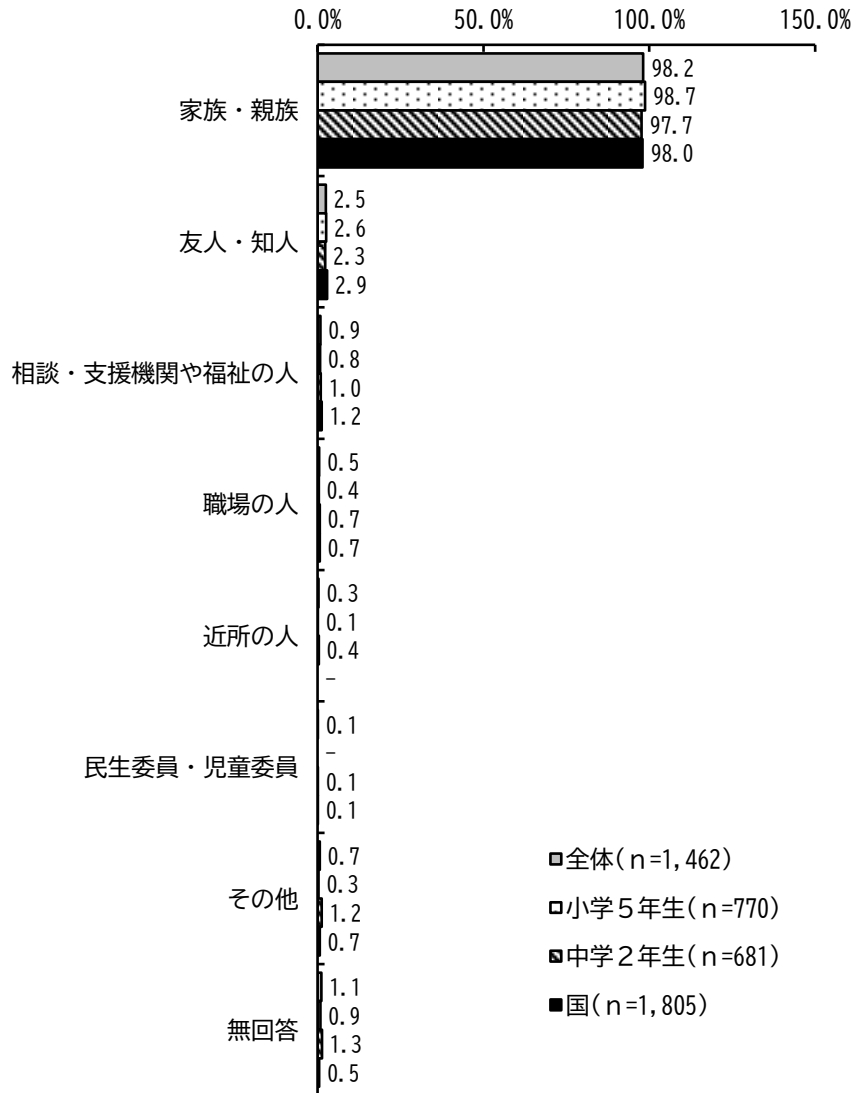
単位：％

		調査数	家族・親族	友人・知人	近所の人	職場の人	民生委員・児童委員	相談・支援機関や福祉の人	その他	無回答
全 体		1,955	95.9	33.6	1.7	9.8	0.1	1.8	0.9	1.3
学 年	小学5年生	1,021	96.8	34.2	1.7	9.9	0.1	1.9	0.6	1.1
	中学2年生	919	95.0	33.0	1.8	9.8	0.1	1.7	1.1	1.4
	無回答	15	86.7	33.3	－	6.7	－	6.7	6.7	6.7
生活 困難度	一般層	1,596	96.4	33.5	1.9	9.9	0.1	1.3	0.8	1.3
	周辺層	248	94.8	33.1	1.6	8.5	－	4.4	1.6	1.6
	困窮層	98	89.8	34.7	－	11.2	－	5.1	1.0	1.0
	無回答	13	92.3	46.2	－	15.4	－	－	－	－

（c）いざという時のお金の援助

いざという時のお金の援助の相談相手について聞いたところ、「家族・親族」（98.2%）の割合が最も高く、次いで「友人・知人」（2.5%）、「相談・支援機関や福祉の人」（0.9%）となっている。

図表－149 相談相手（いざという時のお金の援助）



第4章 調査結果（保護者）

学年別、生活困難度別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－１５０ 学年、生活困難度別 相談相手（いざという時のお金の援助）

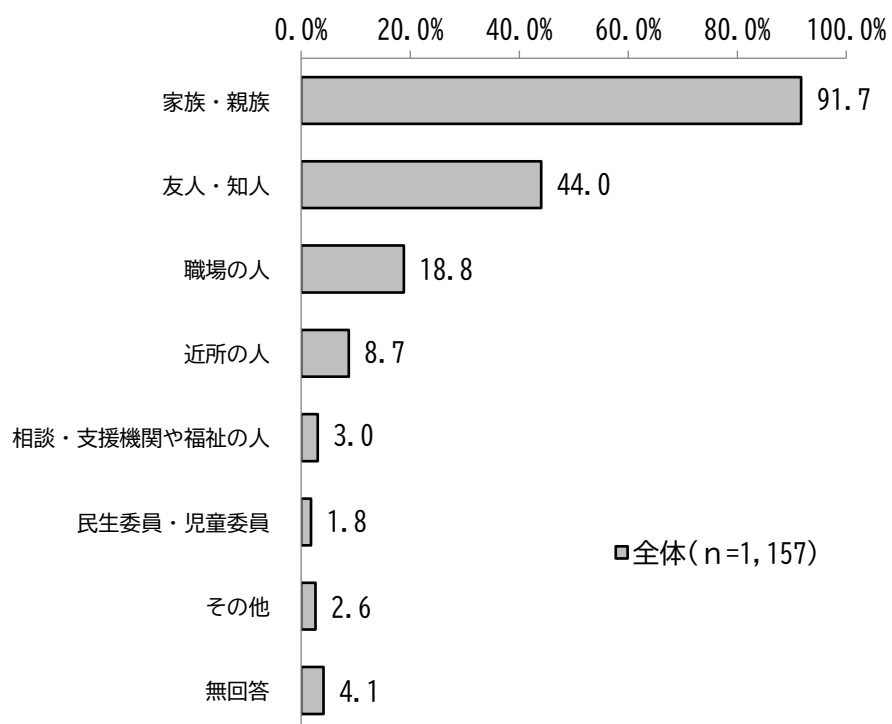
単位：％

		調査数	家族・親族	友人・知人	近所の人	職場の人	民生委員・児童委員	相談・支援機関や福祉の人	その他	無回答
全 体		1,462	98.2	2.5	0.3	0.5	0.1	0.9	0.7	1.1
学 年	小学５年生	770	98.7	2.6	0.1	0.4	－	0.8	0.3	0.9
	中学２年生	681	97.7	2.3	0.4	0.7	0.1	1.0	1.2	1.3
	無回答	11	90.9	9.1	－	－	－	－	－	－
困 難 度 生 活	一般層	1,204	98.3	2.0	0.2	0.6	0.1	0.5	0.6	1.2
	周辺層	180	97.2	5.6	－	0.6	－	3.9	1.7	0.6
	困窮層	70	97.1	4.3	1.4	－	－	－	－	－
	無回答	8	100.0	－	－	－	－	－	－	－

（d）その他

その他の相談相手について聞いたところ、「家族・親族」（91.7％）の割合が最も高く、次いで「友人・知人」（44.0％）、「職場の人」（18.8％）となっている。

図表－151 相談相手（その他）



第4章 調査結果（保護者）

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「家族・親族」、「友人・知人」の割合が低くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表一 1 5 2 学年、生活困難度別 相談相手（その他）

単位：％

		調査数	家族・親族	友人・知人	近所の人	職場の人	民生委員・児童委員	相談・支援機関や福祉の人	その他	無回答
全 体		1,157	91.7	44.0	8.7	18.8	1.8	3.0	2.6	4.1
学 年	小学5年生	595	91.1	44.5	9.9	19.5	2.2	3.7	2.7	4.7
	中学2年生	556	92.3	43.5	7.6	18.0	1.4	2.2	2.5	3.6
	無回答	6	100.0	33.3	－	16.7	－	16.7	－	－
困 難 度 生 活	一般層	975	92.2	44.2	9.0	18.7	2.1	3.0	2.5	4.3
	周辺層	133	88.7	43.6	6.0	19.5	0.8	3.0	3.0	4.5
	困窮層	44	88.6	40.9	9.1	15.9	－	4.5	4.5	－
	無回答	5	100.0	40.0	20.0	40.0	－	－	－	－

18. 現在の暮らしの状況

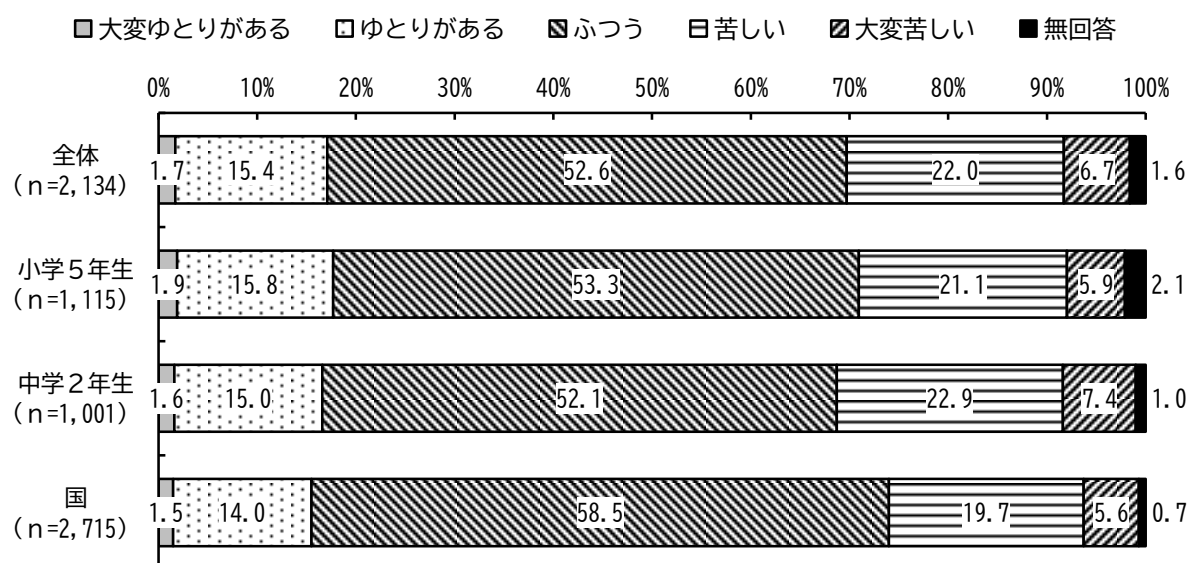
問20 あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。

現在の暮らしの状況について聞いたところ、「ふつう」（52.6％）の割合が最も高く、次いで「苦しい」（22.0％）、「ゆとりがある」（15.4％）となっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて、「苦しい」、「大変苦しい」の割合が高くなっていく。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－153 現在の暮らしの状況



図表－154 学年、生活困難度別 現在の暮らしの状況

単位：％

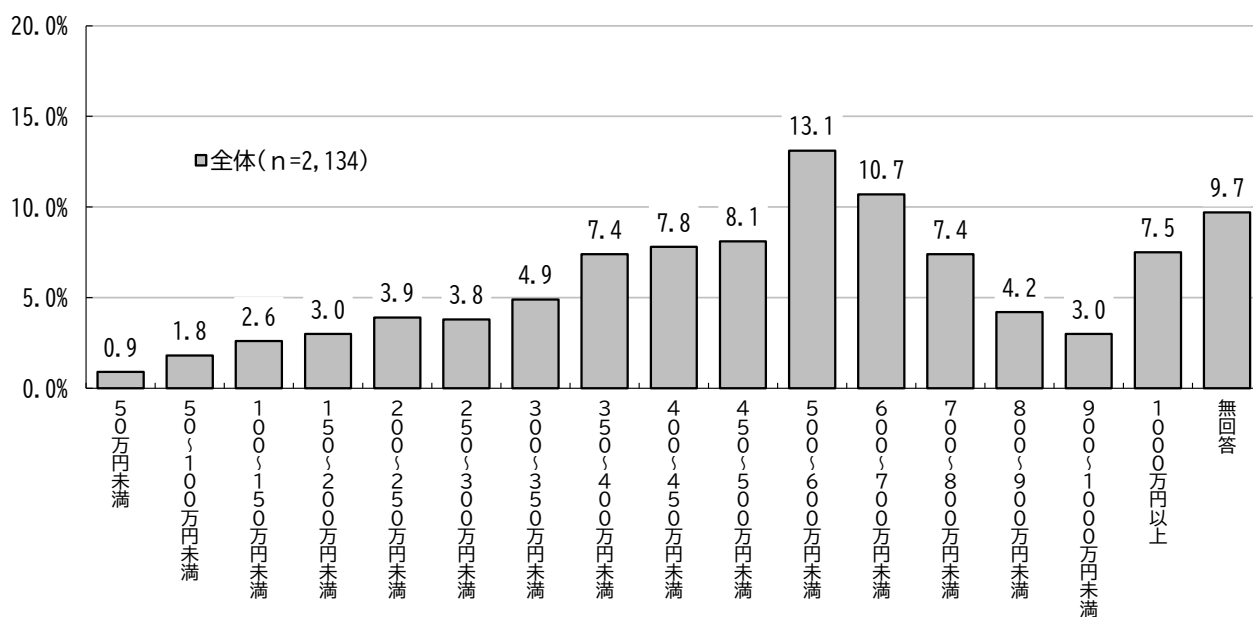
		調査数	大変ゆとりがある	ゆとりがある	ふつう	苦しい	大変苦しい	無回答
全 体		2,134	1.7	15.4	52.6	22.0	6.7	1.6
学 年	小学5年生	1,115	1.9	15.8	53.3	21.1	5.9	2.1
	中学2年生	1,001	1.6	15.0	52.1	22.9	7.4	1.0
	無回答	18	-	11.1	33.3	33.3	11.1	11.1
生活困難度	一般層	1,701	2.1	18.6	58.8	17.2	2.4	0.9
	周辺層	276	0.4	3.6	37.7	42.4	14.9	1.1
	困窮層	133	-	0.8	5.3	45.9	45.9	2.3
	無回答	24	-	-	45.8	-	-	54.2

19. 世帯の手取り収入

問21 令和5年1月から12月までの、あなたの世帯の手取り収入（いわゆる可処分所得）の合計額は、およそいくらでしたか。世帯の収入から、税金（自動車税等も含む）や社会保険料、企業年金の掛金を差し引いた後の額をお答えください。

世帯の手取り収入について聞いたところ、「500～600万円未満」（13.1％）の割合が最も高く、次いで「600～700万円未満」（10.7％）、「450～500万円未満」（8.1％）となっている。

図表ー155 世帯の手取り収入



生活困難度別にみると、手取り収入400万円以上からはすべての項目で、生活困難層より一般層の方が、割合が高くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－156 学年、生活困難度別 世帯の手取り収入

単位：％

		調査数	50万円未満	50～100万円未満	100～150万円未満	150～200万円未満	200～250万円未満	250～300万円未満	300～350万円未満	350～400万円未満	400～450万円未満
全 体		2,134	0.9	1.8	2.6	3.0	3.9	3.8	4.9	7.4	7.8
学 年	小学5年生	1,115	0.7	1.8	2.3	2.8	3.9	4.1	5.2	8.1	7.5
	中学2年生	1,001	1.2	1.8	2.8	3.4	3.7	3.4	4.6	6.8	8.2
	無回答	18	-	-	11.1	-	16.7	11.1	-	-	-
困 難 度 生 活	一般層	1,701	-	-	0.1	0.4	1.0	3.2	5.1	7.0	8.8
	周辺層	276	5.8	9.4	13.8	12.7	15.9	6.2	5.1	9.8	2.9
	困窮層	133	3.0	9.0	12.0	17.3	17.3	7.5	3.0	9.0	6.8
	無回答	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-

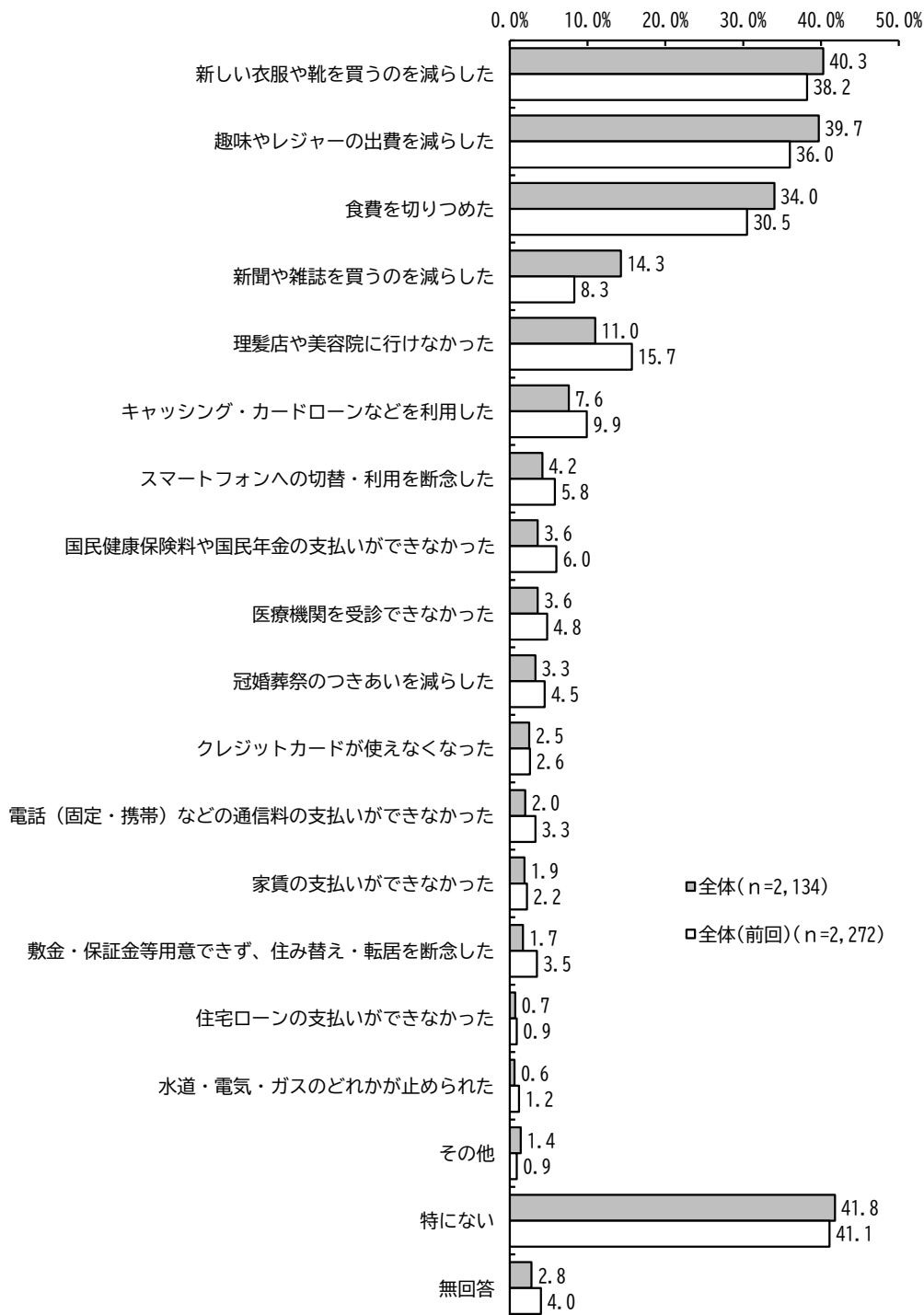
		調査数	450～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900～1000万円未満	1000万円以上	無回答
全 体		2,134	8.1	13.1	10.7	7.4	4.2	3.0	7.5	9.7
学 年	小学5年生	1,115	7.1	13.2	10.8	7.3	3.9	3.3	7.4	10.5
	中学2年生	1,001	9.3	12.7	10.9	7.5	4.6	2.7	7.7	8.8
	無回答	18	5.6	27.8	-	5.6	-	-	5.6	16.7
困 難 度 生 活	一般層	1,701	9.1	15.5	12.7	9.1	5.2	3.7	9.3	9.9
	周辺層	276	5.1	4.0	2.9	0.4	0.4	0.4	0.7	4.7
	困窮層	133	3.0	3.8	3.8	1.5	0.8	-	-	2.3
	無回答	24	-	-	-	-	-	-	-	100.0

20. 経済的な理由で経験したこと

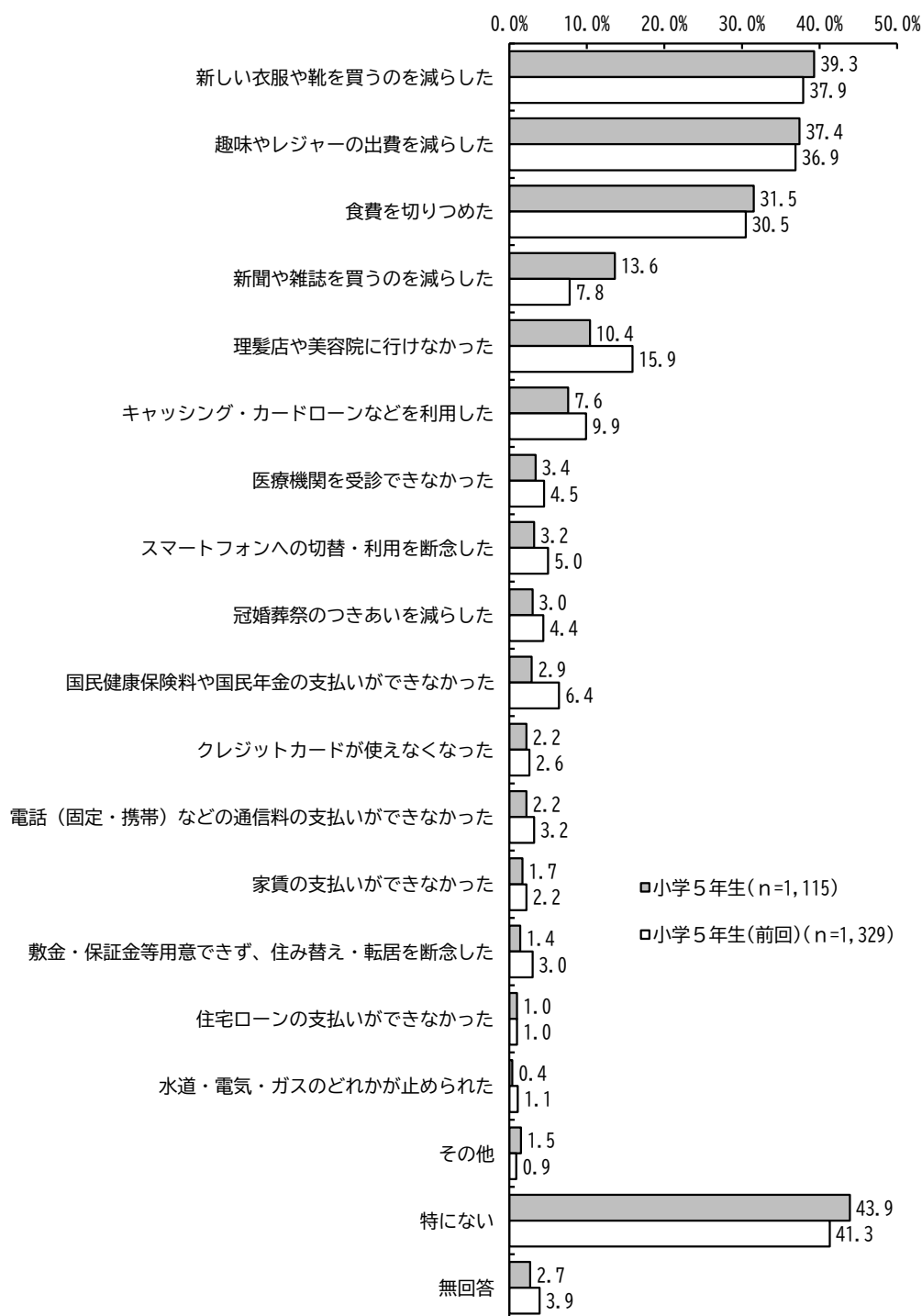
問22 あなたの世帯では、おおむね1年の間に、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。

経済的な理由で経験したことについて聞いたところ、「特にない」(41.8%)の割合が最も高くなっている。「特にない」を除くと、「新しい衣服やくつを買うのを減らした」(40.3%)の割合が最も高く、次いで「趣味やレジャーの出費を減らした」(39.7%)、「食費を切りつめた」(34.0%)となっている。

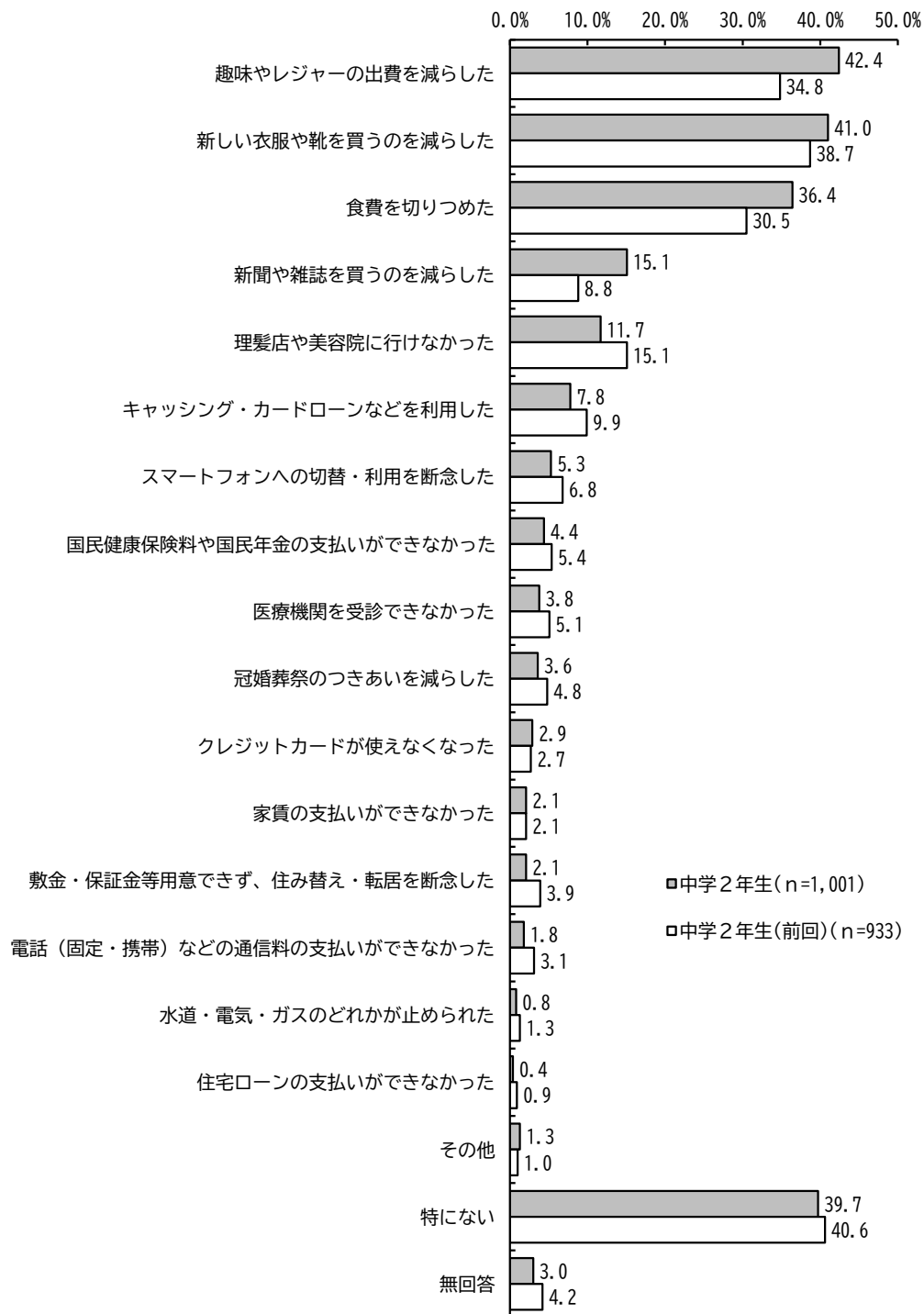
図表ー157 経済的な理由で経験したこと（全体）



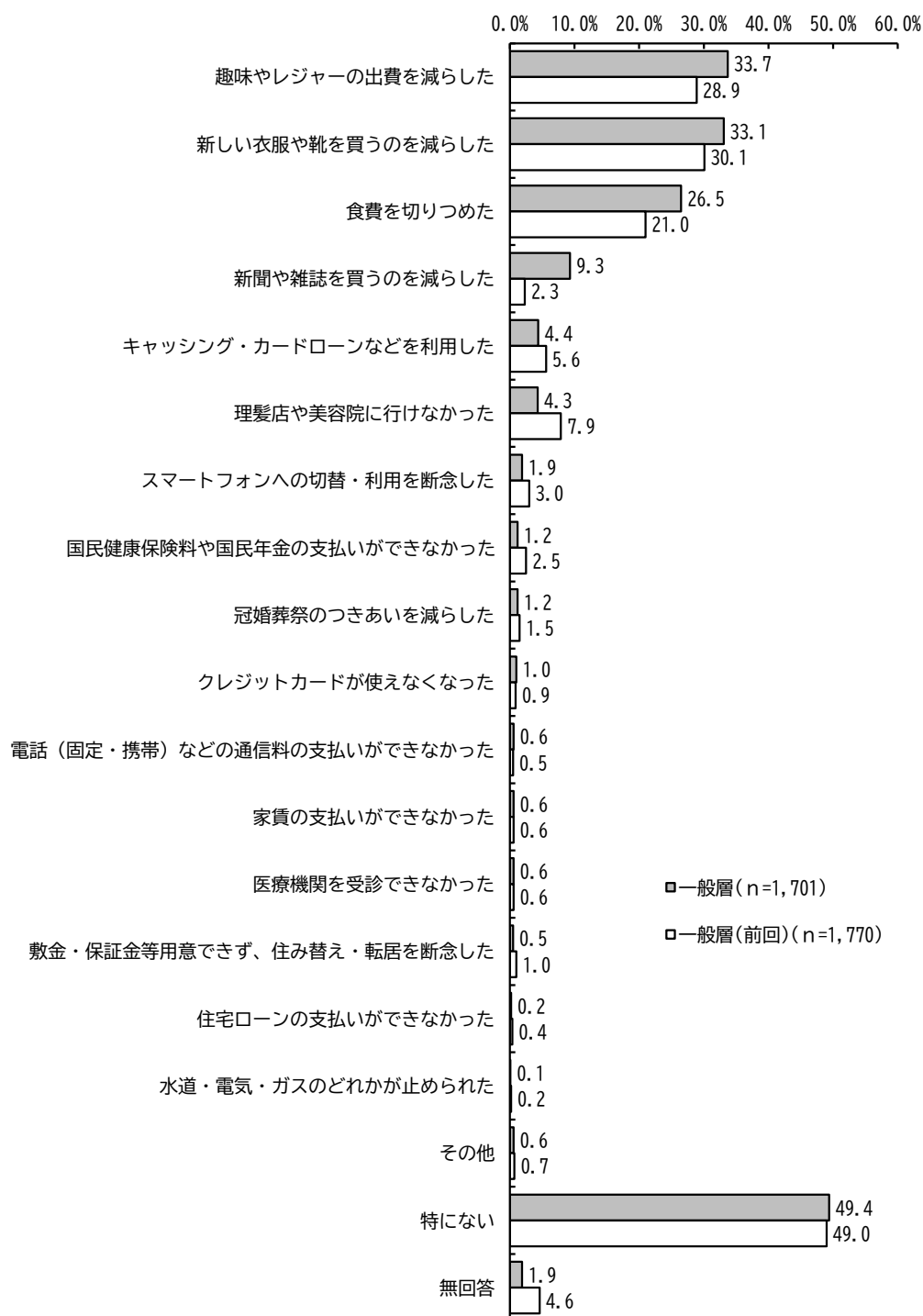
図表－158 経済的な理由で経験したこと（小学5年生）



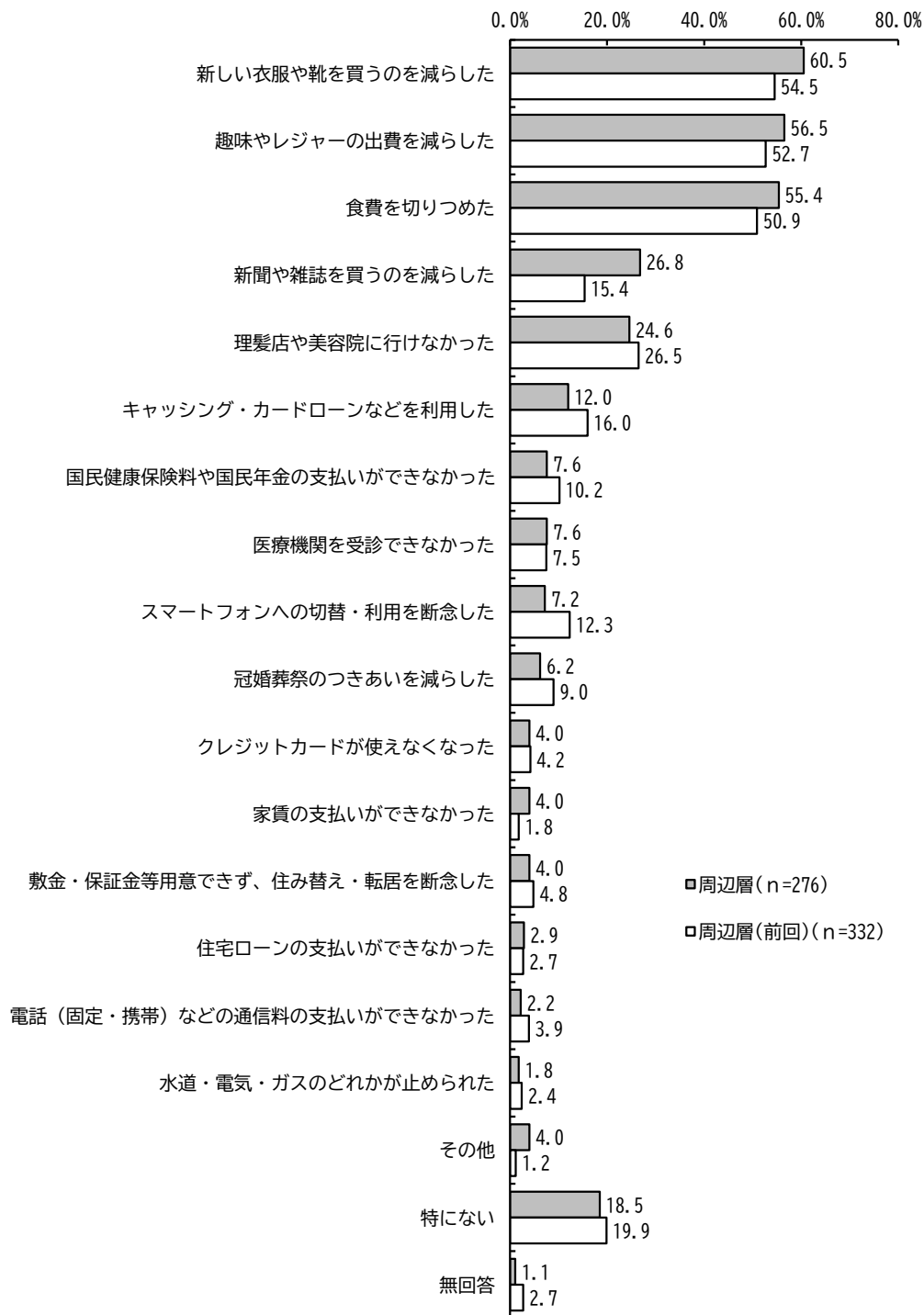
図表－１５９ 経済的な理由で経験したこと（中学２年生）



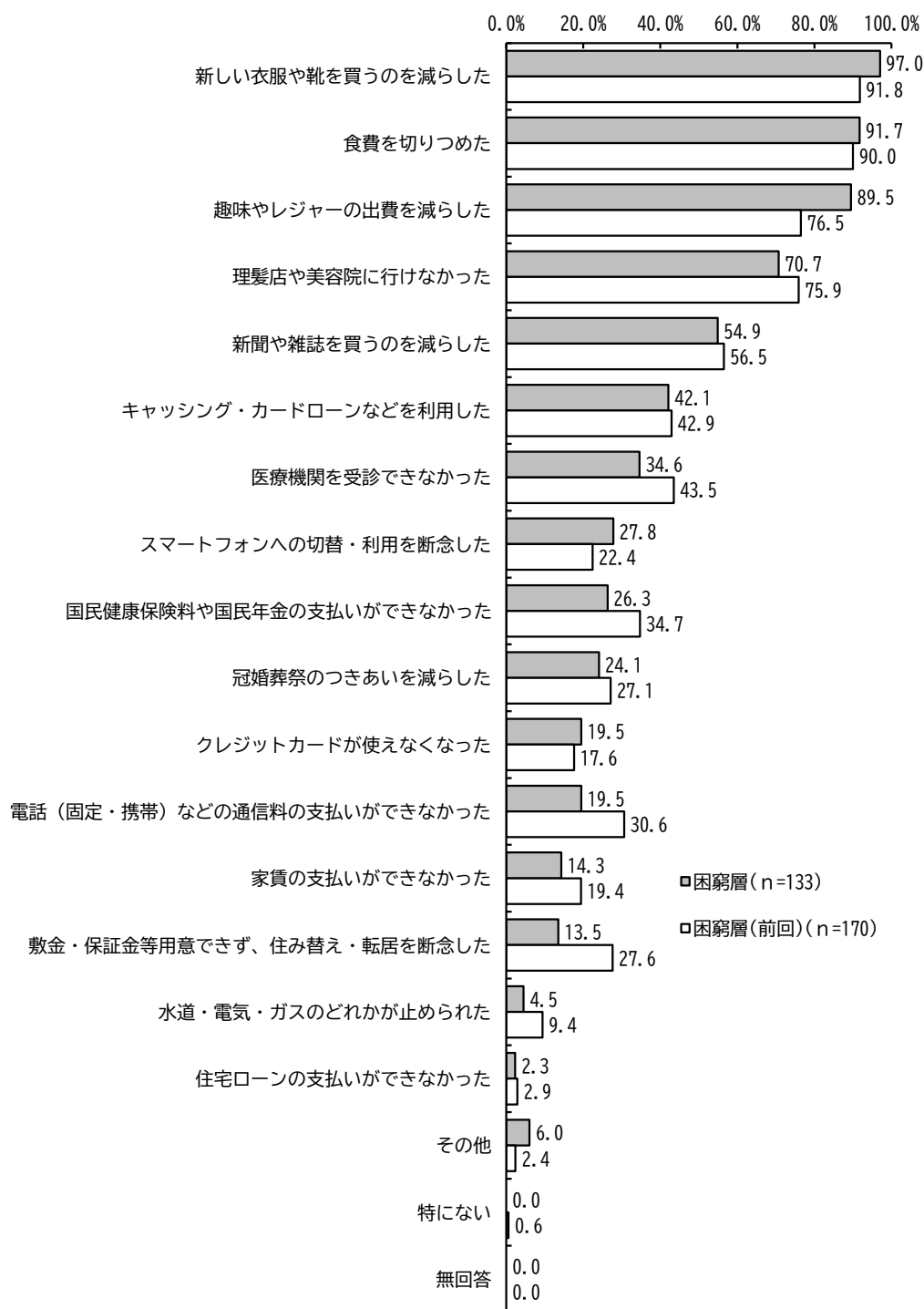
図表－１６０ 経済的な理由で経験したこと（一般層）



図表－１６１ 経済的な理由で経験したこと（周辺層）



図表－１６２ 経済的な理由で経験したこと（困窮層）



第4章 調査結果（保護者）

学年別にみると、中学2年生の方が「食費を切りつめた」（36.4%）、「趣味やレジャーの出費を減らした」（42.4%）の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、「住宅ローンの支払いができなかった」、「特にない」以外は、困難度が上がるにつれて割合が高くなっている。

図表－163 学年、生活困難度別 経済的な理由で経験したこと

単位：％

	調査数	水道・電気・ガスのどれかが止められた	クレジットカードが使えなくなった	国民健康保険料や国民年金の支払いができなかった	携帯電話（固定・携帯）などの通信料の支払いができなかった	家賃の支払いができなかった	住宅ローンの支払いができなかった	食費を切りつめた	新しい衣服や靴を買うのを減らした	新聞や雑誌を買うのを減らした	冠婚葬祭のつきあいを減らした
全 体	2,134	0.6	2.5	3.6	2.0	1.9	0.7	34.0	40.3	14.3	3.3
学 年	小学5年生	1,115	0.4	2.2	2.9	2.2	1.7	1.0	31.5	39.3	3.0
	中学2年生	1,001	0.8	2.9	4.4	1.8	2.1	0.4	36.4	41.0	3.6
	無回答	18	-	-	5.6	-	-	-	55.6	61.1	-
困 難 度	一般層	1,701	0.1	1.0	1.2	0.6	0.6	0.2	26.5	33.1	1.2
	周辺層	276	1.8	4.0	7.6	2.2	4.0	2.9	55.4	60.5	6.2
	困窮層	133	4.5	19.5	26.3	19.5	14.3	2.3	91.7	97.0	24.1
	無回答	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-

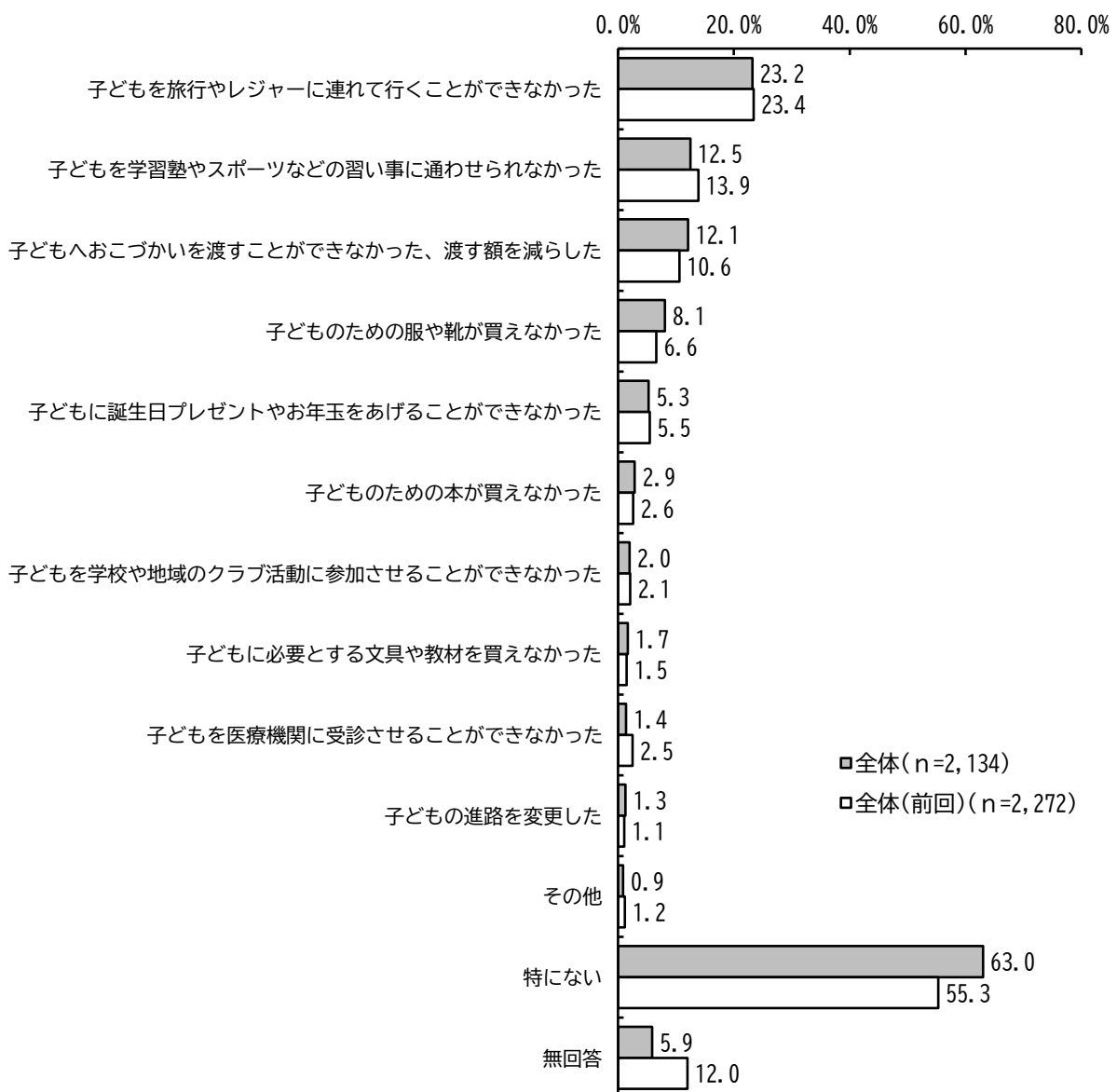
	調査数	医療機関を受診できなかった	理髪店や美容院に行けなかった	スマートフォンへの切替・利用を断念した	数金・保証金等用意できず、住み替え・転居を断念した	趣味やレジャーの出費を減らした	キャッシング・カードローンなどを利用した	その他	特にない	無回答
全 体	2,134	3.6	11.0	4.2	1.7	39.7	7.6	1.4	41.8	2.8
学 年	小学5年生	1,115	3.4	10.4	3.2	1.4	37.4	7.6	1.5	2.7
	中学2年生	1,001	3.8	11.7	5.3	2.1	42.4	7.8	1.3	3.0
	無回答	18	5.6	11.1	-	-	38.9	-	27.8	-
困 難 度	一般層	1,701	0.6	4.3	1.9	0.5	33.7	4.4	0.6	1.9
	周辺層	276	7.6	24.6	7.2	4.0	56.5	12.0	4.0	1.1
	困窮層	133	34.6	70.7	27.8	13.5	89.5	42.1	6.0	-
	無回答	24	-	-	-	-	-	-	-	100.0

21. 経済的な理由で子どもにしてあげられなかったこと

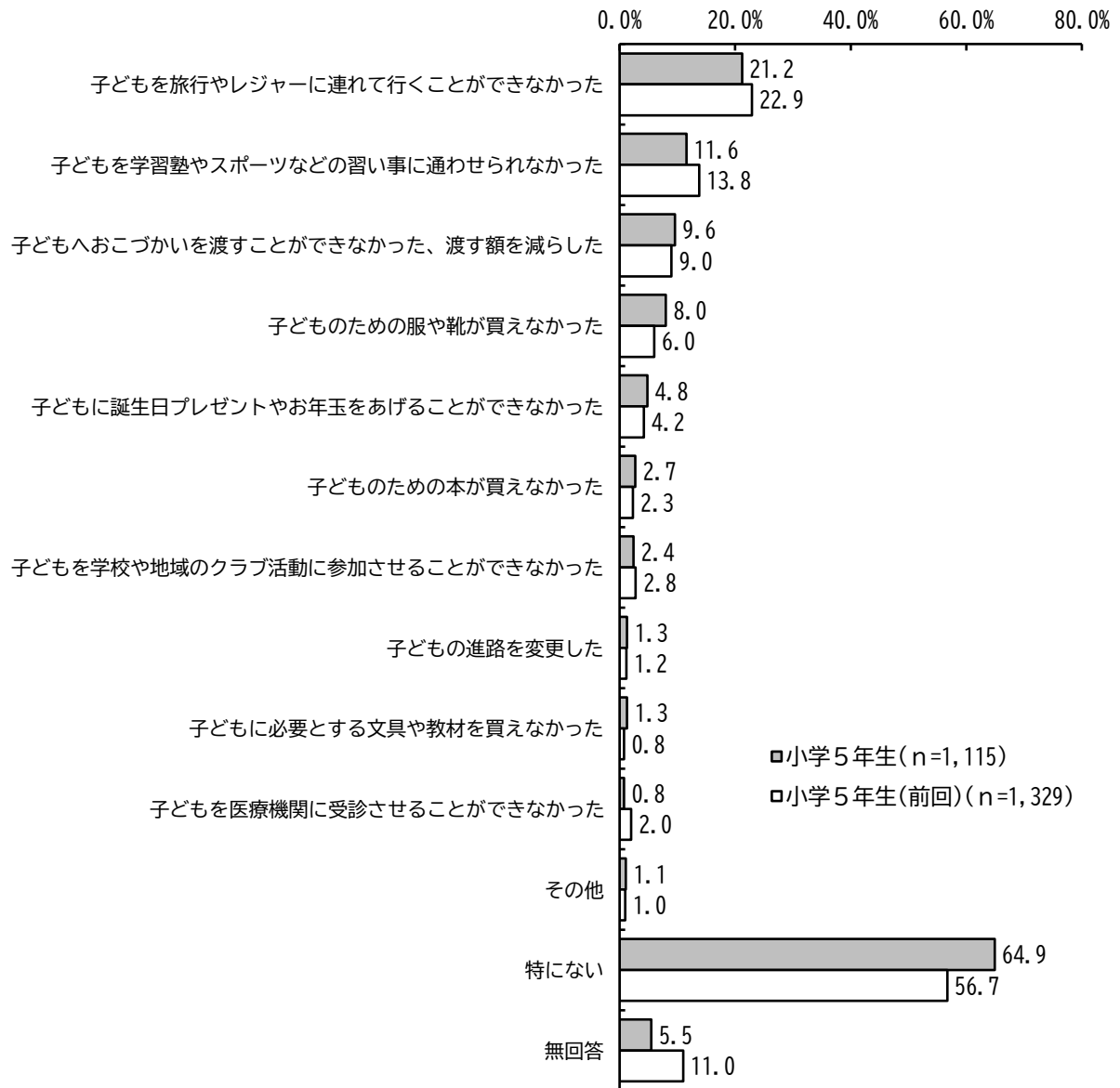
問23 あなたの世帯では、おおむね1年の間に、経済的な理由で、子どもに関して次のような経験をされたことがありますか。

経済的な理由で子どもにしてあげられなかったことについて聞いたところ、「特にない」(63.0%)の割合が最も高くなっている。「特にない」を除くと、「子どもを旅行やレジャーに連れて行くことができなかった」(23.2%)の割合が最も高く、次いで「子どもを学習塾やスポーツなどの習い事に通わせられなかった」(12.5%)、「子どもへおこづかいを渡すことができなかった、渡す額を減らした」(12.1%)となっている。

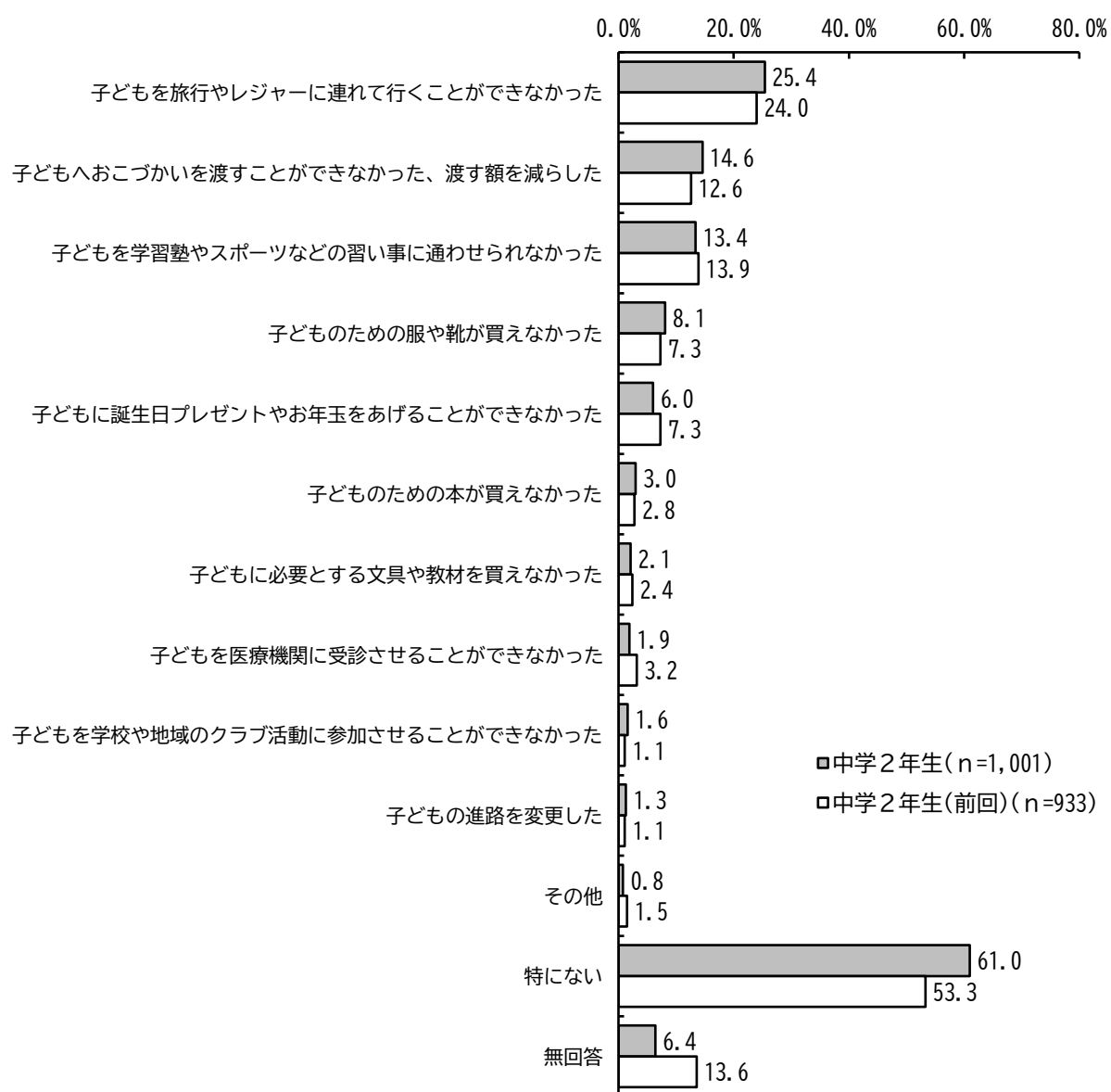
図表ー164 経済的な理由で子どもにしてあげられなかったこと（全体）



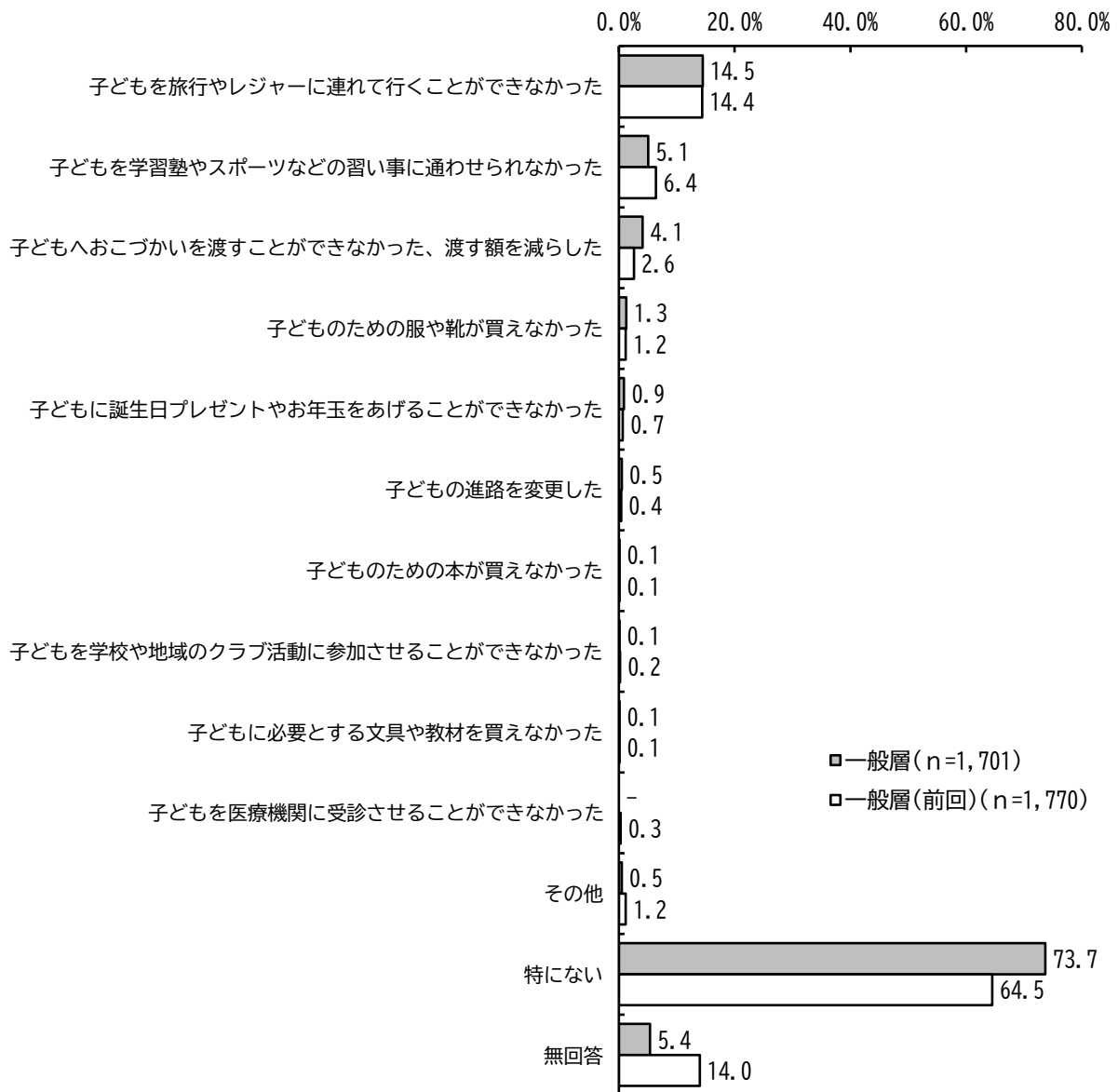
図表ー165 経済的な理由で子どもにしてあげられなかったこと（小学5年生）



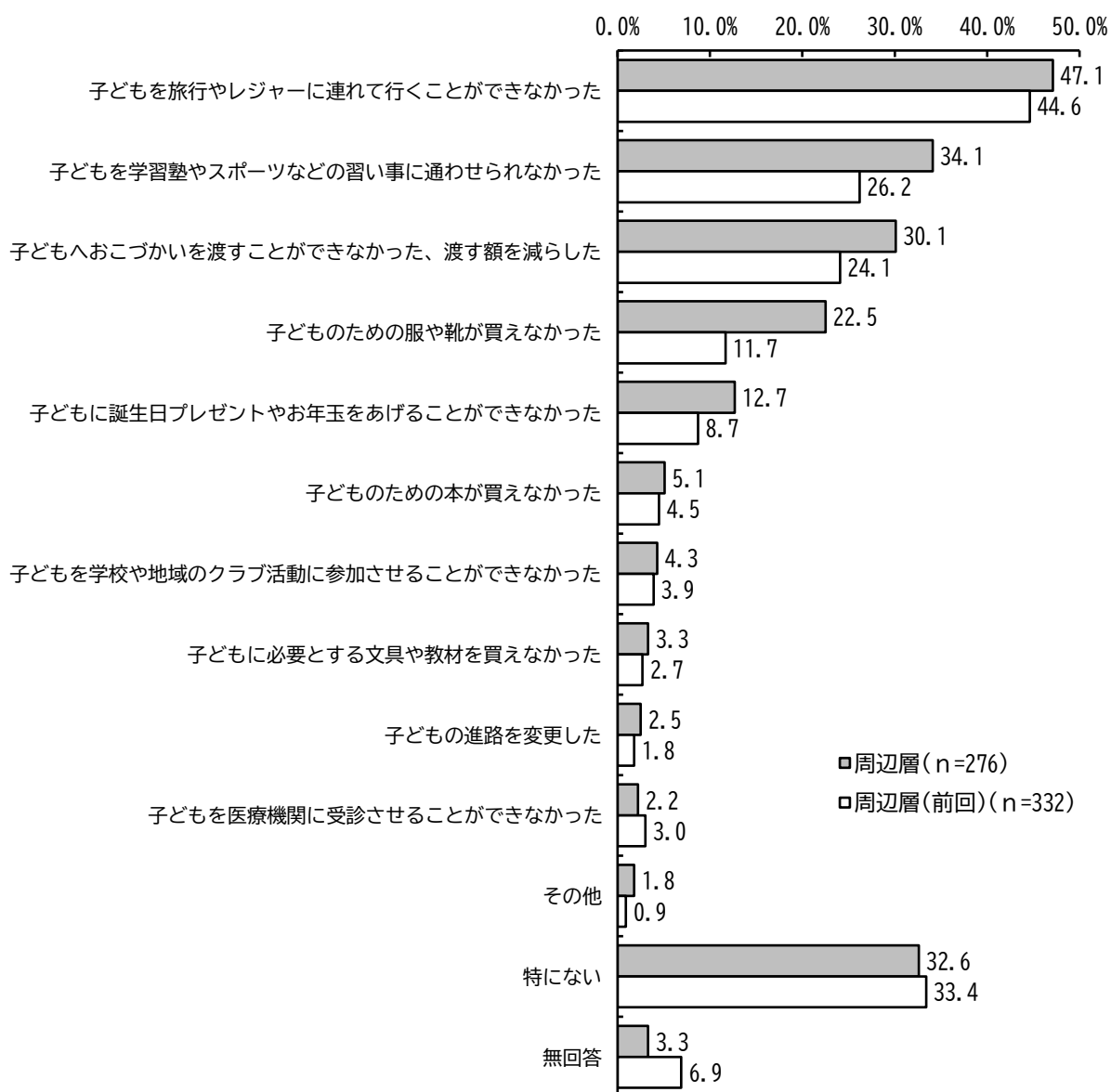
図表－166 経済的な理由で子どもにしてあげられなかったこと（中学2年生）



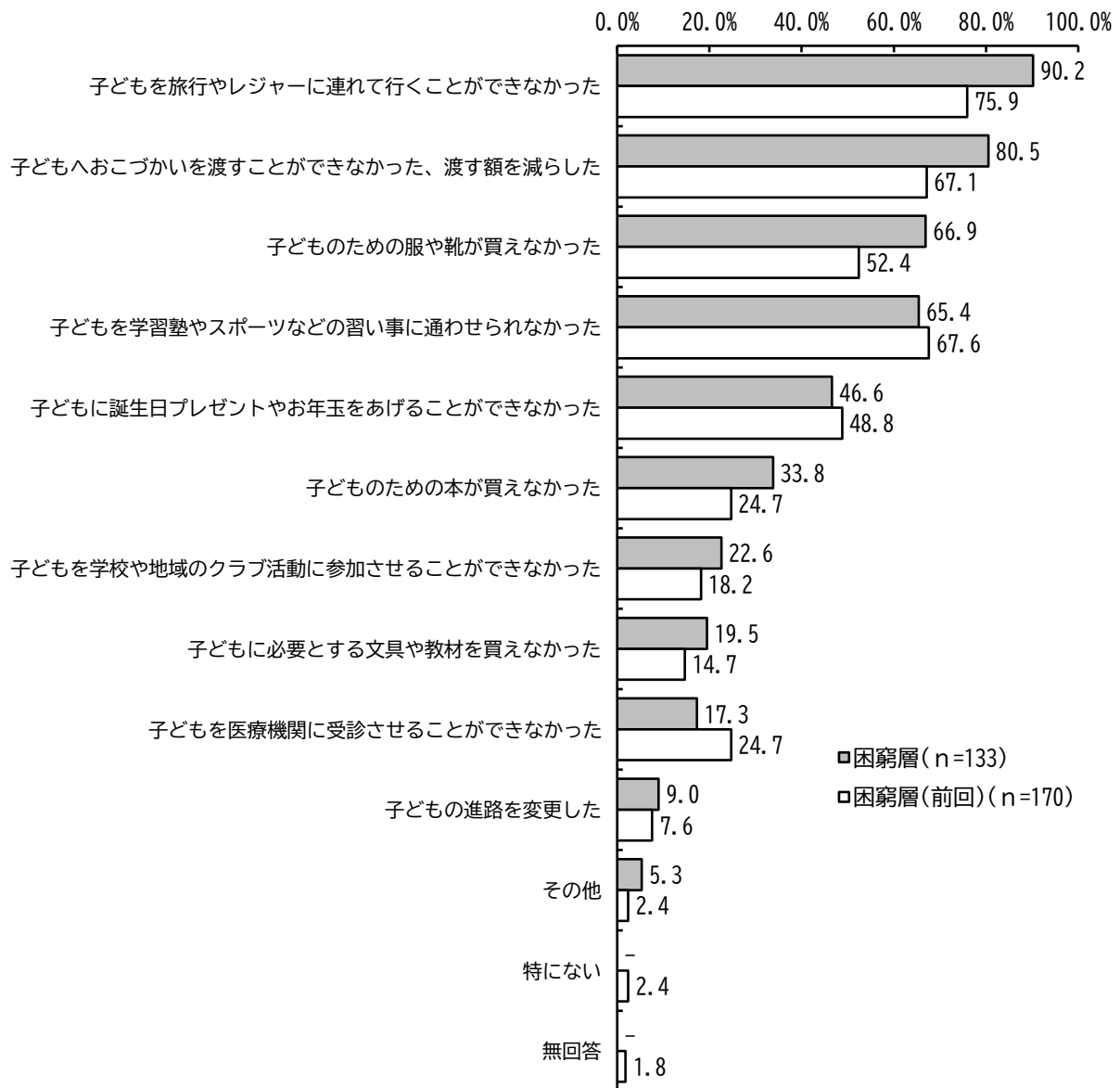
図表－１６７ 経済的な理由で子どもにしてあげられなかったこと（一般層）



図表－168 経済的な理由で子どもにしてあげられなかったこと（周辺層）



図表－１６９ 経済的な理由で子どもにしてあげられなかったこと（困窮層）



学年別にみると、中学2年生の方が「子どもへおこづかいを渡すことができなかった、渡す額を減らした」（14.6%）の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、「特にない」以外は、困難度が上がるにつれて割合が高くなっている。

図表－170 学年、生活困難度別 経済的な理由で子どもにしてあげられなかったこと

単位：％

		調査数	子どもが医療機関に受診できなかった	子どもの進路を変更した	子どものための本が買えなかった	子どものための服や靴が買えなかった	子どもへおこづかいを渡す額を減らした	子どもへおこづかいを渡すことができなかった	子どもを学校や地域のクラブ活動に参加させることができなかった	子どもの学習塾や通信講座などを利用できなかった	子どもに必要な文具や教材を買い取らなかった
全 体		2,134	1.4	1.3	2.9	8.1	12.1	2.0	12.5	1.7	
学 年	小学5年生	1,115	0.8	1.3	2.7	8.0	9.6	2.4	11.6	1.3	
	中学2年生	1,001	1.9	1.3	3.0	8.1	14.6	1.6	13.4	2.1	
	無回答	18	5.6	-	5.6	16.7	33.3	-	22.2	-	
困 難 度 生 活	一般層	1,701	-	0.5	0.1	1.3	4.1	0.1	5.1	0.1	
	周辺層	276	2.2	2.5	5.1	22.5	30.1	4.3	34.1	3.3	
	困窮層	133	17.3	9.0	33.8	66.9	80.5	22.6	65.4	19.5	
	無回答	24	-	-	-	-	-	-	-	-	

		調査数	子どもが生まれた日を誕生日に祝うことができなかった	子どもを旅行やレジャーに連れて行くことができなかった	その他	特にない	無回答
全 体		2,134	5.3	23.2	0.9	63.0	5.9
学 年	小学5年生	1,115	4.8	21.2	1.1	64.9	5.5
	中学2年生	1,001	6.0	25.4	0.8	61.0	6.4
	無回答	18	-	33.3	-	50.0	-
困 難 度 生 活	一般層	1,701	0.9	14.5	0.5	73.7	5.4
	周辺層	276	12.7	47.1	1.8	32.6	3.3
	困窮層	133	46.6	90.2	5.3	-	-
	無回答	24	-	-	-	-	100.0

2 2. 支援制度の利用経験

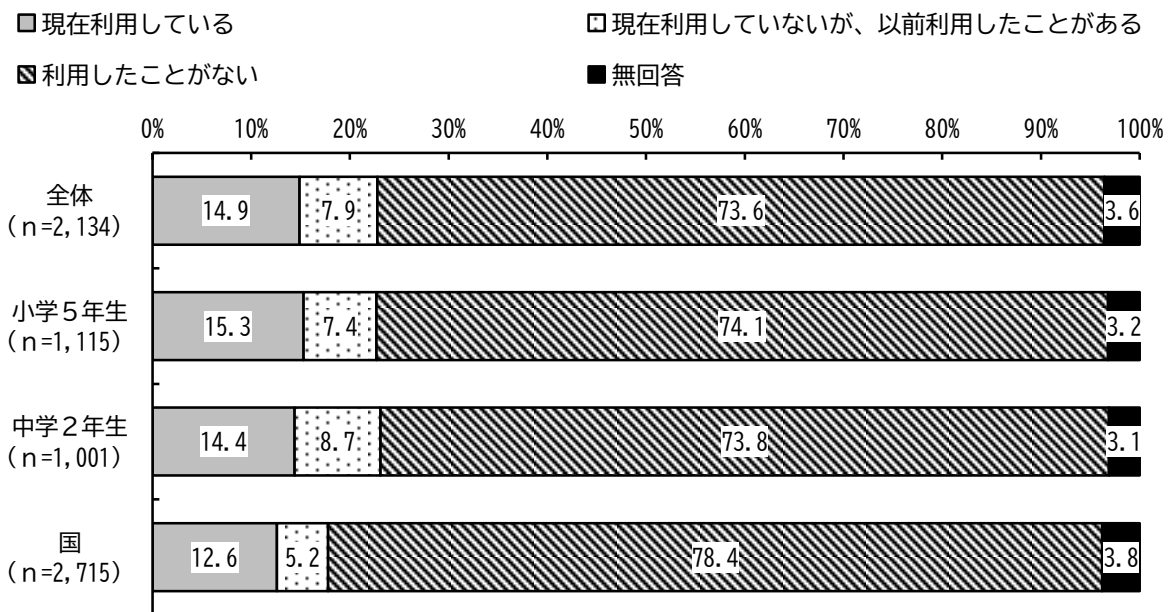
問2 4 あなたの家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。

（a）就学援助

就学援助の利用経験について聞いたところ、「利用したことがない」（73.6％）の割合が最も高く、次いで「現在利用している」（14.9％）、「現在利用していないが、以前利用したことがある」（7.9％）となっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「現在利用している」の割合が高くなっている。学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－1 7 1 支援制度の利用経験（就学援助）



図表－1 7 2 学年、生活困難度別 支援制度の利用経験（就学援助）

単位：％						
		調査数	現在利用している	現在利用していないが、以前利用したことがある	利用したことがない	無回答
全 体		2,134	14.9	7.9	73.6	3.6
学 年	小学5年生	1,115	15.3	7.4	74.1	3.2
	中学2年生	1,001	14.4	8.7	73.8	3.1
	無回答	18	11.1	－	33.3	55.6
生活 困難度	一般層	1,701	8.1	7.2	81.5	3.2
	周辺層	276	38.8	11.2	46.0	4.0
	困窮層	133	53.4	9.8	35.3	1.5
	無回答	24	4.2	8.3	45.8	41.7

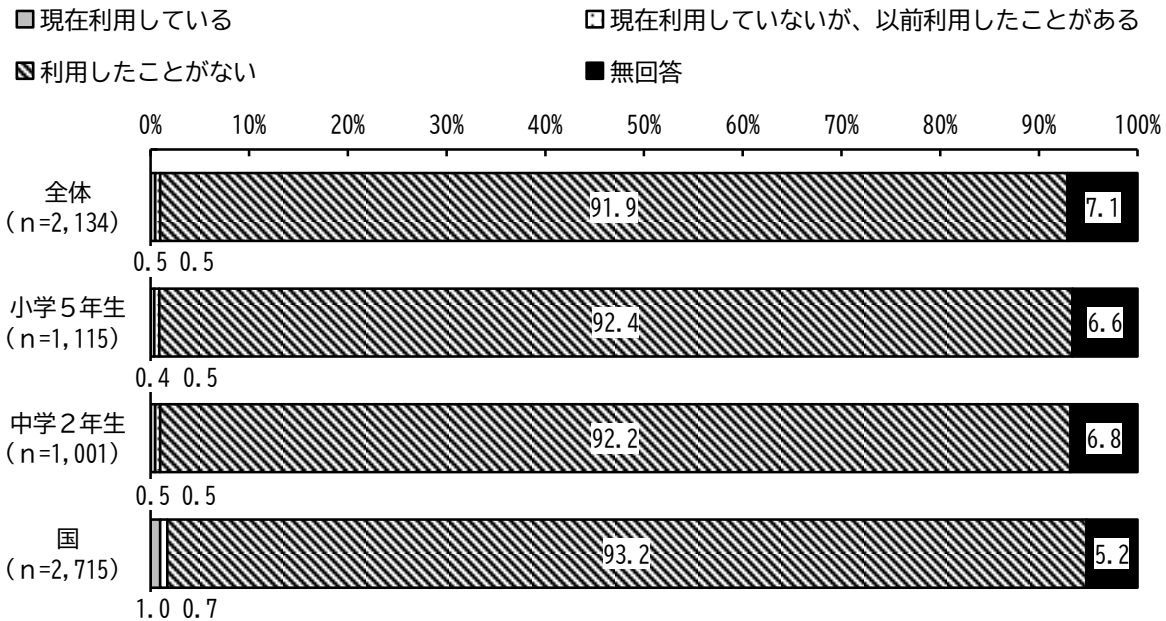
（b）生活保護

生活保護の利用経験について聞いたところ、「利用したことがない」（91.9％）の割合が最も高く、次いで「現在利用している」、「現在利用していないが、以前利用したことがある」（ともに0.5％）となっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「利用したことがない」の割合が低くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－173 支援制度の利用経験（生活保護）



図表－174 学年、生活困難度別 支援制度の利用経験（生活保護）

単位：％

		調査数	現在利用している	現在利用していないが、以前利用したことがある	利用したことがない	無回答
学年	全 体	2,134	0.5	0.5	91.9	7.1
	小学5年生	1,115	0.4	0.5	92.4	6.6
	中学2年生	1,001	0.5	0.5	92.2	6.8
	無回答	18	－	－	44.4	55.6
生活困難度	一般層	1,701	0.2	0.1	94.1	5.6
	周辺層	276	1.8	1.1	86.6	10.5
	困窮層	133	0.8	3.8	82.7	12.8
	無回答	24	－	4.2	50.0	45.8

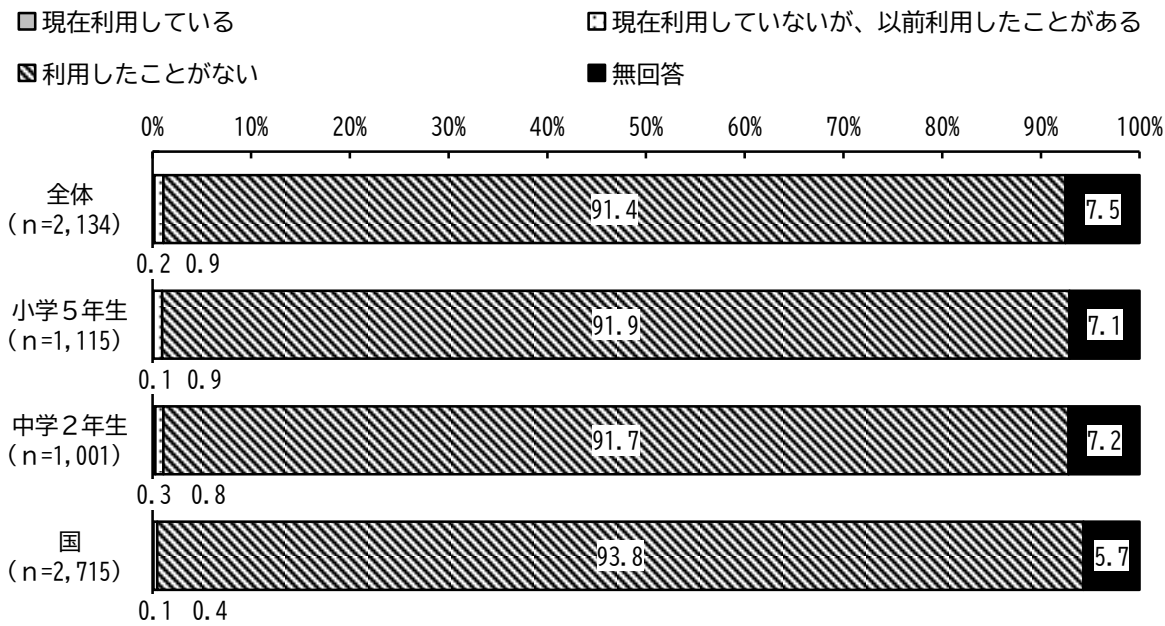
(c) 生活困窮者の自立支援相談窓口

生活困窮者の自立支援相談窓口の利用経験について聞いたところ、「利用したことがない」(91.4%)の割合が最も高く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」(0.9%)、「現在利用している」(0.2%)となっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「利用したことがない」の割合が低くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－１７５ 支援制度の利用経験（生活困窮者の自立支援相談窓口）



図表－１７６ 学年、生活困難度別 支援制度の利用経験（生活困窮者の自立支援相談窓口）

単位：％

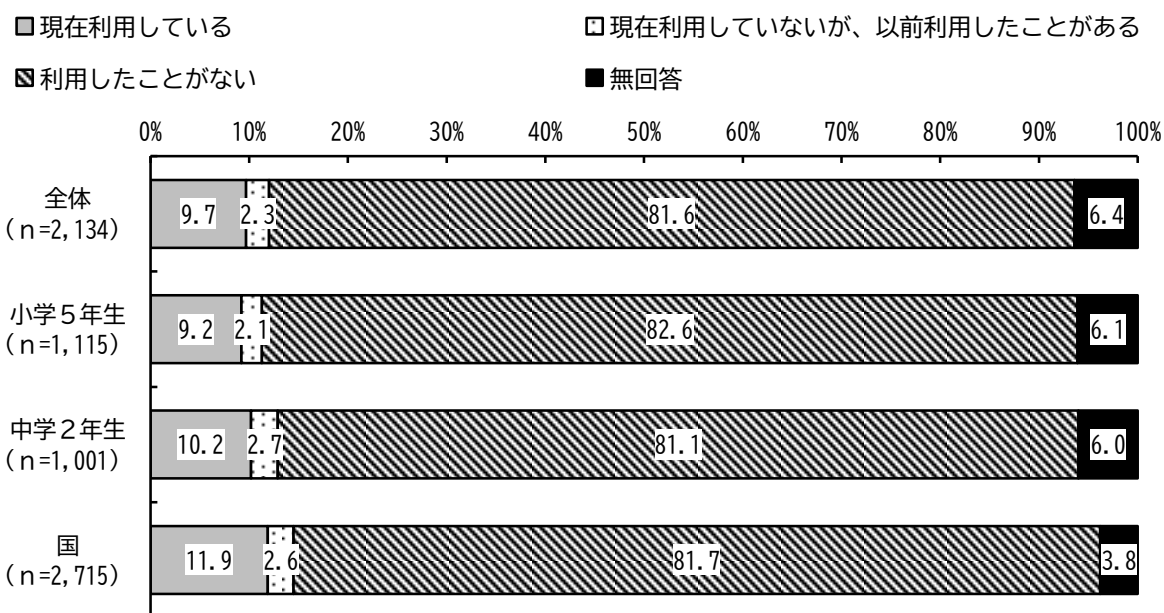
		調査数	現在利用している	現在利用していないが、以前利用したことがある	利用したことがない	無回答
学年	全 体	2,134	0.2	0.9	91.4	7.5
	小学5年生	1,115	0.1	0.9	91.9	7.1
	中学2年生	1,001	0.3	0.8	91.7	7.2
	無回答	18	－	5.6	38.9	55.6
生活困難度	一般層	1,701	0.1	0.2	93.8	5.9
	周辺層	276	0.4	2.9	84.4	12.3
	困窮層	133	1.5	4.5	81.2	12.8
	無回答	24	－	4.2	54.2	41.7

(d) 児童扶養手当

児童扶養手当の利用経験について聞いたところ、「利用したことがない」（81.6％）の割合が最も高く、次いで「現在利用している」（9.7％）、「現在利用していないが、以前利用したことがある」（2.3％）となっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「現在利用している」の割合が高くなっている。学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－１７７ 支援制度の利用経験（児童扶養手当）



図表－１７８ 学年、生活困難度別 支援制度の利用経験（児童扶養手当）

単位：％

		調査数	現在利用している	現在利用していないが、以前利用したことがある	利用したことがない	無回答
全 体		2,134	9.7	2.3	81.6	6.4
学 年	小学5年生	1,115	9.2	2.1	82.6	6.1
	中学2年生	1,001	10.2	2.7	81.1	6.0
	無回答	18	11.1	-	44.4	44.4
生活困難度	一般層	1,701	5.7	1.9	87.3	5.1
	周辺層	276	22.8	3.3	63.8	10.1
	困窮層	133	33.1	6.8	51.9	8.3
	無回答	24	12.5	-	45.8	41.7

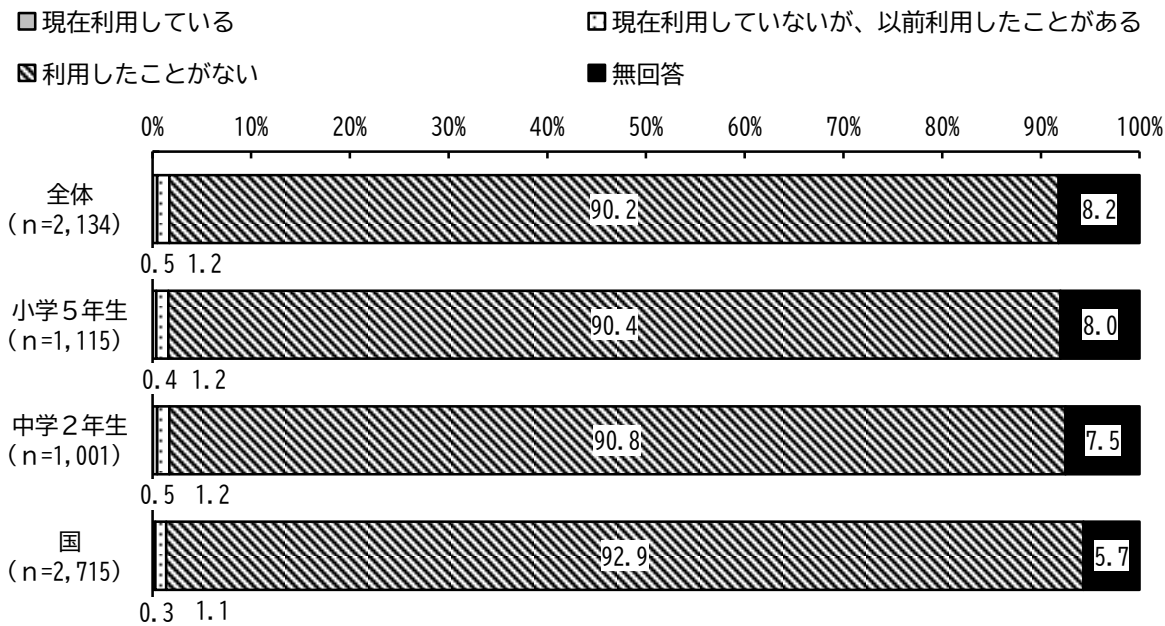
(e) ひとり親サポートセンター

ひとり親サポートセンターの利用経験について聞いたところ、「利用したことがない」（90.2％）の割合が最も高く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」（1.2％）、「現在利用している」（0.5％）となっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「利用したことがない」の割合が低くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－１７９ 支援制度の利用経験（ひとり親サポートセンター）



図表－１８０ 学年、生活困難度別 支援制度の利用経験（ひとり親サポートセンター）

単位：％

		調査数	現在利用している	現在利用しているが、以前利用したことがある	利用したことがない	無回答
全 体		2,134	0.5	1.2	90.2	8.2
学 年	小学5年生	1,115	0.4	1.2	90.4	8.0
	中学2年生	1,001	0.5	1.2	90.8	7.5
	無回答	18	－	－	44.4	55.6
生活 困難度	一般層	1,701	0.1	0.5	93.0	6.5
	周辺層	276	1.8	3.3	82.6	12.3
	困窮層	133	1.5	5.3	78.2	15.0
	無回答	24	8.3	4.2	45.8	41.7

23. 支援制度を利用しなかった理由

問24 「3. 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。

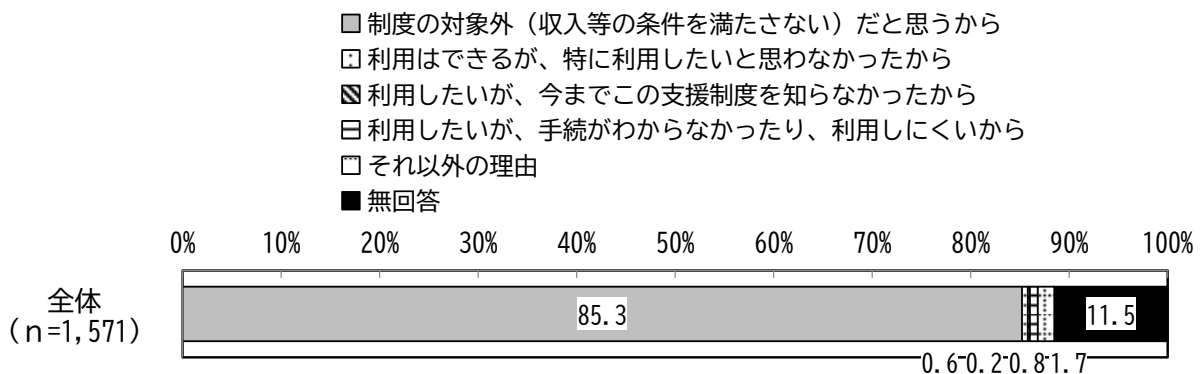
（a）就学援助

就学援助を利用しなかった理由について聞いたところ、「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」（85.3％）の割合が最も高く、次いで「それ以外の理由」（1.7％）、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」（0.8％）となっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」の割合が低くなり、他の理由の割合が高くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－181 支援制度を利用しなかった理由（就学援助）



図表－182 学年、生活困難度別 支援制度を利用しなかった理由（就学援助）

単位：％

	調査数	制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから	利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	それ以外の理由	無回答
全 体	1,571	85.3	0.6	0.2	0.8	1.7	11.5
学 年	小学5年生	826	85.1	0.5	0.2	1.0	11.9
	中学2年生	739	85.5	0.7	0.1	0.5	11.0
	無回答	6	83.3	-	-	-	16.7
生活困難度	一般層	1,386	86.9	0.4	-	0.4	10.9
	周辺層	127	76.4	2.4	0.8	3.1	14.2
	困窮層	47	66.0	2.1	4.3	6.4	17.0
	無回答	11	72.7	-	-	-	27.3

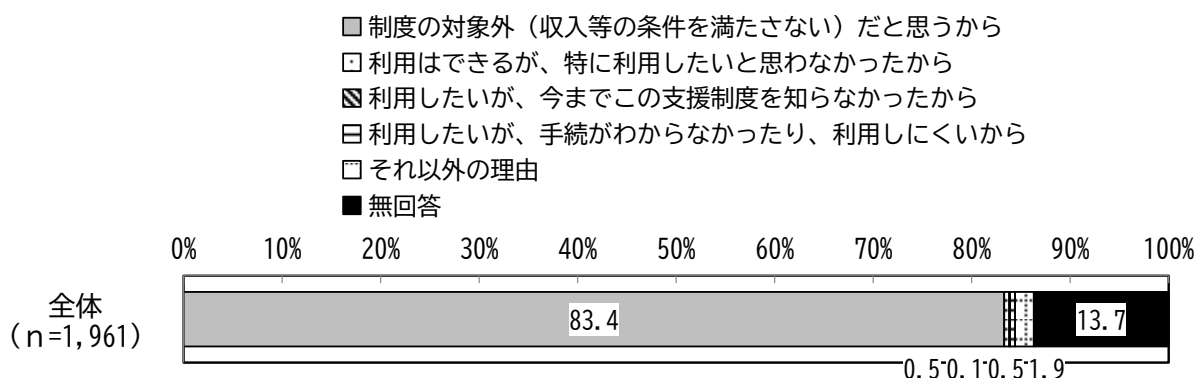
(b) 生活保護

生活保護を利用しなかった理由について聞いたところ、「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」（83.4％）の割合が最も高く、次いで「それ以外の理由」（1.9％）、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」（ともに0.5％）となっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」の割合が低くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－183 支援制度を利用しなかった理由（生活保護）



図表－184 学年、生活困難度別 支援制度を利用しなかった理由（生活保護）

単位：％

	調査数	か件制ら度満のた対象ない（収入等思のう条	し利用はとで思るなか、つ特にか利用	ら支利用し度をい知らな今かつたこの	いら用しなかつたたりが、利手続しがわくか	それ以外の理由	無回答
全 体	1,961	83.4	0.5	0.1	0.5	1.9	13.7
学 年	小学5年生	1,030	83.8	0.2	0.1	0.5	14.0
	中学2年生	923	83.1	0.8	-	0.5	13.2
	無回答	8	62.5	-	-	-	25.0
困 難 度	一般層	1,600	85.3	0.4	-	0.1	12.6
	周辺層	239	75.7	0.8	-	2.1	17.2
	困窮層	110	73.6	0.9	0.9	2.7	20.0
	無回答	12	66.7	-	-	-	33.3

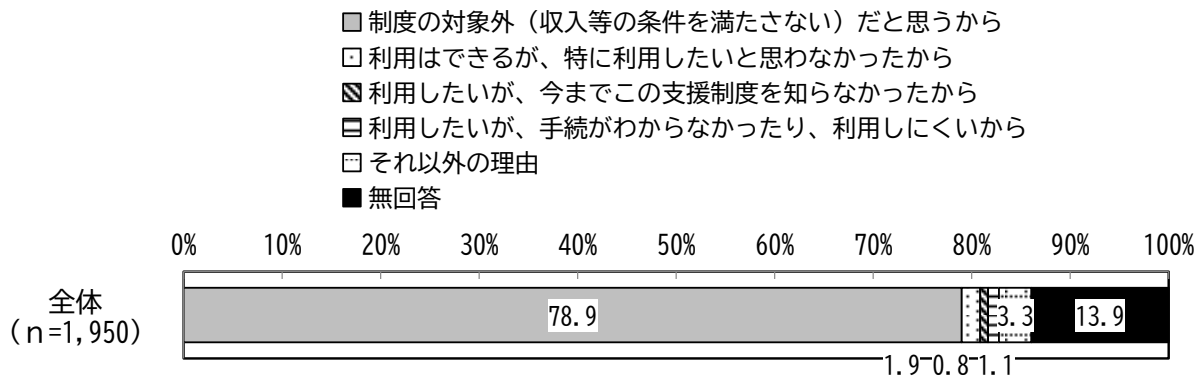
（c）生活困窮者の自立支援相談窓口

生活困窮者の自立支援相談窓口を利用しなかった理由について聞いたところ、「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」（78.9％）の割合が最も高く、次いで「それ以外の理由」（3.3％）、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」（1.9％）となっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」の割合が低くなり、他の理由の割合が高くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－185 支援制度を利用しなかった理由（生活困窮者の自立支援相談窓口）



図表－186 学年、生活困難度別 支援制度を利用しなかった理由（生活困窮者の自立支援相談窓口）

単位：％

		調査数	か件制 ら度を 満の対 たさ 象外 い（ 収 だ入 と等 思の う条	し利 た用 は い は と で 思 き わ る な が 、 か つ 特 た に か 利 用	ら支 援利 用制 した をい 知が 、 な 今 か ま つ で た こ か	いら かな 用し た た い が 、 利 手 用 続 し が に わ く か	それ 以外 の理 由	無 回 答
全 体		1,950	78.9	1.9	0.8	1.1	3.3	13.9
学 年	小学5年生	1,025	79.2	2.0	0.4	1.0	3.0	14.4
	中学2年生	918	78.5	1.9	1.3	1.3	3.6	13.4
	無回答	7	71.4	14.3	-	-	-	14.3
困 難 度	一般層	1,596	83.3	1.3	0.1	0.1	2.3	12.8
	周辺層	233	61.8	4.7	2.6	5.2	7.3	18.5
	困窮層	108	51.9	5.6	6.5	7.4	10.2	18.5
	無回答	13	61.5	-	7.7	-	-	30.8

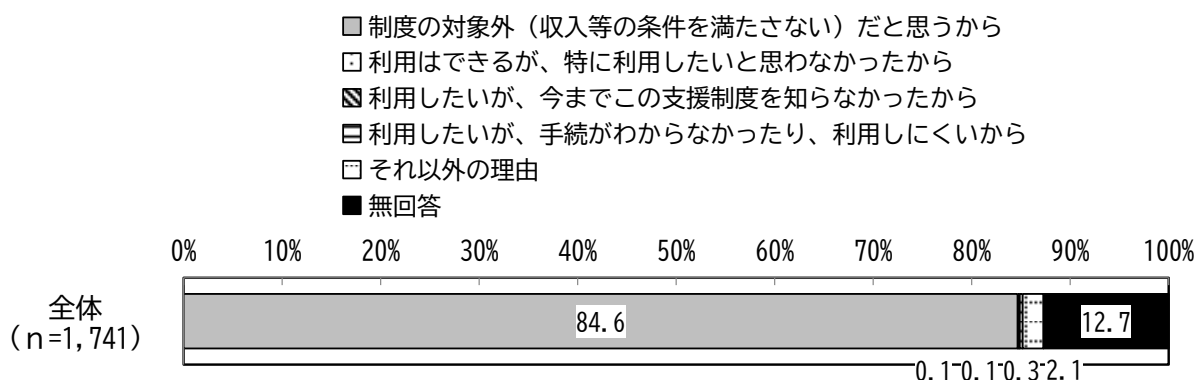
（d）児童扶養手当

児童扶養手当を利用しなかった理由について聞いたところ、「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」（84.6％）の割合が最も高く、次いで「それ以外の理由」（2.1％）、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」（0.3％）となっている。

生活困難度別にみると、一般層より生活困難層の方が「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」の割合が低くなり、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」の割合が高くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－187 支援制度を利用しなかった理由（児童扶養手当）



図表－188 学年、生活困難度別 支援制度を利用しなかった理由（児童扶養手当）

単位：％

	調査数	制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから	利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	それ以外の理由	無回答
全 体	1,741	84.6	0.1	0.1	0.3	2.1	12.7
学 年							
小学5年生	921	84.8	－	0.1	0.3	2.1	12.7
中学2年生	812	84.6	0.2	0.1	0.2	2.2	12.6
無回答	8	62.5	－	－	12.5	－	25.0
困 難 度							
一般層	1,485	86.3	0.1	－	0.1	1.6	11.9
周辺層	176	75.0	－	1.1	1.1	5.7	17.0
困窮層	69	75.4	－	－	2.9	4.3	17.4
無回答	11	72.7	－	－	－	－	27.3

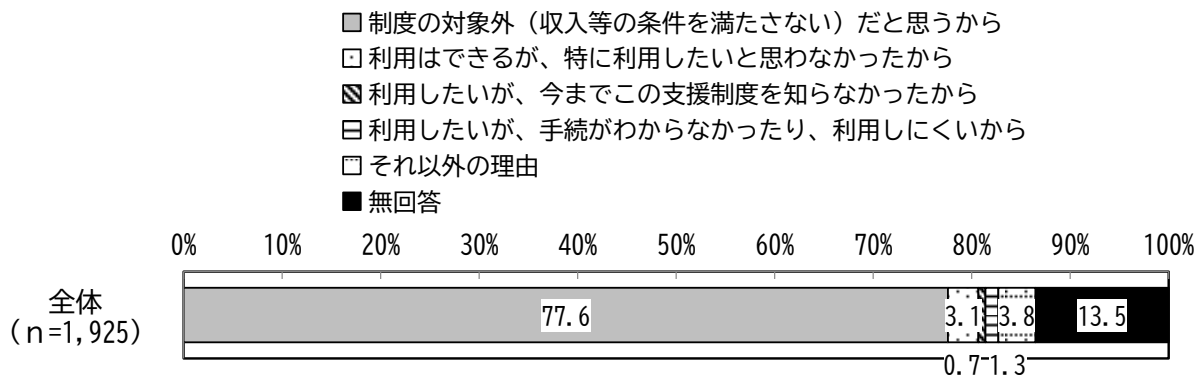
(e) ひとり親サポートセンター

ひとり親サポートセンターを利用しなかった理由について聞いたところ、「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」（77.6%）の割合が最も高く、次いで「それ以外の理由」（3.8%）、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」（3.1%）となっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」の割合が低くなり、他の理由の割合が高くなっている。

学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－１８９ 支援制度を利用しなかった理由（ひとり親サポートセンター）



図表－１９０ 学年、生活困難度別 支援制度を利用しなかった理由（ひとり親サポートセンター）

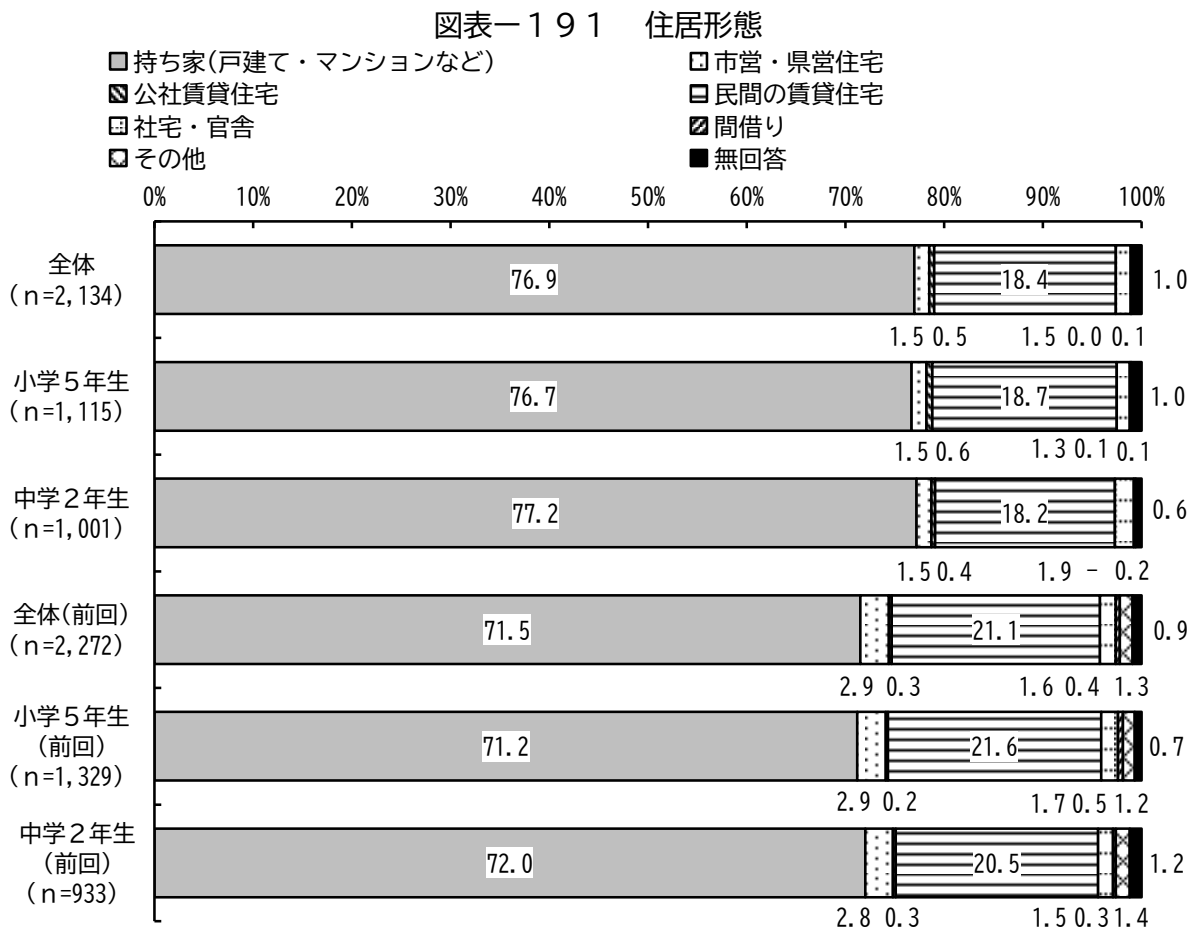
単位：％

		調査数	か件制ら	した度の	利用は対	ら援用し	いかな制	それ以外	無回答
			の満のた	たい象外	はでさな	をい知が	らな今	た利用続	
			い（収入	等思のう	なかつた	らな今	かたこの	しがにわ	
			条		利用				
全 体		1,925	77.6	3.1	0.7	1.3	3.8	13.5	
学 年	小学5年生	1,008	78.7	3.1	0.5	1.2	3.2	13.4	
	中学2年生	909	76.6	3.0	1.0	1.4	4.5	13.5	
	無回答	8	62.5	12.5	-	-	-	25.0	
困 難 度	一般層	1,582	81.9	1.8	0.2	0.4	2.8	12.9	
	周辺層	228	62.3	8.8	1.8	4.4	8.3	14.5	
	困窮層	104	46.2	9.6	6.7	8.7	9.6	19.2	
	無回答	11	72.7	-	-	-	-	27.3	

24. 住居形態

問25 現在のあなたの住居は、次のどれにあてはまりますか。

住居形態について聞いたところ、「持ち家(戸建て・マンションなど)」(76.9%)の割合が最も高く、次いで「民間の賃貸住宅」(18.4%)、「市営・県営住宅」、「社宅・官舎」(ともに1.5%)となっている。



生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「持ち家（戸建て・マンションなど）」の割合が低くなり、「市営・県営住宅」や「民間の賃貸住宅」の割合が高くなっている。
学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－１９２ 学年、生活困難度別 住居形態

単位：％

		調査数	持ち家（戸建て・マンションなど）	市営・県営住宅	公社賃貸住宅	民間の賃貸住宅	社宅・官舎	間借り	その他	無回答
全 体		2,134	76.9	1.5	0.5	18.4	1.5	0.0	0.1	1.0
学 年	小学５年生	1,115	76.7	1.5	0.6	18.7	1.3	0.1	0.1	1.0
	中学２年生	1,001	77.2	1.5	0.4	18.2	1.9	－	0.2	0.6
	無回答	18	66.7	－	－	11.1	－	－	－	22.2
生活困難度	一般層	1,701	81.0	0.5	0.2	15.9	1.6	0.1	0.1	0.6
	周辺層	276	66.3	4.0	1.1	25.7	0.7	－	0.4	1.8
	困窮層	133	48.9	8.3	2.3	36.8	2.3	－	0.8	0.8
	無回答	24	62.5	4.2	4.2	8.3	－	－	－	20.8

25. 心理的な状態

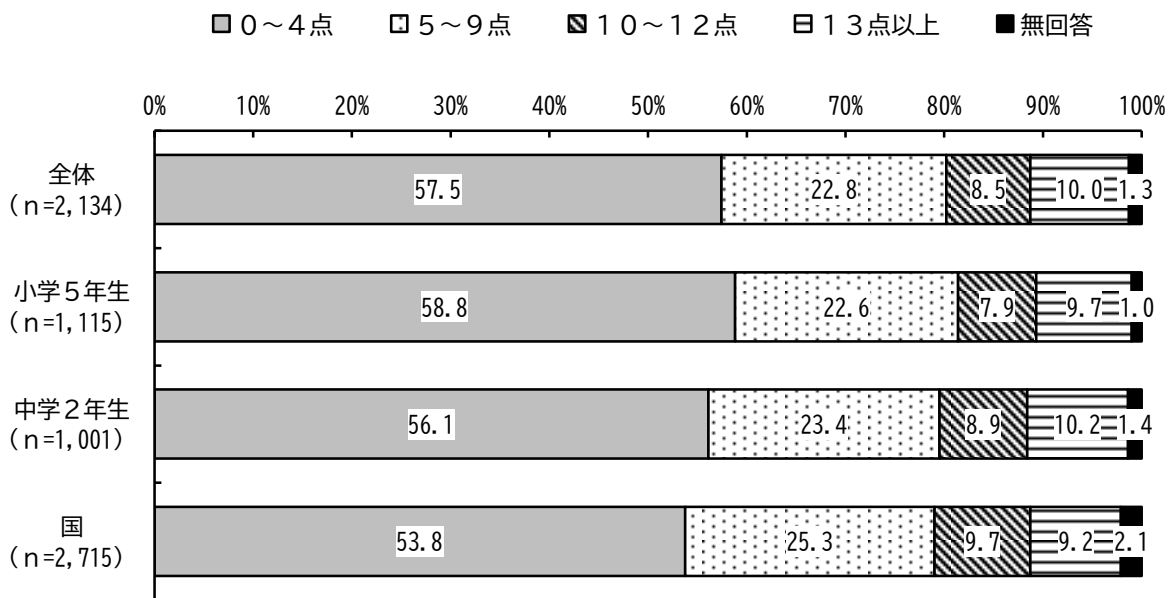
問26 次のa)～f)の質問について、この1か月間のあなたの気持ちはどのようなでしたか。

- a. 神経過敏に感じた
- b. 絶望的だと感じた
- c. そわそわ、落ち着かなく感じた
- d. 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた
- e. 何をするのも面倒だと感じた
- f. 自分は価値のない人間だと感じた

「保護者の心理的な状態」に関して、本調査では「K6」と呼ばれる指標を把握するための6つの項目を設定した。

この6つの調査項目の結果を足し合わせて、K6のスコアを算出した（0～24点）。「うつ・不安障害相当」とされている「13点以上」の割合は10.0%であった。

図表－193 心理的な状態（K6のスコア）



学年別にみると、K6のスコアが「13点以上」の割合は、「小学5年生」では9.7%、「中学2年生」では10.2%となっている。

生活困難度別に見ると、K6のスコアが「13点以上」の割合は、「一般層」では6.2%、「周辺層」では17.0%、「困窮層」のみでは42.1%と、困難度が上がるにつれて割合が高くなっている。

図表－194 学年、生活困難度別 心理的な状態（K6のスコア）

単位：%

		調査数	0 ～ 4 点	5 ～ 9 点	10 ～ 12 点	13 点 以上	無 回 答
全 体		2,134	57.5	22.8	8.5	10.0	1.3
学 年	小学5年生	1,115	58.8	22.6	7.9	9.7	1.0
	中学2年生	1,001	56.1	23.4	8.9	10.2	1.4
	無回答	18	44.4	5.6	22.2	16.7	11.1
生活 困難度	一般層	1,701	63.7	22.1	7.2	6.2	0.7
	周辺層	276	38.0	28.3	14.1	17.0	2.5
	困窮層	133	20.3	22.6	14.3	42.1	0.8
	無回答	24	41.7	12.5	-	16.7	29.2

26. 健康状態

問27 あなたとお子さんの健康状態はいかがですか。

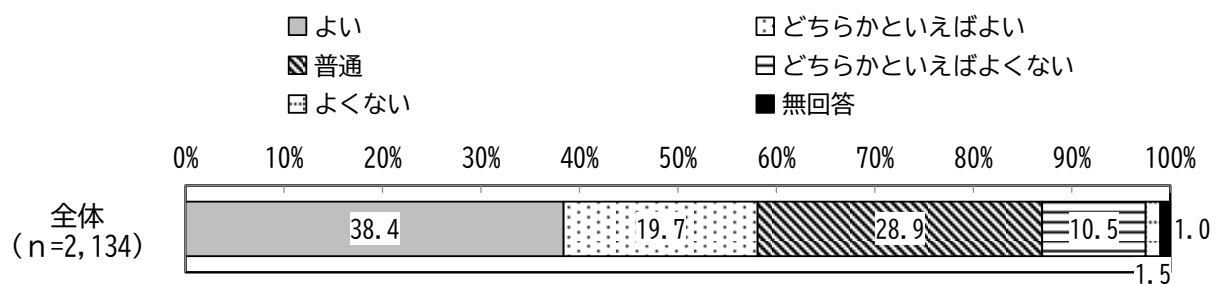
（a）保護者

保護者の健康状態について聞いたところ、「よい」（38.4%）の割合が最も高く、次いで「普通」（28.9%）、「どちらかといえばよい」（19.7%）となっている。

学年別にみると、小学5年生の方が「よい」（40.4%）の割合がやや高くなっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて健康状態が悪くなる傾向にある。

図表－195 健康状態（保護者）



図表－196 学年、生活困難度別 健康状態（保護者）

単位：%

		調査数	よい	どちらかといえばよい	普通	どちらかといえばよくない	よくない	無回答
全 体		2,134	38.4	19.7	28.9	10.5	1.5	1.0
学 年	小学5年生	1,115	40.4	19.7	28.3	9.7	1.2	0.8
	中学2年生	1,001	36.6	19.8	29.9	11.3	1.7	0.8
	無回答	18	16.7	16.7	16.7	16.7	11.1	22.2
困 難 度	一般層	1,701	41.8	20.3	27.8	8.2	1.0	0.9
	周辺層	276	26.8	18.5	35.1	15.9	2.5	1.1
	困窮層	133	18.8	15.0	28.6	30.1	6.0	1.5
	無回答	24	37.5	16.7	37.5	4.2	-	4.2

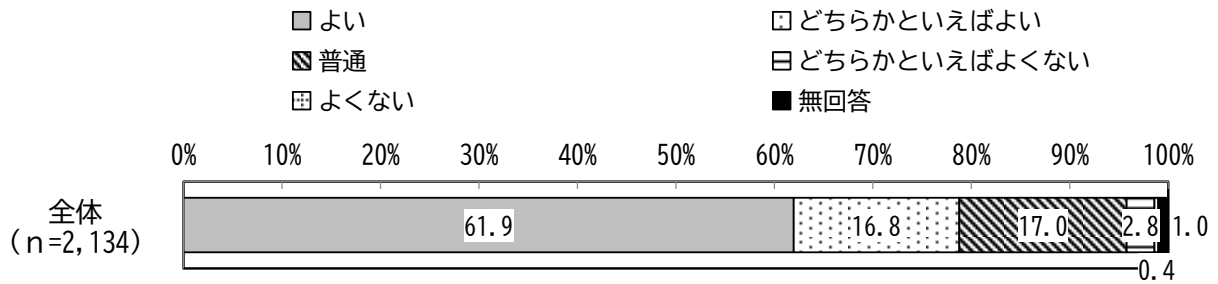
(b) 子ども

子どもの健康状態について聞いたところ、「よい」(61.9%)の割合が最も高く、次いで「普通」(17.0%)、「どちらかといえばよい」(16.8%)となっている。

学年別にみると、小学5年生の方が「よい」(67.4%)の割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて健康状態が悪くなる傾向にある。

図表－１９７ 健康状態（子ども）



図表－１９８ 学年、生活困難度別 健康状態（子ども）

単位：％

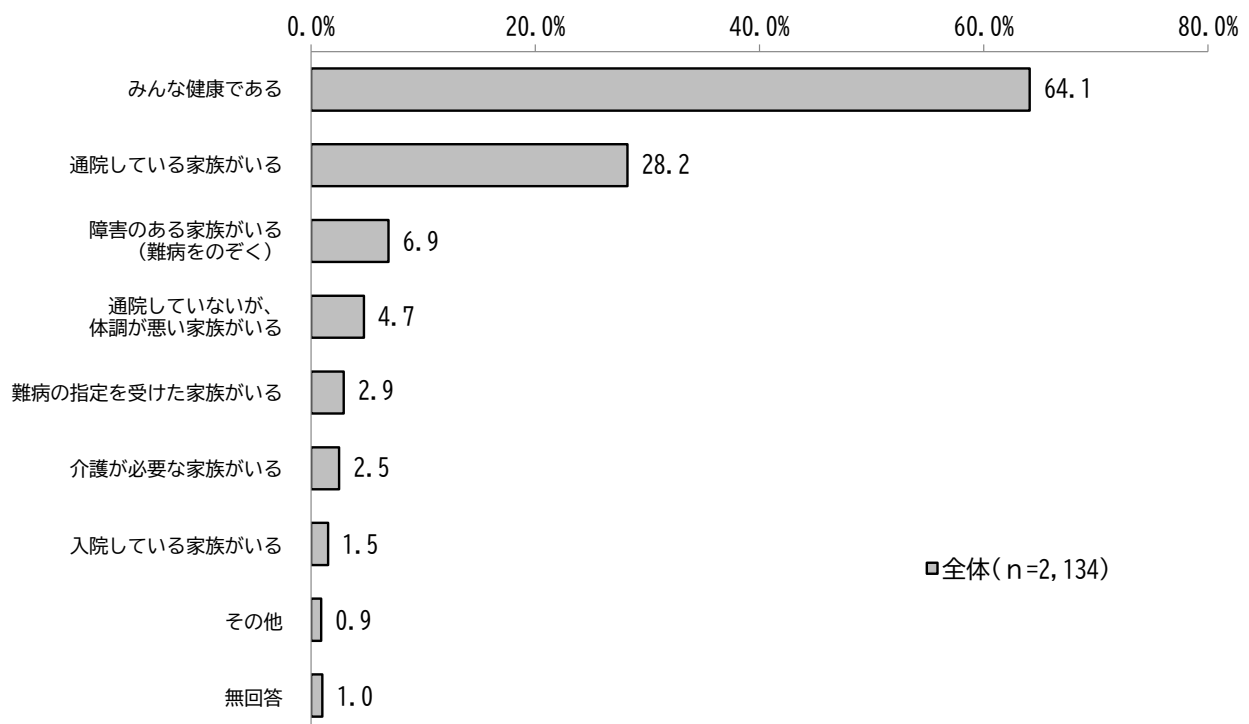
		調査数	よい	どちらかといえばよい	普通	どちらかといえばよくない	よくない	無回答
全 体		2,134	61.9	16.8	17.0	2.8	0.4	1.0
学 年	小学5年生	1,115	67.4	16.3	13.7	1.4	0.3	0.8
	中学2年生	1,001	55.7	17.6	20.8	4.3	0.6	1.0
	無回答	18	61.1	5.6	11.1	5.6	—	16.7
生活困難度	一般層	1,701	65.5	16.2	15.0	2.5	0.2	0.6
	周辺層	276	53.6	19.2	20.3	4.0	0.7	2.2
	困窮層	133	37.6	21.8	31.6	4.5	2.3	2.3
	無回答	24	37.5	8.3	41.7	4.2	—	8.3

27. 家族の健康状況

問28 ご家族の状況はいかがですか。

家族の健康状況について聞いたところ、「みんな健康である」（64.1％）の割合が最も高く、次いで「通院している家族がいる」（28.2％）、「障害のある家族がいる（難病をのぞく）」（6.9％）となっている。

図表－199 家族の健康状況



学年別にみると、小学5年生の方が「みんな健康である」（67.9％）の割合は高くなっている。
生活困難度別にみると、困難度が上がるにつれて「みんな健康である」の割合は低くなっている。

図表－200 学年、生活困難度別 家族の健康状況

単位：％

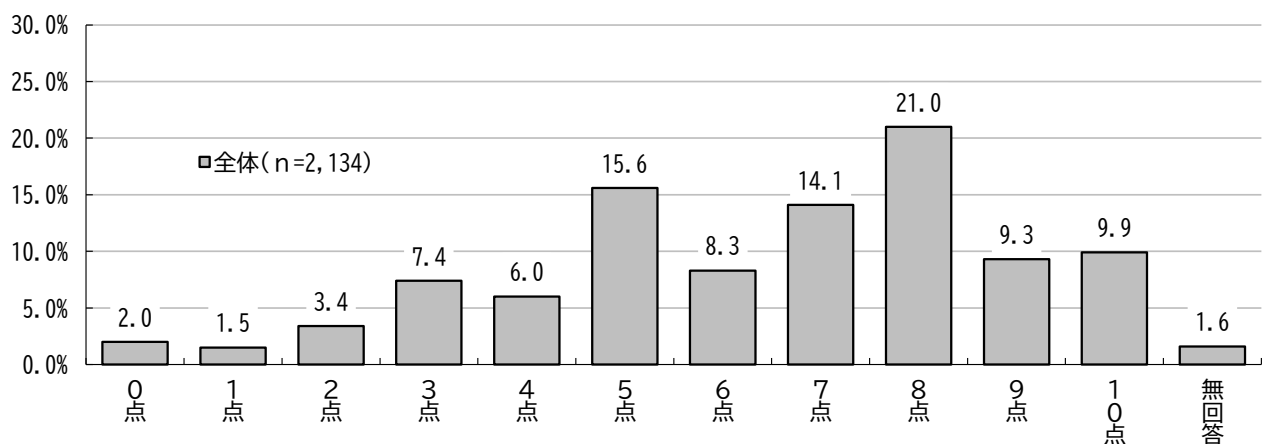
		調査数	みんな健康である	通院している家族がいる	入院している家族がいる	通院していないが、体調が悪い家族がいる	障害のある家族がいる（難病をのぞく）	難病の指定を受けた家族がいる	介護が必要な家族がいる	その他	無回答
全 体		2,134	64.1	28.2	1.5	4.7	6.9	2.9	2.5	0.9	1.0
学 年	小学5年生	1,115	67.9	26.0	1.1	4.3	5.7	2.5	2.4	0.8	0.8
	中学2年生	1,001	60.2	30.3	1.9	5.1	7.9	3.4	2.7	1.1	1.2
	無回答	18	44.4	50.0	－	5.6	27.8	－	－	－	5.6
生活 困難度	一般層	1,701	68.0	25.4	1.4	3.6	5.2	2.6	2.0	0.9	0.7
	周辺層	276	53.3	37.0	1.1	6.9	14.9	4.3	4.7	0.7	1.1
	困窮層	133	38.3	48.9	3.8	14.3	12.8	3.8	5.3	1.5	－
	無回答	24	54.2	12.5	－	4.2	4.2	－	－	－	29.2

28. 最近の生活の満足度

問29 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。
「0」(まったく満足していない)から「10」(十分に満足している)の数字で教えてください。

最近の生活の満足度について聞いたところ、「8点」(21.0%)の割合が最も高く、次いで「5点」(15.6%)、「7点」(14.1%)となっている。
生活困難度別にみると、一般層より生活困難層の方が、満足度が低い傾向にある。
学年別にみると、ほとんど差はみられない。

図表－201 最近の生活の満足度



図表－202 学年、生活困難度別 最近の生活の満足度

単位：％														
		調査数	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答
全 体		2,134	2.0	1.5	3.4	7.4	6.0	15.6	8.3	14.1	21.0	9.3	9.9	1.6
学 年	小学5年生	1,115	1.3	1.2	3.0	6.8	5.0	15.2	8.8	14.5	22.2	9.3	10.9	1.7
	中学2年生	1,001	2.7	1.7	3.8	7.9	7.0	16.0	7.9	13.8	19.4	9.4	9.0	1.5
	無回答	18	11.1	5.6	－	16.7	5.6	16.7	5.6	5.6	33.3	－	－	－
困 難 度 生 活	一般層	1,701	0.7	0.5	1.9	5.5	4.7	15.3	8.7	15.0	23.7	11.2	11.5	1.3
	周辺層	276	3.6	3.6	7.2	14.1	12.0	19.6	7.2	12.3	12.0	2.5	5.1	0.7
	困窮層	133	15.8	9.0	13.5	18.8	9.8	12.0	6.8	7.5	4.5	－	－	2.3
	無回答	24	－	－	4.2	－	4.2	12.5	4.2	8.3	25.0	4.2	8.3	29.2

29. 自由意見

子育てや子どもに関することについて、ご意見があれば、自由にお書きください。

子育てや子どもに関することについての自由記述は以下のとおり。

図表－203 自由意見件数

分類	件数
子育て支援・困りごとについて	129
経済的支援・困りごとについて	258
教育・学校について	132
幼稚園・保育園について	11
居場所について	36
交通、移動、安全について	12
相談、交流、情報について	23
住環境、地域、社会について	30
子育てと仕事の両立支援について	20
しつけ、マナーについて	13
アンケートについて	7
その他	18

図表－204 自由意見（1／4）

※全回答ではなく、一部回答を抜粋して掲載
※原文掲載を基本としつつ、一部編集の上掲載

子育て支援・困りごとについて	こどもの学年	生活困難度
県外から数年前に来たが、久留米市の子どもへのサポートがとても少なく、一気に生活が苦しくなった。もっと考えてほしい。いいまちなのにー！！	小学5年生	周辺層
高所得世帯でもなく、低所得で支援制度を受けられる世帯でもない、中間層の子育て世帯が一番困窮している実態を知ってもらいたい。物価も上がり、子育てにお金もかかる中、子どもに十分な生活をさせ、なおかつ子どもを放置せず十分ふれあいながら、生活に困らないお金を稼ぐのは現実的に無理がある。学校教育も塾ありきの教育内容で、習い事をいくつもするのが当たり前になっている。もう少し現実的な支援制度を検討してもらいたい。	小学5年生	周辺層
病児保育が無料になったから、余計に利用できなくなった。近くに助けてもらえる家族がいない、核家族に対する受け皿に不足を感じます。本当に必要な支援をしてもらいたい。	小学5年生	一般層
核家族、実家は県外。フルタイム共働きで、経済的には余裕があるように見えるかもしれないが、子育てにあてる時間や精神的な余裕がない。子どもが希望する習い事（送迎できない）がさせてあげられない。宿題や学校の準備、小さい頃から本人任せ。いつも急かしている。経済面を問う質問が多かったが、経済面が満たされていれば問題ないわけではない。	小学5年生	一般層
子どもの年齢が多感な時期で、意見がぶつかり合うことがある。力も上回ってきているので、対応するのに十分な配慮が必要。時には子どもに対する接し方に疑問を感じ、喪失感を抱くことが以前よりも増えた気がする。	中学2年生	一般層
反抗期のため、なかなか会話が続かなかったりするので、もどかしく感じる時があります。	中学2年生	一般層
このアンケートに回答しているのは、経済的にも時間的にも、余裕がある人に傾いている可能性が高いということを十分考慮して政策を検討して頂きたい。もっともっと、子育てがしやすいまちになることを期待しています。	中学2年生	一般層
反抗期が酷く、毎日朝学校に普通に行ってくれるか不安で仕方がありません。私が変わらなければと頭ではわかっているのですが、毎日衝突で子どもとの関わり方が憂鬱です。	中学2年生	一般層
経済的支援・困りごとについて	こどもの学年	生活困難度
物価が上がり、収入は変わらない。そのため、子の必要な衣類の購入をためらったり、お小遣いを抑えている。収入があると支援が受けられない。支援が必要な人は他にもいる。久留米市はもっと支援を増やすことを考えてほしい。子育て支援金を増やしてほしい！！	小学5年生	周辺層
ひとり親世帯へのサポートがたくさんあるが、共働き、収入中間層の家庭の方がきついつした生活をしていると思います。2～3人子どもがいる中間層への何らかの援助もしてほしい。	小学5年生	一般層
子ども3人、大学まで進学させるのは大変です（経済的に）。	小学5年生	一般層
うちは女の子がいないので3人目の子どもが欲しかったのですが、子ども達の将来の学費、生活にかかる費用が不安で諦めたので、そういった不安がなくならないと本当の少子化改善にはならないと思います。	小学5年生	一般層
低所得者だけが生活が苦しいわけではない。	小学5年生	周辺層
久留米市だけではなく、日本全体が子育てしやすい（出産しやすい）社会になるといい。金銭的な不安もあり、出産をためらう人もいます。	小学5年生	一般層
何でも値上がりしすぎて、満足に買い与えられません。ひとり親ばかりに支援があるのが納得いかない！！	小学5年生	周辺層
子どもの教育費が多くかかる（小学校内購入費等）。	小学5年生	一般層

図表－205 自由意見（2／4）

経済的支援・困りごとについて	こどもの学年	生活困難度
子どもに関する手当は皆平等にしてほしい。世帯収入が多くても少なくても、子を育てる責任はみんな同じです。世帯収入がある家庭は、それだけ夫婦共に頑張っています。税金や引かれる物が多く、物価高で苦しいのは皆同じです。平等な手当が行き届くようにしてほしいです。	中学2年生	一般層
低所得者層の支援は手厚いが、中間層も厳しい状況にあります。ひとり親で保護され、悠々と暮らしている人が多いと感じます。	中学2年生	一般層
ひとり親でなく、両親共にいる家庭でも苦しい家庭はいっぱいあると思います。ひとり親だけでなく、一定の支援（金銭面など）をしてもらいたいです。なぜひとり親だけ？	中学2年生	一般層
子どもの友達たちが習い事をやっているのに、経済的にできない・してやれないことが申し訳ないと思っています。	中学2年生	困窮層
これから先、子供にかかるお金の事で心配です。	中学2年生	一般層
教育・学校について	こどもの学年	生活困難度
子どもの将来を考えると、十分な教育を受けさせることができるのか不安しかない。	小学5年生	一般層
不登校に関して、学校、らるごのサポートの拡大が必要。	中学2年生	一般層
子どもの成績が一向に上がらない。勉強や部活に対する向上心がなく、中学の部活に関しては人としての礼儀等の教えが低調と感じる。学校においては勉強も大事かもしれないが、人間性を向上させるよう指導をお願いしたい。	中学2年生	一般層
不登校の子どもが行ける学校や、勉強の遅れを教えてくれる場所が身近にあればいいと思う。	中学2年生	一般層
子どもが2学期から不登校になってしまい、学校以外の相談場所もあればいいなと思いました。あるのかもしれませんが、情報がわからないです。	中学2年生	一般層
中学での部活がなくなってしまうと、子どもに何もさせてあげられなくなるということで、またいろいろな意味で厳しくなるなど心配しています。	中学2年生	周辺層
現在の景気・親の年収に左右されることなく、子ども達が望む進学ができれば…と思います。将来なりたい大人になる夢が持てるよう、子ども達が心配することなく安心して進学できることを望みます。学校での生徒間のトラブルや学力低下を防ぐためにも、少人数クラスや先生の数を増やして手厚いサポートを望みます。大変難しい問題だとは思いますが、久留米に生まれて良かったと、将来子ども達が思える学校生活が送れるよう、よろしくお願い致します。	中学2年生	一般層
幼稚園・保育園について	こどもの学年	生活困難度
通っている保育園は土曜日に預けたい時、前月の20日までに言わないといけず、直前で言っても断られる。休出はそんなに早く決まらない。平日フルで共に働いているので上の子につきあいたいし、リフレッシュしたいと思っててもできずつらい。一番下だけがコロナにならず元気で、誰も世話をできないが見てもらえる所はない。	小学5年生	一般層
私はひとり親で、今ほど十分な収入がない時に児童扶養手当を申請したかったが、同居の親の収入があり却下され、当時の保育園の使用料も親の収入による等級となり、非常に納得がいかなかった。その時の手続き、説明も親身になって対応して頂けなかった。	小学5年生	一般層

図表－206 自由意見（3／4）

居場所について	こどもの学年	生活困難度
子どもが外で遊べる場所が少ない。ボール遊びなどを制限されると外で遊べなくなり、ゲームをするしかなくなってしまう。公園でボール遊びをできるよう対策してほしい（安全に）。	小学5年生	一般層
公的学童保育は小学校3年生までで、4年生から長期休暇の際の居場所がなかった。何とかしてほしい。久留米市内中心部には児童センターがあるも、郊外にはない。地域差がある。	小学5年生	一般層
子どもが安全に安心して遊べる広場、公園があってほしい。子どもにいろいろな体験、経験をさせてあげられる企画があると嬉しい（格安で企画してほしい）。子どもの時の体験、経験は将来につながると思うし、家庭だけではできないこともたくさんある。	小学5年生	一般層
子ども達だけでも利用できる室内で遊べる施設を、子ども達だけでも行ける距離につくってほしい。夏は暑すぎて、近くの公園では遊べない。冬は寒くて…とずっとお友達と一緒に家の中にいます。習い事以外で、夏休みは特に体を動かす場所がありません。ゲームから離れられないです。	小学5年生	周辺層
地域における子どもの居場所があればいいと思います。子供会、子ども食堂など、もっと活発になるといいと思います。	小学5年生	一般層
子どもの第3の居場所を校区に1ヶ所以上設置してほしい。不登校の子、放課後や長期休暇も子どもが安心して過ごせる場、送迎がなくても自分で行ける場を。高良山にプレーパークをつくってほしい。	中学2年生	一般層
交通、移動、安全について	こどもの学年	生活困難度
自転車用ヘルメットを貸し出ししてほしい。	小学5年生	一般層
通学路にしっかりと歩道が欲しい。街灯も増やしてほしい。	小学5年生	一般層
通学路が狭い。横断歩道の線が消えている所が多い。夜が暗い。バスの本数を増やしてほしい。	中学2年生	一般層
相談、交流、情報について	こどもの学年	生活困難度
主人の出張が多いためほぼ単身に近い生活をしていますが、子どもと協力しながら楽しく生活しています。転勤があるため、もう少し地に足をつけて生活したいけどできない不安があります。進学などを含め、学校だけでなく情報をもっと気軽に探せたらと思います（全国の）。	小学5年生	一般層
子育て、子どもとの関わり方に悩んでいる。相談する機関などがわからない。	小学5年生	一般層
学校以外の専門員に、電話等で気軽に相談できる窓口をつくってほしいです。	中学2年生	一般層
住環境、地域、社会について	こどもの学年	生活困難度
大人は子どもへたくさん声をかけてあげた方がいいと思う。大人は知らない子どもへ挨拶もしなくなった。声をかけると「変な人から声をかけられた」と思われる。そんな世の中になったように感じる。もっとたくさんの大人がコミュニケーションを取ってあげてほしい。子どもに寄り添う世の中になってほしい。	小学5年生	一般層
自分は子どもを持ち、とても成長させてもらったなあと感じます。大変なこともたくさんありますが、子を持つ幸せや生きがいも多くの人達に感じてほしいです。もっと気軽に子育てができるよう、子を持つ選択ができるような社会になれば強く感じます。	小学5年生	一般層
久留米市だけではなく、日本全体が子育てしやすい（出産しやすい）社会になるといい。金銭的な不安もあり、出産をためらう人もいます。子育ては大変ですが、とても楽しいです。子どもからたくさんのことを学んでいます。	小学5年生	一般層
もう少し子どもを育てやすい世の中になってほしいものです。	小学5年生	周辺層
寝たきりや医療的ケア、障害があっても当たり前のように生活できる社会を目指します。インクルーシブな環境が整い、全ての子ども達が健やかに、のびやかに過ごせますように。	小学5年生	一般層
近所の中学生が小学生の子と一緒に途中まで通学してくれるので、気持ち的に大変助かっている。夕方に宿題を見てくれたり等。近所づきあいが子育てを楽にしてくれているのをリアルに体感している。久留米市が大学生などに子育て有償ボランティアなど、企画してくれないだろうか。子どもは若者が大好きなようです。	小学5年生	一般層

図表－207 自由意見（4／4）

住環境、地域、社会について	こどもの学年	生活困難度
自立したいが、大家族のため住む場所がない。もう少し大家族のための住宅や対策などをしてほしい。	中学2年生	周辺層
父子家庭は孤立しています。母子家庭はママ友いますが、父子家庭は孤独です。	中学2年生	困窮層
子育てと仕事の両立支援について	こどもの学年	生活困難度
物価高なのに給与は上がらないため、夫婦でフルタイムで働いていますが、どちらか一方でも働けなくなったら子育ても生活も立ち行かなくなるので、身体や心を保つのに毎日必死です。困窮している家庭への支援も大切だと思いますが、夫婦フルタイムでも子育てへの余裕がなく、勉強を教える時間もほぼつくることができない状況を知って頂けたらと思います。	小学5年生	一般層
家族との生活と仕事、どちらも大事なことだが、そのバランス（ワークライフバランス）は更に大事だと思う。このバランスが、子育てや子どもとの関わり方に影響を及ぼす。行政から各企業に対するワーク面での働きかけは難しいと思うが、まずは行政が率先してワーク面の取り組みを実践してみてはいかがか。	小学5年生	一般層
子育てを優先しながらできる仕事（時間や急対応等）をサポートしてほしい。	小学5年生	一般層
勉強の教育を家で教えたりできる時間をつくりたい。	中学2年生	困窮層
しつけ、マナーについて	こどもの学年	生活困難度
あまりにも、社会全体が子どものしつけに対して甘い。特に学校で先生が平等性を言う（悪いのは明らかだが）。先生が言えないのは親のせいでもある。非常に難しいが、この点では昔の方が良かった。	小学5年生	一般層
子育ては子どもと親の信頼関係が大事だと思っています。そう信じ、毎日子どもと接しています。	小学5年生	周辺層
強い身体と精神力（忍耐強い）を身につけてほしい。	中学2年生	周辺層
アンケートについて	こどもの学年	生活困難度
ここに書いた意見はどのように反映され、改善のきっかけになるのか全くわからない。	小学5年生	周辺層
生活実態を調査されるのは構いませんが、この調査をいかしてください。いかさないのなら、この調査をする紙代や切手代がもったいないので。ぜひよろしくお願いします！	中学2年生	困窮層
その他	こどもの学年	生活困難度
人それぞれ意見があると思うが、言える人と言えない人がいると思う。	小学5年生	周辺層
子育ては大変ですが、とても楽しいです。子どもからたくさんのことを学んでいます。	小学5年生	一般層
子育ては思ったようにいかないことが多いですが、楽しく充実した日々です。	中学2年生	一般層
明るく楽しい日々を過ごしてくれることを願います。	中学2年生	一般層

第5章 総括

久留米大学 文学部 社会福祉学科
教授 上原 紀美子

1. はじめに

令和4年の「国民生活基礎調査」(所得は令和3年数値)によると、貧困状態にある17歳以下の子どもの割合(子どもの貧困率)は11.5%であった。3年前の調査と比較すると、数値上は2.5%改善しているが、いまだ、9人に1人の子ども達が貧困状態におかれている。特にひとり親世帯の子ども達の貧困率は44.5%と非常に高く、これは全体の子ども達の約4倍に相当し、深刻な状況であるといえる。

子どもの貧困は、経済的な困窮にとどまらず、生活、学習、心身、価値観、人間関係等に影響を与えて、しいては、その後の人生にも影響を及ぼすことがわかっている。そのため、貧困家庭に育った子どもが、大人になり「貧困の連鎖」に陥ることがないように、地域社会全体で解決していく取り組みが求められている。

現在、子どもの貧困は、社会問題として認知、社会全体で解決しなければならないとの共通認識が出来つつある。しかし、「子ども」がいきなり貧困になるわけではない。親が貧困だからその子どもが貧困状態に陥っていることを踏まえたうえで、総括では、経済的な側面を中心に、①世帯の状況、そして、②子どもたちの状況、特に生活・学習面の気になる点について言及していきたい。

2. 調査

久留米市では、子どもやその保護者の生活実態を把握し、適切な支援につなげていく基礎資料とするために、平成29年度調査(以下、「前回調査」という)に続いて、2回目となる「久留米市子どもの生活実態調査」を実施した。

調査対象者は、久留米市内の小学校44校に通う小学5年生(3,017名)とその保護者(3,017名)の計6,034名、久留米市内の中学校17校に通う中学2年生の生徒(3,036名)とその保護者(3,036名)の計6,072名、合計12,106名である(1頁参照)。回収率は児童生徒アンケート調査が2,110人(35.2%)、保護者アンケート調査が2,134人(35.6%)と、前回調査より、前者が7.3%、後者が6.9%とやや減少した。郵送配布・郵送回収率の目安は概ね30%前後とされるが、子どもやその保護者の生活実態をより詳細に把握するためにも、今後同様の調査を実施する際には、調査の目的・意義を理解してもらえるような周知活動、教育機関等との連携をより進めていく必要がある。

(1) 生活困難度

久留米市では、「生活困難度」を①「低所得」、②「家計の逼迫」、③「子どもの体験や所有物の欠如」の3つの要素から分類している（4頁参照）。

①低所得
世帯の可処分所得を世帯人員数の平方根で割り出した値（＝等価可処分所得）が、厚生労働省「令和5年国民生活基礎調査」の結果から算出された貧困線「136万円」*を下回る世帯**。
②家計の逼迫
過去1年間に経済的な理由で経験したこと、具体的には、「公共料金や家賃の滞納があった」、「食費や衣類の費用を切りつめた」、「医療機関を受診できなかった」、「キャッシング・カードローンなどを利用した」など全17項目のうち、6項目以上該当する世帯。
③子どもの体験や所有物の欠如
「子どもの体験や所有物の欠如」は、子ども自身の生活困難を表す指標として、過去1年間に経済的な理由で子どもに関して経験したこと、具体的には、「子どもを医療機関に受診させることができなかった」、「子どもの進路を変更した」、「子どものための本が買えなかった」、「子どものための服や靴が買えなかった」、「子どもへおこづかいを渡すことができなかった、渡す額を減らした」、「子どもを学校や地域のクラブ活動に参加させることができなかった」、「子どもを学習塾やスポーツなどの習い事に通わせることができなかった」など全11項目のうち、3項目以上該当する世帯。

*今回の算出に用いた世帯の可処分所得は、選択されたカテゴリの中央値（例えば可処分所得が「300万円以上～400万円未満」と回答した世帯は350万円を可処分所得とした）を使用している。

**厚生労働省「令和5年国民生活基礎調査」（所得は令和4年数値）の世帯所得の中央値（405万円）を平均世帯人数（2.23人）の平方根で除した値の50％＝136万円

上記の3要素を用いて、それぞれの割合を算出した結果、まず「①低所得」に該当する世帯が11.4％、「家計の逼迫」に該当する世帯が5.9％、「子どもの体験や所有物の欠如」に該当する世帯が10.0％であった。

図表－208 3つの要素の割合

単位：％

	平成29年度	令和6年度
①低所得層	14.2	11.4
②家計の逼迫	7.7	5.9
③子どもの体験や所有物の欠如	9.5	10.0

第5章 総括

前回調査と比較すると、①「低所得層」で2.8%、②「家計の逼迫」が1.8%とやや改善し、③「子どもの体験や所有物の欠如」は0.5%上昇している。これらを、統計的手法を加えて分析すると、以下のように説明することができる。

①低所得層

	あり	なし	年度合計
平成29年度	321 (14.2%)	1,939 (85.8%)	2,260 (100%)
令和6年度	240 (11.4%)	1,870 (88.6%)	2,110 (100%)

P値=0.00599<0.05

低所得層の割合は、前回調査と比較して、改善したといえる。

②家計の逼迫

	あり	なし	年度合計
平成29年度	174 (7.7%)	2,086 (92.3%)	2,260 (100%)
令和6年度	125 (5.9%)	1,985 (94.1%)	2,110 (100%)

P値=0.0237<0.05

家計の逼迫の割合は、前回調査と比較して、改善したといえる。

③子どもの体験や所有物の欠如

	あり	なし	年度合計
平成29年度	215 (9.5%)	2,045 (90.5%)	2,260 (100%)
令和6年度	211 (10.0%)	1,899 (90.0%)	2,110 (100%)

P値=0.623>0.05

子どもの体験や所有物の欠如の割合は、前回調査と比較して、改善したとはいえない。

P値：

統計的仮説検定において、帰無仮説の元で検定統計量とその値となる確率のこと。P値が小さいほど、統計検定量がその値となることはあまり起こりえないことを意味し、一般的にはP値が0.05または0.01以下の場合に帰無仮説を偽として棄却し、対立仮説を採択する。

上記では、生活困難の3要素について、「前回調査と比較して改善していない」を帰無仮説、「前回調査と比較して改善した」を対立仮説とした独立性の検定（カイ二乗検定）を、有意水準5%（0.05）で実施している。

また、3つの要素のうち、2つ以上の要素に該当する「困窮層」が6.3%、いずれか1つの要素に該当する「周辺層」が13.1%となり、「困窮層」、「周辺層」を合わせた「生活困難層」は19.4%となっている（5頁参照）。前回調査では、「生活困難層」が22.1%であったことから、数値的にはやや改善されたものの、約5人に1人が、何らかの生活困難に直面していることが推測できる。

図表－２０９ 生活困難度の割合

単位：％

		平成29年度	令和6年度
生活困難層		22.1	19.4
	困窮層	7.5	6.3
	周辺層	14.6	13.1
一般層		77.9	80.6

(2) 世帯の状況

①世帯類型

「ひとり親の世帯」では、「ふたり親の世帯」と比較して生活困難層の割合が高く（困窮層21.8%、周辺層26.9%）、特に「母子世帯」では2世帯に1世帯が生活困難層であることがわかった（困窮層23.2%、周辺層28.9%、計52.1%）。また、サンプル数が少ないことに留意する必要があるが、アンケートに回答した養育者世帯（父母ともにおらず、祖父母等が養育している）全てが生活困難層（困窮層66.7%、周辺層33.3%）であることがわかった。

図表－210 生活困難度別 世帯類型

単位：％

区分		ふたり親の 世帯	ひとり親の世帯			養育者世帯
			母子	父子	合計	
生活 困難層	困窮層	4.0	23.2	16.7	21.8	66.7
	周辺層	10.9	28.9	18.8	26.9	33.3
一般層		85.2	47.9	64.6	51.3	-

※本表のみ表頭に対する割合を掲載（以降の表は表側に対する割合を掲載）

②子どもと同居の親の婚姻状況

子どもと同居の親の婚姻状況は、生活困難度別にみていくと、「結婚している（再婚や事実婚を含む）」が、一般層93.3%、周辺層73.6%、困窮層55.6%となっている（70頁参照）。次いで、「離婚」が一般層4.9%、周辺層20.3%、困窮層34.6%、と生活困難度が上がると「結婚している（再婚や事実婚を含む）」の割合が低く、「離婚」の割合は高くなっている。

図表－211 生活困難度別 子どもと同居の親の婚姻状況

単位：％

区分		結婚している （再婚や事実婚 を含む）	離婚	死別	未婚	わからない	いない	無回答
全体		88.1	8.9	1.1	0.8	0.2	0.4	0.5
生活 困難層	困窮層	55.6	34.6	1.5	6.0	0.8	1.5	-
	周辺層	73.6	20.3	2.2	2.2	0.7	0.4	0.7
一般層		93.3	4.9	0.9	0.2	0.1	0.4	0.2

③養育費の取り決めの状況

親の婚姻状況で「離婚」と回答した世帯の、養育費の取り決めの状況について、「取り決めをしており、受け取っている」が、一般層36.9%、周辺層28.6%、困窮層23.9%であった（71頁参照）。一方、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が、一般層41.7%、周辺層55.4%、困窮層50.0%であった。上記①の世帯類型で母子世帯の2世帯に1世帯が「生活困難層」であることを考えると、養育費の取り決め、受取がその後の生活の困難度を改善させる一要因になると考えられる。

図表－２１２ 生活困難度別 養育費の取り決めの状況

単位：％

区分		取り決めをしており、受け取っている	特に取り決めはしていないが受け取っている	取り決めをしているが、受け取っていない	取り決めをしておらず、受け取っていない	無回答
全体		30.7	1.1	18.5	48.1	1.6
生活困難層	困窮層	23.9	2.2	21.7	50.0	2.2
	周辺層	28.6	1.8	14.3	55.4	－
一般層		36.9	－	19.0	41.7	2.4

④親の就労状況

母親の就労状況であるが、「働いていない（専業主婦／主夫を含む）」が一般層12.0%、周辺層10.1%、困窮層12.8%で、生活困難度に関わらず、母親の多くが、常勤・非常勤等、何らかの仕事に従事していることがわかった（76頁参照）。

一方、父親の就労状況であるが、「働いていない（専業主婦／主夫を含む）」が一般層0.5%、周辺層3.3%、困窮層3.0%で、母親と同様、ほとんどの父親が何らかの仕事に従事していた（77頁参照）。しかし、「正社員・正規職員・会社役員」の割合が、一般層84.0%、周辺層53.3%であるのに対し、困窮層では、49.6%と5割をきっている。このことから、生活困難層では、経済的な不安定さを抱える割合が高いことが推測できる。

なお、母親と父親の就業形態について、母親が「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合が高いのに対し（一般層40.3%、周辺層42.8%、困窮層36.1%）、父親は「正社員・正規職員・会社役員」（一般層84.0%、周辺層53.3%、困窮層49.6%）が高く、全国的な傾向が裏付けられる結果となった。

図表－213 生活困難度別 母親の就労状況

単位：％

区分		正社員・正規職員・会社役員	嘱託・契約社員・派遣職員	パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	自営業（家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む）	働いていない（専業主婦・主夫を含む）	わからない	いない	無回答
全体		33.2	4.8	40.1	7.8	11.8	0.2	0.5	1.5
生活困難層	困窮層	30.1	7.5	36.1	6.0	12.8	2.3	1.5	3.8
	周辺層	29.7	4.3	42.8	8.7	10.1	0.7	0.7	2.9
一般層		34.3	4.6	40.3	7.6	12.0	-	0.4	0.8

図表－214 生活困難度別 父親の就労状況

単位：％

区分		正社員・正規職員・会社役員	嘱託・契約社員・派遣職員	パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	自営業（家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む）	働いていない（専業主婦・主夫を含む）	わからない	いない	無回答
全体		77.5	1.2	0.5	12.0	1.0	0.8	1.5	5.5
生活困難層	困窮層	49.6	3.0	-	12.8	3.0	2.3	4.5	24.8
	周辺層	53.3	2.5	1.1	19.9	3.3	2.5	3.3	14.1
一般層		84.0	0.8	0.4	10.6	0.5	0.5	0.9	2.3

⑤相談相手の有無

今回、相談相手の有無について「(a)子育てに関する相談相手」、「(b)重要な事柄の相談相手」、「(c)いざという時のお金の援助」、「(d)その他の相談相手」の4項目について調査した。「頼れる人がある」の割合が最も高かったのは、「(a)子育てに関する相談」(93.9%)であり(91頁参照)、「いない」、「そのことでは人に頼らない」の割合がともに高かったのは、「(c)いざという時のお金の援助」(いない9.7%、そのことでは人に頼らない19.3%)であった(93頁参照)。

図表ー215 相談相手の有無

単位：％

設問項目	頼れる人がある	いない	頼その らない こと では 人に	無回答
子育てに関する相談	93.9	2.9	2.1	1.2
重要な事柄の相談	91.6	3.7	3.0	1.7
いざという時のお金の援助	68.5	9.7	19.3	2.5
その他	54.2	5.1	4.8	35.8

なお、相談相手がいない人、もしくは相談しなかった人の割合が19.4%と、前回調査の18.2%より微増し、特に困窮層では前回調査の38.2%に対して今回調査が45.9%と、その増加幅が大きくなっている。

図表ー216 困っていることについての相談者がいない又は相談しなかった保護者の割合

※令和6年度は、問19(a)-(d)の4問のうち、どれか一つで「いない」もしくは「そのことでは人に頼らない」と回答した人の割合(「(c)いざという時のお金の援助」については「いない」のみ)

単位：％

		平成29年度	令和6年度
全体		18.2	19.4
生活困難層	困窮層	38.2	45.9
	周辺層	28.3	27.5
一般層		14.4	16.2

⑥世帯の手取り収入

令和5年1月～12月までの、世帯の手取り収入は「500～600万円未満」（13.1％）の割合が最も高く、次いで「600～700万円未満」（10.7％）、「450～500万円未満」（8.1％）となっている（104頁参照）。生活困難度別にみていくと、「50万円未満」、「50～100万円未満」の世帯は「周辺層」、「困窮層」のみであり、「周辺層」、「困窮層」の約6割が、「50万円未満」から「200～250万円未満」のあたりに位置していることがわかる（105頁参照）。

図表－217 生活困難度別 世帯の手取り収入（1/2）

単位：％

区分		50万円未満	50～100万円未満	100～150万円未満	150～200万円未満	200～250万円未満	250～300万円未満	300～350万円未満	350～400万円未満	400万円以上
全体		0.9	1.8	2.6	3.0	3.9	3.8	4.9	7.4	7.8
生活困難層	困窮層	3.0	9.0	12.0	17.3	17.3	7.5	3.0	9.0	6.8
	周辺層	5.8	9.4	13.8	12.7	15.9	6.2	5.1	9.8	2.9
一般層		-	-	0.1	0.4	1.0	3.2	5.1	7.0	8.8

図表－218 生活困難度別 世帯の手取り収入（2/2）

単位：％

区分		450～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900～1000万円未満	1000万円以上	無回答
全体		8.1	13.1	10.7	7.4	4.2	3.0	7.5	9.7
生活困難層	困窮層	3.0	3.8	3.8	1.5	0.8	-	-	2.3
	周辺層	5.1	4.0	2.9	0.4	0.4	0.4	0.7	4.7
一般層		9.1	15.5	12.7	9.1	5.2	3.7	9.3	9.9

⑦経済的な理由で経験したこと

経済的な理由で経験したことについて、全体では、「特にない」の割合が最も高いが（41.8%）、これを除くと、「新しい衣服やくつを買うのを減らした」が40.3%、次いで「趣味やレジャーの出費を減らした」が39.7%、「食費を切りつめた」が34.0%、「新聞や雑誌を買うのを減らした」が14.3%となった（106頁参照）。

回答項目と一般層、周辺層、困窮層の回答割合をみると、上記4項目で生活困窮度が高まるにつれ、特に、支出を抑制する回答者の割合が高くなった。特に困窮層においては、「趣味やレジャー」、「新しい衣服や靴を買う」、「食費」等の支出が抑制されており、生活水準の格差拡大が懸念される。

困窮層について、もう少し詳しくみていきたい。困窮層では「理髪店や美容院に行けなかった」が70.7%となっており、一般層4.3%、周辺層24.6%と比較して、「身だしなみ」や「おしゃれ」等にお金をかける余裕がないことがわかる。その他にも「医療機関を受診できなかった」が34.6%となっており、一般層0.6%、周辺層7.6%と比較して、受診機会の格差が生じていることがわかる。また、「国民健康保険料や国民年金の支払いができなかった」も26.3%となっており、一般層1.2%、周辺層7.6%と比較して、生活困窮度が高まるほど、老後の生活保障に格差が生じるリスクが高まることがわかる。また、困窮層では、一般層、周辺層と比較して、「キャッシング・カードローンなどを利用した」人の割合が高く（42.1%）、経済的不安定要素があることがわかった。

図表－219 経済的な理由で経験したこと（1/2）

単位：％

区分		水道・電気・ガスのどれかが止められた	クレジットカードが使えなくなった	国民健康保険料や国民年金の支払いができなかった	電話（固定・携帯）などの通信料の支払いができなかった	家賃の支払いができなかった	住宅ローンの支払いができなかった	食費を切りつめた	新しい衣服や靴を買うのを減らした	新聞や雑誌を買うのを減らした	冠婚葬祭のつきあいを減らした
全体		0.6	2.5	3.6	2.0	1.9	0.7	34.0	40.3	14.3	3.3
生活 困難層	困窮層	4.5	19.5	26.3	19.5	14.3	2.3	91.7	97.0	54.9	24.1
	周辺層	1.8	4.0	7.6	2.2	4.0	2.9	55.4	60.5	26.8	6.2
一般層		0.1	1.0	1.2	0.6	0.6	0.2	26.5	33.1	9.3	1.2

図表－220 生活困難度別 経済的な理由で経験したこと（2/2）

単位：％

区分		医療機関を受診できなかった	理髪店や美容院に行けなかった	スマートフォンへの切替・利用を断念した	敷金・保証金等用意できず、住み替え・転居を断念した	趣味やレジャーの出費を減らした	キャッシング・カードローンなどを利用した	その他	特にない	無回答
全体		3.6	11.0	4.2	1.7	39.7	7.6	1.4	41.8	2.8
生活 困難層	困窮層	34.6	70.7	27.8	13.5	89.5	42.1	6.0	－	－
	周辺層	7.6	24.6	7.2	4.0	56.5	12.0	4.0	18.5	1.1
一般層		0.6	4.3	1.9	0.5	33.7	4.4	0.6	49.4	1.9

次に、回答割合の高い「趣味やレジャーの出費を減らした」、「新しい衣服や靴を買うのを減らした」、「食費を切りつめた」、「新聞や雑誌を買うのを減らした」について、前回調査結果と比較していきたい。回答項目の一般層、周辺層、困窮層の各割合をみていくと、困窮層では、「新聞や雑誌を買うのを減らした」以外の選択肢の割合が前回調査よりもほぼ高くなっている。しかし、他の一般層、周辺層も同様に増加していることから、家計の逼迫は、生活困難度の高低に関わらず、多くの世帯で広がりを見せていることがわかった。

図表－２２１ 生活困難別 経済的な理由で経験したことの前回比較
(回答割合上位項目の抜粋)

単位：％

回答項目	一般層	周辺層	困窮層
趣味やレジャーの出費を減らした	33.7 (28.9)	56.5 (52.7)	89.5 (76.5)
新しい衣服や靴を買うのを減らした	33.1 (30.1)	60.5 (54.5)	97.0 (91.8)
食費を切りつめた	26.5 (21.0)	55.4 (50.9)	91.7 (90.0)
新聞や雑誌を買うのを減らした	9.3 (2.3)	26.8 (15.4)	54.9 (56.5)

* () 内、前回調査

⑧経済的な理由で子どもにしてあげられなかったこと

経済的な理由で子どもにしてあげられなかったことについて、全体では、「特にない」の割合が最も高いが（63.0%）、これを除くと、「子どもを旅行やレジャーに連れていくことができなかった」が23.2%、次いで「子どもを学習塾やスポーツなどの習い事に通わせられなかった」が12.5%、「子どもへおこづかいを渡すことができなかった、渡す額を減らした」が12.1%となった（113頁参照）。

回答割合の高かった3項目を生活困難度別にみていくと、「子どもを旅行やレジャーに連れていくことができなかった」は、一般層では14.5%（約1割弱）、周辺層では47.1%（約5割）、困窮層では90.2%（約9割）と生活困難度が上がるにつれ、回答割合が高くなっている。また、「子どもを学習塾やスポーツなどの習い事に通わせられなかった」についても、一般層では5.1%、周辺層では34.1%、困窮層では65.4%と、ここでも生活困難度が上がるにつれ、回答割合が高くなっている。そして、「子どもへおこづかいを渡すことができなかった、渡す額を減らした」は、一般層では4.1%、周辺層では30.1%、困窮層では80.5%と、生活困難度が上がるにつれ、回答割合が高くなっている。これらのことから、生活困難度が上がるにつれ、子どもの学習の機会、スポーツや習い事等の体験・機会の喪失が生じていることが明らかになった。

図表ー２２２ 生活困難度別 経済的な理由で子どもにしてあげられなかったこと（１／２）

単位：％

区分		子どもを医療機関に受診させることができなかった	子どもの進路を変更した	子どものための本が買えなかった	子どものための服や靴が買えなかった	子どもへおこづかいを渡すことができなかった、渡す額を減らした	子どもを学校や地域のクラブ活動に参加させることができなかった	子どもを学習塾やスポーツなどの習い事に通わせられなかった
全体		1.4	1.3	2.9	8.1	12.1	2.0	12.5
生活 困難層	困窮層	17.3	9.0	33.8	66.9	80.5	22.6	65.4
	周辺層	2.2	2.5	5.1	22.5	30.1	4.3	34.1
一般層		-	0.5	0.1	1.3	4.1	0.1	5.1

図表ー２２３ 生活困難度別 経済的な理由で子どもにしてあげられなかったこと（２／２）

単位：％

区分		子どもに必要な文具や教材を買えなかった	子どもが生まれてから誕生日までプレゼントできなかった	子どもを旅行やレジャーに連れて行くことができなかった	その他	特にない	無回答
全体		1.7	5.3	23.2	0.9	63.0	5.9
生活 困難層	困窮層	19.5	46.6	90.2	5.3	-	-
	周辺層	3.3	12.7	47.1	1.8	32.6	3.3
一般層		0.1	0.9	14.5	0.5	73.7	5.4

次に、回答割合の高い「子どもを旅行やレジャーに連れて行くことができなかった」、「子どもを学習塾やスポーツなどの習い事に通わせられなかった」、「子どもへおこづかいを渡すことができなかった・渡す額を減らした」について、前回調査結果と比較していきたい。回答項目の一般層、周辺層、困窮層の各割合をみていくと、生活困窮度が高まるにつれ、前回調査と比較して、回答者の割合が高くなっている。一般層では、「子どもへおこづかいを渡すことができなかった、渡す額を減らした」の回答割合が微増したが、他の項目では大きな変化はみられなかった。周辺層では3項目すべてにおいて前回調査と比較して回答割合が高くなり、困窮層では、「子どもを旅行やレジャーに連れて行くことができなかった」と「子どもへおこづかいを渡すことができなかった、渡す額を減らした」において前回調査と比較して大幅に増加しているため、生活困難層における子どもの機会・体験喪失が増えている、つまり格差が拡大していることがわかった。

図表－２２４ 生活困難別 経済的な理由で子どもにしてあげられなかったことの前回比較
(回答割合上位項目の抜粋)

単位：％

回答項目	一般層	周辺層	困窮層
子どもを旅行やレジャーに連れていくことができなかった	14.5 (14.4)	47.1 (44.6)	90.2 (75.9)
子どもを学習塾やスポーツなどの習い事に通わせられなかった	5.1 (6.4)	34.1 (26.2)	65.4 (67.6)
子どもへおこづかいを渡すことができなかった、渡す額を減らした	4.1 (2.6)	30.1 (24.1)	80.5 (67.1)

* () 内、前回調査

(3) 子どもの状況

生活困難度が高い家庭の子ども達は、何らかの生活・学習課題を有していることが少なくない。本調査結果でも同様の結果がみられるのか、以下、回答項目から、関連項目を取り上げていきたい。

①勉強時間

1日あたりの勉強時間について、「学校がある日（月～金曜日）」と「学校がない日（土・日曜日・祝日）」について聞いたところ、「学校がある日（月～金曜日）」は「30分以上、1時間より少ない」が一般層36.2%、周辺層38.4%、困窮層32.6%と最も高く、次いで「1時間以上2時間より少ない」が、一般層25.6%、周辺層19.6%、困窮層20.9%、そして、「30分より少ない」が一般層16.6%、周辺層20.3%、困窮層18.6%であった（9頁参照）。一方、「学校がない日（土・日曜日・祝日）」では、「30分以上、1時間より少ない」が一般層22.6%、周辺層25.8%、困窮層24.0%と最も高く、次いで「30分より少ない」が、一般層22.0%、周辺層23.2%、困窮層25.6%、「まったくしない」が一般層16.7%、周辺層26.2%、困窮層27.1%であった（10頁参照）。一般層、周辺層、困窮層とも、勉強時間が多いとは言いが、その中でも生活困窮層の子ども達は、他の層と比較して勉強時間が少ない傾向が示された。

図表一 2 2 5 生活困難度別 1日あたりの勉強時間【学校がある日（月～金曜日）】

単位：％

区分		まったくしない	30分より少ない	13時間 0分以上、 より少ない	21時間 1時間以上、 より少ない	32時間 2時間以上、 より少ない	3時間以上	無回答
全体		7.9	17.2	36.4	24.5	7.9	4.5	1.7
生活 困難層	困窮層	17.1	18.6	32.6	20.9	7.0	2.3	1.6
	周辺層	12.5	20.3	38.4	19.6	4.4	2.6	2.2
一般層		6.6	16.6	36.2	25.6	8.5	4.8	1.7

図表一 2 2 6 生活困難度別 1日あたりの勉強時間【学校がない日（土・日曜日・祝日）】

単位：％

区分		まったくしない	30分より少ない	13時間 0分以上、 より少ない	21時間 1時間以上、 より少ない	32時間 2時間以上、 より少ない	3時間以上	無回答
全体		18.4	22.4	23.1	17.8	6.9	6.1	5.4
生活 困難層	困窮層	27.1	25.6	24.0	6.2	7.8	2.3	7.0
	周辺層	26.2	23.2	25.8	14.4	4.4	2.2	3.7
一般層		16.7	22.0	22.6	19.1	7.3	6.8	5.4

②進学希望の理由

進学希望の理由として、「希望する学校や職業があるから」と回答する割合が、小学5年生、中学2年生とも半数近く（小学5年生54.5%、中学2年生47.7%）となった（19頁参照）。これを一般層、周辺層、困窮層でみていくと、それぞれ52.1%、46.6%、40.7%であり、生活困難度が高くなるにつれて低くなっていることがわかった。周辺層、困窮層では、「家にお金がないと思うから」（周辺層5.7%、困窮層10.5%）、「早く働く必要があるから」（周辺層5.7%、困窮層5.8%）と回答する割合が、一般層よりもやや高くなっている。このことから、生活困難度が、希望する最終学歴に影響を及ぼしていることがわかった。

図表－２２７ 学年別 進学希望の理由

単位：％

区分	希望する学校や職業があるから	自分の成績から考えて	両親がそう言っているから	兄弟・姉がそうしているから	まわりの先輩や友達からそうしているから	家にお金がないと思うから	早く働く必要があるから	その他	とくに理由はない	無回答
全体	50.9	15.2	13.9	5.0	3.7	3.3	3.9	9.7	21.9	0.7
小学5年生	54.5	14.0	10.7	4.1	1.7	3.4	4.7	11.7	21.2	0.9
中学2年生	47.7	16.5	17.0	5.9	5.6	3.1	3.2	7.7	22.6	0.6

図表－２２８ 生活困難度別 進学希望の理由

単位：％

区分	希望する学校や職業があるから	自分の成績から考えて	両親がそう言っているから	兄弟・姉がそうしているから	まわりの先輩や友達からそうしているから	家にお金がないと思うから	早く働く必要があるから	その他	とくに理由はない	無回答
全体	50.9	15.2	13.9	5.0	3.7	3.3	3.9	9.7	21.9	0.7
生活困難層										
困窮層	40.7	19.8	11.6	4.7	3.5	10.5	5.8	8.1	27.9	1.2
周辺層	46.6	15.5	13.8	5.7	2.9	5.7	5.7	10.9	20.1	1.1
一般層	52.1	14.6	14.0	5.0	3.7	2.4	3.6	9.8	21.8	0.6

③部活動等に参加していない理由

部活動等への参加率は、全体で71.3%（一般層73.0%、周辺層63.1%、困窮層65.9%）と高い（20頁参照）。部活動等に参加していない理由として、「入りたいクラブ・部活動がないから」（一般層43.1%、周辺層38.9%、困窮層45.5%）、「塾や習い事が忙しいから」（一般層24.6%、周辺層13.7%、困窮層2.3%）と回答する子どもたちの割合が高くなっている（22頁参照）。現在の子ども達の遊び・活動の場は、部活動等以外にも広がっており、「部活動等に参加しない・できないこと」をもって、体験格差等が生じていると述べることは難しい。しかし、約7割の子ども達が部活動に参加するなかで、周辺層や困窮層の子ども達が、「費用がかかるから」（周辺層14.7%、困窮層15.9%）、「家の事情（家族の世話、家事など）があるから」（周辺層7.4%、困窮層6.8%）等の理由で部活動に参加していないことには注意が必要である。

図表－229 生活困難度別 部活動等への参加状況

単位：％

区分		参加している	参加していない	無回答
全体		71.3	27.9	0.8
生活 困難層	困窮層	65.9	34.1	-
	周辺層	63.1	35.1	1.8
一般層		73.0	26.3	0.7

図表－230 生活困難度別 部活動等に参加していない理由

単位：％

区分		部入り 活動た いクラ ブ・	い塾 から 習い 事が 忙し い	費用 がか かる から	ある 世家 の事 情（ 家族 の	い一 緒に 入る 友達 が	その他	無 回 答
全体		42.4	21.6	6.8	5.3	10.2	31.9	2.0
生活 困難層	困窮層	45.5	2.3	15.9	6.8	6.8	38.6	-
	周辺層	38.9	13.7	14.7	7.4	6.3	33.7	3.2
一般層		43.1	24.6	4.3	4.6	11.6	31.2	2.1

④食事の状況

(a) 朝食

朝食について、「毎日食べる（週7日）」が、一般層では84.0%であるのに対し、周辺層では74.5%、困窮層では65.9%と生活困難度が高くなるにつれ、「毎日食べる割合（週7日）」が低くなっている（24頁参照）。また、「週1～2日、ほとんど食べない」の割合が周辺層では8.5%、困窮層では12.4%と生活困難度が高くなるにつれやや高くなっている。

前回調査と今回調査では、設問の選択肢がやや異なることに留意する必要があるが（例えば、今回調査では「毎日食べる（週7日）」が、前回調査では「毎日・ほぼ毎日」となっている）、前回調査では、「毎日・ほぼ毎日」と回答した割合が、一般層が93.9%、周辺層が90.9%、困窮層が83.2%であったのに対し、今回調査では、「毎日食べる（週7日）」もしくは「週5～6日」と回答した割合が一般層91.7%、周辺層87.0%、困窮層80.6%と、やや減少していることがわかる。

図表－231 生活困難度別 食事の状況（朝食）

単位：％

区分		毎日 食べる (週7 日)	週 5 ～ 6 日	週 3 ～ 4 日	週 1 ～ 2 日、 ほと んど 食べ ない	無 回 答
全体		81.6	8.8	3.0	5.5	1.0
生活 困難層	困窮層	65.9	14.7	5.4	12.4	1.6
	周辺層	74.5	12.5	3.0	8.5	1.5
一般層		84.0	7.7	2.9	4.6	0.9

図表－232 生活困難度別 食事の状況（朝食）【前回調査】

単位：％

区分		毎日・ ほぼ 毎日	週に 4 ～ 5 日	週に 2 ～ 3 回	週に 1 回 程 度	食 べ な い	無 回 答
全体		92.6	2.8	2.4	1.1	0.8	0.2
生活 困難層	困窮層	83.2	5.4	6.0	2.4	3.0	－
	周辺層	90.9	3.6	2.4	0.9	1.8	0.3
一般層		93.9	2.4	2.0	1.1	0.5	0.2

(b) 夕食

夕食について、一般層では、「毎日食べる（週7日）」が97.0%であるのに対し、周辺層では94.1%、困窮層では93.8%となっている（26頁参照）。生活困難度が高くなるにつれ、「毎日食べる割合（週7日）」がやや低くなっている。

前回調査と今回調査では、(a) 朝食同様、設問の選択肢がやや異なることに留意する必要があるが、前回調査では、「毎日・ほぼ毎日」と回答した割合が、一般層が99.3%、周辺層が98.2%、困窮層が99.4%であったのに対し、今回調査では、「毎日食べる（週7日）」もしくは「週5～6日」と回答した割合が一般層98.4%、周辺層97.8%、困窮層99.2%と、わずかではあるが減少していることがわかる。

図表－233 生活困難度別 食事の状況（夕食）

単位：％

区分		毎日 食べる (週7 日)	週 5 ～ 6 日	週 3 ～ 4 日	週 1 ～ 2 日、 ほと んど 食べ ない	無 回 答
全体		96.4	2.0	0.1	0.1	1.3
生活 困難層	困窮層	93.8	5.4	-	-	0.8
	周辺層	94.1	3.7	-	-	2.2
一般層		97.0	1.4	0.2	0.2	1.2

図表－234 生活困難度別 食事の状況（夕食）【前回調査】

単位：％

区分		毎日・ ほぼ 毎日	週に 4～ 5日	週に 2～ 3回	週に 1回 程度	食べ ない	無 回 答
全体		99.1	0.2	0.1	-	-	0.6
生活 困難層	困窮層	99.4	0.6	-	-	-	-
	周辺層	98.2	0.6	-	-	-	1.2
一般層		99.3	-	0.2	-	-	0.5

(c) 夏休みや冬休みなどの期間の昼食

学校が休みになる夏休みや冬休みの昼食については、一般層では、「毎日食べる（週7日）」が90.5%であるのに対し、周辺層では81.5%、困窮層では79.8%と、生活困難度が上がるにつれて「毎日食べる割合（週7日）」の割合が低くなっていることがわかった（28頁参照）。

前回調査と今回調査では、(a) 朝食、(b) 夕食同様、設問の選択肢がやや異なることに留意する必要があるが、前回調査では、「毎日・ほぼ毎日」と回答した割合が、一般層が90.0%、周辺層が86.1%、困窮層が79.6%であったのに対し、今回調査では、「毎日食べる（週7日）」もしくは「週5～6日」と回答した割合が一般層96.3%、周辺層91.8%、困窮層92.2%と、やや改善していることがわかる。

図表－235 生活困難度別 食事の状況（夏休みや冬休みなどの期間の昼食）

単位：％

区分		毎日食べる (週7日)	週5～6日	週3～4日	週1～2日、ほとんど食べない	無回答
全体		88.7	6.7	2.3	0.8	1.4
生活困難層	困窮層	79.8	12.4	3.9	2.3	1.6
	周辺層	81.5	10.3	4.4	1.5	2.2
一般層		90.5	5.8	1.9	0.6	1.3

図表－236 生活困難度別 食事の状況（夏休みや冬休みなどの期間の昼食）【前回調査】

単位：％

区分		毎日・ほぼ毎日	週に4～5日	週に2～3回	週に1回程度	食べない	無回答
全体		88.6	9.2	1.5	0.2	0.3	0.2
生活困難層	困窮層	79.6	13.2	6.0	－	1.2	－
	周辺層	86.1	10.9	1.8	0.6	0.3	0.3
一般層		90.0	9.4	1.0	0.2	0.2	0.2

食事を食べない（抜く）理由については、今回の調査項目に含まれていなかったため、前回の調査結果を参考にして、時間的余裕がない、お腹が空いていない、あるいは、生活習慣、ダイエット等、様々な要因が推測されるが、経済的な理由が食事に影響を与えている世帯も含まれていると考えられる。

⑤心身の不調

全体では「とくに気になることはない」が43.5%（一般層46.3%、周辺層33.6%、困窮層34.1%）の割合が高かった（38頁参照）。心身の不調の「心」に属する項目では、「やる気がおきない」が23.0%（一般層21.7%、周辺層29.2%、困窮層26.4%）、「不安な気持ちになる」が18.7%（一般層17.6%、周辺層22.5%、困窮層26.4%）、「まわりが気になる」が18.7%（一般層17.5%、周辺層24.0%、困窮層24.0%）と、生活困難度に関わらず、一定数の子ども達の心に不安定、ゆらぎが生じているが、生活困難度が高まるにつれ、その割合が増える傾向にあることがわかった。

一方、心身の不調の「身体」に属する項目では、「よくおなかがいたくなる」が15.1%（一般層14.2%、周辺層17.7%、困窮層22.5%）、「よく体がかゆくなる」が11.5%（一般層11.0%、周辺層12.9%、困窮層15.5%）、「よく頭がいたくなる」が11.0%（一般層9.9%、周辺層12.5%、困窮層17.8%）と、身体に不調をきたしている子どもたちが一定数おり、生活困難度が高くなるにつれ、その割合が高くなっていることがわかった。また、「音が聞こえにくい」、「ものを見づらい」子ども達も割合的には低いが、授業についていけない、学校の勉強がわからなくなった等の要素の一つになりうるので注意が必要である。

図表－237 生活困難度別 心身の不調（1/2）

単位：％

区分		ねむれない	よく頭がいたくなる	歯がいたい	ものを見づらい	音が聞こえにくい	よくおなかがいたくなる	よくかぜをひく	よく体がかゆくなる
全体		8.8	11.0	1.8	6.0	3.3	15.1	2.7	11.5
生活 困難層	困窮層	8.5	17.8	0.8	7.8	6.2	22.5	3.1	15.5
	周辺層	12.5	12.5	2.6	6.6	5.5	17.7	4.1	12.9
一般層		7.9	9.9	1.7	5.8	2.8	14.2	2.4	11.0

図表－238 生活困難度別 心身の不調（2/2）

単位：％

区分		不安な気持ちになる	まわりが気になる	やる気が起きない	いろいろな事	その他	とくに気になることはない	無回答
全体		18.7	18.7	23.0	18.5	5.5	43.5	1.5
生活 困難層	困窮層	26.4	24.0	26.4	21.7	4.7	34.1	4.7
	周辺層	22.5	24.0	29.2	24.0	5.5	33.6	1.5
一般層		17.6	17.5	21.7	17.0	5.7	46.3	1.1

⑥孤立化

放課後を一緒に過ごす人について、全体では、「おうちの大人（親・祖父母・親せきなど）」と回答する割合が73.6%（一般層75.2%、周辺層66.8%、困窮層67.4%）と最も高かった。次いで、「きょうだい」が57.7%（一般層58.2%、周辺層55.4%、困窮層58.9%）、「学校の友だち」が54.5%（一般層54.3%、周辺層59.8%、困窮層47.3%）となっている。生活困難度が高くなると、「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」や「学校以外の友だち（スポーツクラブ、近所の友だち）」の割合が一般層、周辺層と比較してやや低くなっていることがわかった。また、生活困難層（困窮層＋周辺層）では、「おうちの大人（親・祖父母・親せきなど）」の割合が一般層よりもやや低くなっており、家族の時間共有の減少もみられた。

今回の調査を前回調査と比較してみると、全体として「おうちの大人（親・祖父母・親せきなど）」、「きょうだい」、「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」と回答する割合が高くなったが、一方で、「ひとりである」と回答した割合が、一般層、周辺層において、やや増加している。

図表－２３９ 生活困難度別 放課後を一緒に過ごす人

単位：％

区分	親おうちの大人（親・祖父母・親せきなど）	きょうだい	先生おうちの大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）	学校の友だち	クラブ活動の仲間	学校以外の友だち（スポーツクラブ、近所の友だちなど）	その他の人	ひとりである	無回答
全体	73.6	57.7	24.6	54.5	28.1	12.9	1.5	20.8	1.0
生活困難層									
困窮層	67.4	58.9	14.0	47.3	34.1	5.4	0.8	15.5	0.8
周辺層	66.8	55.4	19.9	59.8	24.0	10.3	1.5	26.2	0.7
一般層	75.2	58.2	26.4	54.3	28.1	14.0	1.4	20.4	1.0

図表－２４０ 生活困難度別 放課後を一緒に過ごす人【前回調査】

単位：％

区分	親おうちの大人（親・祖父母・親せきなど）	きょうだい	先生おうちの大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）	学校の友だち	学校以外の友だち	その他の人	ひとりである	無回答
全体	57.6	39.3	2.9	65.0	6.3	2.5	15.0	1.0
生活困難層								
困窮層	49.7	39.5	0.6	62.3	6.6	3.6	19.2	-
周辺層	57.4	37.8	2.7	64.7	2.1	2.4	14.8	1.2
一般層	58.3	39.4	3.2	65.3	7.1	2.4	14.7	1.0

第5章 総括

相談できると思う相手では、全体では、「親」と回答する割合が74.4%（一般層75.3%、周辺層70.5%、困窮層69.8%）と最も高かった。次いで、「学校の友達」が63.3%（一般層63.4%、周辺層61.6%、困窮層62.8%）、「学校の先生」が30.8%（一般層31.4%、周辺層25.8%、困窮層33.3%）となっている。今回の調査から、あらためて、親、学校の友達、学校の先生といった身近な存在が子どもたちにとって非常に重要な存在であることがわかった。一方で、回答割合は少ないが、親、学校の友達、学校の先生といった身近な存在に相談するのではなく、「ネットで知り合った人」と回答する子どもたち、「だれにも相談できない、相談したくない」と回答した子ども達がいることにも留意する必要がある。

図表－２４１ 生活困難度別 相談できると思う相手

単位：％

区分	親	きょうだい	祖父母など	学校の先生	学校の友達	学校外の友達	スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーなど	その他の大人（学童保育所の人、塾・習い事の先生、地域の人）	ネットで知り合った人	だれにも相談できない、相談したくない	無回答
全体	74.4	24.8	18.2	30.8	63.3	15.9	4.9	5.6	2.8	6.1	1.3
生活困難層											
困窮層	69.8	28.7	17.1	33.3	62.8	7.8	5.4	5.4	4.7	4.7	2.3
周辺層	70.5	25.1	17.0	25.8	61.6	17.7	3.7	5.5	3.3	4.8	1.1
一般層	75.3	24.4	18.3	31.4	63.4	16.1	4.9	5.3	2.7	6.5	1.2

3. アンケート結果から得られた課題と提言

(1) 課題

今回の調査では、生活困難度の3要素のうち、「低所得層」、「家計の逼迫」の割合はやや改善したものの、「子どもの体験や所有物の欠如」は改善していないことがわかった。数値的にはやや改善されたようにみえるものの、いまだ約5人に1人が、何らかの生活困難に直面していることもわかった。また、ひとり親世帯の生活困難層の割合が高いこと、養育者世帯（父母ともにおらず、祖父母が養育している）全てが生活困難層であることもわかった。特に、①経済的状況、②ひとり親世帯、③健康、④人・社会とのつながり等については調査結果を参考にしながら、低所得者層への支援の中でも重点的な課題としていっそう取り組んでいく必要がある。

①経済的状況

保護者が、経済的な理由で経験したこととして、困窮層では「新聞や雑誌」以外の選択肢の割合が増加したが、一般層や周辺層も同様に増加しているため、前回調査からの変化は生活困難度によらず、多くの世帯で家計の逼迫が悪化していることがわかった。近年は、食品、光熱費等の日常的な支出が増加しているため、今後注意深くみていく必要がある。また、経済的な理由で子どもにしてあげられなかったこととして（図表－222, 223）、前回調査と比較して、周辺層では3項目すべてにおいて回答割合が高くなり、困窮層ではうち2項目において大幅に増加していることから、子どもの機会・喪失体験が増えている、つまり格差が拡大していることがわかった。下図（図表－242）「成人後・次世代の貧困 貧困の複合性」にあるように、子どもの機会喪失体験は、教育面への影響、社会的スキルの発達、メンタルヘルス、アイデンティティの形成、そして、将来の経済的影響等、その影響は計り知れない。これらの影響を軽減するためには、親の経済状況、家庭環境を取り巻く状況を改善していくことが必要であるが、それ以外にも教育機会の提供、社会的なつながりを促進するプログラム等も求められる。

②ひとり親世帯

今回の調査でも、「ひとり親の世帯」では、「ふたり親の世帯」と比較して生活困難層の割合が高く（困窮層21.8%、周辺層26.9%）、特に「母子世帯」では2世帯に1世帯が生活困難層であることがわかった。母子世帯の生活困難度が高まる要因については、収入の不足、生活費や子育てにかかる費用の増加、仕事と育児の両立の困難さ、等が挙げられ、これらの要因が重なることによって、貧困の連鎖、精神的ストレスの増加、社会参加の制限等が生じることが少なくない。母親の就業率は約9割（厚生労働省「令和3年度全国ひとり親世帯等調査」）と高いが、雇用が不安定で賃金が相対的に低い非正規で働いているため、生活を支えるための収入も限られてしまう。子育ての時間的制約、正規雇用の就業先が限られていること等も正規職員への道のりを厳しくしているという現実がある。低賃金で働きながら、生活費、子どもの教育費等を捻出しようとすると、ダブルワーク等で長時間働くことになり、育児や家事の時間が不十分になるだけでなく、母親自身の精神的なストレス、健康にも支障をきたすことになる。経済的な不安、母親の精神的なストレス等は、子どもの発達に大きな影響を及ぼすことから、母子世帯に対する支援策の充実、就労環境の改善、社会的な理解等が求められる。

③健康

今回の調査でも、経済的な理由で経験したことの一つとして「医療機関を受診できなかった」の回答割合が全体では3.6%（一般層0.6%、周辺層7.6%、困窮層34.6%）であったが、生活困難度が高くなるにつれ、回答割合が高くなっていることがわかった。生活困難度が高まると、医療費の負担が家計を圧迫し、病気になっても受診することをためらったり、処方された薬を節約するために服用量を減らしたりするケースもあり、結果として、健康状態が悪化するという悪循環に陥る可能性がある。経済格差が健康格差を生み出す大きな要因の一つであることは知られているため、健康な社会を実現するためにも、健康的な生活習慣や予防医療に関する情報の提供、住民が主体的に参加できるような地域参加型の取り組み等を組み合わせながら、健康格差を解消するような対策が求められる。

④人・社会とのつながり

保護者に対して、相談相手の有無について尋ねたが、相談相手がいない人、もしくは相談しなかった人の割合が前回調査より微増し、特に困窮層ではその増加幅が大きくなっている。相談できる人がいない場合、精神的な支えの欠如、孤独感の増幅、人・社会の繋がり希薄化等によって孤立しやすい状況に陥ってしまう。相談を阻む要因として、例えば、経済的困窮（相談を阻む要因相談に行くための交通費や電話代等の費用が捻出できない、相談機関への移動時間や相談に費やす時間が仕事や家事育児等で取れない等）、プライバシーへの不安（自分の困窮を他人に知られることへの恥ずかしさや不安、相談内容が外部に漏れるのではないかとという恐怖心等）、専門機関へのアクセスのしにくさ（相談機関の開所時間が自身の生活時間・リズムと合わない場合等）が考えられるため、これらを意識しながら、生活困窮層が相談しやすい環境づくりを構築していくことが求められる。また、子どもが放課後を一緒に過ごす人について、回答割合の高かった「おうちの大人（親・祖父母・親せきなど）」、「きょうだい」、「おうちの人以外の大人」は前回調査と比較しても、増加幅が大きい。「学校の友だち」の回答割合は前回調査と比較してやや減少したが、今回調査で新たに選択肢に加わった「クラブ活動の仲間」の回答割合を踏まえると、同年代の友だちとの関わりが少なくなっているわけではないが、「ひとりである」と回答した割合が、前回調査と比較して、一般層、周辺層において高くなっている。子どもが家族、大人、友人等と交流を持たず、社会的な関係が希薄になると「子どもの孤立」が生じるとされおり、家庭環境、学校環境、心身の健康状態等にも注意しながら、子どもが大人や友人と安心してコミュニケーションできる環境を整えていくことが求められる。

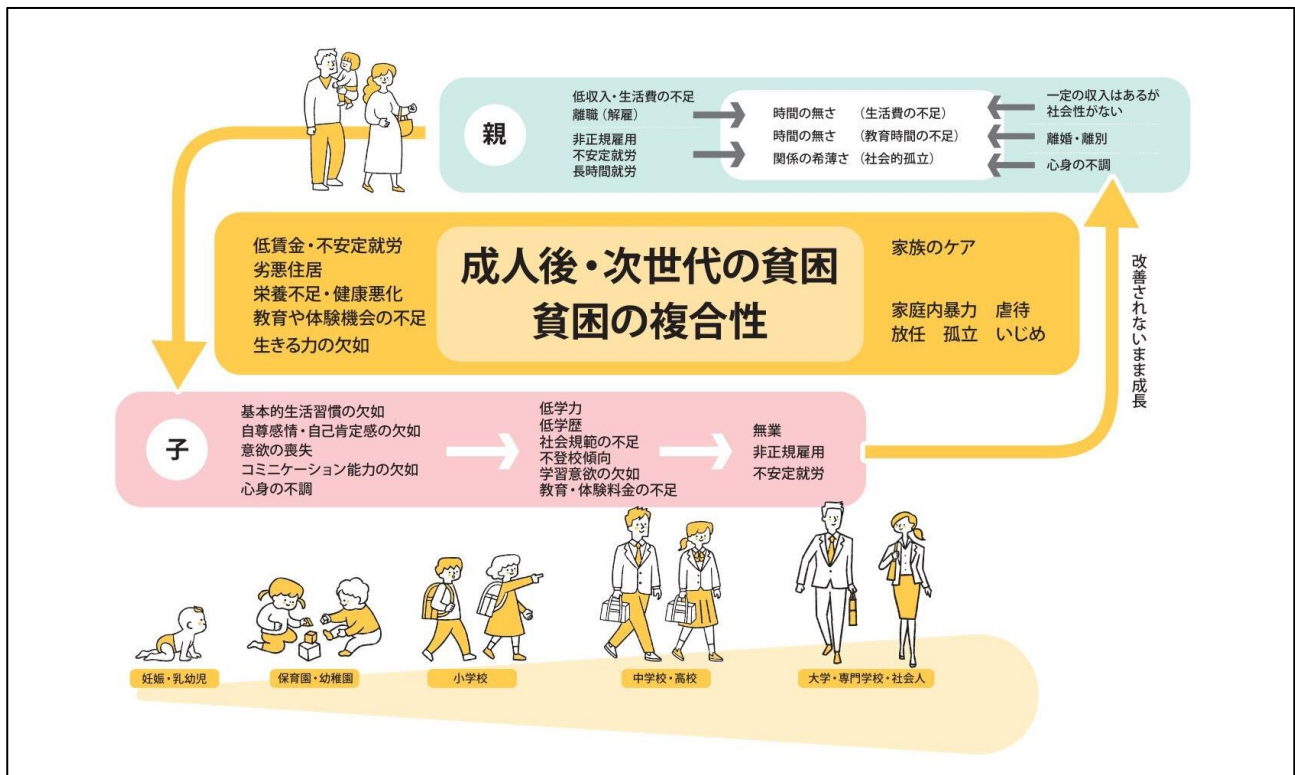
(2) 提言

①生活困窮世帯の経済状況の把握・支援

久留米市では、子どもやその保護者の生活実態の調査は、前回調査（平成29年度）、そして今回の調査を実施したことにより、基礎的資料・データが整備されつつある。今回は、生活困難度のみ、統計的手法を用いて分析を行ったが、「子どもの生活実態調査」においてこのような統計的手法をもって詳しく分析すること自体珍しい。久留米市においては、前回と今回で得られた結果を、統計的手法を用いて、詳しく分析し、市内の子どもの生活実態をより詳細に把握できるよう努める必要がある。

総括の最初にも触れたが、子どもたちの貧困は、家庭の経済状況に著しく依存している。親の低所得は、子ども達が適切な栄養、教育、および医療サービスにアクセスすることを妨げ、その結果として、子どもの幸福度を著しく低下させる。例えば、親の低収入・生活費の不足等の様々な要因によって貧困状態に陥ると、そこに暮らす子どもに様々な影響を及ぼすことがわかっている（基本的生活習慣の欠如・自尊感情・自己肯定感の欠如、低学力、低学歴等）（図表－242参照）。「貧困の再生産」、「格差の再生産」を防止するためにも、「親の貧困対策」と「子どもの貧困対策」を車の両輪のように同時に進めていく必要がある。

図表－242 成人後・次世代の貧困 貧困の複合性



資料：『福岡県子どもの貧困対策推進計画』14頁をもとに作成

現在、物価高、先行き不透明な景気の動向が私たちの暮らしに大きな影響を及ぼしているが、今後は、今まで以上に、親の収入増加につながる支援、子育て負担の軽減のための支援、子どもの教育・体験機会の保障等、地域の特性やニーズに応じて、生活困窮世帯への支援策を柔軟に組み合わせていくことが求められる。また、生活困難度の高い世帯の経済状況を含んだ各家庭の状況、ニーズ把握、そして必要であれば生活保護を含む社会福祉サービスにつなげる等、当事者の意見を尊重しながら、彼らが真に必要な支援を、行政が具体的な形で展開していくことが求められている。

②ひとり親世帯への支援

今回の調査でも、ひとり親世帯、特に母子世帯の子どもの貧困率が高いことがわかった。そのため、①子育て・生活支援策（児童扶養手当、保育料の減免、ひとり親家庭等医療費の助成、就学援助等）、②就業支援策（ひとり親サポートセンター事業、自立支援策定プログラム等）、③養育費の確保策（養育費確保支援事業等）、④経済的支援策（生活保護、母子父子寡婦福祉貸付金等）、⑤健康・医療支援（健康診断やメンタルヘルス支援の充実等）、⑥相談窓口の整備（専門的な相談員によるカウンセリング、各種支援制度の情報提供等）、⑦教育支援（学校でのスクールソーシャルワーカー、心理カウンセラー等のカウンセリング支援の提供や子ども向けの特別プログラムやアクティビティ）等の支援策に加え、地域でひとり親家庭の支援にあたっている地域のボランティア団体やNPO等の支援団体等とも連携しながら、行政と地域が連携しながら、持続可能で効果的な支援を提供していくことが必要である。

③健康上の問題

生活困難度が高い子ども達は、栄養が不十分であったり、医療サービスの適切な利用が難しく、健康問題を抱えるリスクが高まることもある。今回の調査でも、心身の不調を訴える子ども達が一定数いたが（37－39頁参照）、心身の不調を身近な人にきちんと相談できているのかまでは、把握することができなかった。そのため、心身の不調が単に受診、通院、投薬等で完治できる病気なのか、それとも、子ども達が直面する問題（経済問題、学業、友人関係、いじめ、家族の問題等）によって引き起こされる心身の不調なのか、それらについては当然ながら把握することができなかった。今後の子ども達の健康上の問題について考えられる方針としては、行政、医療機関、教育機関、福祉機関、地域住民等が連携し、その実態を把握しながら、①医療的な支援、②心理的な支援、③生活環境の改善等の適切な支援を展開していくことで、子どもを取り巻く環境全体を改善していく等の対応が求められる。

④人・社会とのつながり

生活困難層の孤立を防止するためには、経済的な支援だけでなく、社会的なつながりを促進する多角的な対策が必要である。例えば、地域のボランティア活動やイベントへの参加を促し、地域住民との交流機会を増やす等、地域コミュニティへの参加を促進するような機会を増やすことも必要である。また、子どもが、親の経済状況に影響を受けにくい社会環境づくりを進める等、将来の社会参加を進めていくことが求められている。

参考資料 調査票

(1) 小中学生

しょうがくせい ちゅうがくせい お ちようさひよう
小学生・中学生向け調査票

く る め し こ せいかつじたいちようさ
久留米市子どもの生活実態調査

- これは、久留米市の子どもの生活状況などを調べるための調査で、市内にお住まいの小学5年生・
中学2年生とその保護者を対象に久留米市が実施しています。
- この調査票の回答は、あなたが自分で書いてください。安心して答えられるよう、おうちの方には見せ
ないでください。
- 名前は、書かないでください。
- 自分の思う答えを書いてください。まちがった答えや、正しい答えはありません。
- 答えは、あてはまる番号に○をつけてください。
- 答えたくない質問には、答えなくてもいいです。
- のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまるもの1つに○」や「あてはまるものすべてに○」などと
書いてありますので、それにしたがってください。
- 全部書き終わったら、自分で小さいほうの封筒に入れて、テープでとしておうちの方に渡してください。
- この調査票は調査の目的以外には使用しません。また、この調査票では名前を書かないので、あな
たがどのように答えたかはだれにもわかりません。
- 調査についてのお問い合わせは、以下までお願いします。

◆お問い合わせ先

【調査実施会社】株式会社サーベイリサーチセンター九州事務所
 電話番号 092-411-8811 (平日:午前10時~午後6時 ※土・日・祝日除く)
 メールアドレス kurumekodomo@surece.co.jp

◆実施主体

久留米市子ども未来部子ども政策課

問1 あなたの^{がくねん おし}学年を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1 ^{しょうがく ねんせい}小学5年生

2 ^{ちゅうがく ねんせい}中学2年生

問2 あなたの^{せいべつ おし}性別を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1 ^{おとこ}男

3 ^たその他

2 ^{おんな}女

4 ^{こた}答えたくない

問3 あなたは、^{がっこう じゅぎょうい がい}ふだん学校の授業以外で、どのように^{べんきょう}勉強をしていますか。

※勉強には学校の^{べんきょう がっこう しゅくだい}宿題もふくみます。(1～8については、あてはまるものすべてに○)

1 ^{じぶん べんきょう}自分で勉強する

6 ^{いえ ひと おし}家の人に教えてもらう

2 ^{じゅく べんきょう}塾で勉強する

7 ^{ともだち べんきょう}友達と勉強する

3 ^{がっこう ほしゅう う}学校の補習を受ける

8 ^たその他

4 ^{かて いきょうし おし}家庭教師に教えてもらう

9 ^{がっこう じゅぎょうい がい べんきょう}学校の授業以外で勉強はしない

5 ^{ちいき ひと おこな わりょう べんきょうかい}地域の人などが行う無料の勉強会に
^{さんか}参加する

問4 あなたは、^{がっこう じゅぎょうい がい}ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの^{にち じかん べんきょう}時間勉強をしますか。

(a,bそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

※ 学校の宿題をする時間や、塾などでの勉強時間もふくみます。	まったくしない	30分より少ない	1時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	2時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	3時間以上
a) 学校がある日（月～金曜日）	1	2	3	4	5	6		
b) 学校がない日（土・日曜日・祝日）	1	2	3	4	5	6		

問5 あなたの^{せいせき}成績は、^{なか}クラスの中でどのくらいだと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

1 ^{うへ}上のほう

4 ^{した}やや下のほう

2 ^{うへ}やや上のほう

5 ^{した}下のほう

3 ^{なか}まん中あたり

6 わからない

問6 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。（あてはまるもの1つに○）

- | | | |
|---|-------------------|--------------|
| 1 | いつもわかる | →問8に進んでください。 |
| 2 | だいたいわかる | |
| 3 | 教科によってはわからないことがある | |
| 4 | わからないことが多い | |
| 5 | ほとんどわからない | |

問7 前の質問で「3 教科によってはわからないことがある」「4 わからないことが多い」「5 ほとんどわからない」と答えた人にお聞きします。

いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。（あてはまるもの1つに○）

a. 小学5年生の方のみ答えてください。

- | | | | |
|---|----------|---|-----------|
| 1 | 1・2年生のころ | 3 | 4年生のころ |
| 2 | 3年生のころ | 4 | 5年生になってから |

b. 中学2年生の方のみ答えてください。

- | | | | |
|---|------------|---|-------------|
| 1 | 小学1・2年生のころ | 4 | 中学1年生のころ |
| 2 | 小学3・4年生のころ | 5 | 中学2年生になってから |
| 3 | 小学5・6年生のころ | | |

問8 あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。（あてはまるもの1つに○）

- | | | | |
|---|-------------------|---|----------------|
| 1 | 中学（中等部）まで →問9へ | 4 | 大学またはそれ以上 →問9へ |
| 2 | 高校（高等部）まで →問9へ | 5 | まだわからない →問10へ |
| 3 | 短大、高専、専門学校まで →問9へ | | |

問9 前の質問で1～4と答えた場合、その理由を答えてください。

（1～8については、あてはまるものすべてに○）

- | | | | |
|---|--------------------|---|--------------|
| 1 | 希望する学校や職業があるから | 6 | 家にお金がないと思うから |
| 2 | 自分の成績から考えて | 7 | 早く働く必要があるから |
| 3 | 親がそう言っているから | 8 | その他 |
| 4 | 兄・姉がそうしているから | 9 | とくに理由はない |
| 5 | まわりの先輩や友達にそうしているから | | |

問 1 0 あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか。(あてはまるもの 1 つに○)

- 1 参加している → 問 12 へ 2 参加していない → 問 11 へ

問 1 1 前の質問で「2 参加していない」と答えた人にお聞きます。
参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 入りたいクラブ・部活動がないから
2 塾や習い事が忙しいから
3 費用がかかるから
4 家の事情(家族の世話、家事など)があるから
5 一緒にいる友達がいないから
6 その他

問 1 2 あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。
(a～c それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)

	(週 7 日) 毎日食 べる	週 5 ～ 6 日	週 3 ～ 4 日	ほと んど 食 べ な い 週 1 ～ 2 日
a) 朝食	1	2	3	4
b) 夕食	1	2	3	4
c) 夏休みや冬休みなどの期間の昼食	1	2	3	4

問 1 3 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時間に寝ていますか。
(あてはまるもの 1 つに○)

- 1 そうである 3 どちらかといえばそうではない
2 どちらかといえばそうである 4 そうではない

問 1 4 あなたの通学状況について最も近いものはどれですか。(あてはまるもの 1 つに○)

- 1 ほぼ毎日通っている 4 年間 60 日以上 1 年未満の欠席
2 年間 30 日未満の欠席 5 1 年以上欠席が続いている
3 年間 30 日以上 60 日未満の欠席

問15 あなたは、学校に遅刻することがありますか。(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|------------------|-------------|
| 1 遅刻はしない、ほとんどしない | 4 週に2～3回くらい |
| 2 月に1～2回くらい | 5 毎日・ほとんど毎日 |
| 3 週に1回くらい | |

問16 あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。
(1～9については、あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----|---------------------------------|
| 1 | 親 |
| 2 | きょうだい |
| 3 | 祖父母など |
| 4 | 学校の先生 |
| 5 | 学校の友達 |
| 6 | 学校外の友達 |
| 7 | スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど |
| 8 | その他の大人(学童保育所の人、塾・習い事の先生、地域の人など) |
| 9 | ネットで知り合った人 |
| 10 | だれにも相談できない、相談したくない |

問17 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」(まったく満足していない)から「10」(十分に満足している)の数字で教えてください。
(あてはまるもの1つに○)

0 : まったく満足していない						10 : 十分に満足している					
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	

問18 あなたは、自分の体や気持ちで気になることはありますか。
(1～13については、あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 ねむれない | 8 よく体がかゆくなる |
| 2 よく頭がいたくなる | 9 不安な気持ちになる |
| 3 歯がいたい | 10 まわりが気になる |
| 4 ものを見づらい | 11 やる気が起きない |
| 5 音が聞こえにくい | 12 いらいらする |
| 6 よくおなかがいたくなる | 13 その他 () |
| 7 よくかぜをひく | 14 とくに気になることはない |

問19 以下のそれぞれの質問について、「**1** あてはまらない」「**2** まああてはまる」「**3** あてはまる」のどれから回答してください。あなたのこ半年くらいのことを考えて答えてください。

(a～o それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

答えに自信がなくても、答えられる範囲で回答してください。答えたくない質問には、答えなくてもいいです。

	あてはまらない	まああてはまる	あてはまる
a) 私は、他人に対して親切にしている。私は、他人の気持ちをよく考える。	1	2	3
b) 私は、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする。	1	2	3
c) 私は、他の子どもたちと、よく分け合う（食べ物・ゲーム・ペンなど）。	1	2	3
d) 私は、たいてい一人でいる。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける。	1	2	3
e) 私は、心配ごとが多く、いつも不安だ。	1	2	3
f) 私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける。	1	2	3
g) 私は、仲の良い友達が少なくとも一人はいる。	1	2	3
h) 私は、落ち込んですすんでいたり、涙ぐんだりすることがよくある。	1	2	3
i) 私は、同じくらいの年齢の子どもからは、だいたい好かれている。	1	2	3
j) 私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。	1	2	3
k) 私は、年下の子どもたちに対してやさしくしている。	1	2	3
l) 私は、他の子どもから、いじめられたり、からかわれたりする。	1	2	3
m) 私は、自分からすすんでよくお手伝いをする（親・先生・他の子どもたちなど）。	1	2	3
n) 私は、他の子どもたちより、大人という方がうまくいく。	1	2	3
o) 私は、こわがりで、すぐにおびえたりする。	1	2	3

問20 あなたは、次の a～d のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。（a～d それぞれについて、あてはまるもの1つに○）

	利用したことがある	利用したことはない			
		思う	あれば利用したいと	思わない	今後利用したいかどうか分からない
a) (自分や友人の家以外で)放課後や休日 を過ごすことができる場所 (学童保育所や 放課後等サービスなど)	1	2	3	4	
b) (自分や友人の家以外で) 夕ごはんを 無料か安く食べることができる場所 (子ども 食堂など)	1	2	3	4	
c) 勉強を無料でみてくれる場所	1	2	3	4	
d) (家や学校以外で)何でも相談できる場所 (電話やネットの相談を含む。)	1	2	3	4	

問21 前の質問で、1つでも「1 利用したことがある」と答えた方にお聞きます。そこを利用したこと
で、以下のような変化がありましたか。（1～8については、あてはまるものすべてに○）

1 友だちが増えた	6 勉強がわかるようになった
2 気軽に話せる大人が増えた	7 勉強する時間が増えた
3 生活の中で楽しみなことが増えた	8 その他
4 ほっとできる時間が増えた	9 特に変化はない
5 栄養のある食事をとれることが増えた	

問22 近所の人のことについて教えてください。（1～4については、あてはまるものすべてに○）

1 あいさつをする	4 近所の人と一緒に遊びに行くことがある
2 近所の人がよく家に遊びにくる	5 近所の人と付き合いがない
3 近所の人の家へ遊びに行く	

問23 あなたが持っているものや、あなたが使うことができるものを選んでください。

(1～15については、あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------------------|---|
| 1 本（学校の教科書や漫画はのぞく） | 9 けいたい電話 |
| 2 マンガ・雑誌 | 10 スマートフォン・タブレット機器（ラインやインスタグラムなどができるもの） |
| 3 子ども部屋（一人部屋やきょうだいといっしょに使っている部屋など） | 11 化粧品・アクセサリ |
| 4 インターネットにつながるパソコン | 12 習いごとなどの道具（ピアノなど） |
| 5 運動用具（ボール・ラケットなど） | 13 自分で選んだ服 |
| 6 ゲーム機 | 14 キャラクターグッズ |
| 7 自転車 | 15 その他（ ） |
| 8 テレビ | 16 あてはまるものはない |

問24 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、どこで過ごしますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1 自分の家 | 8 公園・広場 |
| 2 おばあさん・おじいさんの家 | 9 スーパーやショッピングモール |
| 3 親せきの家（おばあさん・おじいさんの家をのぞく） | 10 コンビニエンスストア |
| 4 友だちの家 | 11 ゲームセンター |
| 5 塾・習いごと・スポーツクラブ | 12 図書館・校区コミュニティセンター |
| 6 学校（クラブ活動など） | 13 児童センター、くめつ子館、子ども食堂など |
| 7 学童保育所・放課後等デイサービス | 14 その他（ ） |

問25 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、だれと過ごしますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------------|------------------------------|
| 1 おうちの大人（親・祖父母・親せきなど） | 5 クラブ活動の仲間 |
| 2 きょうだい | 6 学校以外の友だち（スポーツクラブ、近所の友だちなど） |
| 3 おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など） | 7 その他の人 |
| 4 学校の友だち | 8 ひとりである |

毎日の生活で、ご意見（言いたいこと）があれば、自由に書いてください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

(2) 保護者

「久留米市子どもの生活実態調査」のお願い

令和6年10月

保護者の皆様

久留米市長 原口 新五

久留米市では、子どもたちに関する施策を効果的に進めていくため、「久留米市子どもの生活実態調査」を実施します。

この調査は、小学5年生と中学2年生とその保護者を対象に、日頃のお子さんとの関わり方や家庭の状況等についてお伺いするものです。任意の調査であり、回答は自由です。

本調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力をお願いいたします。

※ 裏面にある「調査票の記入のしかた」をよく読んで、調査票の記入をお願いします。

※ 今回の調査は、久留米市が下記の調査実施会社に委託して行う調査です。

※ 調査に関するご不明な点は、下記お問合せ先（調査実施会社）へお尋ねください。

提出期限：令和6年11月17日（日曜日）

◆お問い合わせ先

【調査実施会社】株式会社サーベイリサーチセンター九州事務所
 電話番号 092-411-8811（平日：午前10時～午後6時 ※土・日・祝日除く）
 メールアドレス kurumekodomo@surece.co.jp

◆実施主体

久留米市子ども未来部子ども政策課

調査票を書くことができない人で、サポートをしてほしいときは、久留米市子ども政策課
 （電話番号 0942-30-9227、メールアドレス egao@city.kurume.lg.jp）へ連絡
 してください。

《調査票の記入のしかた》

この調査は無記名です

調査票に名前を書く必要はありません。また、調査票から個人を特定することはありません。

調査票をお送りした封筒の宛名のお子さんについて回答してください

この調査での「お子さん」とは、調査票を受け取ったお子さんのことです。「お子さん」と書かれた質問には、封筒の宛名に記載のお子さんについてのみお答えください。

調査の対象者は、市内に住む小学5年生または中学2年生と、その保護者です。

調査票は2種類あります。「小学生・中学生向け調査票」はお子さんが、「保護者向け調査票」は保護者がそれぞれ記入してください。お互いの記入内容は見ないようにお願いします。

双子さんや、小学5年生と中学2年生のきょうだいがいる世帯などでは、お手数ですがお子さんと共に保護者向け調査票の記入をお願いします。

一番近いものに丸を付けてください。

調査票に書かれている質問をよく読んで、選択肢の中から選ぶものは一番近いと思うものに丸を、数字等を記入するものはかつこの中に記入してください。質問や回答に記載の「親」「母親」「父親」とは、継母や継父、母親や父親に代わる保護者の方を含みます。

答えたくない質問には、答える必要はありません。

お子さんの小さい封筒と一緒に大きい封筒に入れてポストへ

記入した調査票は、お子さんの調査票を入れた小さい封筒と一緒に大きい封筒に入れて、封をして、切手を貼らずにポストに投函してください。

お子さんが記入した調査票は、見ずに封筒に入れてください。

提出期限は、11月17日（日曜日）です。

保護者向け調査票

問1 お子さんの学年を教えてください。（あてはまるもの1つに○）

- 1 小学5年生
- 2 中学2年生

問2 お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。（あてはまるもの1つに○）

- 1 母親
- 2 父親
- 3 祖父母
- 4 その他（ ）

問3 あなたがお住みの校区を教えてください。（あてはまるもの1つに○）

1 西国分	9 小森野	17 高良内	25 大橋	33 川会	41 江上
2 荘島	10 金丸	18 宮ノ陣	26 青峰	34 柴刈	42 青木
3 日吉	11 東国分	19 山本	27 津福	35 弓削	43 浮島
4 篠山	12 御井	20 草野	28 船越	36 北野	44 西牟田
5 京町	13 南	21 安武	29 水縄	37 大城	45 犬塚
6 南薫	14 あい川	22 荒木	30 田主丸	38 金島	46 三瀬
7 鳥飼	15 やま川	23 大善寺	31 水分	39 城島	
8 長門石	16 上津	24 善導寺	32 竹野	40 下田	

問4 お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の構成と人数をお答えください。単身赴任中の方や学業のために世帯を離れているお子さんがいる場合には、ご家族の人数に含めて教えてください。（a～hそれぞれについて、あてはまるもの1つに○）

a) 祖母	b) 祖父	c) 母親	d) 父親	h) 合計 (あなたや対象のお子さんを含む)
1 いない	1 いない	1 いない	1 いない	1 2人
2 1人	2 1人	2 1人	2 1人	2 3人
3 2人	3 2人			3 4人
e) 姉・兄	対象のお子さん (本人)	f) 妹・弟	g) その他	4 5人
1 いない		1 いない	1 いない	5 6人
2 1人		2 1人	2 1人	6 7人
3 2人	1人	3 2人	3 2人	7 8人
4 3人		4 3人	4 3人	8 9人
5 4人以上		5 4人以上	5 4人以上	9 10人以上

問5 お子さんの親の現在の年齢についてお答えください。
(母親・父親それぞれについて数字で回答)

ははおや 母親	さい 歳	ちちおや 父親	さい 歳
------------	---------	------------	---------

問6 お子さんのご家族のうち、現在単身赴任中の方はいらっしゃいますか。
(1～3については、あてはまるものすべてに○)

1 お子さんの母親が単身赴任中	3 その他
2 お子さんの父親が単身赴任中	4 単身赴任中の者はいない

問7 お子さんと同じく、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。
(あてはまるもの1つに○)

2に○をつけた場合のみ ↓

1 結婚している (再婚や事実婚を含む。)
2 離婚
3 死別
4 未婚
5 わからない
6 いない

問8 前問で「2 離婚」を選んだ場合、離婚相手とお子さんの養育費の取り決めをしていますか。
また養育費を現在受け取っていますか。(あてはまるもの1つに○)

1 取り決めをしており、受け取っている
2 特に取り決めはしていないが、受け取っている
3 取り決めをしているが、受け取っていない
4 取り決めをしておらず、受け取っていない

問9 ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。(あてはまるもの1つに○)

1 日本語のみを使用している
2 日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い
3 日本語以外の言語を使うことが多い

問 1 0 お子さんの親の最終学歴（卒業した学校）をお答えください。

(a,b,それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)

	a) 母親	b) 父親
中学（中等部）まで	1	1
高校（高等部）まで	2	2
短大、高専、専門学校（専攻科）まで	3	3
大学またはそれ以上	4	4
わからない	5	5
いない	6	6

問 1 1 お子さんの親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。

(a,b,それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)

	a) 母親	b) 父親
正社員・正規職員・会社役員	1	1
嘱託・契約社員・派遣職員	2	2
パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	3	3
自営業（家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。）	4	4
働いていない（専業主婦／主夫を含む。）	5	5
わからない	6	6
いない	7	7

問 1 2 前の質問で「5 働いていない」と答えた場合、働いていない最も主な理由を教えてください。（a,b,それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○）

	a) 母親	b) 父親
働きたいが、希望する条件の仕事がないため	1	1
子育てを優先したいため	2	2
家族の介護・介助のため	3	3
自分の病気や障害のため	4	4
通学しているため	5	5
その他の理由	6	6

5に○をつけた場合のみ

問 1 3 お子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

- 1 認可保育所・認定こども園
- 2 その他の教育・保育等の施設
- 3 親・親族以外の個人
- 4 もっぱら親・親族が面倒を見ていた
- 5 その他（ ）

問 1 4 お子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

- 1 幼稚園・認可保育所・認定こども園
- 2 その他の教育・保育等の施設
- 3 親・親族以外の個人
- 4 もっぱら親・親族が面倒を見ていた
- 5 その他（ ）

問 1 5 あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらいあてはまりますか。（a～dそれぞれについて、あてはまるもの1つに○）

	あてはまる	あてはまる どちらかといえば、 どちらかといえば、	あてはまらない どちらかといえば、 どちらかといえば、	あてはまらない
a) テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを 決めている	1	2	3	4
b) お子さんに本や新聞を読むように勧めている	1	2	3	4
c) お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた	1	2	3	4
d) お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる	1	2	3	4

問 1 6 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。

(a,b それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)

	よく参加している さんか	ときどき参加している さんか	あまり参加していない さんか	まったく参加していない さんか
a) 授業参観や運動会などの学校行事への参加 じゅぎょうさんかん うんどうかい がっこうぎょうじ さんか	1	2	3	4
b) P T A 活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加 かつどう ほごしゃかい ほうか ごがくしゅうしえんとう さんか	1	2	3	4

問 1 7 お子さんは将来、どの段階まで進学すると思いますか。(あてはまるもの 1 つに○)

- 1 中学 (中等部) まで
ちゅうがく ちゅうとうぶ

2 高校 (高等部) まで
こうこう こうとうぶ

3 短大、高専、専門学校 (専攻科) まで
たんだい こうせん せんもんがっこう せんこうか

4 大学またはそれ以上
だいがく いじょう

5 まだわからない →問 1 9 に進んでください。
まだわからない

問 1 8 前問で 1 ～ 4 と答えた場合、その理由は何ですか。

(1 ～ 5 については、あてはまるものすべてに○)

- 1 お子さんがそう希望しているから
こ きぼう

2 一般的な進路だと思うから
いっぽんてき しんろ おも

3 お子さんの学力から考えて
こ がくりよく かんが

4 家庭の経済的な状況から考えて
か て い けいざいてき じょうきよう かんが

5 その他
た

6 特に理由はない
とく りゆう

問 1 9 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。
(a～d それぞれについて、1～3 のあてはまるもの 1 つに○)
また、「1 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。(①～⑦のあてはまるものすべてに○)

	a) 子育てに 関する相談	b) 重要な 事柄の相談	c) いざと いう時の お金の援助	d) その他
頼れる人がいる	1	1	1	1
家族・親族	①	①	①	①
友人・知人	②	②	②	②
近所の人	③	③	③	③
職場の人	④	④	④	④
民生委員・児童委員	⑤	⑤	⑤	⑤
相談・支援機関や福祉の人	⑥	⑥	⑥	⑥
その他	⑦	⑦	⑦	⑦
いない	2	2	2	2
そのことでは人に頼らない	3	3	3	3

↓
①～⑦のあてはまるものすべてに○

問 2 0 あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(あてはまるもの 1 つに○)

1 大変ゆとりがある	4 苦しい
2 ゆとりがある	5 大変苦しい
3 ぶつう	

問 2 1 令和 5 年 1 月から 1 2 月までの、あなたの世帯の手取り収入（いわゆる可処分所得）の合計額は、およそいくらでしたか。世帯の収入から、税金（自動車税等も含む）や社会保険料、企業年金の掛金を差し引いた後の額をお答えください（あてはまるもの 1 つに○）
※公的な援助手当や養育費を含んだ額でお答えください

1 50万円未満	9 400～450万円未満
2 50～100万円未満	10 450～500万円未満
3 100～150万円未満	11 500～600万円未満
4 150～200万円未満	12 600～700万円未満
5 200～250万円未満	13 700～800万円未満
6 250～300万円未満	14 800～900万円未満
7 300～350万円未満	15 900～1000万円未満
8 350～400万円未満	16 1000万円以上

問22 あなたの世帯では、おおむね1年の間に、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。（1～17については、あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| 1 水道・電気・ガスのどれかが止められた | 10 冠婚葬祭のつきあいを減らした |
| 2 クレジットカードが使えなくなった | 11 医療機関を受診できなかった |
| 3 国民健康保険料や国民年金の支払いが
できなかった | 12 理髪店や美容院に行けなかった |
| 4 電話（固定・携帯）などの通信料の
支払いができなかった | 13 スマートフォンへの切替・利用を断念した |
| 5 家賃の支払いができなかった | 14 敷金・保証金等を用意できず、住み替
え・転居を断念した |
| 6 住宅ローンの支払いができなかった | 15 趣味やレジャーの出費を減らした |
| 7 食費を切りつめた | 16 キャッシング・カードローンなどを利用した |
| 8 新しい衣服や靴を買うのを減らした | 17 その他（ ） |
| 9 新聞や雑誌を買うのを減らした | 18 特にない |

問23 あなたの世帯では、おおむね1年の間に、経済的な理由で、子どもに関して次のような経験をされたことがありますか。（1～11については、あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--------------------------------------|--|
| 1 子どもを医療機関に受診させることが
できなかった | 7 子どもを学習塾やスポーツなどの習い事
に通わせることができなかった |
| 2 子どもの進路を変更した | 8 子どもに必要な文具や教材を買えな
かった |
| 3 子どものための本が買えなかった | 9 子どもに誕生日プレゼントやお年玉をあ
げることができなかった |
| 4 子どものための服や靴が買えなかった | 10 子どもを旅行やレジャーに連れて行くこと
がなかった |
| 5 子どもへおこづかいを渡すことができなかつ
た、渡す額を減らした | 11 その他（ ） |
| 6 子どもを学校や地域のクラブ活動に
参加させることができなかった | 12 特にない |

問24 あなたの家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。
 (a～eそれぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○)
 また、「3 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。(①～⑤のあてはまるもの1つに○)

	a) 就学援助 ※1	b) 生活保護 ※2	c) 生活困窮者の自立支援 相談窓口（生活自立 支援センター）※3	d) 児童扶養手当※4	e) ひとり親サポーターセン ター※5
現在利用している	1	1	1	1	1
現在利用していないが、以前利用 したことがある	2	2	2	2	2
利用したことがない	3	3	3	3	3
制度の対象外（収入等の条件 を満たさない）だと思うから	①	①	①	①	①
利用はできるが、特に利用したい と思わなかったから	②	②	②	②	②
利用したいが、今までこの支援 制度を知らなかったから	③	③	③	③	③
利用したいが、手続きがわからな かったり、利用しにくいから	④	④	④	④	④
それ以外の理由	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤

①～⑤のあてはまるもの1つに○

(参考)

- ※1 就学援助：経済的理由により子どもの就学が困難な場合に、学用品費等を補助する制度。
- ※2 生活保護：病気や失業などにより生活費等に困り、他に方法がないときに一定の援助が受けられる制度。
- ※3 生活困窮者の自立支援相談窓口（生活自立支援センター）：お金、仕事、住宅など、様々な課題を抱えた生活に困窮する方のための相談窓口。専門の支援員が具体的な支援プランを作成し、課題の解決に向けた支援を行う。
- ※4 児童扶養手当：所得が一定水準以下のひとり親世帯の生活支援のための手当。（児童手当とは異なります。）
- ※5 ひとり親サポートセンター：ひとり親の方が、仕事探しに関する相談や講習を受けられる支援センター。養育費の取り決めなどに関する相談も受けられる。

問25 現在のあなたの住居は、次のどれにあてはまりますか。(あてはまるもの1つに○)

1 持ち家（戸建て・マンションなど） ※親・きょうだいの名義を含む	5 社宅・官舎
2 市営・県営住宅	6 間借り
3 公社賃貸住宅	7 その他（ ）
4 民間の賃貸住宅	

問26 次のa)～f)の質問について、この1か月間のあなたの気持ちはどのようなでしたか。
(a～fそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったく
a) 神経過敏に感じた	1	2	3	4	5
b) 絶望的だと感じた	1	2	3	4	5
c) そわそわ、落ち着かなく感じた	1	2	3	4	5
d) 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた	1	2	3	4	5
e) 何をするのも面倒だと感じた	1	2	3	4	5
f) 自分は価値のない人間だと感じた	1	2	3	4	5

問27 あなたとお子さんの健康状態はいかがですか。
(a,bそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	a) あなた	b) お子さん
よい	1	1
どちらかといえばよい	2	2
普通	3	3
どちらかといえばよくない	4	4
よくない	5	5

問28 ご家族の状況はいかがですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 みんな健康である | 5 障害のある家族がいる(難病をのぞく) |
| 2 通院している家族がいる | 6 難病の指定を受けた家族がいる |
| 3 入院している家族がいる | 7 介護が必要な家族がいる |
| 4 通院していないが、体調が悪い家族がいる | 8 その他() |

問29 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。

「0」(まったく満足していない) から「10」(十分に満足している) の数字で教えてください。
(あてはまるもの1つに○)

0 : まったく満足していない						10 : 十分に満足している				
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

子育てや子どもに関することについて、ご意見があれば、自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

久留米市
子どもの生活実態調査 報告書
令和7年3月発行

発 行 久留米市 子ども未来部 子ども政策課
〒830-8520 福岡県久留米市城南町15番地3
TEL 0942-30-9227
FAX 0942-30-9718